

は じ め に

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けて弛まぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローバルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するための、「履修要項」と「シラバス」が合体して編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数や進級要件、履修登録手続などの説明が書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

「シラバス」には、すべての開講科目について、授業の内容や方法、授業計画、教科書・参考書、履修方法、成績の評価方法等が書かれています。科目の履修登録の際に、履修すべきかどうかの重要な判断材料を与えてくれます。さらに、日々の授業の際の、予習・復習のためのガイドとして有効に利用して下さい。

2011年度より、理工学部全学生を対象に「校友サポートネット」、「e-キャリアポートフォリオ」といったシステムを稼働しています。また、理工学部では初年次教育の一環として理工系基礎学力の定着を目指し、教員と学生アシスタントによる「フレッシュャーズ・ステップアップ・サポート（クラス会）」を定期的に開催するとともに、「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、シニアアドバイザー・上級生が、数学・物理などの理工系基礎科目の個別学習指導を行い、初年次から手厚い学習支援態勢を整えています。

正課では、自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として、新入生対象に「キャリアデザイン」、2年次生対象に「キャリアプランニング」を、さらに3年次では、大学で修得した知識や技術が実社会でどのように役立つかを実地で学ぶため、国内外企業における実習科目を開講しています。これらを通し、初年次より自らのキャリア形成を意識することで、みなさんの就業力アップと社会的・職業的自立につながることを切に願っています。

また、本冊子を読んでみて不明点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2012年4月

理工学部長 大柳 満之

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を形成する。

理工学部教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針〔学士（理学・工学）〕

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に基づいた建学の精神、すなわち「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解している。
- 豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
- 英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
- 幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

- 科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
- 基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
- 論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

- 問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学を継続的に行うことができる。
- 広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

- 高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
- 世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- 日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

- 科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。
- 知的生産の技術を身につけている。
- 国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部で4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の134単位以上の単位数を必要とする。
- (3) 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

2012年度 学 年 暦

	日	月	火	水	木	金	土
4月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
5月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
6月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
7月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
8月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
9月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

- 1 学年始
- 2 入学式（瀬田）
- 3～8 履修指導期間
- 9 第1学期授業開始
- 29 昭和の日
- 30 振替休日（授業実施日）
- 3 憲法記念日
- 4 みどりの日
- 5 こどもの日
- 14～18 履修辞退受付期間
- 16 降誕会（5講時以降休講）
- 19 降誕会（瀬田）
（全学授業実施日）
- 21 創立記念日・降誕会
（全学終日休講）
- 2 水曜5講時以降 8回分
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 16 海の日（授業実施日）
- 24～25 集中補講日
- 28 第1学期授業終了
- 30～8/5 第1学期試験期間
- 5 定期試験予備日
- 6～10 集中講義Ⅰ
- 6～9/8 夏期休業
- 11～18 一斉休暇
- 22～24 追試験期間
- 27～9/1・9/3～9/8 集中講義Ⅱ
- 27～9/15 理工学部学外実習
- 10 第2学期開始
- 10～19 履修指導期間
- 17 敬老の日
- 19 9月卒業式・入学式
- 20 第2学期授業開始
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 22 秋分の日（授業実施日）

	日	月	火	水	木	金	土
10月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
11月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
12月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
1月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
2月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		
3月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

- 8 体育の日（授業実施日）
- 18 報恩講（全学終日休講）
- 22～26 履修辞退受付期間
- 27～28 龍谷祭（瀬田）
（27 全学終日休講）
- 2～4 龍谷祭（深草）
（2・3 全学終日休講）
- 3 文化の日（全学終日休講）
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 23 勤労感謝の日（授業実施日）
- 21 ご生誕法要（瀬田）
- 23 天皇誕生日
- 24 振替休日（授業実施日）
- 25 土曜日 13回分
- 26～1/5 冬期休業
- 29～1/5 一斉休暇
- 1 元旦
- 7 講義再開
- 14 成人の日
- 19 第2学期授業終了
- 21～22 集中補講日
- 23～29 第2学期試験期間
- 27 定期試験予備日
- 30～3/31 春期休業
- 11 建国記念の日
入試終了2日後から
3日間追試験期間（予定）
- 15 卒業式（瀬田）
- 20 春分の日
- 31 学年終

⚠ 注意事項

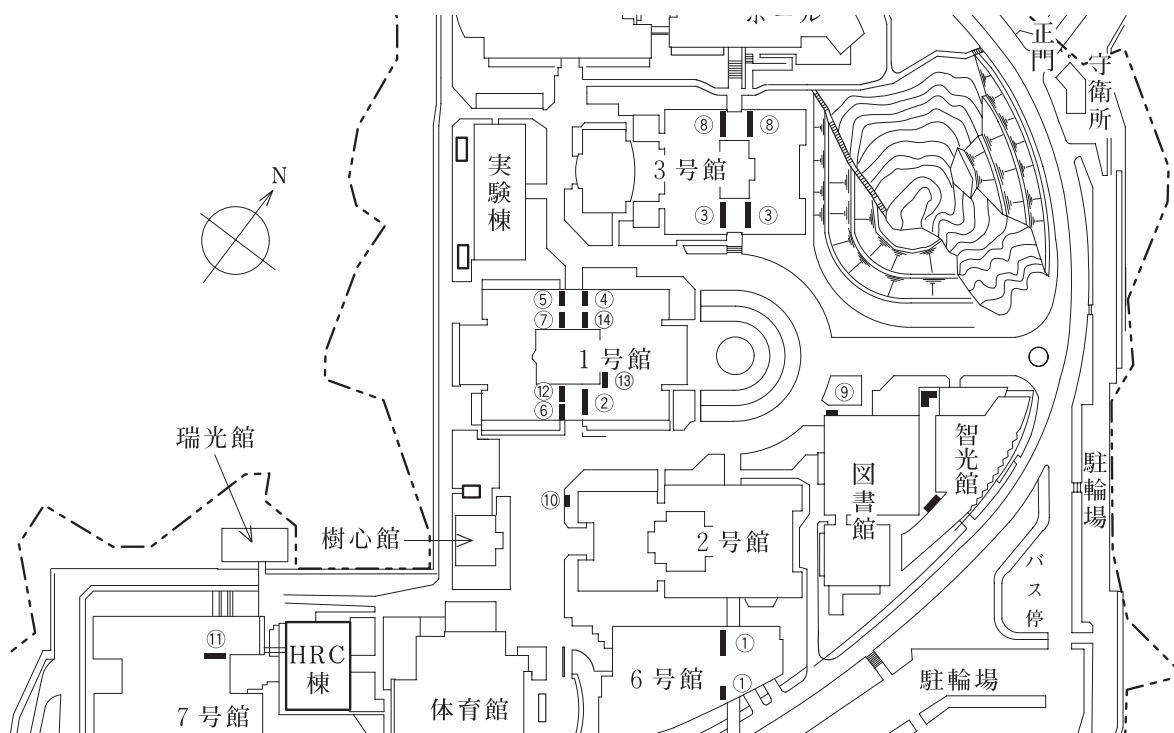
- ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。2講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
- 土曜日の3・4講時にも補講が行われる場合があります。

	授業日
	補講期間
	定期試験

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。



掲 示 板

学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項

定期試験・追試験に関する連絡

①…社会学部教務課

②…理工学部教務課

③…国際文化学部教務課

⑪…理工学部（補助的運用）

⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

④奨学金

⑫学生生活

⑥教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

⑤インターンシップ関係

⑦就職ガイダンス関係

⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板 ⑧

図書館関係掲示板 ⑨

宗教部専用掲示板 ⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を
下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲 本学開講科目

(3) 公開の期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話用>

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスや時間割については理工学部HP (<http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/>) を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「プロフィール設定」で設定可能です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2011年度 理工学部学年始ガイダンス日程

<書類配布、説明会等日程>

行事 年次	成績表・書類配布 履修登録説明会	学科別履修説明会
新 入 生	4月4日（水）9：00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月23日（金）9：30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月23日（金）13：30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月23日（金）15：30集合	左記書類配布等終了後

⚠️注意事項

- 大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。
- 書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

<各説明会会場>

学 科	教 室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	別途指示	3号館101教室
電子情報学科		3号館102教室
機械システム工学科		3号館105教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科		7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。
申し出は、理工学部教務課に備えつけの用紙で行ってください。

<履修登録日程>

	予備登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月23日（金）9：00～3月27日（火）13：00〈2：00～7：00除く〉 発表：4月8日（日）9：00～Web登録画面にて発表 ※ただし、英語（再）の予備登録については、別途掲示板で指示	Web予備登録画面

	事前登録期間	受 付
全 年 次 (新入生除く)	3月23日（金）9：00～3月27日（火）13：00〈土・日除く〉	理工学部教務課

	授業科目受講登録期間	受 付
全 年 次	4月8日（日）9：00～4月13日（金）16：00〈2：00～7：00除く〉	Web登録画面

2012年度 学生定期健康診断日程表(理工学部)

対 象 学 年	性別	月 日	受付時間	受検学舎	健診項目
新入生	男性	4月5日(木)	9:00～12:15	瀬田学舎 4号館 1階	胸部X線身体計測 尿検査 問診 内科診察 (必要時)
	女性	4月4日(水)	13:30～16:30		
2年次生	男性	4月6日(金)	14:30～16:30		
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		
3年次生 編転入生	男性	4月3日(火)	14:00～16:30		
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		
4年次生以上 大学院生 介護等体験実習生	男性	4月4日(水)	9:00～12:15		上記項目 + 視力
	女性	4月6日(金)	10:30～12:15		

※健康管理カード(問診票)・採尿容器は履修説明会時に配布します。詳細はホームページで案内しますので確認してください。

注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 2・3年次生で今年度、介護等体験実習受講予定の学生は、視力検査が必要！4年次生以上・大学院生の日時で受検すること。
5. 服装は、無地でボタン・金属等のないTシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
6. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
7. 健康管理カード(問診票)・採尿容器は、健康診断前日までに学部教務課または保健管理センター窓口に取りに来ること。
8. 受検当日、健康管理カード(記入しておくこと)・尿容器(採尿した)を持って受付すること。
※受付後に、採尿することのないように！
9. この期間中に健康診断を受検しないと、2012年度中の診断書の発行はできません。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断(本学における実施項目を含んでいるもの)を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合がありますので、保健管理センターに相談すること。

心身ともに健康な学生生活を送るために ～保健管理センターの利用について～

1. 保健管理センターについて

【主な業務】

- * 健康診断および健康診断後の保健指導
- * 応急処置
- * 健康に関する相談
- * 心理カウンセラーによる相談
- * 診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
- * 精神科医による心の相談
- * 健康診断書の発行
- * 健康に関する調査・研究・教育
- * 健康増進のための学習会の開催

2. 定期健康診断について

【検査項目】

- * 身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

- * 4月の第1週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の特学年の指定日に受検してください。
- * 大学での健康診断実施日程終了後は、保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。
- * 勤務先で健康診断を受ける方は、結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- * 詳細は、掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

3. 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。

【健康診断証明書について】

- * 「健康診断証明書」は、自動発行機で発行します。用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

- * 進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は、医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4. 保健管理センターの利用について

①応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は、外部医療機関を紹介します。

②健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL : <http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8:45～17:15

〔瀬田学舎〕 9:00～17:30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

5. 診療所について

【診療科名】 内科・精神科

【診療日及び時間】 詳細は、保健管理センターのホームページで確認してください。

【費 用】 診療には、「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は、「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6. 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人的なこと、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談の申込はポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。相談は予約制（無料）です。

【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9:00～17:00（12:30～13:30を除く）

(1)深草学舎・大宮学舎 電話 075-642-1111（代表） 内線1254

(2)瀬田学舎 電話 077-543-5111（代表） 内線7781

なんでも相談室もあわせてご利用ください

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎の学生部の中に「なんでも相談室」（大宮学舎は西翼2階・こころの相談室内別室）を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7. 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

目 次

はじめに

龍谷大学の教育にかかわる基本方針 理工学部教育理念・目的

2012年度学年暦

大学からの連絡・通知の掲示

ガイダンス

2012年度学生定期健康診断日程表（理工学部）

保健管理センター利用について

履修の心得

I 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
II 単位制度と単位の認定	3
1. 単位制度 / 2. 単位とは / 3. 単位の認定 / 4. 履修登録制度	
5. 授業科目の履修 / 6. 履修辞退制度 / 7. 授業時間 / 8. 卒業要件単位および学士号	
9. 進級制度 / 10. セメスター制 / 11. 入学前に修得した単位の認定	
III 履修登録	8
1. 履修登録手続のスケジュール / 2. 履修登録に際しての注意事項 / 3. 履修登録制限	
4. 予備登録 / 5. 履修登録要領 / 6. 履修登録の確認	
IV 成績評価	13
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 成績疑義 / 4. 平均点とGPA	
V 筆答試験	15
1. 試験の時期 / 2. 受験資格 / 3. 受験の注意事項 / 4. 答案の無効	
5. 筆記試験における不正行為 / 6. 追試験 / 7. 筆答試験時間	
8. レポート試験における不正行為	
VI 教育支援	18
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A.制度 / 5. チューター制度	
6. 理工学部初年次学習支援センター / 7. L.A.制度 / 8. ライティングセンター / 9. その他	

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	22
II 環境ソリューション工学科の教学理念と教育目標	24
III 教育課程の編成・履修方法	26
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目	
3. 各科目の履修方法について	
①教養教育科目（共同開講科目）の履修方法	27
1. 必修科目の履修について / 2. 学科指定・クラス指定 / 3. 予備登録について	
4. 先修制について / 5. 予備登録について（総合科目） / 設置科目	
②教養教育科目（共同開講科目）カリキュラム対照表	37
1. 教養教育科目（共同開講科目）基礎科目	
2. 教養教育科目（共同開講科目）総合科目	
③固有科目の履修方法	40
1. 学部内共通科目の履修方法 / 2. 学科固有科目の履修方法 / 3. 卒業・進級の要件	
4. 設置科目 / 5. カリキュラムフローチャート	

④学科固有科目カリキュラム対照表	58
⑤他学科科目の履修について	60
⑥単位互換制度について	61
⑦日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	65
⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について	66
Ⅳ 諸課程等の履修方法	67
①教職課程	67
②本願寺派教師資格課程	67
③博物館学芸員課程	68
④特別研修講座	72
Ⅴ 協定型インターンシッププログラム	73

学修生活

Ⅰ 窓口事務	76
1. 学部窓口取扱時間 / 2. 届書・願書および各種証明書 3. 各種証明書の交付について / 4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて	
Ⅱ 授業休止の取り扱い基準	81
1. 全学休講とする場合 / 2. 授業等の開始基準 / 3. その他の注意事項	
Ⅲ 学籍の取り扱い	83
1. 学籍とは / 2. 学籍簿 / 3. 学生証 / 4. 学籍の喪失 / 5. 休学と復学 6. 年次 / 7. 再入学 / 8. 編入学・転入学 / 9. 9月卒業について	
Ⅳ 留学	88
1. 交換留学 / 2. BIE Program留学 / 3. 私費留学 4. 個人留学（休学して留学する） / 5. 短期留学	
Ⅴ 通学について（自転車・バイク・自動車）	90
1. 自動車通学の禁止 / 2. バイク・自転車通学 / 3. バイク・自転車の駐輪 4. 交通安全教育講習会について / 5. 自動車の臨時入構許可について	

シラバス

Ⅰ 教養教育科目（共同開講科目）基礎科目	95
Ⅱ 教養教育科目（共同開講科目）総合科目	169
Ⅲ 学部内共通科目	209
Ⅳ 学科固有科目	231
Ⅴ 教職課程科目	265
Ⅵ 本願寺派教師資格課程科目	281
Ⅶ 博物館学芸員課程科目	289

付録

Ⅰ 教員名簿	296
Ⅱ 瀬田学舎近隣医療機関	298
Ⅲ 瀬田学舎見取図	300
Ⅳ 履修要項・Syllabus利用の手引き	301

TOEIC®はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。
この印刷物はETSの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

履 修 の 心 得

教 育 課 程

履 修 要 項

学 修 生 活

履 修 の 心 得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の取得は、学部設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目）（共通科目）」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修すること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2. 単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単 位 数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自 主	授 業	合 計	自 主	授 業	合 計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

(1) 単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位
学期連結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき）＝4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき）＝1単位
学期連結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位

3. 単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなり

ません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。
- (2) その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。
- (3) その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

4. 履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければならないです。

5. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「シラバス（講義概要・授業計画）」によって指示される参考文献等を中心として、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかにかかっていると言えます。

6. 履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っている場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切記録に残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が他大学他学部等の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB（教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB）	実習施設実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

ただし「自然観察法」は履修辞退できません。

◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部	履修辞退の対象外とする科目
理工学部	都市環境施設実験A、都市環境施設実験B（対象学科／環境ソリューション工学科）

※これら以外に履修辞退対象外科目が生じた場合は、別途理工学部掲示版で掲示します。

(4) 履修辞退の申出期間

2012年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	5月14日（月）～18日（金）
第2学期（後期）	10月22日（月）～26日（金）

(5) 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間にポータル「Web履修辞退申請」から申請してください。受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。
- なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期） （5月中旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期） （10月下旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2

学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

7. 授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	1講時	2講時	3講時	4講時	5講時
開始時刻	9 : 20	11 : 05	13 : 35	15 : 20	17 : 00
終了時刻	10 : 50	12 : 35	15 : 05	16 : 50	18 : 30

8. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「学士（理学）」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「学士（工学）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、134単位以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

9. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4年次までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口へ申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届ける手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録手続のスケジュール

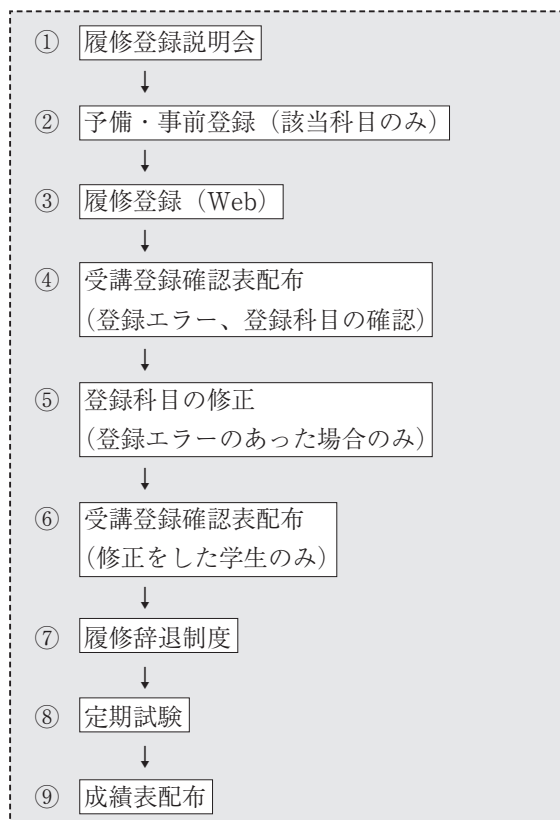
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

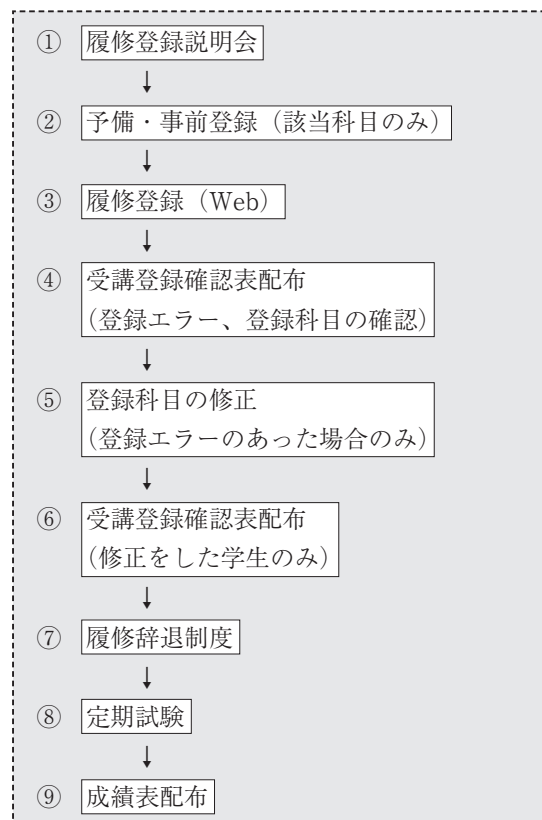
履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1～3年次生〉

前期



後期

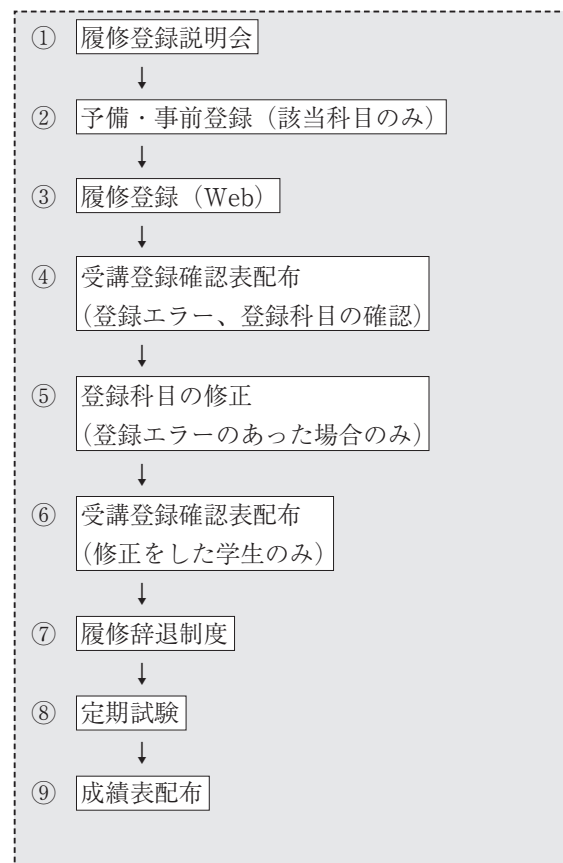


⚠ 注意事項

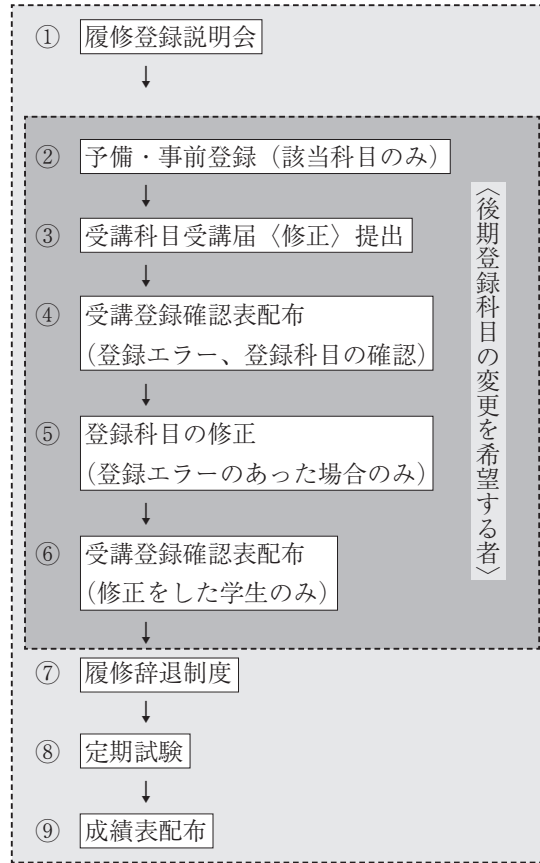
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
- 後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ登録を行ってください。
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2. 履修登録に際しての注意事項

① 単位の修得

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② 二重登録の禁止

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ 修得済み科目の登録禁止

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ 登録制限単位数

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含みません。

⑤ 履修配当年次

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ クラス、学科指定

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ 登録科目の追加、変更の禁止

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

- ① 必修科目が配当されている学年にあつては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

3. 履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限を行っています。ただし、入学年度によって履修登録制限単位数が異なるので、登録の際に間違いがないよう十分に注意してください。

1. 2011年度以前入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

⚠ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 集中講義期間に実施される「情報と職業」（2単位）
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

2. 2012年度以降入学生

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	25	25	25	50
後期制限単位数	25	25	25	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

【履修登録制限単位数に関する特別措置】

2012年度以降入学生については、学部が定める所定の手続きをおこなった場合、以下の科目を上記履修登録制限単位数（半期25単位、年間50単位）から除外することができます。ただし、総履修登録単位数は半期30単位、年間60単位を超えることはできません。

<履修登録制限単位数から除外できる科目>

集中講義科目	情報と職業

⚠ 注意事項

以下の科目も履修登録制限単位数に含まれません。履修を希望する場合は、「Ⅲ. 履修登録」(p.8)に従い所定の履修登録手続きをしてください。

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目

4. 予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

- ① 予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。（ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。）
- ② 予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

5. 履修登録要領

(1) 登録の心得

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行ってください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。
- ③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学 期	登録期間
第1学期	4月8日（日）9：00～4月13日（金）16：00 〈2：00～7：00除く〉
第2学期	未定（理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。）

⚠ 注意事項

- * 通年科目、前期・後期のペア科目の単位数は、前期・後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。
- * 半期に完結するペア科目（半期で1週間に2回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。

（例）前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。

（例）前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。

＊集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の配布

本人が登録した授業科目は、コンピューター処理され、その結果が4月下旬（第2学期は10月中旬）に理工学部教務課窓口で配布されますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問のある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口に出してください。

6. 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、配布する**受講登録確認表**で必ず確認してください。（配布日時は理工学部掲示板にて指示）

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間に理工学部教務課まで申し出てください。（日時は理工学部掲示板にて指示）

Ⅳ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A（80～100点） B（70点～79点） C（60～69点）
2005年度以降入学生	S（90～100点） A（80～89点） B（70～79点） C（60～69点）

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました。（全学生に適用）。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期分（後期）を3月下旬に配布します。指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\sum (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) G P A

G P Aとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

$$G P A = \frac{\sum (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

素 点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語ⅠA」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ⅰ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、G P Aは次のように計算されます。

$$G P A = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびG P Aの計算をする際、下表のとおり取り扱いします。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、G P Aは参考までに学業成績表に表記することとします。

V 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1. 試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

- ① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。
- ② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- ① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- ② 定められた学費を納入していること。
- ③ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- ④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- ① 指定された試験場で受験すること。
- ② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- ③ 学生証を携帯すること。
- ④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- ⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- ⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
- ⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞆の中に入れること。
- ⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- ① 無記名の場合。
- ② 指定された場所に提出しない場合。
- ③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- ④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
- ⑤ 試験場間違いで受験したもの。
- ⑥ 受験態度の不良な場合。

5. 筆記試験における不正行為

- ① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。
さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- ② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - (ア) 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - (イ) 監督者の指示に従わない場合。
 - (ウ) 身代り受験を行った場合、または行わせた場合。
 - (エ) カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - (オ) 許可された以外のものを参照した場合。
 - (カ) 机上等への書き込みをしていた場合。
 - (キ) 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - (ク) 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - (ケ) その他、(ア)～(ク)に準じる行為を行なった場合。

6. 追試験

- ① 追試験の受験資格
 - (ア) 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者。
 - (イ) 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
 - (ウ) 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
 - (エ) 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
 - (オ) 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
 - (カ) 3年次生で単位認定の対象となるインターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
 - (キ) 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
 - (ク) 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
 - (ケ) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
 - (コ) その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内。）に理工学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- ② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- ③ 実技、実験・実習科目（例えば、「スポーツ技術学」）、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- ④ 追試験における評点は、最高100点です。

7. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講 時	開始時間	終 了 時 間	
		右記以外の全科目 (60分)	理工学部固有科目 (学部内共通科目) (学科固有科目) (90分)
1講時	9 : 20	10 : 20	10 : 50
2講時	11 : 10	12 : 10	12 : 40
3講時	13 : 30	14 : 30	15 : 00
4講時	15 : 20	16 : 20	16 : 50
5講時	17 : 10	18 : 10	18 : 40
6講時	19 : 00	20 : 00	20 : 30

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

① レポートの提出方法

- (ア) レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
- (イ) レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
- (ウ) 授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
- (エ) 提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
- (オ) その他、指示に従わない場合は無効となる。

② レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

●必ずホッチキスで綴じること。

●表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法

(B)

学 部
年 組
氏 名
提出日

学 科
学 籍 番 号

学 科
担 当
開講時間
曜 日
講 時

(A)

Ⅵ 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担 当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次科目「学外実習」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的に開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A. (Teaching Assistant) を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. 理工学部初年次学習支援センター

「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理・化学」を中心とした学習指導・学習相談を実施しています。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7. L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A（Leaning Assistant）を配置しています。

8. ライティングセンター

当センターは、学生 みなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰まったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場 所 1号館1階 セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）

◆開室日時 月・水・金 11：00～16：00（授業実施期間中）

9. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

固有科目

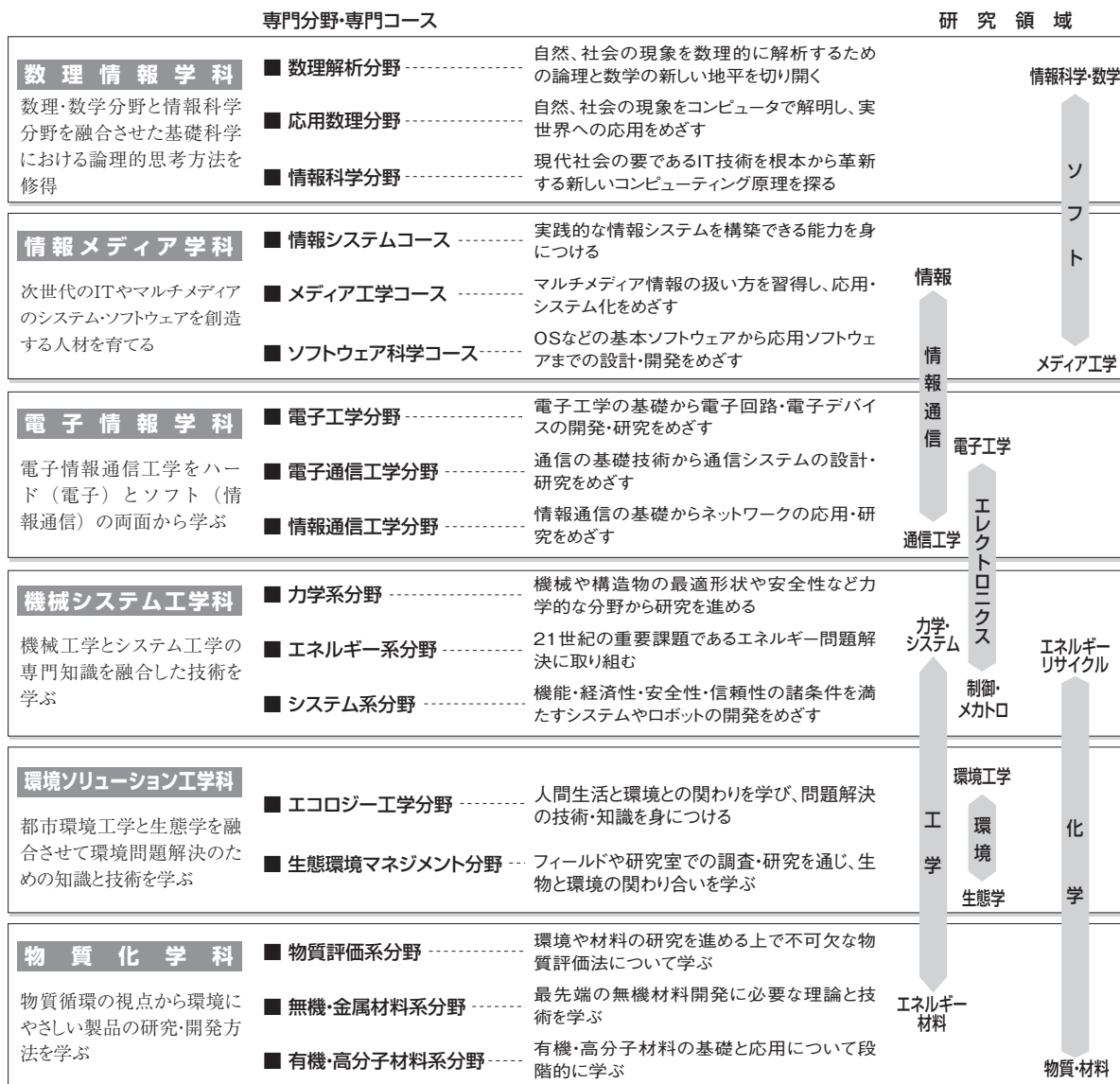
<学部内共通科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<学科固有科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 環境ソリューション工学科の教学理念と教育目標

新時代に相応しい教育研究環境を整え、わが国における学術文化の一層の発展に寄与することを目的として、龍谷大学理工学部が平成元年（1989年）に設置されました。環境ソリューション工学科は、この理工学部における新たな展開を図るべく平成15年（2003年）に設置された学科です。生態学についての深い理解を基盤におき、さらに理工学の専門的な知識を活かすことにより、環境の保全と持続可能な社会の構築に貢献する人材を育成することが環境ソリューション工学科の目的です。

これまで、日本において大きな社会問題として位置づけられてきた環境問題は、生命財産に直接被害を及ぼす公害問題でした。そしてこのような公害問題に対して、工場や都市域から発生する汚染物質をいかに工学的に処理し、処分するかが課題でした。しかし、現在解決が求められる環境問題は、地球規模の広がりを持ち、自然環境や野生生物の保全、さらに人間生活におけるアメニティの確保といった広範囲な分野を対象とするようになってきました。

このような状況において、広範な環境問題への対応を図るには、森林や湖沼といった自然環境や生態学に関する幅広い知識と、廃棄物処理や廃水処理などの目的解決型の工学技術との融合が求められています。

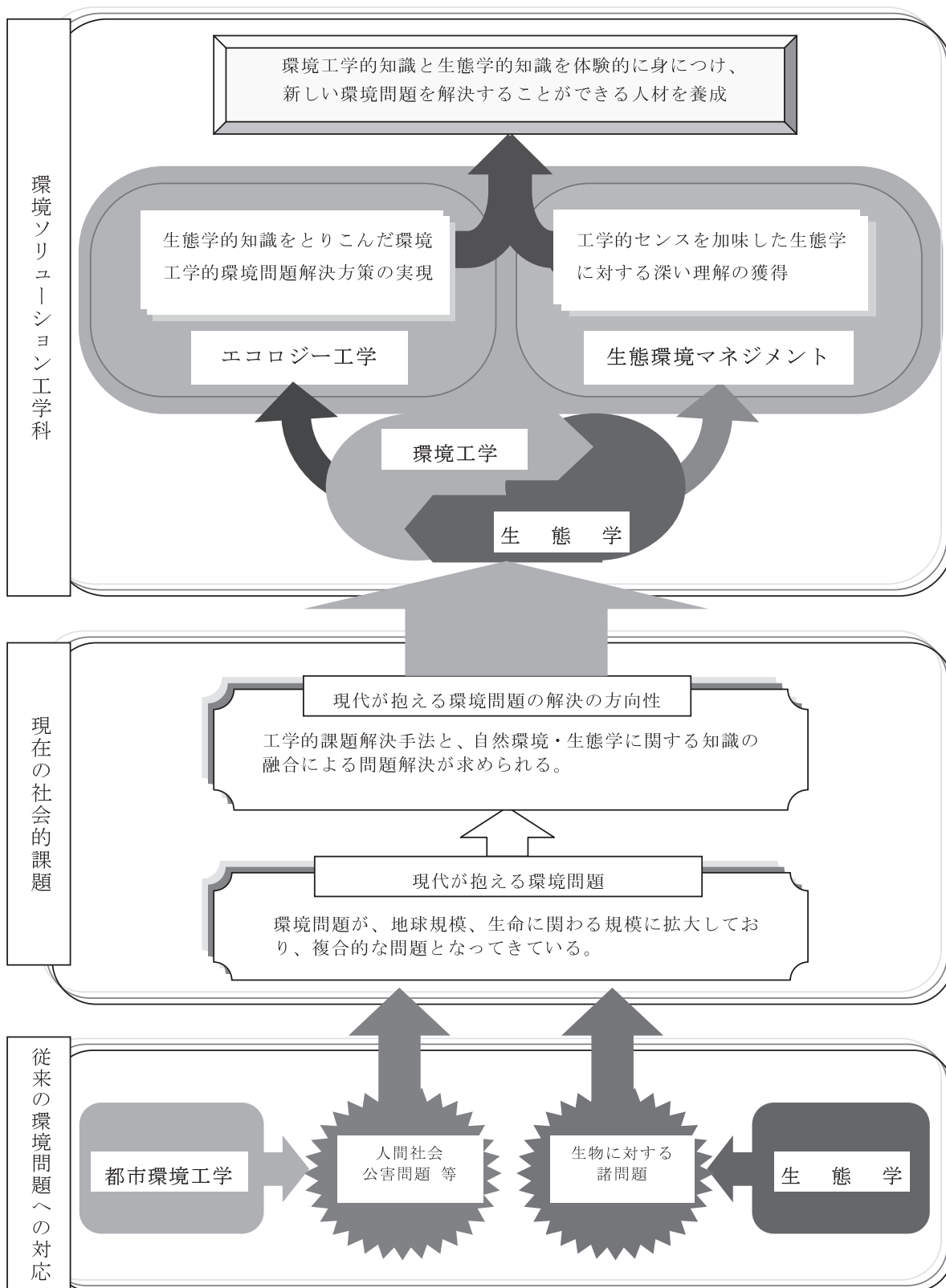
工学的な手法で人間生活の改善を図る場合も、その行為が生態学的にどのような影響を与えるかを十分に理解してはなりません。また、開発行為の是非についての判断や開発方法の選択にあたっては、自然環境に関する生態学的な調査・解析に基づき、工学的対応を図るといった総合的な視点が重要となります。

環境問題に対処していくためには、生態学の知識とともに、廃棄物等の処理技術に係わる深い理解が重要になってきています。また、新しい環境問題が次々と出てくる可能性があります。それらの問題解決には、これまでの学問、研究における十分な知識を基礎として、新しい問題を解決していく創造的な対応能力が必要となってきます。

環境ソリューション工学科は、これまでの環境工学的な知識と生態学的な知識を体験的に身に付け、今後の環境問題に対して積極的に取り組み、創造的な問題解決ができる人材を育成します。本学科の名称にあるソリューション（解決）とは、このような創造的な問題解決を行うことが出来る人材育成を目指していることを意味します。

本学科では、環境工学を基礎とした「エコロジー工学」と生態学を基礎とした「生態環境マネジメント」の2分野を置いています。両分野とも既存の都市環境工学や生態学ではなく、環境工学は自然環境を取り込んだ形で新たに編成され、生態学も人間社会を取り込んだ形で新たな展開を図り、さらに両分野を統合していくことを目標としています。

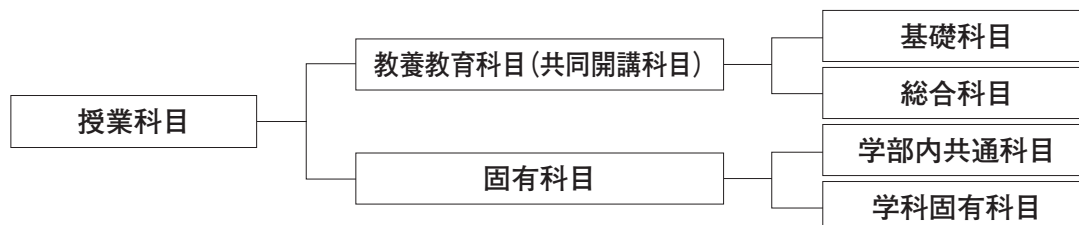
環境工学と生態学の両方の知識と技術を習得し、環境問題に対処するための方法論を学び、さらにプレゼンテーション能力、企画提言能力を身につけることで、種々の環境問題の解決に貢献できる人材を育成できると確信しています。



Ⅲ 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目（共同開講科目）

教養教育科目（共同開講科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 固有科目

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目

指定された科目群の中から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3. 各科目の履修方法について

(1) 教養教育科目（共同開講科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P27 ～ P31
2003 ～ 2007年度入学生	P32 ～ P36

(2) 固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2009年度以降入学生	P40 ～ P45
2007・2008年度入学生	P46 ～ P51
2006年度以前入学生	P52 ～ P57

①教養教育科目の履修方法 【2008年度以降入学生】

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

- ① **ドイツ語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② **フランス語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ **中国語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「中国語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ **コリア語セミナーAもしくは、B**を履修するためには「コリア語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語 I A・I B	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語 I C・I D	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義を開設しています。教養教育科目特別講義については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2008年度以降入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
仏教の思想 A	必修 2	○			
仏教の思想 B	必修 2		○		
スポーツ技術学 A	必修 1	○			
スポーツ技術学 B	必修 1		○		
英語 I A	必修 1	○			
英語 I B	必修 1	○			
英語 II A	必修 1		○		
英語 II B	必修 1		○		
英語 III	必修 1			○	
英語 IV	必修 1				○
英語セミナー A 1	選択 2	○			
英語セミナー A 2	選択 2		○		
英語セミナー B 1	選択 2			○	
英語セミナー B 2	選択 2				○
英語セミナー C 1	選択 2			○	
英語セミナー C 2	選択 2				○
英語セミナー D 1	選択 2			○	
英語セミナー D 2	選択 2				○
英語セミナー E 1	選択 2			○	
英語セミナー E 2	選択 2				○
※ 英語セミナー F 1	選択 2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択 2				○
ドイツ語 I A	選択 1	○			
ドイツ語 I B	選択 1		○		
ドイツ語 I C	選択 1	○			
ドイツ語 I D	選択 1		○		
ドイツ語セミナー A	選択 2			○	
ドイツ語セミナー B	選択 2				○
フランス語 I A	選択 1	○			
フランス語 I B	選択 1		○		
フランス語 I C	選択 1	○			
フランス語 I D	選択 1		○		
フランス語セミナー A	選択 2			○	
フランス語セミナー B	選択 2				○
中国語 I A	選択 1	○			
中国語 I B	選択 1		○		
中国語 I C	選択 1	○			
中国語 I D	選択 1		○		
中国語セミナー A	選択 2			○	
中国語セミナー B	選択 2				○

科 目 名	単位数	配当年次			
		1 年次		2 年次	
		前	後	前	後
コリア語 I A	選択 1	○			
コリア語 I B	選択 1		○		
コリア語 I C	選択 1	○			
コリア語 I D	選択 1		○		
コリア語セミナー A	選択 2			○	
コリア語セミナー B	選択 2				○
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論 A	選択 2	○			
教育原論 B	選択 2		○		
発達と教育 A	選択 2			○	
発達と教育 B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○			
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○			
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2	○	○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
★ 生活の中の数学	選択 2	○			
★ 生活の中の物理	選択 2		○		
※★ 生活の中の化学	選択 2		○		
★ 生命と科学	選択 2			○	
★ 生活の中の統計技術	選択 2	○			

△注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 3) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は2012年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	○
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2		○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
* 自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○			
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○
健康とスポーツ	選択	2	○	○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆ 教養教育科目特別講義A	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義E	選択	2	○			

※2012年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の5科目のうち、
卒業要件単位として認
めるのは4科目8単位
まで

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

① 共同開講科目の履修方法 【2003年度～ 2007年度入学生】

■ 基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A・B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

<習熟度別クラス編成について>

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

<科目概要>

英語ⅠＡ・ⅠＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- ① 「スポーツ技術学Ａ・Ｂ」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- ② 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- ③ 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- ④ 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

<先修制授業科目>

- ① ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「ドイツ語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② フランス語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「フランス語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ 中国語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「中国語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ コリア語セミナーＡもしくは、Ｂを履修するためには「コリア語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅠＣ・ⅠＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

<英語以外の外国語概要>

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠＡ・ⅠＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ⅠＣ・ⅠＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義・共同開講科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義（共同開講科目特別講義）を開設しています。これらの科目については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2003年度～2007年度入学生】

■基礎科目

科 目 名	単位数		配当年次			
			1 年次		2 年次	
			前	後	前	後
仏教の思想 A	必修	2	○			
仏教の思想 B	必修	2		○		
スポーツ技術学 A	必修	1	○			
スポーツ技術学 B	必修	1		○		
英語 I A	必修	1	○			
英語 I B	必修	1	○			
英語 II A	必修	1		○		
英語 II B	必修	1		○		
英語 III	必修	1			○	
英語 IV	必修	1				○
英語セミナー A 1	選択	2	○			
英語セミナー A 2	選択	2		○		
英語セミナー B 1	選択	2			○	
英語セミナー B 2	選択	2				○
英語セミナー C 1	選択	2			○	
英語セミナー C 2	選択	2				○
英語セミナー D 1	選択	2			○	
英語セミナー D 2	選択	2				○
英語セミナー E 1	選択	2			○	
英語セミナー E 2	選択	2				○
※ 英語セミナー F 1	選択	2			○	
※ 英語セミナー F 2	選択	2				○
ドイツ語 I A	選択	1	○			
ドイツ語 I B	選択	1		○		
ドイツ語 I C	選択	1	○			
ドイツ語 I D	選択	1		○		
ドイツ語セミナー A	選択	2			○	
ドイツ語セミナー B	選択	2				○
フランス語 I A	選択	1	○			
フランス語 I B	選択	1		○		
フランス語 I C	選択	1	○			
フランス語 I D	選択	1		○		
フランス語セミナー A	選択	2			○	
フランス語セミナー B	選択	2				○
中国語 I A	選択	1	○			
中国語 I B	選択	1		○		
中国語 I C	選択	1	○			
中国語 I D	選択	1		○		
中国語セミナー A	選択	2			○	
中国語セミナー B	選択	2				○

科 目 名	単位数		配当年次			
			1 年次		2 年次	
			前	後	前	後
コリア語 I A	選択	1	○			
コリア語 I B	選択	1		○		
コリア語 I C	選択	1	○			
コリア語 I D	選択	1		○		
コリア語セミナー A	選択	2			○	
コリア語セミナー B	選択	2				○
文学入門	選択	2	○	○		
哲学入門	選択	2	○	○		
心理学入門	選択	2	○	○		
教育原論 A	選択	2	○			
教育原論 B	選択	2		○		
発達と教育 A	選択	2			○	
発達と教育 B	選択	2				○
歴史入門	選択	2			○	○
倫理学入門	選択	2	○	○		
言語学入門	選択	2	○			
論理学入門	選択	2	○	○		
法学入門	選択	2	○			
日本国憲法	選択	2	○	○		
政治学入門	選択	2	○	○		
統計入門	選択	2	○	○		
社会学入門	選択	2	○	○		
経済学入門	選択	2	○	○		
社会思想史入門	選択	2			○	○
★ 生活の中の数学	選択	2	○			
★ 生活の中の物理	選択	2		○		
※★ 生活の中の化学	選択	2		○		
★ 生命と科学	選択	2			○	
★ 生活の中の統計技術	選択	2	○			

△ 注意事項

- 1) ★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。)
- 2) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。
- 3) ※印「英語セミナー F 1, F 2」は2012年度不開講。

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	○
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2			○	
国際社会と日本B	選択	2				○
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2		○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○	○		
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
* 自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○			
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2			○	○
健康とスポーツ	選択	2	○	○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆ 共同開講科目特別講義	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆ 教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○		
◆ 教養教育科目特別講義E	選択	2	○			

※2012年度は不開講

※2010年度以降不開講

◆印の5科目のうち、
卒業要件単位として認
めるのは4科目8単位
まで

⚠ 注意事項

- 1) * 自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

②教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表

カリキュラム改革にともない、下記対照表の通り、入学年度によって科目名が異なり、合同授業となる場合があるので注意してください。（一部の科目については、不開講となる場合があるので注意してください。）

1. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）基礎科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科 目 名	単位	科 目 名	単位
仏教の思想A	2	仏教の思想A	2
仏教の思想B	2	仏教の思想B	2
スポーツ技術学A	1	スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1	スポーツ技術学B	1
英語ⅠA	1	英語ⅠA	1
英語ⅠB	1	英語ⅠB	1
英語ⅡA	1	英語ⅡA	1
英語ⅡB	1	英語ⅡB	1
英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
英語セミナーA 1	2	英語セミナーA 1	2
英語セミナーA 2	2	英語セミナーA 2	2
英語セミナーB 1	2	英語セミナーB 1	2
英語セミナーB 2	2	英語セミナーB 2	2
英語セミナーC 1	2	英語セミナーC 1	2
英語セミナーC 2	2	英語セミナーC 2	2
英語セミナーD 1	2	英語セミナーD 1	2
英語セミナーD 2	2	英語セミナーD 2	2
英語セミナーE 1	2	英語セミナーE 1	2
英語セミナーE 2	2	英語セミナーE 2	2
英語セミナーF 1	2	英語セミナーF 1	2
英語セミナーF 2	2	英語セミナーF 2	2
ドイツ語ⅠA	1	ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1	ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅠC	1	ドイツ語ⅠC	1
ドイツ語ⅠD	1	ドイツ語ⅠD	1
ドイツ語セミナーA	2	ドイツ語セミナーA	2
ドイツ語セミナーB	2	ドイツ語セミナーB	2
フランス語ⅠA	1	フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1	フランス語ⅠB	1
フランス語ⅠC	1	フランス語ⅠC	1
フランス語ⅠD	1	フランス語ⅠD	1
フランス語セミナーA	2	フランス語セミナーA	2
フランス語セミナーB	2	フランス語セミナーB	2
中国語ⅠA	1	中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1	中国語ⅠB	1
中国語ⅠC	1	中国語ⅠC	1
中国語ⅠD	1	中国語ⅠD	1
中国語セミナーA	2	中国語セミナーA	2
中国語セミナーB	2	中国語セミナーB	2
コリア語ⅠA	1	コリア語ⅠA	1
コリア語ⅠB	1	コリア語ⅠB	1
コリア語ⅠC	1	コリア語ⅠC	1
コリア語ⅠD	1	コリア語ⅠD	1
コリア語セミナーA	2	コリア語セミナーA	2
コリア語セミナーB	2	コリア語セミナーB	2

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
文学入門	2	文学入門	2
哲学入門	2	哲学入門	2
心理学入門	2	心理学入門	2
教育原論A	2	教育原論A	2
教育原論B	2	教育原論B	2
発達と教育A	2	発達と教育A	2
発達と教育B	2	発達と教育B	2
歴史入門	2	歴史入門	2
倫理学入門	2	倫理学入門	2
言語学入門	2	言語学入門	2
論理学入門	2	論理学入門	2
法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2
統計入門	2	統計入門	2
社会学入門	2	社会学入門	2
経済学入門	2	経済学入門	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2

2. 教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）総合科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生	
科目名	単位	科目名	単位
情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2
現代社会とマス・メディア	2	現代社会とマス・メディア	2
情報と人間	2	情報と人間	2
スポーツ文化論	2	スポーツ文化論	2
情報倫理	2	情報倫理	2
現代社会と福祉	2	現代社会と福祉	2
メディアにみる福祉	2	メディアにみる福祉	2
世界の福祉	2	世界の福祉	2
国際社会と日本A	2	国際社会と日本A	2
国際社会と日本B	2	国際社会と日本B	2
国際社会と日本C	2	国際社会と日本C	2
日本の文化	2	日本の文化	2
アジアの文化	2	アジアの文化	2
欧米の文化	2	欧米の文化	2
海外英語研修	2	海外英語研修	2
科学技術史	2	科学技術史	2
現代の技術	2	現代の技術	2
環境と倫理	2	環境と倫理	2
環境と人間A	2	環境と人間A	2
環境と人間B	2	環境と人間B	2
自然観察法	2	自然観察法	2
人権論A	2	人権論A	2
人権論B	2	人権論B	2
平和学入門	2	平和学入門	2
ジェンダー論	2	ジェンダー論	2
生命と共生	2	生命と共生	2
人間と社会と法	2	人間と社会と法	2
生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2
現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2
現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2
健康とスポーツ	2	健康とスポーツ	2
大学生入門	2	大学生入門	2
教養教育科目特別講義	2	共同開講科目特別講義	2

③固有科目の履修方法 【2009年度以降入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、1年および2年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各学科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に1年および2年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に1年および2年に配置している。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野(生態学)と〈エコロジー工学〉の分野(環境工学)から成り立っており、主に2年および3年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、1年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、2年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、3年生になると主に〔専門科目〕を学んで、4年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

4年次には研究テーマを決めて1年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」(次ページ以降)にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部6学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。環境ソリューション工学科では、計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地域環境概論、地球環境概論が必修となっている。

また、必修科目ではないが物理実験をはじめとする実験・実習科目は、学科固有科目の学修の上で大変関連が深いことから積極的な受講を推奨する。

2. 学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習(キャリア実践実習)、海外キャリア実践教育及び実習A、環境実習A、環境実習B、環境実習Cが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Aと都市環境施設実験Bも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に、落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
	学部内共通科目	必修	14
		選択	4
		(小計)	(18)
学科固有科目	必修	30	
	選択必修	4 A)	
	選択	46	
	(小計)	(80)	
フリーゾーン	選択	8 B)	
	(小計)	(8)	
合 計			134

⚠ 注意事項

A) 「環境実習A」、「環境実習B」、「環境実習C」または「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習A」のいずれか2単位、および、「都市環境施設実験A」または「都市環境施設実験B」のいずれか2単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

ただし、「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習A」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。

B) 区分を問わずに8単位修得することができる。
(随意科目は含まない)

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	32
	卒業要件総修得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	44
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必修科目単位数	56
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次開講科目（化学基礎実験、生物多様性実習、環境分析化学実験、社会調査法及び実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次開講科目（学外実習（キャリア実践実習）、海外キャリア実践教育及び実習A・B、環境実習A、環境実習B、環境実習C、プレゼンテーション演習、科学技術英語、都市環境施設実験A、都市環境施設実験B、環境生態学実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

4. 設置科目

区分		授 業 科 目	単位数	配当年次（前期・後期）								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
学部内 共通科目	英語	科学技術英語	必修	2						○			
	化学	化学概論Ⅰ	必修	2	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	物理実験	選択	2			○						
		化学基礎実験	必修	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習(キャリア実践実習)	選必	2					○				
		海外キャリア実践教育及び実習A	選必	2					○				
		海外キャリア実践教育及び実習B	選択	2					○				※ ※ } 履修希望者は必ずA・B 両方を登録すること
	総合科目	科学思想史	選択	2				○			○		
		情報学概論	選択	2			○		○			○	
		環境科学	選択	2	○								
		資源エネルギー論	選択	2		○							
		人間工学	選択	2				○			○		○
		工学概論	選択	2			○		○			○	
		生体情報概論	選択	2			○		○			○	
		工業経済	選択	2				○			○		○
		生態学概論	必修	2		○							
		地域環境概論	必修	2	○								
		地球環境概論	必修	2		○							
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○			○	
		MOT演習	選択	2				○			○		○
		知的財産概論	選択	2	○		○		○			○	
		キャリアデザイン	選択	2	○				○			○	
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科 固有科目	学科 基 本 科 目	環境ソリューション工学概論	必修	2	○								
		統計学概論	必修	2		○							
		環境工学基礎実習	必修	2		○							
		生物多様性実習	必修	2			○						
	基 本 科 目	数学序論	随意	②	○								
		物理学序論	随意	②	○								
		化学序論	随意	②	○								
		生物学序論	随意	②	○								
	科 目	数学Ⅰ	必修	2	○								
		数学Ⅱ	必修	2		○							
		数学Ⅲ	選択	2			○						
		物理学Ⅰ	必修	2	○								
	目	物理学Ⅱ	選択	2		○							
		測量学及び実習	選択	2			○						
環境分析化学実験		必修	2				○						
社会調査法及び実習		必修	2			○							

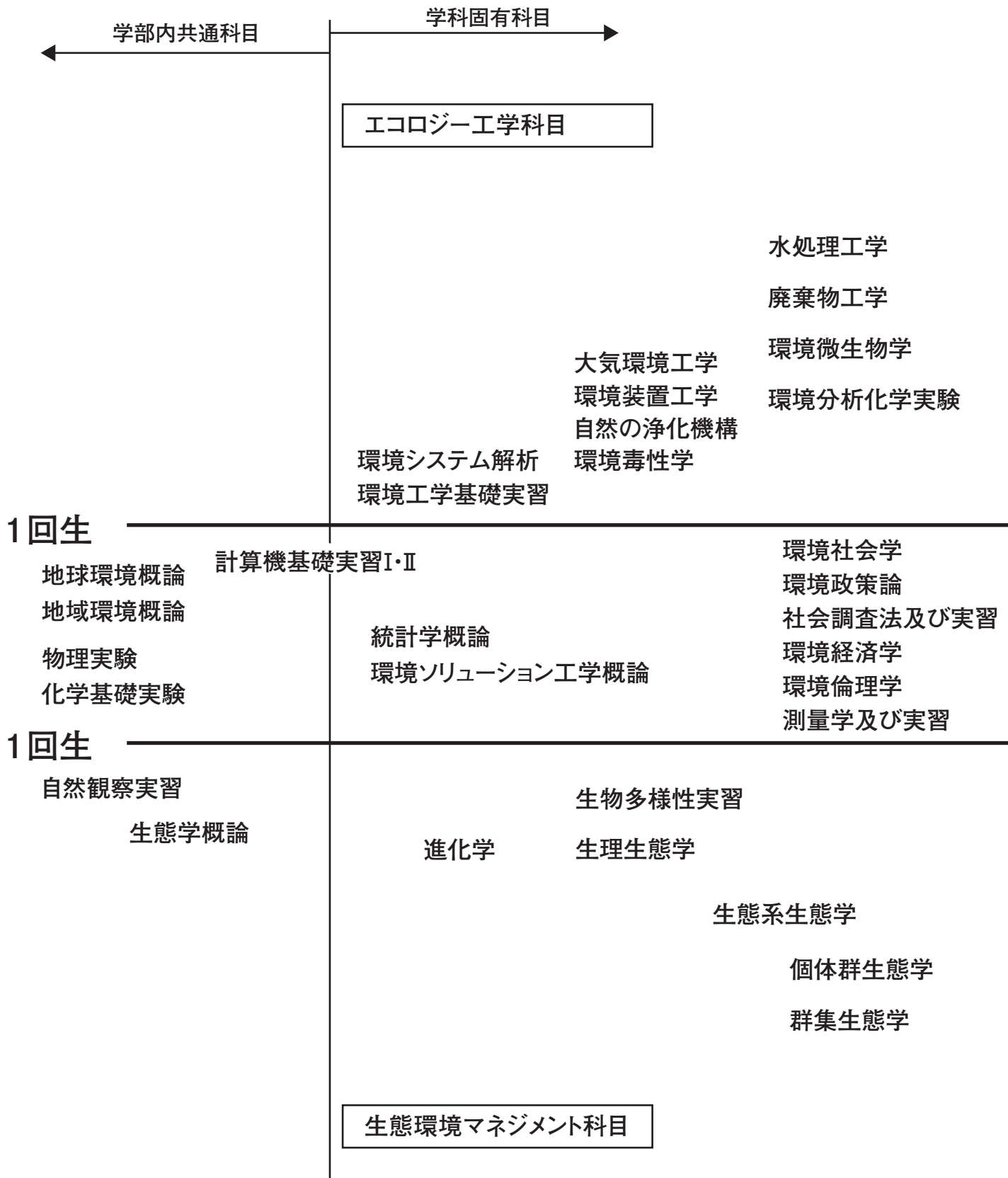
区分		授 業 科 目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
	学科基本科目	環境社会学	選択	2			○						
		環境政策論	選択	2				○					
		環境経済学	選択	2				○					
		環境倫理学	選択	2				○					
		特別講義	選択	2					●	○			
		環境実習C	選必	2					○				※
		プレゼンテーション演習	必修	2						○			
学 科 専 門 有 科 目	専門・エコロジー工学	環境システム解析	選択	2		○							
		自然の浄化機構	選択	2			○						
		環境装置工学	選択	2			○						
		環境毒性学	選択	2			○						
		大気環境工学	選択	2			○						
		環境微生物学	選択	2				○					
		廃棄物工学	選択	2				○					
		水処理工学	選択	2				○					
		上下水道工学	選択	2					○				
		資源循環工学	選択	2					○				
	環境実習A	選必	2					○				※	
	都市環境施設実験A	選必	2					○				★	
	都市環境施設実験B	選必	2					○				★	
	環境アセスメント及び演習	選択	2							○			
	環境施設設計演習	選択	2							○			
	専門・生態環境マネジメント	進化学	選択	2		○							
		生理生態学	選択	2			○						
		環境計測学	選択	2			○						
		生態系生態学	選択	2				○					
		個体群生態学	選択	2				○					
群集生態学		選択	2				○						
野外調査実習		選択	2				○						
数理生態学		選択	2				○						
保全生態学		選択	2					○					
環境生態学実習		必修	2					○					
陸水生態学		選択	2					○					
環境実習B		選必	2					○				※	
生態工学	選択	2							○				
資源管理学	選択	2							○				
共通	セミナーⅠ	必修	2							○			
	セミナーⅡ	選択	2								○		
	特別研究	必修	6								○		

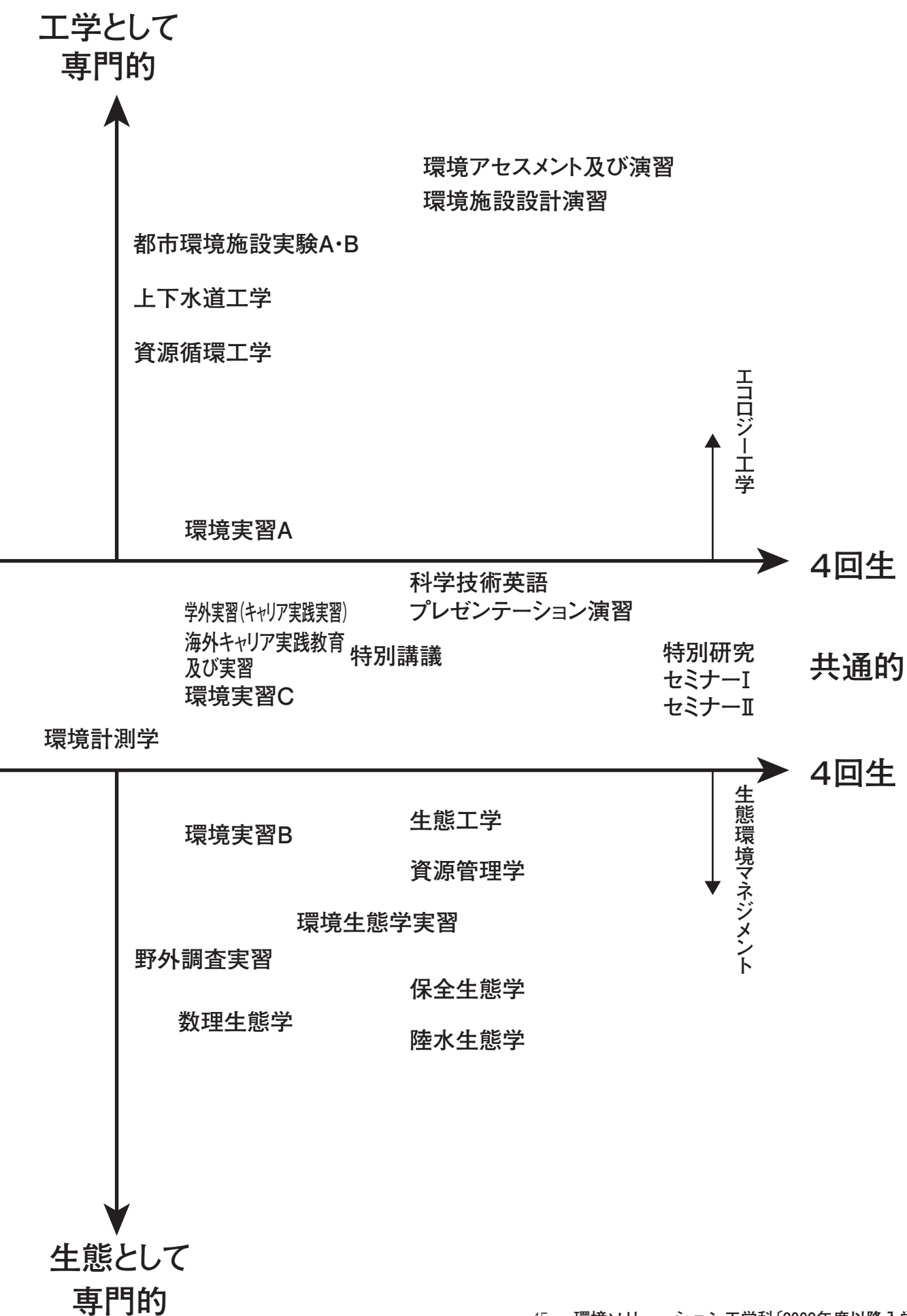
「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

- ※印の選択必修科目より2単位修得すること。「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習A」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。
なお、「海外キャリア実践教育及び実習」の履修希望者は、必ずA・B両方を登録すること。
- ★印の選択必修科目より2単位以上修得すること。
- は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート





③固有科目の履修方法 【2007・2008年度入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、1年および2年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各学科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に1年および2年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に1年および2年に配置している。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野(生態学)と〈エコロジー工学〉の分野(環境工学)から成り立っており、主に2年および3年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、1年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、2年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、3年生になると主に〔専門科目〕を学んで、4年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

4年次には研究テーマを決めて1年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」(次ページ以降)にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部6学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。環境ソリューション工学科では、計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地域環境概論、地球環境概論が必修となっている。

また、必修科目ではないが物理実験をはじめとする実験・実習科目は、学科固有科目の学修の上で大変関連が深いことから積極的な受講を推奨する。

2. 学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習、環境実習A、環境実習B、環境実習Cが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Aと都市環境施設実験Bも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に、落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区 分		単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修 12
		選択 10
		(小計) (22)
	総合科目	選択 6
		(小計) (6)
	学部内共通科目	必修 14
		選択 4
		(小計) (18)
学科固有科目	必修	30
	選択必修	4 A)
	選択	46
	(小計)	(80)
フリーゾーン	選択	8 B)
	(小計)	(8)
合 計		134

⚠ 注意事項

- A) 「環境実習A」、「環境実習B」、「環境実習C」または「学外実習」のいずれか2単位、および、「都市環境施設実験A」または「都市環境施設実験B」のいずれか2単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
ただし、「学外実習」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。
- B) 区分を問わずに8単位修得することができる。
(随意科目は含まない)

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	32
	卒業要件総修得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	44
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必修科目単位数	56
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次開講科目（化学基礎実験、生物多様性実習、環境分析化学実験、社会調査法及び実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）
- D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次開講科目（学外実習、環境実習A、環境実習B、環境実習C、プレゼンテーション演習、科学技術英語、都市環境施設実験A、都市環境施設実験B、環境生態学実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

4. 設置科目

区分		授 業 科 目	単位	数	配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内 共通科目	英語	科学技術英語	必修	2						○			
	化学	化学概論Ⅰ	必修	2	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	物理実験	選択	2			○						
		化学基礎実験	必修	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	選必	2					○				※
		総合科目	科学思想史	選択	2				○			○	
	情報学概論		選択	2			○			○		○	
	環境科学		選択	2	○								
	資源エネルギー論		選択	2		○							
	人間工学		選択	2				○			○		○
	工学概論		選択	2			○			○		○	
	生体情報概論		選択	2			○			○		○	
	工業経済		選択	2				○			○		○
	生態学概論		必修	2		○							
	地域環境概論		必修	2	○		○						
	地球環境概論		必修	2		○							
	情報と職業		選択	2			○						
	MOT概論		選択	2			○			○		○	
	MOT演習		選択	2				○			○		○
	知的財産概論		選択	2	○		○			○		○	
	キャリアデザイン		選択	2	○								
	キャリアプランニング		選択	2			○						
学部 専攻科目	環境ソリューション工学概論		必修	2	○								
			統計学概論	必修	2		○						
		環境工学基礎実習	必修	2		○							
		生物多様性実習	必修	2			○						
	数学序論	②	○										
		物理学序論	②	○									
		化学序論	②	○									
		生物学序論	②	○									
	数学Ⅰ	必修	2	○									
		数学Ⅱ	必修	2		○							
		数学Ⅲ	選択	2			○						
	物理学Ⅰ	必修	2	○									
		物理学Ⅱ	選択	2		○							
	測量学及び実習	環境分析化学実験	必修	2			○	○					
		社会調査法及び実習	必修	2			○						
		環境社会学	選択	2			○						
	環境政策論	環境政策論	選択	2				○					
		環境経済学	選択	2				○					
		環境倫理学	選択	2				○					
		特別講義	選択	2					●	○			
環境実習C		選必	2					○			※		
プレゼンテーション演習		必修	2						○				

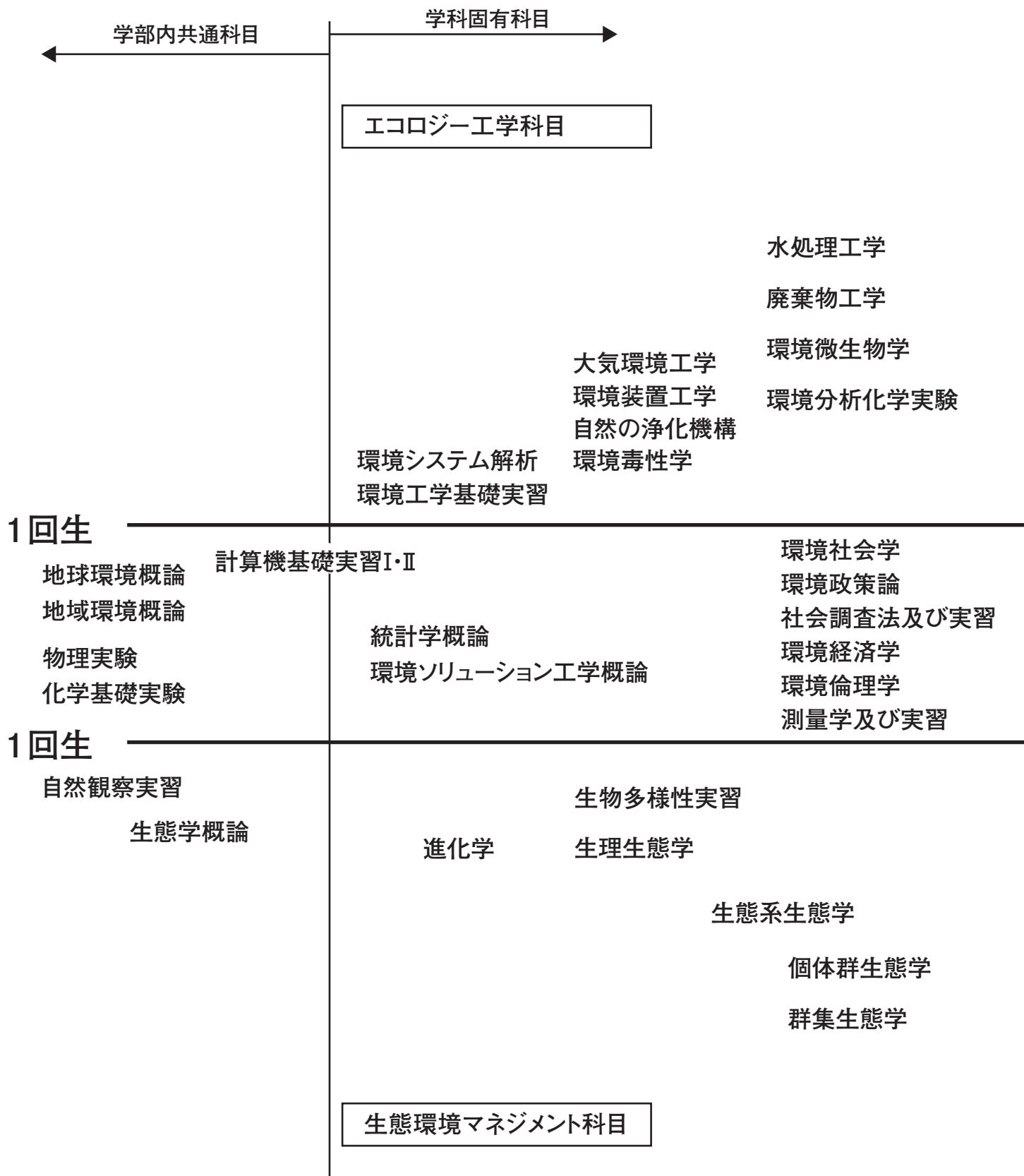
区分		授 業 科 目		単位数		配当年次（前期・後期）								備 考	
						1 年		2 年		3 年		4 年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
学 科 固 有 科 目	専 門 固 有 科 目	専門・エコロジー工学	環境システム解析	選択	2		○								
			自然の浄化機構	選択	2			○							
			環境装置工学	選択	2			○							
			環境毒性学	選択	2			○							
			大気環境工学	選択	2			○							
			環境微生物学	選択	2				○						
			廃棄物工学	選択	2				○						
			水処理工学	選択	2				○						
			上下水道工学	選択	2					○					
			資源循環工学	選択	2					○					
			環境実習 A	選必	2					○					※
			都市環境施設実験 A	選必	2					○					★
			都市環境施設実験 B	選必	2					○					★
			環境アセスメント及び演習	選択	2						○				
			環境施設設計演習	選択	2						○				
	専門・生態環境マネジメント	専門・生態環境マネジメント	進化学	選択	2		○								
			生理生態学	選択	2			○							
			環境計測学	選択	2			○							
			生態系生態学	選択	2				○						
			個体群生態学	選択	2				○						
			群集生態学	選択	2				○						
			野外調査実習	選択	2				○						
			数理生態学	選択	2				○						
			保全生態学	選択	2					○					
			環境生態学実習	必修	2					○					
			陸水生態学	選択	2					○					
			環境実習 B	選必	2					○					※
			生態工学	選択	2						○				
			資源管理学	選択	2						○				
			共通	共通	セミナーⅠ	必修	2							○	
	セミナーⅡ	選択			2									○	
	特別研究	必修			6									○	

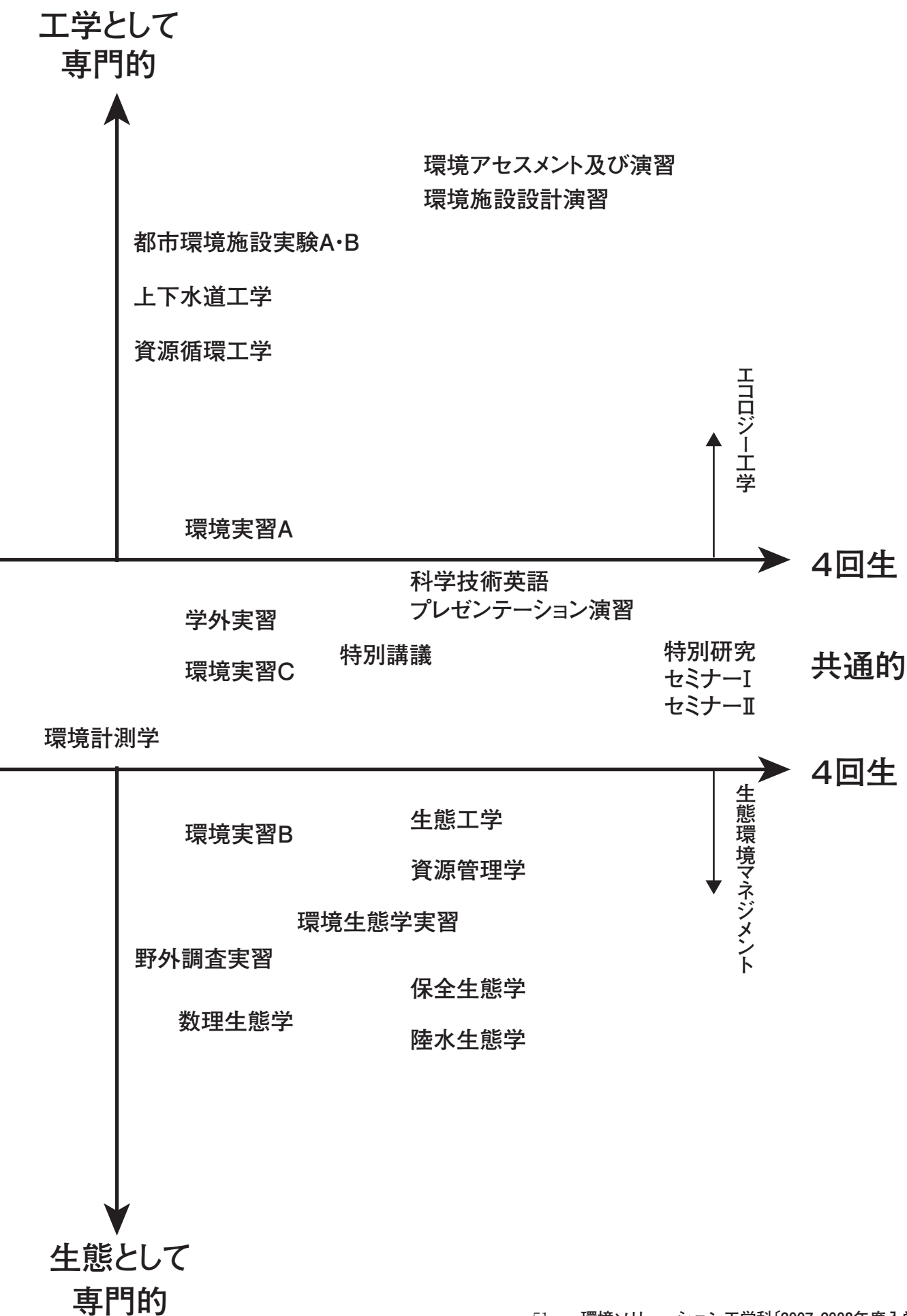
「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

- ※印の選択必修科目より2単位修得すること。「学外実習」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。
- ★印の選択必修科目より2単位以上修得すること。
- は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート





③固有科目の履修方法 【2006年度以前入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、1年および2年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各学科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に1年および2年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に1年および2年に配置している。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野(生態学)と〈エコロジー工学〉の分野(環境工学)から成り立っており、主に2年および3年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、1年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、2年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、3年生になると主に〔専門科目〕を学んで、4年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

4年次には研究テーマを決めて1年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」(次ページ以降)にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

1. 学部内共通科目の履修方法

理工学部6学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。環境ソリューション工学科では、計算機基礎実習Ⅰ、理工学基礎実験B、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地球環境概論が必修となっている。

2. 学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習、環境実習A、環境実習Bが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Aと都市環境施設実験Bも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
共同開講科目	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
		(小計)	(6)
学部内共通科目		必修	12
		選択	6
		(小計)	(18)
学科固有科目		必修	44
		選択必修	4 A)
		選択	32
		(小計)	(80)
フリーゾーン		選択	8 B)
		(小計)	(8)
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 「環境実習A」、「環境実習B」または「学外実習」のいずれか2単位、および、「都市環境施設実験A」または「都市環境施設実験B」のいずれか2単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
ただし、「学外実習」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。
- B) 区分を問わずに8単位修得することができる。
(随意科目は含まない)

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区 分		単位数
2年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	34
	卒業要件総修得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	58
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒 業	必修科目単位数	68
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次開講科目（理工学基礎実験B、環境生態学実習Aを除く）の登録を年間10単位まで認める。
(登録制限単位内に含む)
- D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次開講科目（学外実習、環境実習A、環境実習B、科学技術英語、環境分析化学実験、都市環境施設実験A、都市環境施設実験Bを除く）の登録を年間10単位まで認める。(登録制限単位内に含む)

4. 設置科目

区分		授 業 科 目	単位数		配当年次（前期・後期）								備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
学部内 共通科目	英語	科学技術英語	必修	2						○			
	化学	化学概論Ⅰ	必修	2	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	理工学基礎実験 A	選択	2			○						
		理工学基礎実験 B	必修	2				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		生物多様性実習 B	選択	2	○	●							
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	選必	2					○				※
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2				○		○		○	
		環境科学	選択	2	○								
		資源エネルギー論	選択	2		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2				○		○		○	
		生体情報概論	選択	2				○		○		○	
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	必修	2	●	○							
		地球環境概論	必修	2		○							
		情報と職業	選択	2				○					
		MOT概論	選択	2				○		○			
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	随意	②	○			○		○		○	
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2				○					
学科 固 有 科目	学科 基 本 科 目	環境ソリューション工学概論	必修	2	○								
		生態系生態学	必修	2				○					
		基礎環境工学	選択	2				○					
		数学序論	随意	②	○								
		物理学序論	随意	②	○								
		化学序論	随意	②	○								
		生物学序論	随意	②	○								
		数学Ⅰ	必修	2	○	●							
		数学Ⅱ	必修	2				●	○				
		数学Ⅲ	選択	2				○	●				
		物理学Ⅰ	必修	2	○	●							
		物理学Ⅱ	選択	2				●	○				
		生物多様性実習 A	必修	2	○								
		測量学及び実習	選択	2				○					
		環境分析化学実験	必修	2						●	○		
		社会調査法	必修	2				○					
		社会調査実習	選択	2				○	●				
		環境政策論	選択	2					○				
		環境法規	選択	2						○			
		環境経済学	選択	2					●	○			
		統計学概論	必修	2				●	○				
		特別講義	選択	2						●	○		

2012年度不開講

2012年度不開講

区分		授 業 科 目		単位数		配当年次（前期・後期）								備 考	
						1 年		2 年		3 年		4 年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
学 科 固 有 科 目	専 門	プレゼンテーション演習Ⅰ プレゼンテーション演習Ⅱ	必修	2		○								2012年度不開講	
			選択	2			○								
		専門・エコロジー工学	環境水理学及び演習	必修	2			○							2012年度不開講 ※ ★ ★
			水環境基礎科学	必修	2			○							
			環境水質学	選択	2				○						
			環境微生物学	選択	2				○						
			水処理工学	選択	2					●	○				
			廃棄物処理	必修	2					●	○				
			ミティゲーション論B	選択	2					○					
			環境システム解析	選択	2					●	○				
			環境実習A	選必	2					○					
			環境リスク論	選択	2					○	●				
			自然浄化機構	選択	2					○	●				
			都市環境施設実験A	選必	2					○	●				
			都市環境施設実験B	選必	2					○	●				
			廃棄物施設設計演習	選択	2							○			
	資源循環工学	選択	2					○	●						
	地域環境管理	選択	2							○					
	専門・生態環境マネジメント	個体群生態学	選択	2			●	○						2012年度不開講	
		生物多様性保全論	必修	2			○								
		進化生態学	選択	2			●	○						2012年度不開講 2012年度不開講 ※	
		環境生態学実習A	必修	2			○								
		環境生態学実習B	選択	2				○							
		ミティゲーション論A	必修	2				○							
		生物資源管理学	必修	2				○							
		行動生態学	選択	2					○						
		環境モニタリング	選択	2					○						
		環境実習B	選必	2					○						
		陸水生態学	必修	2					○						
		環境モデリング及び演習	選択	2					●	○					
		生物の環境応答	選択	2					○	●					
		生態学演習	選択	2							○				
		共通	セミナー	必修	2							○			
			特別研究	必修	6								○		

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

- ※印の選択必修科目より2単位修得すること。「学外実習」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。
- ★印の選択必修科目より2単位以上修得すること。
- は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート



	3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期
	[環境実習A]	環境リスク論		
	水処理工学	自然浄化機構		
	ミティゲーション論B	地域環境管理		
	環境システム解析	廃棄物施設設計演習		
		資源循環工学		
	廃棄物処理	科学技術英語	セミナー	特別研究
	環境分析化学実験	特別講義		
	[学外実習]	【都市環境施設実験A】		
	環境法規	【都市環境施設実験B】		
	環境経済学			
	陸水生態学			
	環境モニタリング	生物の環境応答		
	行動生態学			
	環境モデリング及び演習	生態学演習		
	[環境実習B]			

【 】 選択必修科目

④学科固有科目カリキュラム対照表

	2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
	科目名	単位	科目名	単位
学部内共通科目				
	科学技術英語	2	科学技術英語	2
	化学概論Ⅰ	2	化学概論Ⅰ	2
	化学概論Ⅱ	2	化学概論Ⅱ	2
	生物学概論Ⅰ	2	生物学概論Ⅰ	2
	生物学概論Ⅱ	2	生物学概論Ⅱ	2
	地学概論Ⅰ	2	地学概論Ⅰ	2
	地学概論Ⅱ	2	地学概論Ⅱ	2
	物理実験	2	理工学基礎実験A	2
	化学基礎実験	2	理工学基礎実験B	2
	計算機基礎実習Ⅰ	2	計算機基礎実習Ⅰ	2
	計算機基礎実習Ⅱ	2	計算機基礎実習Ⅱ	2
	自然観察実習	2	生物多様性実習B	2
	生物学実験	2	生物学実験	2
	地学実験	2	地学実験	2
	学外実習 ※2007・2008年度入学生	2	学外実習	2
	学外実習（キャリア実践実習）※2009年度以降入学生	2		
	海外キャリア実践教育及び実習A ※2009年度以降入学生	2		
	海外キャリア実践教育及び実習B ※2009年度以降入学生	2		
	科学思想史	2	科学思想史	2
	情報学概論	2	情報学概論	2
	環境科学	2	環境科学	2
	資源エネルギー論	2	資源エネルギー論	2
	人間工学	2	人間工学	2
	工学概論	2	工学概論	2
	生体情報概論	2	生体情報概論	2
	工業経済	2	工業経済	2
	生態学概論	2	生態学概論	2
	地域環境概論	2		
	地球環境概論	2	地球環境概論	2
	情報と職業	2	情報と職業	2
	MOT概論	2	MOT概論	2
	MOT演習	2	MOT演習	2
	知的財産概論	2	知的財産概論	2
	キャリアデザイン	2	キャリアデザイン	2
	キャリアプランニング	2	キャリアプランニング	2
学科固有科目				
	環境ソリューション工学概論	2	環境ソリューション工学概論	2
	統計学概論	2	統計学概論	2
			基礎環境工学	2
	環境工学基礎実習	2		
	生物多様性実習	2		
			生物多様性実習A	2
	数学序論	2	数学序論	2
	物理学序論	2	物理学序論	2
	化学序論	2	化学序論	2
	生物学序論	2	生物学序論	2
	数学Ⅰ	2	数学Ⅰ	2
	数学Ⅱ	2	数学Ⅱ	2
	数学Ⅲ	2	数学Ⅲ	2
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科目名	単位	科目名	単位
測量学及び実習	2	測量学及び実習	2
環境分析化学実験	2	環境分析化学実験	2
		社会調査法	2
社会調査法及び実習	2	社会調査実習	2
環境社会学	2		
環境政策論	2	環境政策論	2
環境経済学	2	環境経済学	2
		環境法規	2
環境倫理学	2		
特別講義	2	特別講義	2
環境実習C	2		
プレゼンテーション演習	2		
		プレゼンテーション演習Ⅰ	2
		プレゼンテーション演習Ⅱ	2
環境システム解析	2	環境システム解析	2
自然の浄化機構	2	自然浄化機構	2
環境装置工学	2		
環境毒性学	2	環境リスク論	2
大気環境工学	2		
環境微生物学	2	環境微生物学	2
廃棄物工学	2	廃棄物処理	2
水処理工学	2	水処理工学	2
		水環境基礎科学	2
		環境水質学	2
上下水道工学	2	環境水理学及び演習	2
資源循環工学	2	資源循環工学	2
		ミティゲーション論B	2
環境実習A	2	環境実習A	2
都市環境施設実験A	2	都市環境施設実験A	2
都市環境施設実験B	2	都市環境施設実験B	2
環境アセスメント及び演習	2		
環境施設設計演習	2	廃棄物施設設計演習	2
		地域環境管理	2
生態系生態学	2	生態系生態学	2
進化学	2	進化生態学	2
生理生態学	2	生物の環境応答	2
環境計測学	2	環境モニタリング	2
個体群生態学	2	個体群生態学	2
群集生態学	2		
		行動生態学	2
野外調査実習	2	環境生態学実習B	2
数理生態学	2	環境モデリング及び演習	2
保全生態学	2	生物多様性保全論	2
環境生態学実習	2		
		環境生態学実習A	2
陸水生態学	2	陸水生態学	2
環境実習B	2	環境実習B	2
生態工学	2	ミティゲーション論A	2
資源管理学	2	生物資源管理学	2
		生態学演習	2
セミナーⅠ	2	セミナー	2
セミナーⅡ	2		
特別研究	6	特別研究	6

⑤他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

<科目>

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

<配当年次・対象>

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

<開講曜講時>

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

<数理情報学科>

2006年度以前入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。
2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。

<電子情報学科>

学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

<機械システム工学科>

2006年度以前入学生は、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。
2007年度入学生より、自由選択科目として9単位まで認定。

<物質化学科>

学科固有科目選択科目として6単位まで認定。

<情報メディア学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

<環境ソリューション工学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配布)を提出してください。(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修制限単位数に含まれます。

⚠ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

⑥単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度を利用することができます。

1. 履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換 制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生 (卒業年次生は随意科目として受講可。)	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学コンソーシアム				
電子情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
物質化学科	環びわ湖大学コンソーシアム				
情報メディア学科					
環境ソリューション工学科	環びわ湖大学コンソーシアム				

2. 「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3. 試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱い科目

本学の授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試験料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4. その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5. 大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め40以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

(1) 出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

対象科目	登録日
全科目（前期科目・後期科目・集中科目すべて）	4月2日（月）9：00～4月11日（水）16：00

出願手続きは、ポータルサイトにログインして「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。（9月追加登録は後期科目の定員に余裕がある科目のみとなります。）

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスWeb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

(2)履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

- 休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

6. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されています。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

③短期体験型（冬期）「トライアルコース」

短期大学生および4年制大学1・2年次生を対象に12月中旬～2月下旬にかけて最低5日間の実習をおこなう。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によつて異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学外実習」で読み替える。

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2012年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

(1)資格要件 理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

(2)出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3) インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

① 事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

② 実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③ 事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(4) 実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

7. 環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

(1) 出願手続きについて

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度 出願票」を1科目1枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口へ提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

(2) 履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

⑦日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1. JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2. JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3. 認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

- (1)大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。（JABEEホームページより）

4. 認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための1次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5. 理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

⑧卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

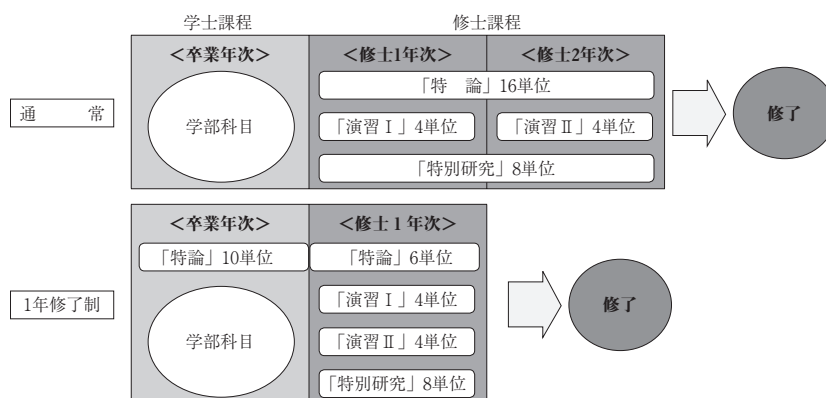
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ 諸課程等の履修方法

①教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」を参照してください。

＜2000年度以降入学生＞

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数 学	一種免許状	一種免許状
	情 報		一種免許状
電子情報学科	工 業		一種免許状
	情 報		一種免許状
機械システム工学科	工 業		一種免許状
物質化学科	理 科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情 報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理 科	一種免許状	一種免許状

②本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	4	2	
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	4	2	
真 宗 史	真 宗 史	4	1	
仏 教 史	日 本 仏 教 史	4	1	
宗 教 概 説	宗 教 学 概 論	4	2	
勤 式 作 法	勤 式	4	1	*
宗 門 法 規	宗 門 法 規	2	1	◎
布 教 法	教 化 法	4	1	*

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

*……2010、2012、2014年度開講（予定）

◎……2011、2013、2015年度開講（予定）

③博物館学芸員課程

博物館とは、美術館、資料館、郷土館、動・植物園、民芸館、記念館などを含む社会教育施設を指し、生涯学習の観点から社会教育上、重要な役割を担うものです。

昭和26年12月に制定された「博物館法」によって、これらの博物館には「学芸員」やその他の職員を置くことが定められています。

学芸員は、博物館において、その管理運営・博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究などの専門的事項を担当します。

本学部における博物館学芸員課程では、人文・自然科学系〔歴史学、民族（俗）学、美術史学、考古学、環境学、動植物学等〕博物館学芸員を養成し、別表の科目を履修することによって、高い学識と見識を持った学芸員を社会に送り出すことを目指しています。

就職については、学芸員の採用人数はきわめて少ない現状です。これらのことから、目的意識を明確にもち、積極的な学修意欲が強く求められることを十二分に認識の上、履修することが望まれます。

在学中に本課程を完修できなかった場合、卒業後に本学部での科目等履修生となり、未修得の科目を履修することも可能ですが、「博物館実習」は原則として履修できない（「博物館実習内規」を参照）ので、在学中に完修することが望まれます。

1 博物館学芸員課程の履修

博物館法施行規則に定められている科目と単位数は、本学部ではそれに応じて、別表のと通りの科目と単位数にしています。2012年度以降入学生（2012年以降入学の編転入学生を含む）と2007年度～2011年度入学の学部在學生では、修得すべき単位数が異なります。

本学部において、「博物館実習」を除く博物館学芸員課程必修科目の履修登録ができる人数は、各科目とも先着20名までとしますので、予備（事前）登録を実施します。

【2012年度以降入学生（2012年度以降入学の編転入学生を含む）】

必修9科目19単位を履修しなければなりません。選択科目群から2科目4単位以上の履修を推奨します。

【2007年度～2011年度入学の学部在學生（情報メディア学科は2011年度入学生）】

必修8科目12単位および選択科目群から2科目4単位以上を履修しなければなりません。

※博物館学芸員資格を取得希望で単位を一部未修得で卒業した場合、科目等履修生として履修を続けることが可能ですが、その場合、2012年度以降の入学生のカリキュラムが適用されます。在学中に修得した単位のうち、2012年度以降入学生のカリキュラムへの読み替えが可能なもの以外に、追加で修得する単位が必ず発生します。そのためできるだけ在学中に完修することが望ましいです。詳細は70頁の読み替え表を参照してください。

2 「博物館実習」の履修

(1) 履修登録資格

次の項目をすべて満たしていること。

①「博物館実習」を履修するまでに下記の科目の単位を修得した者。

【2007年度～2011年度入学の学部在學生（情報メディア学科は2011年度入学生）】

「博物館実習」以外の必修科目を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること（「博物館実習内規」を参照）。

【2012年度以降入学生（2012年度以降入学の編転入学生を含む）】

「博物館実習」以外の必修科目を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること。

- ②受講申込を行い、選考（小論文・面接など）に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能です）。
※選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）及び博物館学に関する面接試験などによって行う。
- ③科目の性格上、実習先へ所定の期間は、出勤可能な者。
- ④年度始めに実習費を納入すること。

(2) 対象年次

3年次以上

(3) 実習定員

本学部での定員は原則として、10名以内です。

(4) 実施方法

- ①実地研修を中心に「博物館実習」の事前・事後の指導講義も行います（学内実習）。
- ②学外の博物館などの学外実習先にて指導を受けます（館園実習）。
- ③通年開講科目です（当該年度に長期留学する者は受講できません）。
- ④実習の性格上、学外において実習を行うことがあるので、開講曜講時前後の時間帯におよんで実習講義を行うことがあります。

(5) 実習費

「博物館実習」履修の本登録を許可された者（掲示にて確認）は、必ず所定の期間（4月上旬）に証明書自動発行機にて実習費として10,000円を納入した上、証明書自動発行機から出力される各種申込書「博物館実習費（国際文化学部・理工学部）」を速やかに理工学部教務課に提出してください。

なお、この証明書自動発行機にて博物館実習費を指定する際は、文学部の博物館実習費と間違わないように注意してください。

これらの手続きを終了することによって、「博物館実習」科目を「授業科目受講届」用紙に記入（履修登録）することができます。

ただし、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、実習費を一切返金しません。

(6) 実習申込時期

履修登録希望者は、博物館実習履修の前年度3月下旬の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」受講申込書を受け取り、所定の期間に申し込むこと。

(7) 実地研修『博物館実習』（博物館等での学外実習）の心構え

- ①学生の意識で実習を行うのではなく、一般社会人としての行動をとること。
- ②受入機関は勿論、入館者の方にも失礼のないように注意すること。
- ③時間厳守のこと。
- ④実習期間の服装は、入館者と直接接するるので、受入機関の指示に従うこと。
- ⑤各自、薄手の手袋を持参する方が望ましい。
- ⑥その他受入機関の指示に従うこと。

(8) その他

「博物館実習」の一端として宿泊を伴う博物館の見学などを行う場合もあります。博物館の見学などに必要な交通費・宿泊費・食事代等の実費（5万～10万円）は、自己負担しなければなりません。

3 本学部における博物館学芸員課程に関する科目

(1) 必修科目

【2007年度～2011年度入学の学部在学学生（情報メディア学科は2011年度入学生）】

	省令科目	理工学部開講科目	単位数	配当年次	開講学舎	開講曜講時
必修科目	視聴覚教育メディア論	視聴覚教育メディア論	1	2	瀬田	後（前）火5
	博物館情報論	博物館情報論	1	2	瀬田	後（後）火5
	博物館概論	博物館概論	2	2	深草	前 土3
	博物館経営論	博物館経営論	1	2	瀬田	前（前）火5
	教育学概論	教育学概論	1	2	深草	後（前）月5
	生涯学習概論	生涯学習概論	1	2	深草	後（後）月5
	博物館資料論	博物館資料論	2	2	深草	後 土3
	博物館実習	博物館実習	3	3	瀬田	通年 土4

【2012年度以降入学生（2012年度以降入学の編転入学生を含む）】

	省令科目	理工学部開講科目	単位数	配当年次	開講学舎	開講曜講時
必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	2	1	深草	前 土4
	博物館概論	博物館概論	2	1	深草	前 土3
	博物館経営論	博物館経営論	2	2	大宮 ミュージアム	（調整中）
	博物館資料論	博物館資料論	2	1	深草	後 土3
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2	瀬田	（調整中）
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2	大宮	（調整中）
	博物館展示論	博物館展示論	2	2	ミュージアム	（調整中）
	博物館教育論	博物館教育論	2	1	深草	前 水5
	博物館実習	博物館実習	3	3	瀬田	通年 土4

【参考】旧カリキュラムで修得した単位の2012年度以降入学生用科目への読み替え表

旧カリキュラム

新カリキュラム

	省令科目	理工学部開講科目	単位数	読み替え		省令科目	理工学部開講科目	単位数
必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	1	→	必修科目	生涯学習概論	生涯学習概論	2
	博物館概論	博物館概論	2	→		博物館概論	博物館概論	2
	博物館経営論	博物館経営論	1	→		博物館経営論	博物館経営論	2
	博物館資料論	博物館資料論	2	→		博物館資料論	博物館資料論	2
	博物館情報論	博物館情報論	1	→		博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2
	視聴覚教育メディア論	視聴覚教育メディア論	1	※1		博物館資料保存論	博物館資料保存論	2
						博物館展示論	博物館展示論	2
	教育学概論	教育学概論	1	不可		博物館教育論	博物館教育論	2
	博物館実習	博物館実習	3	→		博物館実習	博物館実習	3

※1「博物館情報論」と「視聴覚教育メディア論」の両方を修得した場合のみ「博物館情報・メディア論」に読み替え可能。

(2) 選択科目

		科目名	単位数	配当年次	備考
選択科目	文化史	歴史学入門	2	1	※理工学部学生が博物館学芸員課程の選択科目として、国際文化学部の固有科目を受講する場合は、事前登録が必要です。
		イスラーム世界の社会A	2	2	
		中央アジアの文化	2	2	
		アジアの仏教文化	2	2	
		ユーラシアの歴史と文化B	2	3	
		イスラーム世界の文化A	2	2	
	美術史	芸術表現法A	2	2	
		伝統文化論	2	2	
		アートマネジメント	2	2	
		アジアの芸術	2	1	
		アジアの言葉B	2	2	
		映像文化論B	2	2	
		イスラーム世界の文化B	2	2	
		アジアの言葉A	2	2	
	考古学	大衆文化論B	2	2	
		東アジアの文化と生活B	2	3	
		アジアの生活	2	2	

			科目名	単位数	配当年次	備 考
選択科目	国際文化学部	民族（俗）学	日本の民俗	2	2	※理工学部学生が博物館学芸員課程の選択科目として、国際文化学部の固有科目を受講する場合は、事前登録が必要です。
			情報文化論	2	3	
			伝統芸能論	2	2	
			フィールド実習D	2	2	
			音楽芸術論	2	2	
	理工学部	自然科学史	情報環境論	2	2	
			情報学概論	2	2	
			科学思想史	2	2	
			地球環境概論	2	1	
			地域環境概論	2	1	
		化学	化学概論Ⅰ	2	1	
			化学概論Ⅱ	2	1	
		生物学	生物学概論Ⅰ	2	1	
			生物学概論Ⅱ	2	1	
			生態学概論	2	1	
			進化学	2	1	
		地学	地学概論Ⅰ	2	1	
			地学概論Ⅱ	2	1	

※理工学部学生が博物館学芸員課程の選択科目として、国際文化学部の固有科目を受講した場合は、随意科目として単位を認定する。

理工学部博物館学芸員課程 博物館実習 内規

制定 2007年3月7日

- 「博物館実習」の受講について
 - 履修資格

次の項目をすべて満たしていること。

 - 「博物館実習」を履修するまでに「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」「視聴覚教育メディア論」「教育学概論」を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること。
 - 受講申込を行い、選考（小論文・面接など）に合格した者。

選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）および博物館学に関する面接試験などによって行う。
 - 科目の性格上、実習先へ所定の期間、出勤可能な者。
 - 年度始めに実習費を納入すること。
 - 履修対象年次

3年次以上
 - 実習定員

本学部における定員は原則として、10名以内とする。
 - 実施方法
 - 実地研修を中心に、「博物館実習」の事前・事後の指導を受ける。
 - 学外の博物館などの学外実習先にて学芸員の指導を受ける（夏期休暇中など）。
 - 実習費

履修登録を許可された者は、実習費として10,000円を所定の日までに納入しなければならない。

ただし、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、一切返金しない。
 - 実習申込時期

履修登録希望者は、前年度3月下旬の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」受講申込書を受け取り、所定の日に応じ込むこと。
- 前項第4号の①の「博物館実習」の事前指導を受けていない者は、学外実習を受けることはできない。
- 自分で実習先の交渉や手続きを行い、内定した者は必ず教学部（理工学部担当）に実習先などを届け出ること。

また、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県以外の博物館で実習を受ける学生は、自分で交渉や手続きをすること。その結果については、必ず教学部（理工学部担当）に届け出ること。

4. (1)科目等履修生については、原則として「博物館実習」は履修できない。

ただし、本学部卒業で、かつ現在関係業務就労上、博物館学芸員資格を必要とする者は履修できる。

(2)理工学研究科生は、前号に関係なく履修できるものとする。

5. この規程に関する事務は、教学部（理工学部担当）で行う。

付 則

この内規は、2007年4月1日から施行する。

④特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々たちを、養成することを目的としています。	矯正・保護総合センター窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験、家庭裁判所調査官補試験など）の合格を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し、良質な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	＜模擬試験＞ TOEIC®IP / TOEFL®-ITP	生協窓口
	＜資格試験＞ 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	＜目的・内容＞ 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 ＜就職対策系＞ 就職筆記試験対策講座／エントリーシートの書き方講座／マスコミ就職対策講座／R-CAP ＜試験対策＞ 公務員講座 ＜資格系＞ TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／通関士講座／2級FP技能士・AFP講座／宅地建物取引主任者講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2007）／ITパスポート講座／社会福祉士国家試験講座／ホームヘルパー2級講座／CAD利用技術者講座／色彩検定講座／秘書検定講座	キャリア開発部（深草・瀬田・大宮）窓口

※ 上記の講座以外にも、「RECコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。

本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧ください。

※ TOEIC®、TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

V 協定型インターンシッププログラム

① プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2012」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

(1) 対象学年

学部3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

(2) 単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	*****	*****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習」で読み替える。

(3) 応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

(4) シラバス

次ページ参照

(5) 定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

(6) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形式を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2012年度 体験型インターンシップ「協定型インターンシップ」授業計画(案)

	日程	予定学舎	講師	講義名	内容
第1講	6月23日(土) 1限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター 長上先生	オリエンテーション① 龍谷大学の歴史 (自校史学習)	・総合コーディネーター挨拶 ・担当教員からのコメント ・自校史を知り「龍大代表」としての 自覚を持つ
第2講	6月23日(土) 2限目	大宮学舎	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション② 大宮学舎見学	・インターンシップにどのような態度 で臨むべきか ・事前、事後学習の概要と諸注意 ・龍谷大学のルーツを探る
第3講	6月23日(土) 3限目	大宮学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	OB／OGによる パネルディスカッ ション	「私にとっての職業。職業を通じて考 える人生」
第4講	6月30日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップとは何かを語り合 おう
第5講	6月30日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク②	ゼミ形式によるグループワーク ・現代社会において「働く」とはどう いうことか
第6講	6月30日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク③	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップの目標設定
学生による実習先訪問と担当者インタビュー (7/1～7/13)					
第7講	7月7日(土) 1限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	ビジネスマナー ・心構え、第一印象、敬語の使い方、 マナー など
第8講	7月7日(土) 2限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー②	ビジネスマナー ・電話応対 (事前訪問時の電話応対)、 来客応対、名刺交換 など
第9講	7月7日(土) 3限目	瀬田学舎	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	特別講義	「職業とは何か」 ・「職」の専門家による仕事概論
第10講	7月14日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク④	実習先担当者インタビューや調査を基に ・インターンシップの目的と受入先概要 についてプレゼンテーションを行う ・各グループに分かれてディスカッ ション、資料作成 ・グループ毎に最終プレゼンテーション
第11講	7月14日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク⑤	
第12講	7月14日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グルー プワーク⑥	
学生による実習先直前訪問 (7/15～7/27)					
第13講	7月28日(土) 2限目	深草学舎	学長 担当教員 総合コーディネーター	学長による特別講義 「建学の精神と本 学の未来」 実習直前オリエン テーション	・龍大生代表として、他大学生とどう 違うのか考える。 ・インターンシップをめぐるリスクに はどのようなものがあるか。 ・インターンシップを行うにあたって の準備、諸注意 (実習中の態度、マ ナーなど)
インターンシップ実習(総合コーディネーター・担当教員による中間指導)					
第14講	9月29日(土) 1限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グルー プワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・学生1人ずつ実習内容を報告 ・グループごとに実習内容の振り返り
第15講	9月29日(土) 2限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グルー プワーク②	
第16講	9月29日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グルー プワーク③	
第17講	10月6日(土) 3限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グルー プワーク④	ゼミ形式によるグループワーク ・各グループ単位で実習成果をまとめ、 クラス内でプレゼンテーション ・最優秀プレゼンを選出する
第18講	10月6日(土) 4限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グルー プワーク⑤	
第19講	10月6日(土) 5限目	深草学舎	担当教員 総合コーディネーター	修了式・情報交換会	全体修了式 (修了証授与)、情報交換会 ・各クラスの最優秀グループが再度プレゼン。
	10月中旬		担当教員 総合コーディネーター	対外的な報告会	ポスターセッションとプレゼン (優秀事例) 情報交換会

※上記プログラムは、日程・内容等について変更になることがあります。

学 修 生 活

学
修
生
活

I 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。

1. 理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2. 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。(理工学部教務課窓口で受け取ってください。)

(1) 届書

事 項	添 付 書 類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書 (本籍地記入)
改 姓 名 届	住民票記載事項証明書

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(2) 願書

事 項	添 付 書 類	受 付 期 間
※休 学 願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復 学 願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退 学 願	理由書または診断書、 学生証	
追 試 験 受 験 願	理由書、追試験料納付書、 診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

(※印のものは、保証人の連署が必要。)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口にて提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な 日数等	証明書の種類	手数料 (2007.4.1変更)	備 考
即日交付	在学証明書	1通 100円	左記証明書は証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1通 200円	
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
	通学証明書（理工学部教務課窓口で受付） 学割証	無 料	
2日後交付	単位修得証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口 に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	英文証明書	1通 300円	
	学力に関する証明書	1通 200円	

(注1) 交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL <http://www.ryukoku.ac.jp>（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方へ」－「各種手続きについて知りたい」の「各種証明書発行について」－「郵送で申請の場合」からアクセスできます。

① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

◆証明書に関して ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ◆申請者に関して ・氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・現住所（郵便番号を含む） ・電話番号	◆同封が必要なもの ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）

② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に1人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……………理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……………学生部

3. 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8：45～21：45
		土	8：45～17：15
	紫英館1階各学部教務課窓口	月～金	8：45～17：15 (但し、火曜日は10:30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8：45～17：15
大宮	西饗（新館）1階ロビー	月～金	8：45～20：15
		土	8：45～17：15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9：00～17：30
	6号館社会学部教務課	月～金	9：00～17：30
	3号館国際文化学部教務課		
大阪・梅田 キャンパス	フロア	月～金	10：00～18：30 就職活動繁忙期は 10：00～19：00

⚠ 注意事項

- ・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。
- ・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4. 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ 授業休止の取り扱い基準

(交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い)

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従ってください。

1. 全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

- (a) 下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。
対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

① J R	(米原～西明石)
② 京都市営バス・京都市営地下鉄	(全区間)
③ 京阪電車	(出町柳～淀屋橋)
④ 阪急電車	(河原町～梅田、梅田～三宮)
⑤ 近鉄電車	(京都～橿原神宮前)

※ただし、**瀬田学舎**は J R (京都～米原) または帝産湖南交通 (J R 瀬田駅～龍谷大学) のいずれか 1 つの運行が中止された場合も休講とします。

- (b) 暴風警報が京都府南部 (京都・亀岡、南丹・京丹波、山城中部、山城南部)、大阪府 (北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内)、滋賀県南部 (近江南部、東近江、甲賀) のいずれかの市町村に出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2. 授業の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および 警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前 6 時まで	1 講時から平常どおり実施
午前 10 時まで	3 講時から平常どおり実施
午後 2 時まで	6 講時から平常どおり実施
午後 2 時以降	終日休講

3. その他の注意事項

- 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
- 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

■暴風警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準」第1項(b)で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。本学基準で規定している区域のいずれかに暴風警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町、宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。(大津市北部に暴風警報が発令されても全学休講とはなりません)

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	1 2	0	0 0 1
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における 個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。)。
なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。(学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格ありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。)

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要がある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

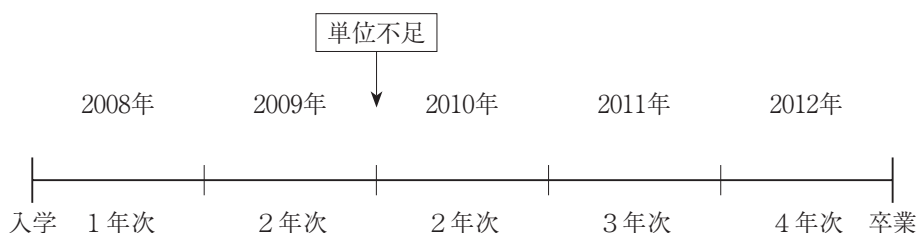
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。
この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。
学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2009年度を留年（留年異動日2010年4月1日）



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口にも速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

9. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口にご相談して下さい。

Ⅳ 留学

龍谷大学には、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

1. 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学生在籍料は必要※、留学先大学の学費免除が受けられます）。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（19カ国42大学・学部）」

地域	留 学 先		応募方法
アジア	中 国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、中国人民大学、大連外国語大学、大連外国語大学日本語学院（経営）	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は各募集大学によって異なります。
	台 湾	台湾師範大学、東海大学	
	韓 国	東国大学、東亜大学	
	タ イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、アンティオークカレッジ、南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、カリフォルニア大学デービス校（理工学研究科）、東テネシー州立大学、アイダホ大学、アリゾナ州立大学、ハワイ大学マノア校	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニク大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学、マードック大学、ディーキン大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	リバプール・ジョン・ムーアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学	
	フランス	リヨン第3大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスク大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
アフリカ	スロバキア	コメンスキー大学	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）の情報を確認してください。

2. BIE Program留学

BIE Program (Berkeley Intercultural English Program) は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center (アメリカ・バークレー) を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、Community Service Learning (ボランティア活動)、講義を組み合わせたプログラムで5-week (5週間) とsemester (半年間) の2つのプログラムが年間2本ずつ (合計4本) あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、semesterプログラムは学部最大18単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月下旬	4月下旬～5月中旬
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	10月中旬～10月下旬
Fall semester program	10月上旬～2月中旬	5月中旬～5月下旬
Spring semester program	3月下旬～7月上旬	11月中旬～11月下旬

3. 私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談してください。

4. 個人留学 (休学して留学する)

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間には算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間 (ないし半年間) 海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

5. 短期留学

カリキュラムやクラブ活動の関係で長期間、大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

龍谷大学では、これら長期休暇を利用した語学研修や異文化体験等のプログラムを設けています。(各プログラムの開講は年度によって異なります。)

詳細は国際部、所属学部教務課、教学部 (学部共通コース) に問い合わせてください。

V 通学について（自転車・バイク・自動車）

1. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。

しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

このような自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

2. バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上においてバイク・自転車の交通事故・接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行しているので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

交通ルールを逸脱した悪質な運転は、「道路交通法」に基づき厳重な処罰の対象となります。交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール・マナーの遵守を徹底し、安全運転を心がけてください。

3. バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク・自転車は、駐輪場に掲示の「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しません。確実な施錠はもちろんのこと、ふたつ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

4. マナーアップキャンペーンについて

学生生活におけるマナー向上促進のため、毎年定期的に「マナーアップキャンペーン」を実施しています。このような機会を積極的に利用して、バイク・自転車通学における交通マナーアップに努め、安全な学生生活を心がけることを望みます。

5. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

① 夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合	→ 理工学部
② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合	→ 理工学部
③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合	→ 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

シラバス

教養教育科目
(共同開講科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)
(総合科目)

学部内共通科目

学科固有科目
＜環境ソリューション工学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

博物館学芸員課程科目

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

基
礎
科
目
講
義
教
養
教
育
科
目

総
合
科
目
講
義
教
養
教
育
科
目

学
部
内
共
通
科
目

学
科
固
有
科
目

教
職
課
程
科
目

教
本
師
願
寺
派
課
程
科
目

学
博
芸
員
物
館
課
程
館

教養教育科目(共同開講科目)

(基礎科目)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ	カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
エ	英語ⅠA	クラス・開講曜講時による		95	チ	中国語ⅠB	張 健同	後期 月1	129
	英語ⅠB	クラス・開講曜講時による		95		中国語ⅠB	李 愛華	後期 水3	130
	英語ⅡA	クラス・開講曜講時による		96		中国語ⅠC	韓 正愛	前期 水3	130
	英語ⅡB	クラス・開講曜講時による		96		中国語ⅠC	張 健同	前期 水3	131
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による		97		中国語ⅠC	張 健同	前期 水4	131
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による		97		中国語ⅠD	韓 正愛	後期 水3	132
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月1	98		中国語ⅠD	張 健同	後期 水3	132
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月2	98		中国語ⅠD	張 健同	後期 水4	133
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水1	99		中国語セミナーA	李 愛華	前期 水1	133
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水2	99		中国語セミナーB	李 愛華	後期 水1	134
エ	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月1	100	テ	哲学入門	鷺見 淳之	前期 月3	134
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月2	100		哲学入門	渡邊 華月	前期 水3	135
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水1	101		哲学入門	鷺見 淳之	後期 月3	135
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水2	101		哲学入門	渡邊 華月	後期 水3	136
	英語セミナーB1	五十嵐 海理	前期 金2	102	ト	ドイツ語ⅠA	呉 春吉	前期 月3	136
	英語セミナーB2	五十嵐 海理	後期 金2	103		ドイツ語ⅠA	松口 春美	前期 水4	137
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水2	104		ドイツ語ⅠB	呉 春吉	後期 月3	137
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水3	104		ドイツ語ⅠB	松口 春美	後期 水4	138
	英語セミナーC1	イエニク・S・C	前期 金2	105		ドイツ語ⅠC	松口 春美	前期 水3	138
	英語セミナーC2	イエニク・S・C	後期 水2	105		ドイツ語ⅠC	永井 達夫	前期 水4	139
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水2	106		ドイツ語ⅠD	松口 春美	後期 水3	139
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水3	106		ドイツ語ⅠD	永井 達夫	後期 水4	140
	英語セミナーC2	ワード ジョン	後期 水3	107		ドイツ語セミナーA	永井 達夫	前期 水3	140
	英語セミナーD1	大槻 志郎	前期 水2	108		ドイツ語セミナーB	青山 豊	後期 水4	141
キ	英語セミナーD2	大槻 志郎	後期 水2	109	ニ	統計入門	李 复屏	前期 月1	141
	英語セミナーE1	西山 けい子	前期 水2	110		統計入門	長命 洋佑	後期 金5	142
	英語セミナーE2	西山 けい子	後期 水2	110		日本国憲法	時本 義昭	前期 水3	142
	教育原論A	藤井 奈津子	前期 月1	111		日本国憲法	時本 義昭	後期 月1	143
ケ	教育原論A	田中 圭治郎	前期 月2	111	ハ	日本国憲法	時本 義昭	後期 月3	143
	教育原論B	大野 僚	後期 月1	112		日本国憲法	時本 義昭	後期 水3	144
	教育原論B	田中 圭治郎	後期 月2	112		発達と教育A	松島 恵介	前期 水1	144
	経済学入門	藤田 梨樺	前期 水4	113		発達と教育A	松島 恵介	前期 水2	145
	経済学入門	長命 洋佑	前期 金5	113	フ	発達と教育B	松島 恵介	後期 水1	145
	経済学入門	李 复屏	後期 月1	114		発達と教育B	松島 恵介	後期 水2	146
	経済学入門	李 复屏	後期 月3	114		フランス語ⅠA	瓜生 濃世	前期 水3	146
	言語学入門	泉 文明	前期 月2	115		フランス語ⅠB	瓜生 濃世	後期 水3	147
	言語学入門	二葉 晃文	前期 水3	115		フランス語ⅠC	森部 卓	前期 月2	147
コ	コリア語ⅠA	孫 才喜	前期 水3	116		フランス語ⅠC	嶋崎 陽一	前期 月3	148
	コリア語ⅠB	孫 才喜	後期 水3	116		フランス語ⅠC	森部 卓	前期 水3	148
	コリア語ⅠC	朴 炫国	前期 水3	117		フランス語ⅠD	森部 卓	後期 月2	149
	コリア語ⅠD	朴 炫国	後期 水3	117		フランス語ⅠD	嶋崎 陽一	後期 月3	149
	コリア語セミナーA	金 里博	前期 水3	118		フランス語ⅠD	森部 卓	後期 水3	150
	コリア語セミナーB	金 里博	後期 水3	118		フランス語セミナーA	嶋崎 陽一	前期 水4	150
シ	社会学入門	渡辺 めぐみ	前期 水3	119		フランス語セミナーB	嶋崎 陽一	後期 水4	151
	社会学入門	渡辺 めぐみ	後期 水3	119		仏教の思想A	若原 雄昭	前期 水1	155
	社会思想史入門	村澤 真保呂	前期 水2	120		仏教の思想A	蓮池 利隆	前期 水1	155
	社会思想史入門	村澤 真保呂	後期 水2	120		仏教の思想A	井上 博文	前期 水1	156
	心理学入門	松島 恵介	前期 月1	121		仏教の思想B	若原 雄昭	後期 水1	158
	心理学入門	松島 恵介	後期 月1	121		仏教の思想B	蓮池 利隆	後期 水1	158
	心理学入門	関口 茂久	後期 月3	122		仏教の思想B	井上 博文	後期 水1	159
ス	スポーツ技術学A	種目・開講曜講時による	学科により異なる	122	ホ	文学入門	大槻 志郎	前期 水3	160
	スポーツ技術学B	種目・開講曜講時による	学科により異なる	123		文学入門	嶋崎 陽一	前期 水3	160
セ	生活の中の化学	中沖 隆彦/糟野 潤	後期 水3	123		文学入門	嶋崎 陽一	後期 水3	161
	生活の中の数学	松本和一郎/山岸 義和	前期 水3	124		文学入門	坂本 輝世	後期 水4	161
	生活の中の統計技術	樋口 三郎	後期 水3	124	リ	法学入門	時本 義昭	前期 月1	162
	生活の中の物理	石崎 俊雄	後期 月2	125		法学入門	時本 義昭	前期 月3	162
	政治学入門	山崎 充彦	前期 水3	126		倫理学入門	菊地 建至	前期 水3	163
	政治学入門	山崎 充彦	後期 水3	127		倫理学入門	菊地 建至	後期 水5	164
	生命と科学	宮武 智弘	前期 金1	128	レ	歴史入門	西村 昌洋	前期 水3	165
	中国語ⅠA	張 健同	前期 月1	128		歴史入門	佐野 東生	後期 金2	165
チ	中国語ⅠA	李 愛華	前期 水3	129	ロ	論理学入門	中谷 隆雄	前期 月3	166
						論理学入門	中谷 隆雄	後期 月3	166

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

英語Ⅲ

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文など）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

英語Ⅳ

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文など）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、授業によっては、CALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。
学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み
入れる。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】 宇野 誠一
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水1

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水2

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水1

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水2

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%)
小テスト (25%)
その他 (25%) Homework.

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』

■参考文献

『The Institute for Business Communication (IIBC)』

■履修上の注意・担当者からの一言

Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.

■講義計画

- ①Introduction to the TOEIC test
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Looking at aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound - alike words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Recognizing - Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

■サブタイトル

時事英語

■講義概要

時事英語とは、マスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では、英米の新聞やテレビでふつうに流れる英語に慣れていきます。

マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。

日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標

時事英語に慣れることを目標とします。とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法

ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。

(1) 本文のリスニング (2) 本文の精読 (ときに速読も) (3) 本文のまとめ (4) テストなど (5) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示

進度にそって精読してきてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 授業中の受け答えです。

小テスト（20%）語彙力を問う小テストを行いたいと思います。

定期試験（40%）学期末試験を行います。

成績評価の方法については変更することがあります。

■テキスト

Kita, R. and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社 2000円

このほかにも、適宜、話題のニュースを記事や放送の形で見ることにします。

参考文献

『The Daily Yomiuri』

『The Japan Times』

日本で発行されている英字新聞を利用しない手はありません。とくに、The Daily Yomiuriは、読売新聞と社説を共有していますから、日本語と英語で対照しながら読めます。そのほか、教室で指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予習をしてきてください。予習ができないときは、せめて復習してください。また、講義計画は変更される場合があります。

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中にお知らせします。

■講義計画

①時事英語の特徴について確認しながら、精読していきます。

②環境についての記事1

③同上。

④同上

⑤環境

⑥同上

⑦同上

⑧社会における価値観についての記事1

⑨同上

⑩同上

⑪社会

⑪ 社会における価値観についての記事と
⑫ 同上

⑬同上

⑬同上

⑭社会

①④杜云
①⑤同上

⑬同上

⑭前期

⑯前期未試験

英語セミナーC 1

【担当】 イエニク・S・C

【開講】 前期 金2

■サブタイトル

Active English

■講義概要

The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.

■到達目標

Relative to students abilities

■講義方法

Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点 (100%) Homework. Class Performance.

■テキスト

特になし

■参考文献

Any good dictionary.

■履修上の注意・担当者からの一言

Do not miss the first class.

■講義計画

①Introduction and Video Exercise

②Creative Stimulus Exercise

③Creative Stimulus and Narrative Writing

④Convert Narrative to Dialogue

⑤ - ⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーC 2

【担当】 イエニク・S・C

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

English Communication

■講義概要

To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language. Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits. A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing. A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.

■到達目標

Relative to students' abilities.

■講義方法

.Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.

■系統的履修

.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点 (100%) Class participation.

■テキスト

辞書持参

■参考文献

特になし

■講義計画

①.Video

②.Narrative

③.Dialogue

④.Video

⑤.Narrative

⑥.Dialogue

⑦.Video

⑧.Narrative

⑨.Dialogue

⑩.Video

⑪.Narrative

⑫.Dialogue

⑬.Video

⑭.Narrative

⑮.Dialogue

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水2

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10 ・ 参加45 (1回につき3点 x 15回) ・ 宿題30 (1回につき10点x3回) ・ テスト15 合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Introducing the World (1) Natural Environment
世界の紹介 (1) 自然環境
- ③Introducing the World (2) Human Environment Assign HW 1
世界の紹介 (2) 人間環境
- ④How Others Live ? Imagining other lives
人間の生き方 世界の人々の生活を想像する
- ⑤Relationships on the International Stage Hand in HW 1
国際的な人間関係
- ⑥Men and Women
世界における男性と女性
- ⑦Social Rules vs Universal Laws
社会のルールと人間のルール
- ⑧Being Part of Society ? Experiences of a Gaijin Assign HW 2
社会の一員 「外人」の経験
- ⑨Human Rights and Human Responsibilities
人権と人間の責任
- ⑩Exploitation Hand in HW 2
私は他の人間や動物を使用してもいい?
- ⑪Money & Economics
世界的に考えるお金
- ⑫Individual "evil" ? crime & punishment
個人的な「悪」 犯罪
- ⑬Mass "evil" ? war & oppression Assign HW 3
国際的な「悪」 戦争
- ⑭Being a Positive Force in the World
私は世界でどうやってPositiveな影響を与えればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水3

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10 ・ 参加45 (1回につき3点 x 15回) ・ 宿題30 (1回につき10点x3回) ・ テスト15 合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Introducing the World (1) Natural Environment
世界の紹介 (1) 自然環境
- ③Introducing the World (2) Human Environment Assign HW 1
世界の紹介 (2) 人間環境
- ④How Others Live ? Imagining other lives
人間の生き方 世界の人々の生活を想像する
- ⑤Relationships on the International Stage Hand in HW 1
国際的な人間関係
- ⑥Men and Women
世界における男性と女性
- ⑦Social Rules vs Universal Laws
社会のルールと人間のルール
- ⑧Being Part of Society ? Experiences of a Gaijin Assign HW 2
社会の一員 「外人」の経験
- ⑨Human Rights and Human Responsibilities
人権と人間の責任
- ⑩Exploitation Hand in HW 2
私は他の人間や動物を使用してもいい?
- ⑪Money & Economics
世界的に考えるお金
- ⑫Individual "evil" ? crime & punishment
個人的な「悪」 犯罪
- ⑬Mass "evil" ? war & oppression Assign HW 3
国際的な「悪」 戦争
- ⑭Being a Positive Force in the World
私は世界でどうやってPositiveな影響を与えればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

■サブタイトル

Language Acquisition Through Interaction

■講義概要

The Objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners speaking and listening skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experiences and knowledge. We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student-generated communication. We will review after every three units to recycle and consolidate the language and structures previously presented.

■到達目標

After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法

Students will be divided into pairs or groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students are required to download the Self-study audio at > www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.

■成績評価の方法

平常点 (50%)

小テスト (25%)

その他 (25%) Homework

■テキスト

Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book Two』 Longman 2180円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Learning is an ongoing and cyclical process in that what is taught one day may well not be remembered, known, or understood the next. It is therefore very important students attend regularly, because to learn a language is to use it frequently.

■講義計画

- ①Asking for information: Just asking
- ②Describing things: It' s black and white
- ③Making requests: Would you mind?
- ④Giving instructions: Turn it clockwise
- ⑤Review and consolidation: Say that again
- ⑥Asking for Permission: Go right ahead
- ⑦Excuses, Excuses: Making excuses and giving reasons
- ⑧Giving opinions: I couldn' t agree more
- ⑨Comparing things: Bigger and better
- ⑩Review and consolidation: Say that again
- ⑪Giving advice and making suggestions: If I were you
- ⑫Talking about experiences: Have you ever
- ⑬Inviting: How about dinner?
- ⑭Making predictions: It' s going to rain
- ⑮Review and consolidation: Say that again

英語セミナーD1

【担当】大槻 志郎

【開講】前期 水2

■サブタイトル

Harry Potter and Friends, Fantastic Fiction English

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。具体的には、具体的に読むものは2本立て。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画+短編映画1本の2本立てというやり方がある。メインディッシュ+前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとしてお馴染みHarry Potter第1巻の原書をシリーズで毎回少しずつ英語で読み、一方、それとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはいより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、retold版(より易しい英語で書き直したもの)なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。「実用」を超えた英語の味わいを体験すること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

事前に2本立て分2種類のハンドアウトを配布。合わせても4ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないの、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説+情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナー D2

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点(40%) 小テスト、課題(予習)の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど
定期試験(60%)

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

Harry Potter and the Philosopher's Stone (UK版)、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。なおHarry Potterについては、自分で本を買ってもいいし(2012年1月現在、800円余りで買える)、あらかじめ持っている本があればそれを活用してもよい。Harry Potter and the Sorcerer's Stone (US版)でもさほど影響ない。

■参考文献

まだ第1巻とはいえ、Harry Potterの英語はなかなか難しい。多分予想以上だろう。図書館も含めて翻訳は簡単に読めるだろうから参考にするのは構わない。

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メイン作品については、授業では要所要所しか読めないが、この機会に1冊丸ごと読破してほしい。原書の購入法は授業中に紹介、相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①introduction
- ②Harry Potter 1 (1) + 昔話
- ③Harry Potter 1 (2) + 不気味な話
- ④Harry Potter 1 (3) + 皮肉な話
- ⑤Harry Potter 1 (4) + あつと驚く話
- ⑥Harry Potter 1 (5) + ときどきする話
- ⑦Harry Potter 1 (6) + ほのぼのする話
- ⑧Harry Potter 1 (7) + ショートショート
- ⑨Harry Potter 1 (8) + ほろりとする話
- ⑩Harry Potter 1 (9) + 不思議な話
- ⑪Harry Potter 1 (10) + 古典の名場面
- ⑫Harry Potter 1 (11) + 怖い話
- ⑬Harry Potter 1 (12) + 犯罪の話
- ⑭Harry Potter 1 (13) + にやりとする話
- ⑮Harry Potter 1 (14) + おかしい話
- ⑯*+の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

英語セミナー E 1

【担当】 西山 けい子
【開講】 前期 水2

■サブタイトル

映画を使って英語に親しむ

■講義概要

アメリカン・ニューシネマの代表作のひとつThe Graduate (1967、監督マイク・ニコルズ、邦題『卒業』)を取り上げる。大学を優秀な成績で卒業したものの、将来の明確な展望をもてずに不安な日々を過ごす青年ベンジャミン(ダスティン・ホフマン)は、両親の友人ミセス・ロビンソン(アン・バンクロフト)に誘惑され関係を重ねるようになる。しかし、彼女の娘のエレインに惹かれたことから物語は急展開を遂げる。サイモン&ガーファンクルによるサウンドトラックでも有名なこの作品を、DVDの英語字幕を見ながら半期かけてひととおり学び、あわせて関連資料を読む。1960年代のアメリカ社会について、映像や文献を紹介する。

■到達目標

映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法

DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。作品の解説や批評などの関連資料を読む。また、多くの映画に興味をもってもらえるように、課題では、過去のいろいろな作品の名場面に触れられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回授業でとりあげる分のスクリプトを読んでくる。

■成績評価の方法

平常点(60%) 授業への取り組みや、担当箇所の発表など
レポート(40%) 課題は教室で指示する

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

Mark Harris 『Pictures at a Revolution: Five Movies and the Birth of the New Hollywood』 Penguin 1242円
テッド・デミ 『アメリカン・ニューシネマ-反逆と再生のハリウッド史 [DVD]』 ナウオンメディア 3990円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜12:35-13:35または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画

- ①イントロダクション 映画The Graduateの前半を鑑賞する
- ②映画The Graduateの後半を鑑賞する 課題の説明をする
- ③卒業記念パーティ
- ④ミセス・ロビンソンの誘惑
- ⑤ベンの誕生日
- ⑥年上の女
- ⑦ホテルの部屋で
- ⑧両親の心配
- ⑨エレインとのデート
- ⑩ミセス・ロビンソンの警告
- ⑪エレインの衝撃
- ⑫エレインを追って
- ⑬エレインの気持ち
- ⑭花嫁の略奪
- ⑮60年代アメリカ

英語セミナー E 2

【担当】 西山 けい子
【開講】 後期 水2

■サブタイトル

映画を使って英語に親しむ

■講義概要

サスペンス映画の傑作、ヒッチコック監督のPsycho(『サイコ』、1960)を取り上げる。アメリカ映画史上もっとも有名なシャワーシーンを含め、この映画の全編を英語字幕つきで詳しく見ながら、半期かけてひととおり作品を学ぶ。あわせて作品の解説や分析などの関連資料を読む。

■到達目標

映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法

DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。作品の解説や分析などの関連資料を読む。また、いろいろな映画に興味をもってもらえるように、課題を通じて、過去のいろいろな作品の名場面に触れる機会をつくる。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業で扱う部分のスクリプトを読んでくる。

■成績評価の方法

平常点(60%) 授業への取り組みや、担当箇所の発表など
レポート(40%) 課題は教室で指示する

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

Stephen Rebello 『Alfred Hitchcock and the Making of

Psycho』 Mrion Boyars 1890円
Raymond Durnat 『A Long Look at 'Psycho'』 BFI 2684円
トリュフォー／ヒッチコック 『定本・映画術 ヒッチコック・トリュフォー(改訂版)』 晶文社 4200円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜昼休みに受け付けます。または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画

- ①イントロダクション 映画Psychoの前半を鑑賞する
- ②映画Psychoの後半を鑑賞する
- ③昼下がりの逢引き
- ④4,000ドルの着服
- ⑤マリオンの失踪
- ⑥ベイツ・モーテル
- ⑦ノーマンとの夕食
- ⑧シャワー
- ⑨沼と影
- ⑩マリオンの足取りを追って
- ⑪私立探偵の死
- ⑫ベイツ・モーテル1号室
- ⑬ミセス・ベイツ
- ⑭もうひとりのノーマン
- ⑮まとめ

教育原論A

【担当】 藤井 奈津子

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

子ども期の再発見

■講義概要

かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。

■到達目標

近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。

■講義方法

板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修

できれば教育原論Bも受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

レポート（40%）小レポート4回

定期試験（60%）期末試験

■テキスト

テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献

Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の
子供と家庭生活』 みすず書房 5200円

森田伸子 『テキストの子ども—ディスカール・レシ・イマー
ジュ』 世織書房 2600円

本田和子 『映像の子どもたち—ビデオという覗き窓』 人文
書院 1900円

■講義計画

①オリエンテーション

②子ども期の発見

③子どもの時間（1）—ロマン主義的子ども観

④子どもの時間（2）—〔映画視聴〕

⑤子どもの時間（3）—映画解説—子どものリアリティ

⑥子どもと秘密（1）—子どもの秘密と大人の秘密

⑦子どもと秘密（2）—〔映画視聴〕

⑧子どもと秘密（3）—映画解説—禁止への侵犯

⑨子どものイニシエーション（1）—イニシエーションとは何か

⑩子どものイニシエーション（2）—〔映画視聴〕

⑪子どものイニシエーション（3）—映画解説—子どもから大人へ

⑫大人の生における子ども期の意味（1）—子ども期とは何か

⑬大人の生における子ども期の意味（2）—J.S.ミルの事例から

⑭大人の生における子ども期の意味（3）—里山学校の実践

⑮まとめ

教育原論A

【担当】 田中 圭治郎

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

公教育の諸問題

■講義概要

教育とは何かを、教育哲学、教育史、思想、教授学、教育制度等のさまざまな角度から考察する。そのため、プラトン、コメニウス、ルソー、パスタロッチ、フレーベル、デューイ等の人物の思想を説明し、教育の基礎知識を習得してもらう。

■到達目標

公教育の成立により、教育の大衆化がいかに可能になったか。一人ひとりの可能性を生かすのはどうすればよいかを理解してもらう。

■講義方法

授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜、ビデオ、プリントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを授業開始以前に読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）主として出席を評価基準とする

小テスト（30%）

定期試験（40%）

■テキスト

田中潤一・田中達也 『未来を拓く教育—軌跡と展望—』 ナ
カニシヤ出版 2600円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語をなくすこと。出席を重視する。

■講義計画

①教育学入門（1） 国際理解教育、異文化理解教育

② 〃 （2） 多文化教育

③教育の本質

④教育の思想Ⅰ

⑤教育の思想Ⅱ

⑥教育の思想Ⅲ

⑦教育方法（1）

⑧教育方法（2）

⑨カリキュラム・教育課程論（1）

⑩カリキュラム・教育課程論（2）

⑪学校制度論（1）

⑫学校制度論（2）

⑬進路指導・キャリア教育（1）

⑭進路指導・キャリア教育（2）

⑮まとめ

教育原論B

【担当】大野 僚

【開講】後期 月1

■サブタイトル

教育の再考

■講義概要

これまで教育を受けてきた人が、人に教える立場になったとき、どのような教育観が必要となってくるのか。少なくとも、自分が受けてきた「教育」が、教育のすべてであると思うのはあまりに偏った見方である。この講義では、体験や経験だけで教育を考えるのではなく、教育を対象化できる思考方法を身につけることを目的として、教育に関する歴史や制度を紹介していく。

■到達目標

各自が抱く自明の「教育観」を、教育学の基礎的な思考方法によって再検討できるようにする。

■講義方法

講義形式を基本とするが、視聴覚教材等を用いる場合もある。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容を整理し、日ごろから考えることを重点においた理解をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (10%) ミニツッパーパー

定期試験 (50%) 学期末の筆記試験

その他 (40%) 小レポート

講義時間内に小レポート (複数回) を課す場合があるので、注意すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

①「教育」のイメージ

②教育に関する最近の動向 (1) 現在までの推移

③教育に関する最近の動向 (2) 教育改革の方向性

④教育に関する最近の動向 (3) 学力論にみる教育のあり方

⑤教育学の思考方法としてのモデル論

⑥教育モデル論の類型

⑦近代教育学の特質

⑧子どもの発達観

⑨近代学校教育の成立

⑩日本の戦後教育の理念

⑪戦後「新教育」の特徴

⑫学習指導要領の変遷

⑬戦後教育のパラダイムシフト

⑭教育基本法の改正と教員養成制度

⑮まとめ

教育原論B

【担当】田中 圭治郎

【開講】後期 月2

■サブタイトル

教育の思想と実態

■講義概要

現在、われわれが直面している学校現場での諸課題についてどのように対処していったらよいのかについて考えたい。小学校・中学校・高校の教育現場に焦点を当ててみる。価値観の多様化にともなって、教師がどのように一人ひとりの子どもを見つめ、その可能性を伸ばすことができるのかについて述べる。

■到達目標

この授業では、人間としてどのように生きるべきかという視点から教育を考え、一人ひとりを生かす教育について考えてみる。

■講義方法

授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜ビデオ、プリントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを授業開始までに読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 主として出席を評価基準とする

小テスト (30%)

定期試験 (40%)

■テキスト

田中圭治郎著 『多文化教育の世界的潮流』 ナカニシヤ出版 2356円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語をなくすこと。出席を重視する。

■講義計画

①教育学入門 (1) 人間と教育

② “ ” (2) 教育の今日的課題

③教育の意義と目的 (1) 素質と環境

④ “ ” (2) 学校教育の諸問題

⑤ “ ” (3) 家庭教育・社会教育の諸問題

⑥ “ ” (4) バンクス等の多文化教育の思想

⑦公教育の理念と成立 (1) ソクラテス、ルター、ルソー、コンドルセ

⑧ “ ” (2) ベスタロッチー、フレーベル、ヘルバルト

⑨ “ ” (3) モンテッソーリ、デューイ

⑩ “ ” (4) フリースクール等の学校、改革

⑪世界の教育 (1)

⑫ “ ” (2)

⑬ “ ” (3)

⑭ “ ” (4)

⑮まとめ

経済学入門

【担当】 藤田 梨樟

【開講】 前期 水4

■サブタイトル

現代経済学

■講義概要

私たちの日々の生活は経済の動きに左右されている。それゆえ経済学は諸君が現代社会を生き抜いていく上で身につけておくべき教養の1つであるといえる。本講義では、経済問題の本質を理解するのに必要となる経済学の基本的な専門知識の習得だけでなく、具体的な事例を取り上げ経済学の基本的な考え方の習得を目指す。教科書の流れに沿い、資料や映像などで補足し、分かりやすく説明する。

■到達目標

経済学の基本的な考え方を習得し、それを踏まえて現実の経済現象が理解でき、かつ洞察する眼を養う。

■講義方法

資料や映像を用いて解説する。時々小テストや課題提出を行い、講義内容の理解の程度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストをじっくり読み込むこと

■成績評価の方法

平常点（50％）小テスト、課題提出による授業参加
定期試験（50％）中間試験

■テキスト

岩田規久男 『経済学への招待』 新世社 1800円

■参考文献

伊藤元重 『入門経済学（第3版）』 日本評論社 3150円

■講義計画

- ①経済学とは
- ②経済学の考え方
- ③ミクロ経済学入門
- ④市場と資源配分
- ⑤需要と供給①－価格決定メカニズム－
- ⑥需要と供給②－資源配分と所得分配の決定－
- ⑦政府の役割①－資源配分と政府－
- ⑧政府の役割②－所得再分配と政府－
- ⑨中間試験
- ⑩マクロ経済学入門
- ⑪国内総生産の決定
- ⑫国内総生産の変動
- ⑬インフレとデフレの解明
- ⑭マクロ経済の安定化政策－財政金融政策－
- ⑮マクロ経済学の視点で日本経済を見る①－日本の経済成長の要因－

経済学入門

【担当】 長命 洋佑

【開講】 前期 金5

■サブタイトル

われわれは予想どおりに不合理な行動をとる

■講義概要

われわれは日常生活の中で、なぜ、歩いていけるところに車やタクシー、電車でいくのだろうか？なぜ、大学構内の自動販売機で飲み物を買うのだろうか？なぜ、バイトをするのだろうか？なぜ、日々、野菜の価格が変動するのだろうか？なぜ、人気の飲食店には行列ができるのだろうか？なぜ、大学に行くのだろうか？と、日常生活の何気ない場面に対し、意識的に「なぜ？」と考えると「・・・なんでやる？」と思うようなことが多々あるのではないのでしょうか？日常生活（経済行動）の裏側には、人間の心理が見え隠れしています。そうした部分を少し覗いてみませんか？本講義では、そうした「なぜ？」に対し、経済学の視点からわかりやすく説明することを心がけます（初めて経済学に触れる学生大歓迎です）。

■到達目標

日常生活の中で経済学の考え方が活かせるようになる

■講義方法

講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、自分の行動を見直す。

■成績評価の方法

平常点（40％）
定期試験（60％）

■テキスト

受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。ただし、配布当日に欠席した人は

自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

「経済学」はお金のことばかり扱う学問と思われがちですが、実際は、日常生活に非常に密接した学問です。経済学を学ぶことによってちょっと違った日常生活が送れるかもしれません。なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願い申し上げます。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②経済学の領域
- ③お金のお話①：ほんとうに価値のあるものとは？
- ④お金のお話②：一体、何に満足するのか？
- ⑤お金のお話③：なぜ、こんな行動をとってしまったのか？
- ⑥お金のお話④：自分でもわからない1000円と1000円の価値
- ⑦これまでの復習
- ⑧海外との関わり①：世界のなかの小さな国、日本
- ⑨海外との関わり②：日本で何をすればよいのか？
- ⑩海外との関わり③：一人勝ちはできない！
- ⑪消費者の行動①：人は何を求め生きているのか？
- ⑫消費者の行動②：日常生活は危険に満ちた暮らしの方が好ましい！？
- ⑬消費者の行動③：人の行動はなぜ予想どおりに不合理なのか？
- ⑭消費者の行動④：右向け左！！当たり前を疑おう。
- ⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようにだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の場合費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようにだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の場合費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

言語学入門

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

日本語学と対照言語学

■講義概要

世界にはどれくらいの言語があるのでしょうか。また、言語はどのようにグループ分けできるのでしょうか。そして、その中で日本語はどのように位置づけられているのでしょうか。諸外国語を知ることで、日本語のカタチが分かってくるでしょうし、日本語がしっかり分かっているなければ諸外国語の姿・生態もつかめません。認知言語学や計量言語学の紹介も行います。

■到達目標

国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。

■講義方法

基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストと講義計画を見れば、予習のポイントが分かるので、それを参考にして予習すること。

■成績評価の方法

平常点 (10%)

小テスト (20%)

定期試験 (70%)

定期試験が大きな割合を占めるが出席も重視するし、毎回の予習は念入りにして臨むこと。

■テキスト

玉村文郎編 『新しい日本語研究を学ぶ人のために』 世界思想社 2300円

■参考文献

玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 1893円

■講義計画

- ①言語学とは何か
- ②言語研究の歴史
- ③世界の言語 (1)
- ④世界の言語 (2)
- ⑤世界の言語 (3)
- ⑥世界の言語 (4)
- ⑦小テスト
- ⑧小テストの解説
- ⑨日本語の姿 (1)
- ⑩日本語の姿 (2)
- ⑪表現 (1)
- ⑫表現 (2)
- ⑬表現 (3)
- ⑭その他の言語研究
- ⑮まとめ

言語学入門

【担当】 二葉 晃文

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

社会・文化・人をつなぐ言語学

■講義概要

本講義は主に日本語と英語のことばの接触、選択、民族、国家について考察していく。

■到達目標

提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付ける。

■講義方法

基本的には講義方法をとるが、場合によっては演習方法をとることもある。

■系統的履修

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜、課題を指示するので、それに基づいて予習・復習をすること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

火曜日、木曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。

■講義計画

- ①ことばへのアプローチ
- ②ことばのはなし1
- ③ことばのはなし2

- ④ことばと人と文化1
- ⑤ことばと人と文化2
- ⑥ことばとコミュニケーション1
- ⑦ことばとコミュニケーション2
- ⑧ことばの接触・選択1
- ⑨ことばの接触・選択2
- ⑩ことばと民族・国家1
- ⑪ことばと民族・国家2
- ⑫ことばとパワー1
- ⑬ことばとパワー2
- ⑭DVD鑑賞
- ⑮まとめ

コリア語ⅠA

【担当】孫 才喜

【開講】前期 水3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語の文字（ハングル）を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようになる.

■講義方法

教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業中質問と対答、読み、暗記
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト

入佐信宏・文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返しCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと。

■講義計画

- ①言語の意味や歴史と文化との関係
- ②韓国語の起源とハングルの創制—母音と子音
- ③母音、子音+母音の単語
- ④子音+母音+子音の単語
- ⑤あいさつ、自己紹介
- ⑥日本語カナのハングル表記 発音規則—連音化
- ⑦主格助詞、イだ（이다）動詞
- ⑧肯定文（表現）と疑問文（表現）
- ⑨国籍の表現 発音規則—鼻音化
- ⑩疑問詞の活用と答え
- ⑪親戚の呼び方
- ⑫存在の表現と答え
- ⑬動詞の原型と活用
- ⑭数字の表現—基数、序数
- ⑮数字の表現の暗記

コリア語ⅠB

【担当】孫 才喜

【開講】後期 水3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようになる.

■講義方法

1. 教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業中質問と対答、読み
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト

入佐信宏・文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』 白帝社 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返しCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと。

■講義計画

- ①日常生活・習慣に関する表現-1 動詞の不定形—質問、対答
- ②日常生活・習慣に関する表現-2 動詞の不定形—質問、対答
- ③物の状態に関する表現-1 —形容詞の原型、変形
- ④物の状態に関する表現-2 —形容詞の原型、変形
- ⑤趣味の表現、種類
- ⑥数字の表現、読み方—日、月、時間、番号
- ⑦毎日生活に関する表現—日、月、時間、番号、曜日
- ⑧過去表現
- ⑨未来表現
- ⑩買い物の表現—単位、数え方、お金-1
- ⑪買い物の表現—単位、数え方、お金-2
- ⑫韓国の歌
- ⑬韓国の映画
- ⑭韓国のドラマ
- ⑮韓国語と文化の係わり

コリア語 I C

【担当】朴 炫国

【開講】前期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記.

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中質問と対答, 読み, 暗記.
小テスト (30%) 宿題, 授業態度, 聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp, 研究室4号館331, 077.543-7881, (月曜日以外の昼ご飯の時間, 会議の可能性あり, 前以て電話必要)

■講義計画

- ①人間と言語, 言語と文化
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音
- ④母音の単語 - 音, 書き方, 読み方
- ⑤子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-1
- ⑥子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-2
- ⑦子音の交替 平音, 硬音, 濃音 パチム (終声)
- ⑧あいさつ 発音練習-連音化
- ⑨自己生活 発音練習-鼻音化1
- ⑩勉強 発音練習-硬音化
- ⑪家族 発音練習-鼻音化2
- ⑫図書館 発音練習-濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習-7終声
- ⑭友達 発音練習-濃音化2
- ⑮買い物 発音練習-激音化

コリア語 I D

【担当】朴 炫国

【開講】後期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する.
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語 (ハングル) を正確に発音するようにする.
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う.

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする.
2. 韓国語で自己の紹介ができて, 相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする.
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする.

■講義方法

教科書の内容を読んで, 意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する.

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記.

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中質問と対答, 読み, 暗記.
小テスト (30%) 宿題, 授業態度, 聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です. 毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください.
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信を持つこと.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp, 研究室4号館331, 077.543-7881, (月曜日以外の昼ご飯の時間, 会議の可能性あり, 前以て電話必要).

■講義計画

- ①人間と言語, 言語と文化
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音 韓国の歌
- ④母音の単語 - 音, 書き方, 読み方
- ⑤子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-1 韓国のドラマ
- ⑥子音の単語 - 音, 書き方, 読み方-2
- ⑦子音の交替 平音, 硬音, 濃音 パチム (終声), 韓国の映画1
- ⑧あいさつ 発音練習-連音化
- ⑨自己生活, 発音練習-鼻音化1 韓国の映画2
- ⑩勉強 発音練習-硬音化
- ⑪家族, 発音練習-鼻音化2 韓国の食べ物
- ⑫図書館 発音練習-濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習-7終声
- ⑭友達, 発音練習-濃音化2 韓国の観光
- ⑮買い物の表現 激音化

コリア語セミナーA

【担当】金 里博

【開講】前期 水3

■サブタイトル

楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでもよう！

■講義概要

テキストにて基本文法を学びながら、諸文章の読解が出来、併せて日常会話が出来るようにする。

■到達目標

発音が少々日本語的ではあっても基本的な日常会話が出来る。辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読め訳せる。

■講義方法

毎回、新聞・雑誌等を音読し、訳す。随時、時節に合った対話を行う。テキストに準じて必要な文法事項を説明・解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストに使用されている語彙を語彙帳に書き集め憶える。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 四回以上の欠席の平常点は0点とする。
小テスト (30%) 最大4回行われる小テスト(読み・筆記)は一回70点以上を合格とする。70点未満は不合格とし一度だけ追試を認める。追試は80点以上を合格とする。

定期試験 (50%)

無断欠席は5点減点とする。やむを得ない欠席(忌引き・公務等)の場合、レポート提出で対応する用意はしている。レポート不提出は一回につき10点減点とする。

■テキスト

岡山 善一郎 『朝鮮語を学ぶ(初級編)』 白帝社 2000円
欠席する場合、必ずメールにて事前報告すること。事前報告が不可能な場合でも2～3日中に必ず報告すること。(メールアドレスは初授業の時に知らせる)。報告が無い場合は無断欠席とし減点が加算される。

■参考文献

朴 炫国 『韓国語の発音と演習』 白帝社 2000円

熊谷明泰 『アリラン』 朝日出版社 2400円

吉本一他 『韓国語へのとびら(CD付)』 朝日出版社 2500円
コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで繰り返し学習するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言

語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開校時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって連絡した場合は次週の講義後に時間を割くことは可能である。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。

■講義計画

- ①復習 (1) ハングル字母子音
- ②復習 (2) ハングル字母母音
- ③発音規則 (子音同化)
- ④会話 (1) 自己紹介
- ⑤基本的日常会話の小テスト
- ⑥雑誌もしくは新聞を読む (1)
- ⑦雑誌もしくは新聞を読む (2)
- ⑧会話 (2) 機内と入国に際して
- ⑨会話 (3) 短期留学先での会話
- ⑩尹東柱の詩を読み、鑑賞し、暗唱する (1)
- ⑪朴木月の詩を読み、鑑賞し、暗唱する (2)
- ⑫シナリオの抜粋を読む (1)
- ⑬シナリオの抜粋を読む (2)
- ⑭コリア語単語を30個以上使って400字内外の自己紹介作文を書く (日本語が含まれても可能。)
- ⑮講師もしくは級友と会話をする
- ⑯定期テスト

コリア語セミナーB

【担当】金 里博

【開講】後期 水3

■サブタイトル

楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでもよう！ (2)

■講義概要

コリア語の新聞・雑誌・文芸誌等を読む。脚本等を読むことによって会話力を習得する。

■到達目標

ポケット型辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読める。発音が少々日本語的であっても日常会話が出来る。

■講義方法

毎回、新聞・雑誌等を音読する。随時、時節に合った対話を行う。必要な文法事項を解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

機会が有れば韓国ドラマを見る。新聞が読める程度の単語を覚える。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 欠席を4回以上すると平常点は0点とする。
小テスト (30%) 小テストは70点を合格とし、70点未満は不合格とする。追試は一度だけ認める。追試の合格は80点とする。

定期試験 (50%)

無断欠席は5点減点とする。やむを得ない欠席(忌引き・公務等)の場合、課題レポート提出で対応する用意は有る。

■テキスト

岡山善一郎 『朝鮮語を学ぶ』 白帝社 2000円

■参考文献

朴 炫国 『韓国語の発音と演習』 白帝社 2000円
熊谷明泰 『アリラン』 朝日出版社 2400円
吉本 一他著 『韓国語のとびら』 朝日出版社 2500円

コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで再学習するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言

語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初講時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって必ず連絡する。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。欠席は必ず事前に届け出ること。

■講義計画

- ①ハングル子音の復習 (1) 順音・激音・濃音
- ②ハングル母音の復習 (2) 基本母音・複合母音
- ③ハングル字母子音の復習 (3) 終声音
- ④挨拶会話 (1) 自己紹介 (1)
- ⑤挨拶会話 (2) 自己紹介 (2)
- ⑥ハンギョレ新聞・東亜日報・中央日報等の記事を読み訳す (1)
- ⑦ハンギョレ新聞・東亜日報・中央日報等の記事を読み訳す (2)
- ⑧シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (1)
- ⑨シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (2)
- ⑩シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (3)
- ⑪シナリオ「冬のそなた」を読み訳す (4)
- ⑫韓国文化評論を読み訳す (1)
- ⑬韓国文化評論を読み訳す (2)
- ⑭韓国観光時に使う会話 (1)
- ⑮韓国観光時に使う会話 (2)
- ⑯定期考査

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

定期試験(100%)持ち込み不可。

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房 3780円

そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1 - 学校とは何か
- ③教育について考える その2 - 学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1
- 家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2 - ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3 - 親子とは
- ⑦家族について考える その3 - 結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1
- セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2
- 世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1 - 働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2 - 組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

定期試験(100%)持ち込み不可。

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房 3780円

そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1 - 学校とは何か
- ③教育について考える その2 - 学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1 - 家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2 - ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3 - 親子とは
- ⑦家族について考える その3 - 結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1 - セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2 - 世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1 - 働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2 - 組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 関口 茂久

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

脳 (Brain) と心 (Mind) と行動 (Behavior)

■講義概要

最近、「モーツァルト効果」が話題になっています。これは、モーツァルトの音楽を聴くと、誰もが安らいだ気分になって頭がスッキリする作用があるという事です。それでは、なぜモーツァルトの音楽を聴くと心が安らぎ頭がスッキリするのでしょうか？それは、音楽を聴くということは、耳だけで聞くのではなく、脳で聴くからなのです。音楽を聴いた脳は、「モーツァルトの音楽」を理解するだけでなく、モーツァルトが作曲した音楽が、他の音楽よりも特別に脳の中心部にある「情動の中枢」を刺激して「安らいだ気分」をもたらすからなのです。このように、心理学は心を脳の働きを通して表出する行動を科学的に解析する学問なのです。専門的には、心には認知、知覚、記憶と学習の働きがあり、それらの働きが基礎になって、考える自分や感情を表に出す自分とか言葉や意志を伝える自分があるのです。現代の心理学は、心を科学するための方法を多く編み出しました。それが、心理学的方法です。講義では、様々な心の働きを調べるための方法を解説します。

■到達目標

心が体とくに脳の成熟と密接に関係していることが分かります。また、様々な行動が対人関係や社会的状況によって現れることが理解できるようになるでしょう。

■講義方法

講義内容は、テキストをスライド編集して提示します。また、簡単な知覚検査と記憶検査を実施することによって、自分の心の働きを体験してみましょう。

■系統的履修

哲学と社会学に関する科目

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週、次章の解説文を一読しておくように指示しています。また、通算10回程度の課題レポートをまとめることにしています。

■成績評価の方法

その他 (100%)
期末試験の成績 (80%) とテーマについてのレポート (20%)

により総合的に評価します。

■テキスト

関口茂久 『心理学入門 (改訂版)』 ふくろう出版 2000円

■参考文献

参考書などは瀬田図書館に最新の心理学のテキストを用意しておきましたので参照してください。

■履修上の注意・担当者からの一言

心理学は応用範囲が広いので、基礎知識の理解が不可欠です。そのためには、心理学的概念を正確に憶えましょう。また、テキストは講義の参考資料ですから、授業に出席して講義内容を補充する必要があります。わからない点等は、講義終了時に質問時間を用意しておきますので、聞いてください。

■講義計画

- ①心理学には、多くの専門領域があります。授業は、各専門領域ごとのテーマ(テキストの各章のタイトル)に従って講義を進めます。
- ②私の心はどこにあるの？
- ③心をコントロールする脳神経系
- ④成熟する脳と行動発達
- ⑤心の窓と知覚
- ⑥知覚検査の実施
- ⑦学習する脳と行動
- ⑧記憶は「私」をつくる
- ⑨記憶検査の実施
- ⑩情に流される
- ⑪心の不調とケア
- ⑫共感する心
- ⑬コロロギズム：け高い献身愛
- ⑭映画「野生霊長類の社会」の課題
- ⑮心を測る：心理測定法

スポーツ技術学A

【担当】 種目・開講曜講時による

【開講】 学科により異なる

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探る。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する(どちらか不認定になった場合は次年度再履修する)。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。3) 登録方法は、①予備登録およびWeb登録、②たて3cmよこ2.5cmの写真(出席カード用)2枚を準備し、最初の授業時間(体育館メインフロア)に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウェアは不要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションの時に指示する

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加
レポート (30%) 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
- 体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①オリエンテーション (体育館メインフロアに集合、更衣の必要なし)
- ②各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ③各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ④各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑤各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑥各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑦各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑧各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑨各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑩各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑪各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定② (体育館に集合)
- ⑭各種スポーツ活動 (詳細については、講義時に指示)
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ (詳細については、講義時に指示)

スポーツ技術学B

【担当】 種目・開講曜講時による
【開講】 学科により異なる

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探索。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加

レポート (30%) 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視すること
と、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
- 体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定②（体育館に集合）
- ⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】 中沖 隆彦、糟野 潤
【開講】 後期 木3

■講義概要

私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか？と不思議に思ったことはないでしょうか？本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は？いい香りがするのはなぜ？環境問題はどんなになっているの？といったことをとりあげます。

■到達目標

身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法

1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい）。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます。

定期試験 (70%) 語句説明や論述式問題から評価する。

定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業が終わったあとと研究室で行います。

■講義計画

- ①グリーンケミストリー
- ②合成繊維
- ③界面活性剤
- ④空が青いのは？－色の化学－
- ⑤ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
- ⑥香りの化学
- ⑦最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ？－
- ⑧中間テスト
- ⑨植物のつくるエネルギー－光合成－
- ⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
- ⑪コスメの化学
- ⑫水の不思議
- ⑬原子力エネルギー
- ⑭ゴムの化学
- ⑮電池の歴史

生活の中の数学

【担当】松本 和一郎、山岸 義和

【開講】前期 水3

■講義概要

前半は、等比数列やネズミ講について、松本が講義する。後半は、ひまわりの葉序と連分数、そして利息と生命保険について、山岸が講義する。

■到達目標

日常の身のまわりに隠れた数学に気づく。複利の感覚を身につける。

■講義方法

板書と、必要に応じてPowerPointを利用して、講義を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

後半は、eラーニングのページを利用してレポートを課す予定。

■成績評価の方法

その他 (100%)

前半は筆記試験を実施する。後半はレポート、作図および工作と、筆記試験とを同程度に重視して評価する。前半と後半の両方で合格水準に到達すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

電卓を使用することがある。

■講義計画

- ①前1：無限大のマジック
- ②前2：等比数列・等比級数
- ③前3：親切的な街の消費者金融業者
- ④前4：「70%の法則」
- ⑤前5：ネズミ講とは何か？
- ⑥前6：ネズミ講は破綻するのか？
- ⑦前7：ネズミ講の構造は到るところにある
- ⑧前8：決して負けない賭け
- ⑨後1：正方形タイリング
- ⑩後2：利息の計算
- ⑪後3：ひまわりの葉序
- ⑫後4：寿命、人口
- ⑬後5：ファレイ数列、連分数
- ⑭後6：定期保険
- ⑮後7：葉序の折り紙

生活の中の統計技術

【担当】樋口 三郎

【開講】後期 水3

■サブタイトル

使える統計!

■講義概要

インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこから「法則」を読み取ること、その「法則」を他の人に納得してもらうこと、「法則」を役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。授業は数学のりです。高等学校1年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用方法についてはごく限られた範囲しか説明できません。

■到達目標

1変数または2変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。統計データに関する「法則」の候補を考え、それが「正しいかどうか判定」することができる。

■講義方法

週に1回の講義からなる授業です。授業時間内に演習を、授業時間外にeラーニングシステムを利用した学習を行うことがあります。

■系統的履修

本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。というか、これらの科目の内容に含まれてしまう部分もあります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回自主的に復習を行うことを期待します。必要な予習は、授業時間内および授業サポート hig3.net で直前の回に指示します。特に必要な復習は、eラーニングシステム上で行います。授業サポート hig3.net にリンクがあります。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 予習復習、授業時間内の演習、アンケートやquizへの反応などの合計です。

小テスト (30%) プチテストとよんでいます。1回。

定期試験 (50%) ファイナルトライアルとよんでいます。1回。スコアレポートはeラーニングシステムReLSで表示します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

2011年度以前とは内容が異なります。授業の情報は授業サポート hig3.net でPC/携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①L01：度数分布
- ②L02：平均・分散・標準偏差
- ③L03：2変数の度数分布
- ④L04：相関係数
- ⑤L05：回帰と最小2乗法
- ⑥L06：2項分布
- ⑦L07：確率密度
- ⑧T01：プチテスト
- ⑨L08：正規分布
- ⑩L09：点推定
- ⑪L10：区間推定
- ⑫L11：平均の検定
- ⑬L12：分散の検定
- ⑭L13：独立性と適合度の検定
- ⑮L14：分散分析

■サブタイトル

身の回りの物理と科学技術

■講義概要

身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文化系、理科系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標

身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を説明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実な動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法

授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修

一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法

平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。

平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意するの必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト

講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

参考文献

藤城敏幸 『『生活の中の物理』』 東京教学社 1800円
 広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言

出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画

- ①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
- ②てこの原理…支点、力点、作用点
- ③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
- ④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
- ⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
- ⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
- ⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか
- ⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
- ⑨ギター の 絃 の 振 動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
- ⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
- ⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
- ⑫粒子と波動の2重性…量子力学と特殊相対性理論
- ⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
- ⑭電話とインターネット、コンピュータの話
- ⑮携帯電話の仕組みと中身

政治学入門

【担当】山崎 充彦

【開講】前期 木3

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。

「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！ この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」の精神に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚らない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じたとしても、当該学生諸君との「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなるだろう。"Nobody is Right"！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%) 論述式試験。
その他 (0%)

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに ～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめー現代日本政治の諸問題

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。

「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！ この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」の精神に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚らない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じたとしても、当該学生諸君との「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなろう。”Nobody is Right”！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

平常点（0%）
小テスト（0%）
レポート（0%）
定期試験（100%）論述式試験
その他（0%）

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに ～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原則、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめー現代日本政治の諸問題

生命と科学

【担当】宮武 智弘

【開講】前期 金1

■講義概要

生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体由来の材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標

生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法

参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

生命科学に関する基礎的な知識を積み上げ式に講義するので、参考書やその他の生物化学の書籍を用いながら復習することが重要である。また、次週の講義内容についても講義の最後に指示するので、関連する内容を予習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

レポート (20%)
定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編 『生命科学』 東京化学同人 2400円

■履修上の注意・担当者からの一言

生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくても、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 瀬田学舎 1号館207号室 オフィスアワー (月) 5 講時、(木) 4 講時

■講義計画

- ①生命と化学物質
- ②生命科学と私たちの生活
- ③アミノ酸とタンパク質
- ④タンパク質のはたらき
- ⑤酵素のはたらき
- ⑥遺伝子とDNA
- ⑦遺伝情報の伝達
- ⑧細胞と生殖
- ⑨生命倫理
- ⑩バイオテクノロジー
- ⑪脂質と脂肪
- ⑫糖質の科学
- ⑬生命科学と環境
- ⑭光合成と生命のエネルギー
- ⑮まとめ

中国語ⅠA

【担当】張 健同

【開講】前期 月1

■講義概要

中国語ⅠAは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修

中国語ⅠB、ⅠCとⅠD及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)
その他 (10%) 宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト

竹山相哲 [ほか] 共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献

※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけてみましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

中国語ⅠA

【担当】李 愛華

【開講】前期 水3

■講義概要

中国語ⅠAは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修

中国語ⅠB、ⅠCとⅠD及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

竹山相哲 [ほか] 共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献

※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあらず。それを見つけてみましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

中国語ⅠB

【担当】張 健同

【開講】後期 月1

■講義概要

中国語ⅠBは、中国語ⅠAを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標

ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修

中国語ⅠA、ⅠCとⅠD及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)
その他 (10%) 宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト

竹山相哲 [ほか] 共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献

※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあらず。それを見つけてみましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

■講義概要

中国語IDは、会話や文章の表現を中心に学びます。発音の練習はもちろん、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も取り入れていきたいと思います。また、自己紹介文の書き方も学ぶことができます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、日常会話、そして特に自己紹介の仕方を身につけることを目標としています。

■講義方法

講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。ショウテストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
定期試験 (50%)

■テキスト

内田慶市ほか『中国語への道』金星堂 2380円

参考文献

特になし

■講義計画

- ①第7課 会話と要点
- ②第7課 練習
- ③第8課 会話と要点
- ④第8課 練習
- ⑤第9課 会話と要点
- ⑥第9課 練習
- ⑦第10課 会話と要点
- ⑧第10課 練習
- ⑨第11課 自己紹介文の書き方
- ⑩第11課 自己紹介文の読み方
- ⑪第12課 会話と要点
- ⑫第12課 練習
- ⑬第13課 会話と要点
- ⑭第13課 練習

中国語 I D

【担当】張 健同
【開講】後期 水3

■講義概要

中国語 I Dは中国 I Cの引き続きです。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点
で評価します。

■テキスト

劉穎（ほか）『1冊めの中国語（会話クラス）』 白水社
2415円

参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんは積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ①中国語ⅠＣの復習
- ②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ⅰ
- ③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“給”
- ④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
- ⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
- ⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
- ⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
- ⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
- ⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
- ⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
- ⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
- ⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
- ⑬まとめ

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

「今ここにいる」ことからの出発

■講義概要

経済状況を含め、世界各国は大きく曲がり角を迎え、国内でも海外でも向かうべき方向がますます不透明で見えにくくなってきている。「打開したい」との思いは、それぞれが自分の立ち位置に応じて抱いているものと思われる。哲学は目の前の問題をてっとり早く解決する特効薬ではない。むしろ「今ここに自分がある」という当たり前のことに改めて驚きを覚え、存在そのものへの驚きや、不思議に感じる気持ちを原動力として、私へと、そして世界へと目を向けていくものである。本講義では自らをリフレッシュするそうした原動力として哲学に触れることにトライする。その際、有力な手掛かりとなるものは、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡である。

■到達目標

すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢

■講義方法

板書中心に講義を進める。講義に関連した資料は専用ホームページ「せたなべ」に掲載する。特にこちらから配布はしないので、資料は必要に応じて各自ダウンロードやプリントアウトするのがのぞましい。講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。ミニレポートの実施日は初回の講義で指示し、その後ホームページにも詳細を記載する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自興味のある哲学関係の書籍等読んでおくのがのぞましい。

■成績評価の方法

レポート (30%)

定期試験 (70%)

記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

ホームページ<http://moon-the.biz/> (「せたなべ」で検索)に必要な情報は随時記載する。ホームページの閲覧だけでは不明な点や質問はkatsuki6_6@yahoo.co.jp宛に受け付ける。

■講義計画

- ①導入：自分はどこにいる？
- ②すべては移ろいゆく－ソフィストたち
- ③「勝つ」とは何－ソクラテス①
- ④「快楽」のはてにあるもの－ソクラテス②
- ⑤疑うことが幸せ？－古代懐疑主義
- ⑥多人数の幸福こそが大事？－功利主義
- ⑦こんな性格なのは自分のせい？－アリストテレス
- ⑧究極の自由－プロティノス～アウグスティヌス
- ⑨疑い得ない「自分」－デカルト①
- ⑩「私」は明日も「私」なのか－デカルト②
- ⑪神は死んだ！－ニーチェ
- ⑫世界の果てはどこか－カント①
- ⑬動機なき行為こそ道徳的－カント②
- ⑭私の成功は私の力？－ロールズ
- ⑮まとめ・期末試験の説明

哲学入門

【担当】 鷺見 淳之

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

こころと環境の時代の世界観を探究する

■講義概要

哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、まず近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的な変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に開設することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。

■到達目標

論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。

■講義方法

哲学・思想関係の文献に慣れて頂くために、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も講義の中で取り上げたいと思います。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時間に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席を平常点とします

レポート (70%) テーマの絞り方と議論のまとまりを重視します

■テキスト

特になし

■参考文献

ウィル・デューラント 『西洋哲学物語』 講談社学術文庫 7234

■履修上の注意・担当者からの一言

哲学と言えば「実生活に関係ない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と関連づけて分かりやすく解説したいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

なるべく講義終了に連絡をとるように心掛けて下さい。

■講義計画

- ①哲学の役割
- ②人類の思考の進歩
- ③論理学のはじまり
- ④古代ギリシアの自然観
- ⑤古代ギリシアの靈魂観
- ⑥古典的世界観の限界
- ⑦近代思想のはじまり (1)
- ⑧近代思想のはじまり (2)
- ⑨ルネッサンスから近代へ
- ⑩デカルト－ゼロからの出発
- ⑪機械論的唯物論とその問題点 (1)
- ⑫機械論的唯物論とその問題点 (2)
- ⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性 (1)
- ⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性 (2)
- ⑮まとめ

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

「今ここにいる」ことからの出発

■講義概要

経済状況を含めて世界各国とも大きく曲がり角を迎え、国内でも海外でも向かうべき方向がますます不透明で見えにくくなってきている。「打開したい」との思いは、それぞれが自分の立ち位置に応じて抱いているものと思われる。哲学は目の前の問題をつとて早く解決する特効薬ではない。むしろ「今ここに自分がある」という当たり前のことに改めて驚きを覚え、存在そのものへの驚きや、不思議に感じる気持ちを原動力として、私へと、そして世界へと目を向けていくものである。本講義では自らをリフレッシュするそうした原動力として哲学に触れることにトライする。その際、有力な手掛かりとなるものは、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡である。

■到達目標

すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢

■講義方法

板書中心に講義を進める。講義に関連した資料は専用ホームページ「せたなべ」に掲載する。特にこちらから配布はしないので、資料は必要に応じて各自ダウンロードやプリントアウトするのがのぞましい。講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。ミニレポートの実施日は初回の講義で指示し、その後ホームページにも詳細を記載する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自興味のある哲学関係の書籍等読んでおくのがのぞましい。

■成績評価の方法

レポート (30%)

定期試験 (70%)

記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

ホームページ<http://moon-the.biz/> (「せたなべ」で検索)に必要な情報は随時記載する。ホームページの閲覧だけでは不明な点や質問はkatsuki6_6@yahoo.co.jp宛に受け付ける。

■講義計画

- ①導入：自分はどこにいる？
- ②すべては移ろいゆくーソフィストたち
- ③「勝つ」とは何ーソクラテス①
- ④「快楽」のはてにあるものーソクラテス②
- ⑤疑うことが幸せ？ー古代懐疑主義
- ⑥多人数の幸福こそが大事？ー功利主義
- ⑦こんな性格なのは自分のせい？ーアリストテレス
- ⑧究極の自由ープロティノス〜アウグスティヌス
- ⑨疑い得ない「自分」ーデカルト①
- ⑩「私」は明日も「私」なのかーデカルト②
- ⑪神は死んだ！ーニーチェ
- ⑫世界の果てはどこかーカント①
- ⑬動機なき行為こそ道徳的ーカント②
- ⑭私の成功は私の力？ーロールズ
- ⑮まとめ・期末試験の説明

ドイツ語 I A

【担当】 呉 春吉

【開講】 前期 月3

■講義概要

この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味をもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみよう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

定期試験 (60%)

出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点 (40%)と期末試験 (60%)を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①ドイツ語の発音アウトライン
- ②挨拶表現
- ③動詞の現在人称変化
- ④sein と haben
- ⑤名詞の性、冠詞
- ⑥定冠詞と名詞の格変化
- ⑦不定冠詞と名詞の格変化
- ⑧不規則動詞の現在人称変化
- ⑨人称代名詞の格変化
- ⑩命令形
- ⑪名詞の複数形
- ⑫不定冠詞類、定冠詞類
- ⑬前置詞の格支配
- ⑭分離動詞
- ⑮前期のまとめ

統計入門

【担当】長命 洋佑

【開講】後期 金5

■サブタイトル

数字に騙されるな！アレルギーを克服しよう！

■講義概要

新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなど多種多様なデータが我々のまわりに溢れています。そうした大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思われ落とし穴に陥ることになります。「わっ、騙されたっ!」という状態になりかねません。また、数値(データ)の持つ意味を理解していないと「数値に振り回される」ことにもなります。この講義では、そうした数値(データ)を正しく理解する力を養い、数値(データ)に振り回されないように生きていくためのコツについて学びます。講義では、出来る限り、我々の日常生活の中の現象を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても(中学レベル、 $+$ $-$ $\times$ $\div$ で充分)、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。また、毛嫌いな人が多い確率についても簡単な計算で、日常生活に役立つ考え方が身に付くように心がけます(担当者の実体験を含め)。本講義で学ぶ内容(統計学)は、今後の学生生活や社会人になった時でも必ず必要となるでしょう。この講義では、皆さんが近い将来、必要となる(身につけておく)大きな力となる)客観的な物の見方を学びます。

■到達目標

新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値(データ)の意味が理解できるようになる。日常生活において、数値への恐怖心(アレルギー)がなくなる。

■講義方法

3つの学部が共通して受講するため、個人差がかなりあるかと思いますが・・・講義形式で行い、日常生活の中の話を題材に例題も解きながら、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、数値に慣れてください。

■成績評価の方法

平常点(40%)

定期試験(60%)

■テキスト

特になし。講義資料を配布します。ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌われる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います(一部除く)。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ!そーゆうことか。なかなかオモロイな〜」と思うようになってくると思います。統計は、毛嫌いな人が多いからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②記述統計①: さまざまな指標(中学までの数学でこんなにもわかる)
- ③記述統計②: 分布とその特性①(集団の特性を知ろう)
- ④記述統計③: さまざまな指標がもたらす日本社会の現状(えっ? そうなの?)
- ⑤記述統計④: 分布と特性②(偏差値の恐怖からの開放)
- ⑥記述統計⑤: これまでの復習
- ⑦確率①: 確率の基本(コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は・・・?)
- ⑧確率②: 期待値とは?(なぜ人は淡い期待をいただくのか)
- ⑨確率③: 母集団と標本(賭け事で負けないようにするには?)
- ⑩確率④: これまでの復習(偶然はそんなに偶然にはおこらない)
- ⑪日常の中の統計①: これまでの講義でこんなことがわかる?
- ⑫日常の中の統計②: 当たり前を当たり前のように疑う
- ⑬日常の中の統計③: われわれは意図的に誘導されている?(アンケートのお話)
- ⑭日常の中の統計④: 統計のその後・・・
- ⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】前期 木3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的(立憲的)意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

1回生は受講できない。1回生は後期の日本国憲法(月・1、月・3、木・3)を受講すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験(100%)学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下の平等
- ⑨精神的自由Ⅰ(内心の自由)
- ⑩精神的自由Ⅱ(表現の自由)
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】後期 月1

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本 義昭

【開講】後期 月3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】松島 恵介

【開講】前期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何なのか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島 恵介

【開講】後期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島 恵介

【開講】後期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

フランス語 I A

【担当】瓜生 濃世

【開講】前期 水3

■サブタイトル

すぐに使えるフランス語

■講義概要

この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されていますので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を用いてフランスの文化についても解説し、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標

平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法

文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）課題の提出等
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を入手して下さい。次の3点を特に勧めます。『デニコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②第0課
- ③第1課
- ④第2課
- ⑤第3課
- ⑥第3課
- ⑦第4課
- ⑧第4課
- ⑨第5課
- ⑩第5課
- ⑪第6課
- ⑫第6課
- ⑬第7課
- ⑭第7課
- ⑮まとめと復習

フランス語 I B

【担当】 瓜生 濃世

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

すぐに使えるフランス語

■講義概要

フランス語 I A の内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標

平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法

文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）課題の提出等
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト

藤田裕二 『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』
朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を入手して下さい。次の3点を特に勧めます。『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画

- ①前期の復習
- ②第8課
- ③第9課
- ④第9課
- ⑤第10課
- ⑥第10課
- ⑦第11課
- ⑧第11課
- ⑨第12課
- ⑩第12課
- ⑪第13課
- ⑫第13課
- ⑬第14課
- ⑭第14課
- ⑮まとめと復習

フランス語 I C

【担当】 森部 卓

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などでもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席点

定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
- ②フランスとフランス語に親しむ
- ③挨拶する
- ④発音と綴り字の説明
- ⑤名前、国籍、職業を言う
- ⑥年齢を言う、家族を語る
- ⑦好きなものを言う
- ⑧持ち物を言う
- ⑨友達について話す
- ⑩疑問詞を使ってたずねる
- ⑪近い未来、近い過去のことを言う
- ⑫時間、天候を言う
- ⑬数量を表す
- ⑭パリで出会う日本文化
- ⑮レストランに行く

フランス語 I D

【担当】 森部 卓
【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はICの続きです。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点(50%) 出席点
定期試験(50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ICの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
- ②一日を語る
- ③頼む、命令する
- ④店で買い物をする
- ⑤未来のことを語る
- ⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
- ⑦バカンスに行く
- ⑧フランス語でメールを出す
- ⑨人や物について語る
- ⑩美術館に行く
- ⑪大人気のジャポン・エキスポ
- ⑫フランス留学と学生生活について
- ⑬乗り物に乗る
- ⑭感情を表現する
- ⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】 嶋崎 陽一
【開講】 前期 木4

■サブタイトル

フランス語を楽しく深める

■講義概要

1年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテキストとCALL教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、フランス各地の食文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標

平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。

■講義方法

CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。

■系統的履修

前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーBも受講されることをすすめます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法

平常点(80%) 出席を重視します。
定期試験(20%) 内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト

藤田裕二 『彼女は食いしん坊！2 フランス美味探訪の旅』 朝日出版社 2500円

■参考文献

仏和辞典を持つことが望ましい。次の2点を特に勧めます。

『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的な参加を望みます。

■講義計画

教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More (Auralog) を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要

1年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテキストとCALL教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーBでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランス映画から数本を選んで学生諸君に事前学習をしてもらい、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。

■到達目標

フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法

CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修

後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーAと共通しています。継続した受講を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法

平常点(80%)出席を重視します。

定期試験(20%)内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト

藤田裕二 『彼女は食いしん坊！2 フランス美味探訪の旅』
朝日出版社 2500円

■参考文献

『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的な参加を望みます。

■講義計画

教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More (Auralog)を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

仏教の思想

「仏教の思想 A・B」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想 A・B」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想 A・B」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想 A・B」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗り越えさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

- ① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。
- ② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探究する。
- ③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころになっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

- ・創造主なる神を想定しない
- ・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に行き起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教——カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏——民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼——智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛——慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在——煩惱・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙——縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している釈尊の生涯と思想に関する現物資料（ガンダーラ仏、仏伝浮彫など）を教材として、以下の日程（予定）で龍谷ミュージアムにて授業を行います。龍谷ミュージアム教員から展示資料に関する講義を受けるとともに、展示を観覧することで講義内容の習得を深めます。

＜予定日＞ 以下のいずれか1日の午後（90分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

6 月 30 日 (土)

7月7日(土)

7 月 14 日 (土)

※各学部の受講日時や集合場所等の詳細は、別途お知らせします。

※日程は変更する場合があります。

仏教の思想A

【担当】井上 博文

【開講】前期 水1

■講義方法

特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また視聴覚教材も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習等の指示はないが、龍谷ミュージアムで見学をした際にはレポートを求める。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席とレポートなど
定期試験 (50%)

■テキスト

特定のテキストの指定はない。

■参考文献

参考文献は担当者が随時紹介する。

■講義計画

- ① 龍谷大学の沿革と建学の精神
 - ② 宗教について
 - ③ インド史と仏教史
 - ④ 仏教興起の時代（バラモン教と六師外道）
 - ⑤ ブッダとは？
 - ⑥ ブッダの生涯と思想（1）～誕生と出家～
 - ⑦ ブッダの生涯と思想（2）～求道（苦行から中道へ）
 - ⑧ ブッダの生涯と思想（3）～降魔成道～
 - ⑨ ブッダの生涯と思想（4）～初転法輪
 - ⑩ ブッダの弟子たち
 - ⑪ ブッダの入滅
 - ⑫ 結集伝説
 - ⑬ 戒律について
 - ⑭ 部派仏教と教義の体系化
 - ⑮ まとめ
- ・ 龍谷ミュージアムでの授業：
 ＜予定日＞以下のいずれか 1 日の午後（90 分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。
 6 月 30 日（土）
 7 月 7 日（土）
 7 月 14 日（土）

講義の概要

「仏教の思想 B」 講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質——法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求——老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる——悪人正機・煩惱具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い——火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界——摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている——白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している親鸞の生涯と思想に関する現物資料（絵伝、仏像、書籍など）を教材として以下の日程（予定）で授業を行います。龍谷ミュージアム教員から展示資料に関する講義を受けるとともに、展示を観覧することで講義内容の習得を深めます。

＜予定日＞以下のいずれか1日の午後（90分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

12月8日（土）

12月15日（土）

12月22日（土）

※各学部の受講日時や集合場所等の詳細は、別途お知らせします。

※日程は変更する場合があります。

仏教の思想B

【担当】 若原 雄昭

【開講】 後期 水1

■講義方法

特定のテキストは用いない。レジュメや参考資料のプリントを毎回配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また PC, DVD, VCR などの視聴覚教材も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

科目の性質上、特別な予復習は必要としないが、視聴覚教材を使用した場合や龍谷ミュージアム見学の際などには、必ず小レポートの提出を求める。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席と小レポートなど

定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

①中国仏教史概観と中国浄土教①

② 〃 ②

③ 〃 ③

④日本仏教史概観と日本浄土教①

⑤ 〃 ②

⑥ 〃 ③

⑦法然の生涯と思想①

⑧ 〃 ②

⑨親鸞の生涯と思想①

⑩ 〃 ②

⑪ 〃 ③

⑫ 〃 ④

⑬蓮如の生涯と思想

⑭近代日本の仏教者たち

⑮現代社会と仏教

・龍谷ミュージアムでの授業：

<予定日>以下のいずれか 1 日の午後 (90 分) で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

12 月 8 日 (土)

12 月 15 日 (土)

12 月 22 日 (土)

仏教の思想B

【担当】 蓮池 利隆

【開講】 後期 水1

■サブタイトル

■講義方法

毎時間プリントを配布し、それに沿って講義を進めます。学期末には各自約 30 ページのオリジナル・テキストが完成するように配慮しています。

■系統的履修

特にありません

■授業時間外における予・復習等の指示

ふだんから諸文化に対する理解を深めておいて下さい。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況によって平常点をつけます。

定期試験 (80%) 期末テストは講義内容に即した出題を心がけることにしています。

特に出席点は重視します。『授業科目履修要項』第 1 部履修の心得、Ⅳ単位の認定、2. 授業科目の履修、「総授業回数の 3 分の 1 を越えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられない」ことが明記されています。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

浄土教の特質がどのような思想的交渉の中で形作られてきたかを学ぶ。また、親鸞聖人の浄土教理解が「空」思想への回帰を目指すものであったことを理解する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

HP に記載したアドレスを参照のこと。 http://homepage3.nifty.com/T_Hasuike

■講義計画

①中央アジアにおける仏教伝来を物語る遺跡を紹介する

②和辻哲郎著「風土」に示される風土の三類型について

③部派仏教における分析的無我の理解について

④ゾロアスター教と仏教の出合いについて

⑤クシャーン朝下における大乘仏教の展開について

⑥西域の人々と仏教のかかわりについて

⑦念仏行法の仏堂遺構について

⑧中国の浄土教・善導大師の念仏について

⑨日本の浄土教・法然上人の念仏について

⑩来迎思想の問題点と親鸞の立場について

⑪弟子から見た親鸞・「たまりたる信心」について

⑫妻から見た親鸞・「臨終待つことなし、来迎頼むことなし」

⑬他力の教え・「たまりたる信心」の本質について

⑭悪人正機の教え・仏の姿と私の姿について

⑮契約宗教から「空」思想への回帰について

・龍谷ミュージアムでの授業：

<予定日>以下のいずれか 1 日の午後 (90 分) で実施します。日程は、学部ごとに指定します。

12 月 8 日 (土)

12 月 15 日 (土)

12 月 22 日 (土)

■講義方法

特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また視聴覚教材も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習等の指示はないが、龍谷ミュージアムで見学をする際にはレポートを求める。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席、レポートなど
定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

参考文献は担当者が適宜紹介する。

■講義計画

- 1～2回目：部派仏教と大乘仏教
- 3～5回目：大乘仏教の伝播－インド、中国、日本
- 6～8回目：日本仏教概観－奈良仏教から鎌倉仏教
- 9～10回目：法然の生涯と思想
- 11～13回目：親鸞の生涯と思想
- 14回目：蓮如の生涯と思想
- 15回目：近代日本の仏教と仏教研究者
- ・龍谷ミュージアムでの授業：
 - <予定日>以下のいずれか 1 日の午後（90 分）で実施します。日程は、学部ごとに指定します。
 - 12月 8 日（土）
 - 12月 15 日（土）
 - 12月 22 日（土）

文学入門

【担当】大槻 志郎

【開講】前期 水3

■サブタイトル

物語の逆襲

■講義概要

ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と、文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかと諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標

文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける 文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法

受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみる。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験 (60%) 講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト

使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献

中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円

廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言

文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きい収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取ればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①序説—文学は死んだか？
- ②詩の言葉、言葉の詩
- ③ジャンル・タイプ・intertextuality
- ④幻想という名の真実
- ⑤言葉の裏を読む
- ⑥象徴の成立
- ⑦構造と対立
- ⑧アイロニー
- ⑨作者・作品・読者
- ⑩曖昧と解釈の問題
- ⑪文学と時間
- ⑫名前の文化論
- ⑬旅のモチーフ
- ⑭実践分析批評 1
- ⑮実践分析批評 2

* 以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】嶋崎 陽一

【開講】前期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いのか？

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくつもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席による
レポート (80%) 1600～2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

- ①～⑮以下に挙げる作家を採り上げる予定である。(順不同)
- ・ダニエル・キイス
 - ・高橋源一郎
 - ・銀林みのる
 - ・舞城王太郎
 - ・谷川俊太郎
 - ・ジェイムズ・ジョイス
 - ・筒井康隆
 - ・村上春樹
 - ・ミシェル・ビュトール
 - ・山田風太郎
 - ・恩田陸
 - ・ブルーム・ストーカー
 - ・入澤康夫
 - ・川崎洋
 - ・谷崎潤一郎

文学入門

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いのか？

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席による
レポート（80%）1600～2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

①～⑮以下に挙げる作家を採り上げる予定である。（順不同）

- ・ダニエル・キイス
- ・高橋源一郎
- ・銀林みのる
- ・舞城王太郎
- ・谷川俊太郎
- ・ジェームズ・ジョイス
- ・筒井康隆
- ・村上春樹
- ・ミシェル・ビュートル
- ・山田風太郎
- ・恩田陸
- ・ブラム・ストーカー
- ・入澤康夫
- ・川崎洋
- ・谷崎潤一郎

文学入門

【担当】 坂本 輝世

【開講】 後期 水4

■サブタイトル

古典を読もう！

■講義概要

「文学」なんて読まない人、「文学」って何の役に立つんだと思っている人、「文学」は理解できないと敬遠している人、?それでも、「物語」は好きですか？ このクラスでは、英文学の古典といわれる作品の中から3つ（17世紀初頭の『ハムレット』、19世紀半ばの『ジェイン・エア』、19世紀末の『闇の奥』）を中心に、英語で書かれた短編小説や詩の翻訳にも触れながら、「ことば」の面白さと「物語」の力について考えます。

■到達目標

「文学」とは何かについて、自分なりの理解をする。あるいは理解を深める。古典とされる作品を読むことで、大学生に相応しい教養の一部を身につける。

■講義方法

毎週、宿題としてテキストを読み、内容について要約・感想・疑問点などを提出してもらいます。また、学期末にレポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する。

■成績評価の方法

平常点（50%）毎回のクラスで、読んできたテキストについての課題を答えてもらいます。
レポート（50%）授業で取り上げたトピックの中から自分で選択し、期末レポートを書いてもらいます。
一学期を通してかなりの量を読み、ほぼ毎回課題を提出することになるので、その覚悟をして受講すること。

■テキスト

ウィリアム・シェイクスピア 『新訳ハムレット』 角川書店 500円
シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア（上・下）』 光文社 1780円
ジョセフ・コンラッド 『闇の奥』 光文社 620円

■参考文献

授業内で指示する。

■講義計画

- ①はじめに
- ②『ハムレット』とシェイクスピアの世界（1）
- ③『ハムレット』とシェイクスピアの世界（2）
- ④『ハムレット』とシェイクスピアの世界（3）
- ⑤シェイクスピア・ヴァリエーション
- ⑥一人称小説『ジェイン・エア』（1）
- ⑦一人称小説『ジェイン・エア』（2）
- ⑧一人称小説『ジェイン・エア』（3）
- ⑨一人称小説『ジェイン・エア』（4）
- ⑩「植民地文学」と「恋愛小説」
- ⑪『闇の奥』の奥にあるもの（1）
- ⑫『闇の奥』の奥にあるもの（2）
- ⑬『闇の奥』の奥にあるもの（3）
- ⑭他者を描く物語としての文学
- ⑮まとめ

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要であれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

- 「倫理学（道徳哲学）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。また、現在の日本の社会には「医療・技術に関する倫理問題が多い」という面がある。わたしは、このことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。「現代社会の医療・技術の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理的なアプローチは医療・技術の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらに君が授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことから」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きつと、君が「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、さまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
- 配布する読書資料はときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習・課題提出が求められる機会は少ないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）

定期試験（50%）

平常点は、おもに「積極的な授業参加（たんに出席日数があればよいというのではなく、遅刻、出席しているだけで参加姿勢が著しく消極的な場合などは当然減点する）」と「小テスト・課題などの成績」からなる。簡潔に言えば、秋学期をとおした「総合的」評価である。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。
- とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業のなかで、連絡用メールアドレスを知らせるから、遠慮なく使ってください。

■講義計画

- 1～2回目：ガイダンス
- 3～5回目：「現在の社会ですでに実現している（こどもがほしいひとがときにその利用を求める）生殖医療・技術」にはどのようなものがあるかを正確に知り、それらに関して「倫理的に」考えよう
- 6～7回目：「倫理の基礎」について理解を深めよう
- 8回目：調整日
- 9～10回目：「正義」および「自由」について理解を深めよう
- 11～13回目：（生殖医療・技術も含む）今後の医療・技術のありようを規制するのに重要なことは何か、「倫理的に」考えよう
- 14～15回目：授業で取り上げた範囲で君がもっとも関心のある「医療・技術の倫理問題」について、徹底的に考えよう

以上、順不同。

倫理学入門

【担当】 菊地 建至

【開講】 後期 水5

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

- 「倫理学（道徳哲学）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。また、現在の日本の社会には「自由な社会（リベラリズムの社会）」という面がある。わたしは、このことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。「自由な社会の倫理学は、どのような特徴をもつか」と「自由な社会の倫理学には、どのような困難があるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらに君が授業をおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、君が「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、さまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする)映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
- テキストは「入門書」ではあるが、簡単に読めるものではないだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにたくさんアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの予復習が求められる機会が多い。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

平常点は、おもに「積極的な授業参加（たんに出席日数があればよいというのではなく、遅刻、出席しているだけで参加姿勢が著しく消極的な場合などは当然減点する）」と「小テスト・課題などの成績」からなる。簡潔に言えば、秋学期をとおした「総合的」評価である。

■テキスト

D.ミラー 『1冊でわかる 政治哲学』 岩波書店

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。
- とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に) 楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業のなかで、連絡用メールアドレスを知らせるから、遠慮なく使ってください。

■講義計画

後期

1～2回目：ガイダンス

3～5回目：「自由」とは、どのようなことか

6回目：なぜ「政治的権威（政府）」なき生活は、悲惨か

7回目：調整日

8～10回目：「正義」、「平等」、「幸福」などについて理解を深めよう

11～12回目：「〈デモクラシー〉においてマイノリティの声はいかに聞かれるのか」、「マイノリティの権利はどのようにして確保されるのか」など

13回目：「倫理に関する文化相対主義」について

14～15回目：「グローバルな」政治・経済の問題について「倫理的に」考えよう

以上、順不同。

歴史入門

【担当】西村 昌洋

【開講】前期 水3

■サブタイトル

ヨーロッパの歴史入門

■講義概要

本講義は「歴史入門」であるが、限られた時間の中で歴史全体を扱うことは土台不可能であるため、ここではヨーロッパの歴史に絞って講義をしたい。ヨーロッパに迫っていくことを目標としてきた20世紀が過ぎ、21世紀の今、もはやヨーロッパに追従する時代ではないと思うかもしれない。だがそれはヨーロッパを、特に過去のヨーロッパのことを、知らなくてもよいことを意味しない。今私たちが生きる社会の枠組みや価値観の基になっているものは多くがヨーロッパに由来しており、大学で学ぶ学問もほとんどはヨーロッパで生まれたものである。私たちの生活にも物の考え方にも、好むと好まざるとにかかわらず、ヨーロッパ的な要素は強く入り込んでおり、今後もそれが急激に変わることはないだろう。ヨーロッパを時代遅れとして退けるのではなく、むしろ、なぜこれまでそれを重視してきたのか、それにどんな意味があるのか、なによりそのヨーロッパの要素をもってこれからどうするべきなのか、こうした点を意識して考えることが重要である。そのためにはヨーロッパの歴史を理解しておかなければならない。それは大学を出た一人の社会人が身につけておくべき重要な教養でもある。本講義では、各回ごとにヨーロッパ史の主なトピックに焦点を当てて説明することで、ヨーロッパの歴史の流れをおさえ理解を深めることを目指す。

■到達目標

ヨーロッパ史の主なトピックについて、一つ以上、自分の言葉で説明できる。過去のヨーロッパを知ることで、自分たち自身の生きている社会の枠組みや約束事を相対的にとらえる。今の社会のあり方や問題点、そして今後何をすべきかということを、歴史的に考える感覚を身につける。

■講義方法

受講者は大人数になることが予想されるため、資料を適宜配布しつつ、講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習:授業の終わりに、参考文献のうち次の授業に関係する部分をあらかじめ伝えるので、それに目を通しておく 復習:授業の後、内容を自分なりに整理し、関連する本を読んで、ノートにまとめておく(試験対策にもなる)

■成績評価の方法

定期試験(100%) 試験期間中の定期試験(論述式)によって評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

服部良久他『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房 2800円
小山哲他『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房 2800円
中井義明他『教養のための西洋史入門』ミネルヴァ書房 2500円
講義全体に関連する参考文献。あくまで参考文献なので必携ではない。これらの文献のうち次の授業に関係する部分を予習のためにあらかじめ伝えることにする。個々のテーマに関わる参考文献については別途講義中に案内する。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義中は静かにすること。私語による講義の妨害を繰り返す者は速やかに退室するように。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②世界で最初の民主主義
- ③古代アテネの民主政と裁判
- ④剣闘士競技とローマ帝国
- ⑤すべての道が通ずる都ローマ
- ⑥帝国の後継者
- ⑦中世地中海の多文化共存
- ⑧十字軍運動
- ⑨ヨーロッパの東と西と
- ⑩宗教改革
- ⑪異端審問と民衆の世界
- ⑫植民地が本国にもたらすもの
- ⑬植民地とヨーロッパ人
- ⑭他民族社会と東ヨーロッパ
- ⑮近代のギリシア人の創り方

歴史入門

【担当】佐野 東生

【開講】後期 金2

■サブタイトル

西アジアの歴史と文化

■講義概要

西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエント文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、アレクサンダー大王の遠征に起因するヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の大規模な交流について解説する。その上で、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から見ていく。

■到達目標

中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。

■講義方法

講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。

■成績評価の方法

平常点(20%) 質問票(出席票にもなる)を数回提出。
小テスト(20%) 1回実施する。
定期試験(60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

前嶋信次『イスラムの時代』講談社学術文庫 1365円

■履修上の注意・担当者からの一言

西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身につけてもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義中に指示

■講義計画

- ①歴史学の方法1
- ②歴史学の方法2
- ③古代の西アジア1
- ④古代の西アジア2
- ⑤古代の西アジア3
- ⑥古代の西アジア4
- ⑦中世イスラーム史1
- ⑧中世イスラーム史2
- ⑨中世イスラーム史3
- ⑩近代1
- ⑪近代2
- ⑫現代1
- ⑬現代2
- ⑭現代3
- ⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】前期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするとともに、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約 80 点 (80%)、平常点約 20 点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題；表による判定
- ⑧常に真な命題；図による判定
- ⑨推論の妥当性；表による判定
- ⑩推論の妥当性；図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性；図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない)
- ⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】後期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするとともに、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

主として定期試験によって評価する。定期試験約 80 点 (80%)、平常点約 20 点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2000円

改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題；表による判定
- ⑧常に真な命題；図による判定
- ⑨推論の妥当性；表による判定
- ⑩推論の妥当性；図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性；図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない) 総復習
- ⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総 合 科 目）

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
ア	アジアの文化	徐 光輝	前期 木 4	169
	アジアの文化	松井 智子	後期 水 2	169
	アジアの文化	舟橋 健太	後期 木 4	170
オ	欧米の文化	青山 豊	前期 木 4	170
	欧米の文化	瀧口 順也	前期 月 4	171
	欧米の文化	大槻 志郎	後期 水 3	171
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・I	後期 木 4	172
カ	科学技術史	林 久夫	前期 月 1	172
	科学技術史	岩本 太郎	後期 月 3	173
	環境と人間 A	竺 文彦	前期 月 4	173
	環境と人間 A	河合 富佐子	後期 月 4	174
	環境と人間 B	西江 仁徳	前期 木 4	174
	環境と人間 B	鈴木 滋	後期 水 2	175
	環境と倫理	柿本 佳美	前期 木 4	175
キ	教養教育科目特別講義 A（里山学入門） ／共同開講科目特別講義	宮浦 富保／近藤 倫生／ 須藤 護／田中 滋／ 帖地 孝人／林 珠乃／ 朴 炫国／丸山 徳次／ 遊磨 正秀／横田 岳人	前期 月 3	176
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	山中 聡	前期 水 3	176
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	山中 聡	後期 水 3	177
	教養教育科目特別講義 C （アジアの映画）	李 相哲	前期 月 3	177
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖	前期 水 3	178
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖	後期 水 3	178
	教養教育科目特別講義 E （アジアの途上国と社会開発）	佐藤 彰男	前期 木 3	179
	教養教育科目特別講義 F （現代社会と栄養）	宮川 尚子	前期 木 3	179
ケ	健康とスポーツ	渡辺 英児	後期 月 1	180
	現代社会と宗教	辻 虎志	前期 月 3	180
	現代社会と宗教	辻 虎志	後期 月 3	181
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	前期 金 1	181
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	後期 金 1	182
	現代社会と福祉	岡野 英一	前期 木 3	182
	現代社会とマス・メディア	中野 有	前期 月 4	183
	現代社会とマス・メディア	中野 有	後期 木 4	183
	現代社会とマス・メディア	西村 敏雄	後期 水 2	184
	現代の技術	吉川 恒夫／池田 昌彦	後期 月 3	184
コ	国際社会と日本 A	池尾 靖志	前期 金 1	185
	国際社会と日本 B	佐藤 一進	後期 水 1	185
	国際社会と日本 C	中根 智子	前期 金 2	186

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
シ	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 1	186
	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 2	187
	ジェンダー論	山下 明子	前期 月 3	187
	情報社会とメディア	外村 佳伸／曾我麻佐子	前期 月 3	188
	情報社会とメディア	外村 佳伸／曾我麻佐子	後期 木 3	188
	情報と人間	小堀 聡	後期 木 3	189
	情報倫理	野村 竜也／芝原 努	前期 月 4	189
	人権論 A	松本 城洲夫	前期 月 2	190
	人権論 A	松本 城洲夫	前期 月 3	190
	人権論 A	原口 剛	前期 水 3	191
ス	人権論 A	原口 剛	前期 水 5	191
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 3	192
	人権論 A	岸 衛	前期 水 3	192
	人権論 A	金 光敏	前期 水 3	193
	人権論 A	金 光敏	前期 水 4	193
	人権論 B	松本 城洲夫	後期 月 2	194
	人権論 B	松本 城洲夫	後期 月 3	194
	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 3	195
	人権論 B	岸 衛	後期 水 3	195
	人権論 B	金 光敏	後期 水 3	196
タ	人権論 B	原口 剛	後期 水 3	196
	人権論 B	金 光敏	後期 水 4	197
	人権論 B	原口 剛	後期 水 5	197
	スポーツ文化論	松下 唯夫	前期 水 3	198
	スポーツ文化論	松下 唯夫	後期 水 3	198
	世界の福祉	太谷 重由美	前期 水 3	199
	生活の中の宗教	辻 虎志	前期 月 2	199
	生活の中の宗教	辻 虎志	後期 月 2	200
	生命と共生	田村 公江	前期 木 3	200
	生命と共生	田村 公江	後期 木 3	201
ニ	歎異抄の思想 I	殿内 恒	前期 水 2	201
	歎異抄の思想 II	殿内 恒	後期 水 2	202
	日本の文化	泉 文明	前期 月 3	202
	日本の文化	泉 文明	前期 木 5	203
	日本の文化	泉 文明	後期 木 5	203
	人間と社会と法	時本 義昭	前期 木 4	204
	平和学入門	清水 耕介	前期 木 3	204
	平和学入門	宮崎 寛	後期 木 3	205
	メディアにみる福祉	高田 敏司	後期 月 2	205
	メディアにみる福祉	幸重 忠孝	後期 木 3	206

アジアの文化

【担当】徐 光輝

【開講】前期 木4

■サブタイトル

中国歴史文化概説

■講義概要

考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。このような先史文明を土台に、夏・商(殷)・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器(青銅器、鉄器)文化、郡県制度が注目される。後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。

■到達目標

隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。

■講義方法

時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。

■系統的履修

アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点(10%)出席率や受講態度等を重視する
小テスト(20%)点数により評価する
レポート(20%)内容により評価する
定期試験(50%)点数により評価する

■テキスト

特になし

■参考文献

尾形勇・岸本美緒編『中国史(新版世界各国史3)』山川出版社 1998 3500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著『中国の考古学(世界の考古学7)』同成社 1999 3200円

■講義計画

- ①はじめに
- ②中国文明のあけぼの(黄河流域)
- ③中国文明のあけぼの(長江、淮河流域)
- ④中国文明のあけぼの(西遼河流域)
- ⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
- ⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
- ⑦春秋戦国時代の百家思想
- ⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
- ⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
- ⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
- ⑪南北朝時代の民族大融合
- ⑫宗教文化の発展と伝播
- ⑬隋唐帝国の成立と繁栄
- ⑭隋唐時代の文化交流
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】松井 智子

【開講】後期 水2

■サブタイトル

タイの文化と社会

■講義概要

タイの文化について様々な角度から学ぶ。授業の前半では、「アジアの文化」がどのように捉えられてきたかを、主要な文献の読解を通じて学ぶ。後半では、1990年代以降大きく変貌を遂げたタイに焦点を当て、その文化を王室、宗教、家族、ジェンダー、都市等、多面的に解説する。特に、近代化・グローバル化の中で変容する農村社会とそこに生きる女性たちの経験について具体的な事例を引きつつ解説する。

■到達目標

「アジアの文化」に関する文献の読解を通じて、アジアに対する公平な見方ができるようになることを目指す。また、タイの文化を多面的に学んだ上で、特に、変容する文化の最中を生きる農村女性の経験を理解することを通じて、近代化・グローバル化のもたらす文化変容とその問題について考え、自らとの関わりを問い直すことを目標とする。

■講義方法

パワーポイントおよびレジュメによる講義。映像資料等も使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題とされる文献は必ず読んでくること。

■成績評価の方法

平常点(40%)
定期試験(60%)

■テキスト

鶴見良行『東南アジアを知る：私の方法』岩波新書 780円

■参考文献

梅棹忠夫『文明の生態史観』中公文庫 780円

ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』書籍工房早山 2100円

その他、授業中に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

無欠席が原則。

■講義計画

- ①ガイダンス：「アジアの文化」をどう捉えるか
- ②梅棹忠夫『文明の生態史観』と文明史観の限界
- ③鶴見良行『東南アジアを知る』と民衆学の視座
- ④B.アンダーソン『想像の共同体』と国民文化の形成
- ⑤E.W.サイード『オリエンタリズム』と表象としてのアジア
- ⑥タイの王室
- ⑦タイの宗教
- ⑧タイの家族・親族
- ⑨タイの都市社会
- ⑩タイのジェンダー
- ⑪タイに関する地域研究
- ⑫タイの農村社会(1)：伝統的な仕事観と工場労働
- ⑬タイの農村社会(2)：農村女性の文化変容
- ⑭タイの農村社会(3)：セックスワーカーという経験
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 舟橋 健太

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

南アジアの宗教と文化

■講義概要

南アジア社会に暮らす人びとにとって、「宗教」は生活の中心に位置するきわめて重要なものである。本講義においては、インドを中心とした南アジア社会を対象に、人びとの暮らしの軸にある宗教、ならびに、背景となる当該地域の文化について、映像や画像を多用しつつ、特に人びとの日々の生活の様相に重点を置いた講義を行っていく。そこには、日本における宗教をめぐる風景とはまた異なる地平が広がっている。

■到達目標

南アジア地域社会、またその宗教と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性と重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。

■講義方法

基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。

■系統的履修

文化人類学

■授業時間外における予・復習等の指示

各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席、ならびにコメントの内容を考慮する。
レポート (30%) 南アジアの宗教と文化に関わるレポートを課する。

定期試験 (50%) 記述式で行う。詳細は講義において通達。
出席 (原則として無遅刻・無欠席)、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。

■テキスト

特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。

■参考文献

辛島昇他 (監修) 『南アジアを知る事典』 平凡社 8400円
田中雅一・田辺明生 (編) 『南アジア社会を学ぶ人のために』
世界思想社 2520円

その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

南アジア社会 (あるいは「異文化」というもの) への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的に、電子メール (アドレス: kfunama43[at]ybb.ne.jp [at] は@に変換) でのコンタクトとする。

■講義計画

- ① ガイダンス
- ② 南アジア社会概説「宗教」とは
- ③ 南アジア史概説
- ④ ヒンドゥー教①
- ⑤ ヒンドゥー教②
- ⑥ イスラーム
- ⑦ シンク教
- ⑧ 仏教
- ⑨ ジャイナ教
- ⑩ キリスト教、その他の宗教
- ⑪ 儀礼と祭礼
- ⑫ カースト制度
- ⑬ 「不可触民」とされる人びと
- ⑭ 映画にみる宗教
- ⑮ 「異文化」を学ぶということ

欧米の文化

【担当】 青山 豊

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

ドイツの文化を中心に

■講義概要

この講義は「欧米の文化」という名称であるが、欧州つまりヨーロッパをあつかう。現代の若い日本人にとっては、ヨーロッパはアメリカほど身近ではないという印象があるかもしれないが、実はヨーロッパの歴史や文化はアメリカよりずっと大きな影響を日本にもたらしてきている。特に明治時代以降、日本は当時の先進地域としてのヨーロッパから日本の国や社会をどのようにしてつくり上げていくのかを学んだことは疑いがない。大まかな言い方が許されるなら、イギリスからは近代資本主義を、フランスからは自由と平等の精神を、ドイツからは様々な分野の学術と芸術を取り入れた結果、今の日本があるということが出来る。また一方で現在のヨーロッパ連合 (EU) に目を向けてみると、これからの日本とヨーロッパのかかわりが今後どのようになるのかも非常に興味深いところである。この授業では、EUの牽引役といわれるドイツの文化を素材に、新しい時代のヨーロッパを探ってみたい。

■到達目標

グローバル化する世界で日本がこれからどうあるべきかを考えるきっかけを得る。

■講義方法

プリント・映像などを用いてわかりやすい講義にしたい。
テキストの内容を取り上げるが、講義計画とは異なることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

ヨーロッパに関するニュースや情報に関心をむける。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

定期試験に場合によっては出席点を加えて評価する。

■テキスト

高橋 憲 『新 ドイツの街角から』 郁文堂 1300円

■参考文献

授業中に必要に応じて紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

メールアドレス SNA 05617@nifty.com

■講義計画

- ① プロローグ
- ② ドイツという国
- ③ 日本の近代化はドイツから
- ④ もっと光を
- ⑤ 環境問題
- ⑥ 大学と大学生
- ⑦ ドイツの街道と都市の歴史
- ⑧ シンドラーのリストと杉原千蔵
- ⑨ キリスト教と宗教改革
- ⑩ 外国人労働者
- ⑪ ドイツ再統一以後
- ⑫ ヒトラー回帰
- ⑬ アウシュビッツの記憶
- ⑭ ヨーロッパ連合
- ⑮ 多民族国家になるドイツ

欧米の文化

【担当】 瀧口 順也

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

文化を学ぶまなざしー西洋文化史

■講義概要

本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧米圏および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代の中で誕生し異文化との接触や異なる地域に伝達されるなかで変化を遂げてきました。本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。普段の生活で何気なく接している行為や文化にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧米圏のもので、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。

■到達目標

1. 「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
2. 21世紀の現代が行っている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
3. 欧米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。

■講義方法

パワーポイント用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介しします。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するよう心掛けて下さい。

■成績評価の方法

- 平常点 (10%)
レポート (30%)
その他 (60%) 学期末レポート
二度 (中間・学期末) のレポートにより評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

ピーター・バーク 『文化史とは何か』 法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとしては、上記の文献を挙げておきます。

■講義計画

- ①イントロダクション:「文化史」というアプローチ
- ②食物と消費文化 I:砂糖
- ③食物と消費文化 II:塩
- ④食物と消費文化 III:飲料(茶、酒)
- ⑤スポーツと現代文化 I:フットボール
- ⑥スポーツと現代文化 II:ボクシング
- ⑦文化としての音楽 I:ハイカルチャーとしての音楽
- ⑧文化としての音楽 II:ロックンロールの歴史
- ⑨儀礼とフェスティバル I:日常生活と儀礼
- ⑩儀礼とフェスティバル II:政治文化のフェスティバル
- ⑪消費文化とファッション I:スーツの歴史
- ⑫消費文化とファッション II:肌着の文化史
- ⑬メディアと記憶 I:戦争を記憶する
- ⑭メディアと記憶 II:歴史の記憶化、記憶の歴史化
- ⑮まとめ:文化の歴史と現代文化

欧米の文化

【担当】 大槻 志郎

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

テーマで斬る欧米文化

■講義概要

文化を学ぶということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標

未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法

授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識について的小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

とくに最初の西洋史通史の段階では、テキストの該当箇所を講義の前後によく読んで理解を深めることが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくといよい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験 (60%) 講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト

綿引弘 「一番大切なことがわかる「世界史」の本」 三笠書房(知的生きかた文庫) 619円
OCSシラバス、教科書の扱い: なおテキストは、これについて学ぶというよりも、講義内容

の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として使用する。したがって、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。

■参考文献

講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言

欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きい収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。テキストはあらかじめ読んでおくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜4講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①「欧米」の誕生(西洋史通史1)
- ②「欧米」の誕生(西洋史通史2)
- ③聖書と神話
- ④時間をめぐる話
- ⑤移動としての歴史
- ⑥風土と文化
- ⑦旅の物語の伝統
- ⑧土地と家族の問題
- ⑨労働と階級
- ⑩理性と野性、文明と自然
- ⑪言語の歴史、言葉の重さ
- ⑫言葉、シンボル、数字
- ⑬人間主義、個人主義
- ⑭名前と個人主義
- ⑮見えないもの

*以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・I

【開講】後期 木4

■サブタイトル

映画で見るアメリカの現代社会 Contemporary American Society through Film

■講義概要

アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的アイコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標

この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法

毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を1本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修

アメリカの生活と政治文化、映画技術の文化の共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法

平常点（20%）参加程度
小テスト（20%）感想レポート（毎週の課題）
レポート（20%）作品の比較分析レポート（授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析）
定期試験（40%）授業で見た映画の内容について又はエッセイ

レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る 剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献

井上一馬『ブラック・ムービー—アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋 春海『映画の中の星条旗—厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ（他の国も道論！）文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業で英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①映像の基本の見方 アメリカ社会の最近20年
- ②『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ③『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ④『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ⑤『The Simpsons』1
- ⑥『Bowling for Columbine』『ボウリングフォー・コロンバイン』：アメリカの銃への欲望
- ⑦『Bowling for Columbine』
- ⑧『Bowling for Columbine』
- ⑨『Juno』— 少女妊娠コメディ
- ⑩『Juno』
- ⑪『Juno』—
- ⑫『The Simpsons』『ザ・シン普森ズ』2
- ⑬『真実の噂：Wag the Dog』
- ⑭『真実の噂：Wag the Dog』
- ⑮まとめ

科学技術史

【担当】林 久夫

【開講】前期 月1

■サブタイトル

将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要

20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギーとして、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にもものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに物理学の分野においてはエネルギー観の変遷に、化学の分野においては物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標

科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法

プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法

レポート（40%）
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

渋谷一夫ら『科学史概論』ムイスリ出版 2400円
八杉龍一『図解 科学の歴史』東京教学社 2000円

■講義計画

- ①環境問題と科学技術
- ②古代の科学技術
- ③ギリシアの宇宙観
- ④ギリシアの物質観
- ⑤ローマの科学技術
- ⑥アラビアの科学
- ⑦中世の科学技術
- ⑧ガリレオ、デカルト、ニュートン
- ⑨錬金術と元素観
- ⑩フロギストン仮説の崩壊
- ⑪原子論の復活
- ⑫永久機関への夢
- ⑬産業革命と熱機関
- ⑭近代科学技術
- ⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

■講義概要

現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限らない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はご容赦願いたい。

■到達目標

社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法

パワーポイントを主体的に使用し、補足的に配布資料を使用する。パワーポイントなどで全てをメモすることはできないが、キーワードや要点はメモすることが望ましい。

■系統的履修

直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法

小テスト (30%) 出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート (30%) 学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、コピーは人数分の1にする。
定期試験 (40%) 授業で必ず触れている主要技術あるいはキーパーソンについての知識を問う。

■テキスト

特になし

■参考文献

山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版 1995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版 2100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会 2800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社 3600円
ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。1号館315号室の扉に予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画

- ①世界を変えた技術 (古代からルネサンス)
- ②世界を変えた技術 (産業革命)
- ③世界を変えた技術 (産業革命以降)
- ④世界を変えた科学 (古代から中世)
- ⑤世界を変えた科学 (近世から現代)
- ⑥製鉄の歴史
- ⑦紡績機械の歴史
- ⑧工作機械の歴史
- ⑨蒸気機関車の歴史 (世界)
- ⑩蒸気機関車の歴史 (日本)
- ⑪日本の鉄道の歴史
- ⑫自動車の歴史
- ⑬電気の歴史
- ⑭計算機の歴史
- ⑮これからの科学技術

環境と人間A

■サブタイトル

環境をいかに学び、いかに対処するか。

■講義概要

かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならぬような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。

■到達目標

さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。

■講義方法

テキストおよびパワーポイント等を使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室を訪問してほしい。

■講義計画

- ①環境と社会づくり
- ②大気、水圏、土壌、森林
- ③地球温暖化、オゾン層
- ④酸性雨、森林破壊、砂漠化
- ⑤大気汚染
- ⑥水質汚濁
- ⑦廃棄物
- ⑧大気汚染防止技術
- ⑨水質汚濁防止技術
- ⑩化学物質、車社会
- ⑪温暖化、エネルギー
- ⑫CSR
- ⑬環境マネジメント、環境会計
- ⑭グリーン購入、LCA
- ⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】河合 富佐子

【開講】後期 月4

■サブタイトル

未来社会へのメッセージ

■講義概要

1990年頃から地球環境問題に世界的な関心が集まり、大きく取り上げられるようになった。しかし、それ以前から環境問題は存在し、ほとんどの先進国が何らかの公害問題の歴史を有している。このような負の歴史が人類共通の教訓とならず、発展途上国は先進国の歴史をなぞっていると見える。現在では先進国と発展途上国の環境をめぐる対立が世界的な重要課題となっている。現代の地球環境問題を正しく認識し、理解を深めるとともに、過去の公害の歴史を振り返ることは先進国に生きる人間の責任であり、現代人の必須教養である。環境問題は自然科学から社会科学にまたがる問題であるとともに、文化とも密接な関係がある。このような観点から、直面する地球環境問題～過去の公害問題を紹介し、より良い未来への道を探る手がかりとしたい。

■到達目標

現代教養人として環境問題を正しく理解し、判断力を身につける。また、自分の頭で考えるための基礎知識を学ぶ。

■講義方法

毎時、レジメを配布する。必要に応じてパソコンで映像を紹介する。

■系統的履修

基本的な化学および生物学の知識は必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

ニュース、新聞などをできるだけ読んで、今の日本及び世界で発生している環境問題を認識するように努めること。中間および最終レポートもこれらから出題する可能性が高い。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (80%)

出席票には要望や講義に対する意見を書いてもよい。簡単な質問の答えを要求することもある。

■テキスト

テキストは使用しない。

■参考文献

荻野和子、竹内茂彌、柘植秀樹 『環境と化学』 東京化学同人 2300円

谷山鉄郎 『地球環境保全概論』 東京大学出版会 2800円

石 弘之 『地球・環境・人間』 岩波科学ライブラリー 1200円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時間前後の直接連絡

■講義計画

①イントロダクション

②地球環境問題 1

③地球環境問題 2

④地球環境問題 3

⑤公害・環境問題の歴史 1

⑥公害・環境問題の歴史 2 中間レポート課題出題

⑦エネルギーと資源

⑧資源と環境 中間レポート提出

⑨生態系と生物多様性

⑩化学物質と環境：海洋汚染

⑪化学物質と環境：ごみ問題、有害廃棄物の越境移動

⑫リサイクルと循環型社会の構築 最終レポート課題の出題

⑬中国その他の環境問題

⑭環境時事問題

⑮まとめ 最終レポート提出

環境と人間B

【担当】西江 仁徳

【開講】前期 木4

■サブタイトル

ヒトの進化史からみた人間と自然の関係

■講義概要

生態人類学的な観点から人と自然の相互関係について探求する。具体的には、1. 霊長類の特徴と人類の進化について学ぶ。2. 狩猟採集民社会を中心にさまざまな民族や文化を概観し、人間社会の多様性を理解する。

■到達目標

人類学的な視点を習得するとともに、グローバル・ローカルの双方向から人と自然の関係を考える力を養う。

■講義方法

パワーポイントのスライドを用いた講義形式で進める。必要に応じてビデオを利用する。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で紹介する参考文献などに目を通して、講義内容を復習することが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義に対する質問や意見

レポート (60%) 期末レポート1回

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

受講者からの質問やコメントにもとづき、受講者の興味と理解度に合わせて柔軟に内容を変更する。平常点が評価の一定の割合を占めるので、積極的に参加する意欲のない人、簡単

に単位を取得したい人には向いていない。

■講義計画

①講義ガイダンス：環境とはなにか？

②霊長類としてのヒト：進化論的視点から

③人類の進化1：初期人類

④人類の進化2：ホモ属の出現と出アフリカ

⑤人類の進化3：現生人類の起源

⑥人種と環境

⑦生活史からみたヒト

⑧異文化理解とフィールドワーク

⑨狩猟採集民の生活と社会

⑩狩猟採集民の現在

⑪農耕・牧畜のはじまり

⑫環境の持続的利用

⑬人口問題

⑭映像鑑賞

⑮まとめ：人間と自然の共生

環境と人間B

【担当】鈴木 滋

【開講】後期 水2

■サブタイトル

人類史からみた自然と人間の関係

■講義概要

環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な関係についての理解はごくかざられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。自然環境に強く依存した生活、とくに人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史のかつ人類学的に考察する。また、ヒトによる持続的な環境の利用について、とくに人口増加と森林破壊をめぐる問題について検討する。この授業で扱う環境とは、森林などの自然をもも対象としており、地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標

環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。

■講義方法

パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト (40%) 授業時間中の小テスト
レポート (40%) 授業期間中に提出する課題レポート

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。学生アンケートによる満足度の最高値は4.1

■講義計画

- ①人類学からみる環境の視点
- ②霊長類の多様性とヒト
- ③人類の進化と環境
- ④ヒト化と出アフリカ
- ⑤新人の起源と世界進出
- ⑥人種と環境
- ⑦生活史
- ⑧人口
- ⑨中間まとめと小テスト
- ⑩狩猟採集生活 1
- ⑪狩猟採集生活 2
- ⑫農耕の起源と帰結
- ⑬環境の収容力と持続性
- ⑭里山と環境の持続性
- ⑮レポートの返却と講評

環境と倫理

【担当】柿本 佳美

【開講】前期 木4

■サブタイトル

環境問題と科学技術

■講義概要

環境倫理は、社会と技術のかかわり、土地利用の問題、南北の格差の問題、資源利用の問題など、人間社会のあり方に大きく関わる学際領域である。次世代のために守るべき自然環境とは何か、自然やそこに生きている生物の多様性とは何か、それを守るためには何をすべきか、という課題は、深刻な環境破壊が発生したときに浮かび上がる。福島第一原発事故は、避難を余儀なくされた住民への賠償と生活保障、放射線に汚染された土壌の除染、原発の受け入れ地域と原発によって得られる電力を消費する地域との間の不均衡という問題とともに、私たちに、科学技術の社会的効用と、その発展に伴う環境へのリスクのバランスをどのように取るかという問題も突きつけている。ところで、科学技術は、人間社会において生み出され、そこで共有される価値規範から影響を受けているため、どのような利害関係からも中立なままで発展するとは言いがたい。そうすると、環境に負荷をもたらす技術を生産活動に取り入れるにあたっては、予測される環境破壊の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利を守るシステムを構築する必要がある。そこで、この授業では、環境に関わる基礎理論を学ぶとともに、人間の福利と科学技術という点から環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そこに見ることのできる倫理的な課題を考察する。

■到達目標

環境倫理と環境問題についての知識を得ることで、多角的な思考が可能になることを目的とする。

■講義方法

プリントと映像資料を使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

欠席遅刻はないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト

特になし

■参考文献

加藤尚武編 『環境と倫理 (新版)』 有斐閣アルマ 1890円
関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著 『環境の社会学』 有斐閣アルマ 1900円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げる。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00～13:30、講師室

■講義計画

- ①はじめに：二つの原発事故と環境破壊
- ②エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは？
- ③科学技術と社会
- ④環境問題のはじまり：公害と環境汚染権利という視点
- ⑤環境倫理のキーワード：世代間倫理
- ⑥環境倫理のキーワード：環境的正義
- ⑦環境倫理のキーワード：技術倫理と企業の社会的責任
- ⑧環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか？
- ⑨環境問題と私たち：消費社会と経済成長神話
- ⑩環境資源と人間：水
- ⑪環境資源と人間：温暖化
- ⑫生活のなかの環境問題：自然保護という思想
- ⑬生活のなかの環境問題：土地倫理
- ⑭生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
- ⑮まとめ：技術発展と未来世代

教養教育科目特別講義A（里山学入門）（2008年度以降入学生）
共同開講科目特別講義（2003～2007年度入学生）

宮浦 富保、近藤 倫生、須藤 護、田中 滋、帖地 孝人、林 珠乃、
朴 炫国、丸山 徳次、遊磨 正秀、横田 岳人【開講】前期 月3

■サブタイトル

里山学入門 地域の自然と文化

■講義概要

里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。

■到達目標

里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法

複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。

■成績評価の方法

レポート（100%）

■テキスト

講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のすすめ』 昭和堂 2310円
丸山徳次・宮浦富保 『里山学のまなざし』 昭和堂 2310円
講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。

■講義計画

- ① 4月 9日(月) 里山の歴史と現状
- ② 4月 16日(月) 里山の自然と恵み1 山菜の種類
- ③ 4月 21日(土) 里山の自然と恵み2 山菜の利用
- ④ 4月 23日(月) 里山の環境倫理
- ⑤ 4月 28日(月) 里山の自然と恵み3 山菜の評価
- ⑥ 5月 7日(月) 里山の生物多様性1 動植物の多様性
- ⑦ 5月 14日(月) 水辺環境と里山
- ⑧ 5月 28日(月) 里を歩く1 里山と地域社会
- ⑨ 6月 2日(土) 里を歩く2 里山利用の歴史
- ⑩ 6月 4日(月) 環境社会学からみた里山
- ⑪ 6月 9日(土) 里を歩く3 里山と湖
- ⑫ 6月 11日(月) 里山の保全1 里山保全の歴史
- ⑬ 6月 16日(土) 里山の保全2 里山保全の手法
- ⑭ 6月 23日(土) 里山の保全3 里山保全の問題点
- ⑮ 6月 18日(月) 里山の生物多様性2 多様性のメカニズム
- ⑯ 6月 25日(月) 里山と山の神<日本編>
- ⑰ 7月 2日(月) 里山と山の神<韓国編>
- ⑱ 7月 9日(月) 人と自然の関係～森からの思想
- ⑲ 7月 23日(月) 総合考察

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 山中 聡

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

西洋近現代史入門

■講義概要

大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。

■到達目標

西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。

■講義方法

毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40%） 毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。

レポート（60%） 内容、枚数は講義開始時に指示

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？ 本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらおうつもりです。評価においては出席とレポートの内容

を重視しますが、単に単位を取ることを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。

■講義計画

- ① ガイダンス講義
- ② 大航海時代
- ③ ルネサンスと宗教改革
- ④ 絶対王政の時代
- ⑤ ヨーロッパ主権国家体制の展開
- ⑥ イギリスとアメリカの革命
- ⑦ フランス革命
- ⑧ ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
- ⑨ 19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
- ⑩ 帝国主義の時代
- ⑪ 第1次世界大戦とロシア革命
- ⑫ ヴェルサイユ体制、世界恐慌
- ⑬ ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
- ⑭ 特集講義1
- ⑮ 特集講義2

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 山中 聡

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

西洋近現代史入門

■講義概要

大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。

■到達目標

西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。

■講義方法

毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40%） 毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。

レポート（60%） 枚数、内容は講義時に指示

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？ 本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらうつもりです。評価においては出席とレポートの内容

を重視しますが、単に単位を取ることを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。

■講義計画

- ①ガイダンス講義
- ②大航海時代
- ③ルネサンスと宗教改革
- ④絶対王政の時代
- ⑤ヨーロッパ主権国家体制の展開
- ⑥イギリスとアメリカの革命
- ⑦フランス革命
- ⑧ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
- ⑨19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
- ⑩帝国主義の時代
- ⑪第1次世界大戦とロシア革命
- ⑫ヴェルサイユ体制、世界恐慌
- ⑬ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
- ⑭特集講義1
- ⑮特集講義2

教養教育科目特別講義C（アジアの映画）

【担当】 李 相哲

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

映画で語るアジアの歴史と文化

■講義概要

映画はその国の歴史や特定の時代を背景にしている。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、遠い昔の歴史を再現してくれたりもする。この講義は、アジアの映画を通してアジアの近現代の出来事を映像でみながら、映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活とどうつながっているのかを考えながら、映画に取り上げられる時代、国、歴史について理解を深めることを目的とする。

■到達目標

アジアの映画を通して、受講生にその国の歴史や文化を理解してもらう。具体的に、この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画に映し出されるアジアの国々の歴史、生活、文化を理解し、未知の世界を理解する方法、歴史の見方を身につける。

■講義方法

講義形式：映画を見る、映画を語る、映画を解説する、という形式ですすめる。具体的にアジア（特に日・中・韓）の近現代歴史と関連のある映画、人々の生活を題材にした映画を鑑賞しながら、その映画ができるまでの背景、その映画に取り上げられる時代、主人公について、場合によっては役者について解説するという方法です。

■系統的履修

アジアの文化、欧米の文化

■授業時間外における予・復習等の指示

その都度指示する

■成績評価の方法

平常点（10%） 講義中に取り上げる映画をみたか
小テスト（0%）

レポート（20%） 映画に関する感想文

定期試験（70%）

出席はとらない。ただし、試験は授業中の内容（映画の内容を含む）が中心となる。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日12時30分～13時30分 連絡方法：
cieli@soc.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①講義の進め方について：スケジュール、講義方法を知ってもらう（必ず出席すること）
- ②韓国映画と朝鮮半島の歴史：韓国と北朝鮮映画について
- ③韓国映画（1）：分断国家の悲劇を知る
- ④韓国映画（2）：韓国の文化事情、映画産業について
- ⑤韓国映画（3）：韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
- ⑥韓国映画から韓国の近代を読む：韓国の近代
- ⑦韓国映画から韓国文化を知る：韓国の文化
- ⑧中国映画（1）：中国の近代
- ⑨中国映画（2）：中国の文化
- ⑩中国映画（3）：中国の現代
- ⑪中国映画で社会を読む：中国の現代
- ⑫中国映画のなかの中国と中国文化：経済発展の裏に潜む社会問題、中国の現在
- ⑬日本映画：日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
- ⑭映画で語るアジアの歴史：現代アジアの家族、英雄像
- ⑮映画で語るアジアの文化：アジア映画にみる日中韓関係

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖

【開講】前期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習は必ずしも必要としませんが、各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより、知識を深めることが望めます。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることが、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史を紐解く—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王信仰の世界—
- ⑦現地実習（滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑧近江の山岳信仰・修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰
- ⑩近江商人の信仰と浄土真宗
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江に伝わる文化財—仏像と経典—
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現代に息づく近江の仏教文化（現地実習を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖

【開講】後期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習は必ずしも必要としませんが、各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより、知識を深めることが望めます。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることが、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史を紐解く—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王信仰の世界—
- ⑦現地実習（滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑧近江の山岳信仰・修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰
- ⑩近江商人の信仰と浄土真宗
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江に伝わる文化財—仏像と経典—
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現代に息づく近江の仏教文化（現地実習を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 E（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤 彰男

【開講】前期 木3

■講義概要

本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国におけるいくつかの社会問題を取りあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。

■到達目標

アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。

■講義方法

基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に適宜指示する。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末に論述式の試験を実施する。

■テキスト

授業中に適宜指定する。

■参考文献

恩田守雄 『開発社会学-理論と実践』 ミネルヴァ書房
3800円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②途上国の社会問題
- ③グローバリゼーションと貧困の構造
- ④植民地化の歴史と社会構造のひずみ
- ⑤農村の困窮と膨張する都市貧困層
- ⑥教育と階層間格差
- ⑦宗教・ジェンダー・人権問題
- ⑧「後進性」と環境汚染
- ⑨公害の域外転嫁
- ⑩社会開発の目的と理念
- ⑪途上国援助の歴史
- ⑫開発援助における住民参加とエンパワーメント
- ⑬NGOの役割
- ⑭マイクロファイナンスの試み
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）

【担当】宮川 尚子

【開講】前期 木3

■講義概要

栄養は人体を構成する重要な要素であるが、情報過多の現代において基本的知識を持たずに栄養に関する正しい情報を取捨選択することは甚だ困難である。そこで本講義では、正しい栄養情報を選び取る視点を養うことを目的として、3つの大きなテーマについて学習する。(1) 古今東西の栄養疫学研究より栄養についてマクロな視点を学ぶ (2) 個人が摂取するエネルギーと栄養素について基本を学ぶ (3) 現代社会の健康問題の1つである生活習慣病と食事の関連についてマクロとミクロな視点から学ぶ。

■到達目標

栄養について疫学的、生態学的視点から学ぶことにより、正しい栄養情報を選び取る視点を養う

■講義方法

講義形式を基本とするが、履修人数により小グループによるディスカッションや作業を行う場合がある

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（40％）授業後の小レポートを出席点とする
定期試験（60％）

■テキスト

特になし

■参考文献

中村丁次 『栄養学』 医学書院 1995円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②食を通して見えるもの①
- ③食を通して見えるもの②
- ④食を通して見えるもの③
- ⑤栄養素とは何か
- ⑥食べ物の消化・吸収と代謝
- ⑦何をどれだけ食べたら良いのか①
- ⑧何をどれだけ食べたら良いのか②
- ⑨青年期・妊娠期の食事
- ⑩生活習慣病と食事①
- ⑪生活習慣病と食事②
- ⑫生活習慣病と食事③
- ⑬生活習慣病と食事④
- ⑭最近の栄養疫学研究
- ⑮まとめ

■講義概要

テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康 (2) スポーツ・運動と身体的な健康 (3) スポーツ・運動と心の精神的健康 (4) 食生活とスポーツ

■到達目標

現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法

講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

最初の講義で紹介する。

■講義計画

- ①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
- ②①スポーツや運動への参加状況
 - ②運動は寿命を長くするか。
- ③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
- ④健康に関する体力要素
- ⑤エネルギー供給システムの違いについて
- ⑥①運動処方について
 - ②運動によるウェイトコントロール
- ⑦レジスタンストレーニング
- ⑧①ストレスと運動
 - ②行動パターンと運動
- ⑨①スポーツ・運動と精神的健康
 - ②運動の実践による心理的効果
- ⑩①運動により心理的効果のメカニズム
 - ②運動の実践による自己概念の向上
- ⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
- ⑫スポーツ栄養学について
- ⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
- ⑭スポーツ科学の基礎知識
- ⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

- ①はじめに ― 現代における宗教
- ②宗教と物語 (1)
- ③宗教と物語 (2)
- ④宗教と原理主義 (1)
- ⑤宗教と原理主義 (2)
- ⑥宗教と悪 (1)
- ⑦宗教と悪 (2)
- ⑧宗教と寛容 (1)
- ⑨宗教と寛容 (2)
- ⑩宗教と生命 (1)
- ⑪宗教と生命 (2)
- ⑫宗教と死刑 (1)
- ⑬宗教と死刑 (2)
- ⑭宗教と死刑 (3)
- ⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 現代における宗教

②宗教と物語 (1)

③宗教と物語 (2)

④宗教と原理主義 (1)

⑤宗教と原理主義 (2)

⑥宗教と悪 (1)

⑦宗教と悪 (2)

⑧宗教と寛容 (1)

⑨宗教と寛容 (2)

⑩宗教と生命 (1)

⑪宗教と生命 (2)

⑫宗教と死刑 (1)

⑬宗教と死刑 (2)

⑭宗教と死刑 (3)

⑮まとめ

現代社会とスポーツ

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ (DVD、VHS) を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況および受講態度

小テスト (20%) 毎授業後のプリント

レポート (20%) 中間試験・講義内容 (前半) をもとに出題する。記述式。

定期試験 (40%) 講義内容 (後半) をもとに出題する。記述式。

その他 (0%)

出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■講義計画

①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。

②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。

③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。

④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。

⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科 (保健体育科) の目標と内容を中心に考えます。

⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。

⑦中間試験

⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。

⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。

⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。

⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。

⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。

⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最新の睡眠の科学的知見を学びます。

⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。

⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。

⑯定期試験

現代社会とスポーツ

【担当】 辻 延浩

【開講】 後期 金1

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容（前半）をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出题する。記述式。
その他（0%）
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■講義計画

- ①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
- ②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
- ③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
- ④ホイジンガとカイヨウのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
- ⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
- ⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
- ⑦中間試験
- ⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
- ⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
- ⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
- ⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
- ⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
- ⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
- ⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
- ⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
- ⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】 岡野 英一

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

現代社会における社会福祉の意味を考える

■講義概要

社会福祉のありようについて可能な限り包括的かつ体系的に展望する。

■到達目標

社会福祉を通じた科学的な社会認識力を養うとともに、社会福祉専門職取得における最低限の知識習得を目指す。

■講義方法

基本テキストに沿って、計画的に講義を進めます。

■系統的履修

でき得れば地域福祉論の履修を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回基本テキストの内容について予習を求めます。

■成績評価の方法

平常点（40%）
小テスト（10%）前期中間時に実施します。
レポート（20%）1回のレポート課題を出します。
定期試験（30%）
欠席を5回すると、単位認定いたしません。

■テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会 『現代社会と福祉』 中央法規 2600円

■参考文献

山縣文治・岡田忠克 『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房 2400円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

携帯電話 09015897992に連絡ください、時間を調整して相談に応じます。

メール ying1-g@docomo.ne.jp またはying1-g@nike.eonet.ne.jpへ連絡ください。

■講義計画

- ①視点と枠組み：社会福祉の新たな展開と福祉政策理解の枠組みを学ぶ
- ②社会の変化と福祉：現代社会の変化と福祉について、歴史的変遷から学ぶ
- ③福祉と福祉政策：社会福祉政策の動向を学び、社会福祉士の役割を考察する
- ④福祉の思想と哲学：福祉の底流にある思想と哲学を学ぶ
- ⑤社会政策と福祉政策：福祉政策を社会政策の観点から捉えなおす
- ⑥福祉政策の発展過程：福祉政策の歴史的変遷を学ぶ
- ⑦少子高齢化時代の福祉政策：近年の福祉政策の動向を学ぶ
- ⑧福祉政策における必要と資源：ニーズを通じた福祉政策のありようを学ぶ
- ⑨福祉政策の理念・主体・手法：福祉政策の考え方、政策決定過程・評価手法について学ぶ
- ⑩福祉政策の関連領域：福祉を取り巻く関連領域の政策とその連動性を学ぶ
- ⑪社会福祉制度の体系：社会福祉制度の構造と福祉サービスのありかたを学ぶ
- ⑫福祉サービスの提供：福祉サービスの供給・提供体制と利用システムを学ぶ
- ⑬福祉サービスと援助活動：ソーシャルワーク手法と地域福祉への連動を学ぶ
- ⑭福祉教育の国際比較：福祉政策の在り方を世界的視野で学ぶ
- ⑮福祉政策の課題と展望：今日の社会動向と福祉政策上の課題を総括的に学ぶ

■サブタイトル

メディア・リテラシー

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。 テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。 国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席重視。

レポート (30%) 講義で習得したことを1400字でまとめる。
最終講義かその前の講義時にレポートを提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1575円

オリエンテーションにて説明。

■参考文献

参考文献はオリエンテーションにて説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②講義概要の目的に従いながらも時勢の変化を考慮してタイムリーな講義を行う。
- ③同上
- ④同上
- ⑤同上
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧同上
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪同上
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭総括
- ⑮総括

■サブタイトル

メディア・リテラシー

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。 テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。 国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。

■系統的履修

毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席、積極的発言を重視。

レポート (30%) 講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日かその前の講義中に提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1575円

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養(リベラル・アーツ)を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②講義概要の目的に従いながらも時勢の変化を考慮してタイムリーな講義を行う。
- ③同上
- ④同上
- ⑤同上
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧同上
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪同上
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村 敏雄

【開講】後期 水2

■サブタイトル

メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要

情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。3・11の東北震災では政府や東電の情報を踊らされた。それらの情報から「真実」を見抜く視点を養うことが求められている。

■到達目標

いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法

①新聞読み比べ②個人の研究発表③レジュメに沿った授業の3形式で行う、新聞、ビデオを見る。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の前には前の週のから新聞やテレビで何が世の中で起きているかを考えてくること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席3回まで、4回になると自動的に受講資格なしになる。

小テスト (60%) 小レポートを3回 (各1200字)

■テキスト

『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房

毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献

『メディアコントロール』 集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法

toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画

- ①ガイダンス：授業の進め方
- ②メディアリテラシー：この授業の意義や意味
- ③メディアが発信する情報の作られ方：新聞が読者に届くまで
- ④メディアの現場：新聞記者の一日
- ⑤人権と報道①：オウム松本サリン事件
- ⑥人権と報道②：同上
- ⑦人権と報道③：神戸連続殺人事件
- ⑧プライバシー報道：サカキバラセイ事件から
- ⑨戦争とメディア①：ベトナム戦争
- ⑩戦争とメディア②：イラク戦争
- ⑪戦争とメディア③：同上
- ⑫冤罪報道①：痴漢報道
- ⑬冤罪報道②：選挙違反
- ⑭冤罪報道③：自白の強要
- ⑮小レポート：14回分の授業の確認

現代の技術

【担当】吉川 恒夫、池田 昌彦

【開講】後期 月3

■サブタイトル

現代社会を支える先進技術

■講義概要

本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短かに紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。

後半の講義は明治以後の産業技術論が中心である。現在の日本の多くの産業・技術の源は約150年前のわずかに約50年の間に立ち上げられたものである。本講義では明治初期の技術シーズが如何に構築され社会ニーズに対応したか、明治50年間の広い産業技術分野での発展過程とその背景を整理する。その中で、環境・公害問題それに伴う企業理念や技術者理念の変化の背景をも見ることができる。これからのポスト産業主義時代に求められているパイ型人間（多くの分野に判断できる能力を有する人）の1つの要件は、知識の整理と社会に対する行動力である。本講義は社会と産業技術の関連を解析し行動するための技術論である。さらに実例として第2次世界大戦後の社会ニーズに対応した最近の分析装置・技術の開発での体験も交え講義を行う。

■到達目標

現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法

プリントを配布し、それに準じて講義する。

■系統的履修

「生活の中の物理」（教養教育科目）

■授業時間外における予・復習等の指示

現代技術に関する新聞、TVなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法

レポート (15%)

定期試験 (50%)

その他 (35%) 中間試験

前半は、授業途中で課すレポートの成績 (15点満点) と中間試験の成績 (第8回目授業時に実施、35点満点) によって評価する (合計50点満点)。

後半は定期試験 (100%) を50点とする。

前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。 中間試験は持込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

特に設けない。

■講義計画

- ①現代技術序論 (技術略史、現代技術概説)
- ②コンピュータ技術 (アナログとデジタル、計算機の歴史、計算機的应用)
- ③輸送技術 (自動車、鉄道、飛行機、ロケット)
- ④エネルギー技術 (エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題)
- ⑤微細技術 (マイクロマシン、ナノ技術)
- ⑥ロボット技術1 (ロボット技術の歴史、産業用ロボット)
- ⑦ロボット技術2 (ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来)
- ⑧中間試験・復習
- ⑨幕末・明治への科学技術情報と社会構造の変化
- ⑩明治政府の産業基盤整備・殖産興業政策と富国強兵
- ⑪産業各論 1 (化学、造船)
- ⑫産業各論 2 (機械、通信・鉄道)
- ⑬産業各論 3 (金属・電力・その他)
- ⑭分析機器の発展と社会ニーズ (環境高感度無機計測技術)
- ⑮まとめ

■サブタイトル

日本の安全保障のあり方を考えよう。

■講義概要

今年は、アメリカから沖縄の施政権が返還されて40年の節目の年である。「核抜き、本土並み」が謳われながら、今なお、在日米軍基地（専用施設）の約74%は沖縄に集中している。そこで、この講義では、日本の安全保障政策がこれまでどのようにして立案されてきたのかを振り返りながら、今後の日本の安全保障のあり方について考えてみることにしたい。

■到達目標

1) 新聞の「政治」「国際」欄について、関心を持ってみるようになる。2) 沖縄と本土との関係性を考えると同時に、日本の近隣の国々との関係性を問い直すことによって、「平和」のあり方を考えることができるようになる。

■講義方法

講義中心だが、視聴覚教材を併用する。

■系統的履修

平和学入門

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞を毎日チェックすること。できれば、複数紙を読み比べて、記述内容の違いに目配りをする。e-ラーニングシステムを活用して、掲示板などに書き込みをして、政治・社会に関する質問などを積極的に行うこと。受講生同士の議論ができればなおよい。

■成績評価の方法

小テスト (0%)
レポート (10%) 中間レポートを課す
定期試験 (90%) 論述2題である。持ち込み自由（コピー不可）。自分の考えを論理的に説明できているかが評価基準である。
その他 (0%)
定期試験の成績に、中間レポートの点数を加点する。

■テキスト

安斎育郎、池尾靖志編 『日本から発信する平和学』 法律文化社

■参考文献

池尾靖志、伊波洋一、井原勝介 『地域から平和をきずく』 晃洋書房

■履修上の注意・担当者からの一言

e-ラーニングシステムを使用する。講義でのパワーポイントは、e-ラーニングシステムからダウンロードできるようにする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

担当者のHPにあるメールアドレスがある。また、e-ラーニングシステムに質問を書き込めるスペースをつくるので、積極的に活用すること。

■講義計画

- ① ガイダンス、国際関係の基本構造について
- ② 日本の安全保障の実際 (1)
- ③ 日本の安全保障の実際 (2)
- ④ 日米安保体制の成立
- ⑤ 沖縄の施政権返還と日米密約
- ⑥ デタント期における日米安保
- ⑦ 第2次冷戦と日米安保
- ⑧ 日本の国際貢献論
- ⑨ 有事法制の成立
- ⑩ 米軍再編にともなう地域の対応 (1): 本土の場合
- ⑪ 少女暴行事件とSACO合意
- ⑫ 米軍再編にともなう地域の対応 (2): 沖縄の場合
- ⑬ 核の傘に依存した日米安保体制
- ⑭ 脱軍事化をめざして: 北東アジアに安全保障共同体をつくることは可能か
- ⑮ これからの日米関係とアジア
- ⑯ 期末試験

■サブタイトル

思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要

本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経験した日本は多くの困難を抱えています。それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況として私たちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。

■到達目標

・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法

基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に取ったノートを整理してください。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 論述形式をとります。

試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示します。

■講義計画

- ① はじめに
- ② 「国際化」と「グローバル化」
- ③ 西欧近代とは何か (1)
- ④ 西欧近代とは何か (2)
- ⑤ 西欧近代とは何か (3)
- ⑥ 西欧近代とは何か (4)
- ⑦ 西欧近代とは何か (5)
- ⑧ 近代性の三つの波 (1)
- ⑨ 近代性の三つの波 (2)
- ⑩ 近代性の三つの波 (3)
- ⑪ 明治維新と武士道
- ⑫ 文明開化と個人主義
- ⑬ 近代美術と東洋の美
- ⑭ 「近代の超克」と太平洋戦争
- ⑮ おわりに

■講義概要

「2012年現在の世界は平和ですか？」と問われたら、多くの人が「平和ではない」と答えるでしょう。紛争や戦争、暴力や人権侵害がまだ地球上から絶えていないからです。では「日本は平和ですか？」と問われたらどう答えますか？平和だと言えるかどうか迷う人も多いかもしれません。なぜなら日本は現在、直接的な戦争状態にないとは言っても、年間の自殺者数が3万人を超え、相対的貧困率も15%近くにのぼるからです。この授業は、こうした世界および日本の現実（の一端）を国際関係論の視点から知るための試みです。私たちの日常生活に関わる細かな出来事も実は、世界規模で動く大きな流れの中で進展しています。その繋がりに気付くことが大切です。

■到達目標

1. 世界および日本の現実（の一端）を国際関係論の視点から知る
2. 自らの日常生活が、世界の潮流とどのように結びついているのかを理解する

■講義方法

レクチャー形式で授業を進めますが、受講生からの積極的な発言や質問を歓迎します。授業ではパワーポイント等の視聴覚資料を使いますが、それらのスライドを印刷・配布することはありません。授業中は各自でノートをとってください。補足資料（新聞記事など）は、必要に応じて印刷・配布しますが、翌週以降の再配布はしません。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストをもとに授業を進めますので、各自で予習復習を欠かさないようにしてください。また、類似したトピックに関する新聞記事に日頃から注目しておくなどすると、より学びが深まります。

■成績評価の方法

定期試験（100%）持ち込み不可

出席は成績に含まれませんが、定期試験の内容は授業を受講していないと解くのが難しい問題がほとんどです。

■テキスト

中村 都 『国際関係論へのファーストステップ』 法律文化社 2500円

■参考文献

授業時に適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

理論などの抽象的な話や行ったことがない外国の話も多く登場します。日頃から、抽象的な思考や想像力を養うトレーニングしておきましょう。

■講義計画

- ①イントロダクション 受講のルールおよび到達目標の確認
- ②テキスト1-1 グローバル化と格差
- ③テキスト1-2 途上国の貧しさ・先進国の貧しさ①
- ④テキスト1-2 途上国の貧しさ・先進国の貧しさ②
- ⑤テキスト1-4 多発する紛争と資源収奪
- ⑥テキスト1-5 安全保障と軍事
- ⑦テキスト2-8 持続可能な社会をめざして
- ⑧中間リフレクション 私たちにできること
- ⑨テキスト3-12 異文化交流・理解の試み
- ⑩テキスト4-16 人間の安全保障
- ⑪テキスト5-18 NGOによる開発支援の変化
- ⑫テキスト5-19 社会的企業の可能性
- ⑬テキスト5-20 グローバル化と社会福祉の変容
- ⑭テキスト5-23 グローバル市民社会の可能性
- ⑮リフレクション まとめ

ジェンダー論

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニテスト

定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円

「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円

授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か（1）：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か（2）：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か（3）：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖（1）：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖（2）：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

ジェンダー論

[担当] 山下 明子

[開講] 前期 月2

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況およびミニテスト

定期試験 (80%) 論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円
「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円
授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か (1)：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か (2)：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か (3)：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖 (1)：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖 (2)：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

ジェンダー論

[担当] 山下 明子

[開講] 前期 月3

■サブタイトル

グローバル化とジェンダー

■講義概要

「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながるができるかについて考えたい。

■到達目標

ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法

講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況およびミニテスト

定期試験 (80%) 論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

山下明子 『戦争とおんなの人権』 明石書店 1800円

山下明子 『アジアの女たちと宗教』 解放出版社 1700円
「大峰山女人禁制」の解放を求める会編 『現代の「女人禁制」－性差別の根源を探る』 解放出版社 2400円
授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画

- ①オリエンテーション：性差を考える
- ②ジェンダーとは何か (1)：セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
- ③ジェンダーとは何か (2)：性の多様性について
- ④ジェンダーとは何か (3)：LGBTとジェンダーの関係
- ⑤国際化する女性問題：貧困の女性化について
- ⑥国際化する女性運動：世界女性会議とその歴史
- ⑦性と生殖 (1)：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
- ⑧性と生殖 (2)：妊娠・中絶・出産を考える
- ⑨男性解放の思想：メンズ・リブとは何か
- ⑩男性解放の運動：ドメスティック・バイオレンスをなくすために
- ⑪セクシュアル・ハラスメント：セクハラはなぜ起きるのか
- ⑫戦時下の性暴力：日本軍「慰安婦」問題を考える
- ⑬人身売買と性産業：トラフィッキングについて
- ⑭企業とジェンダー：日本の変化と現状
- ⑮経済のグローバル化とジェンダーのまとめ：ジェンダーの再編について

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

・メディアの基本的な特性と役割を理解している。・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑭芸術とメディア： デジタルアート、デザイン
- ⑮総括： 情報社会を哲学する

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

・メディアの基本的な特性と役割を理解している。・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑭芸術とメディア： デジタルアート、デザイン
- ⑮総括： 情報社会を哲学する

■講義概要

我々の社会生活に不可欠な「情報」というものを、主として科学・技術的な側面から学習する。まず、情報の性質と特徴を明らかにするとともに、コンピュータ、インターネットのしくみを学ぶ。また、情報という観点から、人間の特質、機械と人間の違いなどにも触れ、情報と人間の関係や情報社会のしくみや在り方を考える。そこから、人間にとって情報とは何なのかを導き出す。

■到達目標

情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットのしくみとこれを利用するのに必要な知識を習得することを目標とする。

■講義方法

原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習・復習に活用すること。なお、講義ノートはプリントアウトして授業に持参することを強く推奨する。

■成績評価の方法

小テスト (100%)

授業中の筆記テスト (100点満点) の成績により評価する。

■テキスト

なし

■参考文献

川合 慧 『情報』 東京大学出版会 1900円

回陽 博史 『情報と人間』 オーム社 2200円

その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要

不可欠の知識です。好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得してください。単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしいと思います。

なお、本科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容 (と理工学部生として当然身につけているはずの教養) を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることは無いと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目 (理工系でない科目) を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

理工学部電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画

- ①情報とは何か
- ②情報の表現と性質1
- ③情報の表現と性質2
- ④情報の伝達と通信
- ⑤問題の表現と解き方
- ⑥コンピュータのしくみ
- ⑦インターネットのしくみ
- ⑧まとめ
- ⑨感覚系と記憶系
- ⑩脳の情報処理
- ⑪遺伝子と進化
- ⑫インタフェース
- ⑬情報技術と社会
- ⑭筆記テスト
- ⑮まとめと質疑応答

情報倫理

■サブタイトル

情報社会における心理・技術・法

■講義概要

情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標

人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法

講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (10%)

レポート (40%)

定期試験 (30%)

■テキスト

特になし

■参考文献

A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』 北大路書房 2800円

Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社 2500円

名和小太郎 『情報の私有・共有・公有 ユーザーからみた著作権』 NTT出版 2500円

■講義計画

- 第1～5回：インターネットにおける行動と心理 (担当：野村)
 第6～9回：コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理 (担当：野村)
 第10回：確認のための小テスト (担当：野村)
 第11～14回：関連法律、現行法の問題点および今後の動向 (担当：芝原)
 第15回：総括 (担当：野村)

人権論A

【担当】松本 城洲夫

【開講】前期 月2

■サブタイトル

「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

法学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○人権とは何か（人権の総論）
- ②「差別」からのアプローチ ○部落差別について①概論
- ③「差別」からのアプローチ
○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
- ④「差別」からのアプローチ
○部落差別について③自治体の啓発活動から
- ⑤「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (1)
- ⑥「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (2)
- ⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ
○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
- ⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (1)
- ⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (2)
- ⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (1)
- ⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (2)
- ⑫「人権の文化」からのアプローチ
○世界人権宣言について
- ⑬「人権の文化」からのアプローチ
○人権教育・啓発について
- ⑭「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (1)
- ⑮「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (2)

人権論A

【担当】松本 城洲夫

【開講】前期 月3

■サブタイトル

「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

法学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○人権とは何か（人権の総論）
- ②「差別」からのアプローチ ○部落差別について①概論
- ③「差別」からのアプローチ
○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
- ④「差別」からのアプローチ
○部落差別について③自治体の啓発活動から
- ⑤「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (1)
- ⑥「差別」からのアプローチ ○偏見と社会意識 (2)
- ⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ
○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
- ⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (1)
- ⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ ○日本国憲法 (2)
- ⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (1)
- ⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ
○人権行政について (2)
- ⑫「人権の文化」からのアプローチ
○世界人権宣言について
- ⑬「人権の文化」からのアプローチ
○人権教育・啓発について
- ⑭「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (1)
- ⑮「人権の文化」からのアプローチ ○アメリカの公民権法 (2)

人権論A

【担当】 原口 剛

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

釜ヶ崎と人権

■講義概要

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。

■到達目標

本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生活しているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

■講義方法

教科書をもとに講義を進めていく。また、映像等の資料も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)

■テキスト

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のススメ』
洛北出版 2520円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②釜ヶ崎とはどこか①
- ③釜ヶ崎とはどこか②
- ④釜ヶ崎とはどこか③
- ⑤寄せ場とはなにか①
- ⑥寄せ場とはなにか②
- ⑦寄せ場とはなにか③
- ⑧釜ヶ崎の歴史①
- ⑨釜ヶ崎の歴史②
- ⑩釜ヶ崎にみる人権①
- ⑪釜ヶ崎にみる人権②
- ⑫映像でみる寄せ場と人権①
- ⑬映像でみる寄せ場と人権②
- ⑭映像でみる寄せ場と人権③
- ⑮まとめ

人権論A

【担当】 原口 剛

【開講】 前期 水5

■サブタイトル

釜ヶ崎と人権

■講義概要

釜ヶ崎とは、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。釜ヶ崎の日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、その労働や生活は、さまざまな面で差別され、人権を奪われてきた。本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を捉え、考えていく。

■到達目標

本講義では、さまざまな視点から釜ヶ崎を考えることをつうじて、釜ヶ崎についての正しい知識を習得すると同時に、わたしたちはどのような社会を生活しているのかという問いを、受講生ひとりひとりの課題として考えてもらいたい。

■講義方法

教科書をもとに講義を進めていく。また、映像等の資料も適宜活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (0%)
小テスト (0%)
レポート (0%)
定期試験 (100%)

■テキスト

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のススメ』
洛北出版 2520円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②釜ヶ崎とはどこか①
- ③釜ヶ崎とはどこか②
- ④釜ヶ崎とはどこか③
- ⑤寄せ場とはなにか①
- ⑥寄せ場とはなにか②
- ⑦寄せ場とはなにか③
- ⑧釜ヶ崎の歴史①
- ⑨釜ヶ崎の歴史②
- ⑩釜ヶ崎にみる人権①
- ⑪釜ヶ崎にみる人権②
- ⑫映像でみる寄せ場と人権①
- ⑬映像でみる寄せ場と人権②
- ⑭映像でみる寄せ場と人権③
- ⑮まとめ

人権論A

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとはいえない。「部落差別はよくない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまへの言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかを理解できるように題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

定期試験（100%）

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。

■講義計画

- ①部落問題とは何か
- ②今日の差別事象ー結婚差別を考える
- ③被差別部落の実態ー統計資料より
- ④被差別部落の実態ー統計資料より
- ⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥古い問題、新しい問題
- ⑦部落の新しい世代
- ⑧ある唄から部落を見る①
- ⑨ある唄から部落を見る②
- ⑩賤民の歴史ー中世・近世
- ⑪部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑫部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑬部落の人々が語ること
- ⑭部落とは何か
- ⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】 岸 衛

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

自分を見つめ・差別を見つめ・世間を見つめる

■講義概要

- 1 差別は人と人の中で起こる。人との関係の中で「自分」をどうとらえるかという課題を考える。自分と他人の関係の結び方、「まなざし」と差別、「アイデンティティ」について考える。
- 2 被差別部落に対する差別意識を中心に、自分の中の差別する心を見つめる。
- 3 日本人の差別意識の根底で生き続ける「世間」について考えを深めていきたい。世間における人と人との関係を明らかにしながら、日本人の「原風景」や生活意識の中の「ケガレ意識」や「恐れ・怖れ」の視点から日本における部落差別の根底を探る。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目を身につける。
- *自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
- *本を読む習慣を身につける。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。

■成績評価の方法

平常点（30%）講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート（20%）講義の中でテーマを課し、レポートを提出する
定期試験（50%）

■テキスト

岸 衛 『自分・差別・世間 第2版』 反差別国際連帯解放研究所しが 700円

■参考文献

遠藤周作 『ほんとうの私を求めて』 集英社文庫 457円
阿部謹也 『「教養」とは何か』 講談社現代新書 750円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②知ってもらいたい「自分」
- ③「まなざし」と差別
- ④まとめ：「自分を見つめる」
- ⑤被差別部落を「なぜ、差別するのか」という問題
- ⑥恐れながら遠ざける「差別」
- ⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
- ⑧賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
- ⑨日本人の「原風景」と差別
- ⑩結婚をめぐる
- ⑪まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
- ⑫世間とは何か
- ⑬世間の中の「自分」
- ⑭「世間」の中でどう生きるか
- ⑮まとめ：「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水3

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、となく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」に着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思っています。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
- ⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
- ⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
- ⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
- ⑨在日外国人の人権④～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪日本映画の中の在日コリアン
- ⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
- ⑬ハンセン病患者者の記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮しめくり～試験～

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水4

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、となく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連における1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題であるとは説明されていません。「人権」とは、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチが「対話力」向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思っています。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
- ⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
- ⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
- ⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
- ⑨在日外国人の人権③～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪日本映画の中の在日コリアン
- ⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
- ⑬ハンセン病患者者の記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮しめくり～試験～

人権論B

【担当】松本 城洲夫

【開講】後期 月2

■サブタイトル

「人権自己認識」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

文学、哲学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) ・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○「人権」とは何か（人権の総論）
- ②「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○人権概念の翻案について
- ③「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
- ④「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○自由民権運動について
- ⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (1)
- ⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (2)
- ⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (1)
- ⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (2)
- ⑨「個人の確立」からのアプローチ
○黒澤明監督の目ざしたもの
- ⑩「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (1)
- ⑪「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (2)
- ⑫「個人の確立」からのアプローチ ○音楽と人権について
- ⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ
○パブリックと社会について
- ⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ
○日本の倫理思想と人権について
- ⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ
○様々な日本人論から

人権論B

【担当】松本 城洲夫

【開講】後期 月3

■サブタイトル

「人権自己認識」問題から人権を考える

■講義概要

「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切に、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標

「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法

講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修

文学、哲学、社会学、歴史学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義時に配布するテキストを復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) ・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める (3回) …30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート (60%) 全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める

■テキスト

講義時に配布

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画

- ①オリエンテーション ○「人権」とは何か（人権の総論）
- ②「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○人権概念の翻案について
- ③「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
- ④「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○自由民権運動について
- ⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (1)
- ⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○文学者たちの近代化論 (2)
- ⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (1)
- ⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ
○哲学者たちの近代化論 (2)
- ⑨「個人の確立」からのアプローチ ○黒澤明監督の目ざしたもの
- ⑩「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (1)
- ⑪「個人の確立」からのアプローチ ○世間と個人について (2)
- ⑫「個人の確立」からのアプローチ ○音楽と人権について
- ⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ
○パブリックと社会について
- ⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ
○日本の倫理思想と人権について
- ⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ
○様々な日本人論から

人権論B

【担当】中川 ユリ子

【開講】後期 月3

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と言う大人たちは、少ないとは言えない。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、そのタレントに違和感を感じる人はどのぐらいいるのだろうか。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。社会の入口の就職活動では、企業の対応にあからさまな差別はなくなったものの、男子学生の方が就職の決定が一般的に早い。現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。「らしさ」の呪縛から解放されるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられるー性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのかー絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのかー学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのかー学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのかーTVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのかーTVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのかー抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制ー伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方ー同性愛
- ⑭多様な性のあり方ー同性愛
- ⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】岸 衛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

「差別問題」から「生きられた経験」の世界へ
ー ライフストーリー・インタビューへの招待 ー

■講義概要

- 1 ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活史の「語り」である。滋賀県内でのライフストーリーインタビューを紹介しながら、被差別の「声」に学ぶ。
- 2 今まで、部落問題を差別問題として描いてきた。ここでは、「語り」を中心に「生きられた経験」として紹介する。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目が身につく。
- *自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
- *本を読む習慣が身につく。
- *「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの次章を、事前に読み込んでくる。

■成績評価の方法

平常点（15%）講義ごとにコミュニケーションカードを提出する
レポート（35%）講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。
定期試験（50%）全体から、提出する

■テキスト

岸 衛・桜井厚著 『差別問題から「生きられた経験」の世界へ』 せりか書房 2500円

■参考文献

桜井厚 『境界文化のライフストーリー』 せりか書房 2500円
桜井厚・岸衛 編 『屠場文化…語られなかった世界…』 創土社 2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編 『語りのちから』 弘文堂 2415円

■講義計画

- ①ライフストーリーインタビューとは何か
- ②ライフストーリーの聞き方
- ③宮本常一の世界
- ④戦中・戦後を生きる 生活のための仕事
- ⑤解放への願い
- ⑥部落を横切る人たち 部落外に住んで
- ⑦親から子に「部落を伝える」
- ⑧伝統の技に生きる 靴職人の世界
- ⑨「嫁込み」の物語
- ⑩「屠場文化」
- ⑪屠畜をめぐる
- ⑫滋賀から「皮革の技」を持って東京へ
- ⑬差別を越えて 若者たちの「自己認識」
- ⑭若者世代の新たな動き
- ⑮「生きられた経験」としての部落問題

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水3

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見せられ、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見せられ、その上で意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。

その他（20%）授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か？①～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か？②～女性の人権をめぐる～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる～
- ⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにが問題視されたのか～
- ⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か①～沖縄と戦争、基地～
- ⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害
- ⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭しめくり～試験～

人権論B

【担当】原口 剛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

ホームレスと人権

■講義概要

1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。

■到達目標

日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うこと。

■成績評価の方法

平常点（0%）

小テスト（0%）

レポート（0%）

定期試験（100%）

その他（0%）

■テキスト

特になし

■参考文献

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のスヌメ』
洛北出版 2520円

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②寄せ場とホームレス①
- ③寄せ場とホームレス②
- ④寄せ場とホームレス③
- ⑤寄せ場とホームレス④
- ⑥「ホームレス」とは誰か①
- ⑦「ホームレス」とは誰か②
- ⑧「ホームレス」とは誰か③
- ⑨「ホームレス」とは誰か④
- ⑩公共空間と社会的排除①
- ⑪公共空間と社会的排除②
- ⑫公共空間と社会的排除③
- ⑬公共空間と社会的排除④
- ⑭公共空間と社会的排除⑤
- ⑮まとめ

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水4

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反党派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か？①～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か？②～女性の人権をめぐる～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる～
- ⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにが問題視されたのか～
- ⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
- ⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害
- ⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭しめくくり～試験～

人権論B

【担当】原口 剛

【開講】後期 水5

■サブタイトル

ホームレスと人権

■講義概要

1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。

■到達目標

日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■授業時間外における予・復習等の指示

しっかり復習をし、自分なりの問題意識を培うこと。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

その他 (0%)

■テキスト

特になし

■参考文献

原口剛・稲田七海・白波瀬達也・平川隆啓 『釜ヶ崎のススメ』
洛北出版 2520円

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②寄せ場とホームレス①
- ③寄せ場とホームレス②
- ④寄せ場とホームレス③
- ⑤寄せ場とホームレス④
- ⑥「ホームレス」とは誰か①
- ⑦「ホームレス」とは誰か②
- ⑧「ホームレス」とは誰か③
- ⑨「ホームレス」とは誰か④
- ⑩公共空間と社会的排除①
- ⑪公共空間と社会的排除②
- ⑫公共空間と社会的排除③
- ⑬公共空間と社会的排除④
- ⑭公共空間と社会的排除⑤
- ⑮まとめ

スポーツ文化論

【担当】 松下 唯夫

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ

■講義概要

スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。

■到達目標

スポーツ文化の理解を深める。

■講義方法

板書、配布資料、ビデオ

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

その他（100%）
平常点80%（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20%

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
- ②々
- ③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
- ④々
- ⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
- ⑥々（人見・古橋から学ぶ）
- ⑦アマチュアリズムとフェアプレー
- ⑧テレビ支配
- ⑨ビジネス化
- ⑩スポーツとプロパガンダ
- ⑪スポーツの市民参加
- ⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

スポーツ文化論

【担当】 松下 唯夫

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ

■講義概要

スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。

■到達目標

スポーツ文化の理解を深める。

■講義方法

板書、配布資料、ビデオ

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

その他（100%）
平常点80%（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20%

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
- ②々
- ③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
- ④々
- ⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
- ⑥々（人見・古橋から学ぶ）
- ⑦アマチュアリズムとフェアプレー
- ⑧テレビ支配
- ⑨ビジネス化
- ⑩スポーツとプロパガンダ
- ⑪スポーツの市民参加
- ⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

■サブタイトル

子供の貧困と子育て支援政策を考える

■講義概要

少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。また、アメリカで見られる子供の貧困についても考え、子供が幸福に暮らせる社会を考えたい。

■到達目標

日本ではあまり詳しく紹介されていない3ヶ国とアメリカの状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできるように取り組んで頂きたい。

■講義方法

主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。

■授業時間外における予・復習等の指示

各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席などの状況を勘案します。
定期試験（90%）論述式筆記試験
リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。
一度も出席のないものは不可といたします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に追って紹介いたします。

■履修上の注意・担当者からの一言

成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義後、ご質問ください。

■講義計画

- ①日本の少子化の状況：日本の少子化の状況 - OECD加盟各国との比較 -
- ②日本のこどもをめぐる状況：日本の子供の貧困
- ③日本の子育て支援 1：日本における実際の子育て支援政策の紹介
- ④日本の子育て支援 2：日本の子育て支援政策の問題点
- ⑤イギリスの子供の貧困と支援 1：イギリスの子供の貧困と対策
- ⑥イギリスの子育て支援 1：イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑦イギリスの子育て支援 2：イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑧予備：講義予備日
- ⑨ニュージーランドの子供の貧困と支援：ニュージーランドの子供にかんする状況
- ⑩ニュージーランドの子育て支援 1：ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑪ニュージーランドの子育て支援 2：ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑫アメリカの子供の貧困：アメリカの子供の貧困の現状
- ⑬オーストラリアの子育て支援 1：オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑭オーストラリアの子育て支援 2：オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑮予備日：講義予備日

生活の中の宗教

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点（0%）
小テスト（0%）
レポート（0%）
定期試験（100%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

- ①はじめに ― 生活の中の宗教
- ②宗教とお金（1）
- ③宗教とお金（2）
- ④宗教と食
- ⑤宗教と医療（1）
- ⑥宗教と医療（2）
- ⑦宗教と経済（1）
- ⑧宗教と経済（2）
- ⑨宗教とアート
- ⑩宗教と文学
- ⑪宗教と政治
- ⑫宗教とインターネット
- ⑬宗教とおひとりさま
- ⑭宗教と性愛
- ⑮まとめ

生活の中の宗教

【担当】 辻 虎志

【開講】 後期 月2

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (0%)

小テスト (0%)

レポート (0%)

定期試験 (100%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生命と共生

【担当】 田村 公江

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもいいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか? すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。毎回、授業時間内に200字のミニレポ(感想、質問など)を書いてもらいます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、次回のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。

定期試験 (50%)

■テキスト

伏木信次・桧則章・霜田求[編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2500円

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室(2号館300-1) 連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp 件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前(フルネーム)と学籍番号を書くこと。

■講義計画

①生命倫理とは何か

②自分のことは自分で決める ― 医師と患者の関係 ―

③人工妊娠中絶に関する基礎知識

④人工妊娠中絶の問題点

⑤人工妊娠中絶に関する法律

⑥出生前診断

⑦優生思想と選択的中絶

⑧不妊治療をめぐる問題点

⑨出生に関する諸問題のまとめ

⑩臓器移植

⑪脳死は人の死か

⑫臓器移植、脳死判定の問題点

⑬自己決定原理とは

⑭安楽死・尊厳死の問題点

⑮死と終末期に関する諸問題のまとめ

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人があるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもいいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか? すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、次のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。定期試験 (50%)

■テキスト

伏木信次・桧則章・霜田求 [編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2500円

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室 (2号館300-1) 連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp 件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前 (フルネーム) と学籍番号を書くこと。

■講義計画

- ①生命倫理とは何か
- ②自分のことは自分で決める ―医師と患者の関係―
- ③人工妊娠中絶に関する基礎知識
- ④人工妊娠中絶の問題点
- ⑤人工妊娠中絶に関する法律
- ⑥出生前診断
- ⑦優生思想と選択的中絶
- ⑧不妊治療の問題点
- ⑨出生に関する諸問題のまとめ
- ⑩臓器移植
- ⑪脳死は人の死か
- ⑫臓器移植、脳死判定の問題点
- ⑬自己決定原理とは
- ⑭安楽死・尊厳死の問題点
- ⑮死と終末期に関する諸問題のまとめ

歎異抄の思想 I

■サブタイトル

親鸞のことは

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解 (異義) が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半 (第10条まで) に伝えられる親鸞のことはを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他 (100%)

定期試験を80%、平常点 (数回の小レポート) を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康 (他) 『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
 - ②第1条：本願のはたらき―摂取不捨―
 - ③第2条：念仏との出会い―往生極楽の道―
 - ④第3条：悪人正機の意味―いわんや悪人をや―
 - ⑤第4条：本当の慈悲とは―浄土の慈悲―
 - ⑥第5条：縁の中にある命―世々生々の父母兄弟―
 - ⑦第6条：仏の前の平等性―弟子一人も持たず―
 - ⑧第7条：信心の行者のあり方―無碍の一道―
 - ⑨第8条：念仏の意味するもの―非行・非善―
 - ⑩第9条：煩惱を持って生きる―浄土は恋しからず―
 - ⑪第10条：他力のあるがまま―無義をもって義とす―
- 上記は1回又は2回を予定

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】 殿内 恒

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

誤解をただす

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想 A・B」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他） 『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①「異義」とは：親鸞思想への誤解
 - ②第11条：本願と念仏の関係
 - ③第12条：学問の持つ意義
 - ④第13条：人間にそなわる悪
 - ⑤第14条：罪を滅ぼす行い
 - ⑥第15条：この世で開くさと
 - ⑦第16条：回心するということ
 - ⑧第17条：本願を疑っての往生
 - ⑨第18条：布施の意義と利益
 - ⑩後 序：信心は一つーたまわりたる信心ー
 - ⑪後 序：自身が対象ー親鸞一人がためー
 - ⑫後 序：虚偽と真実ー念仏のみぞまことー
- 上記は1回又は2回を予定

日本の文化

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思えます。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（30%） 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート（70%）

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

ISBN 978-4-7710-2345-1

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四行事1
- ⑧京都の四行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には「小京都」と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート (70%)

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

ISBN 978-4-7710-2345-1

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四大大行事1
- ⑧京都の四大大行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

■サブタイトル

京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には「小京都」と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

レポート (70%)

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

ISBN 978-4-7710-2345-1

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方
- ③京都の歴史
- ④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回（第5回）の解説と分析
- ⑦京都の四大大行事1
- ⑧京都の四大大行事2
- ⑨京ことば1
- ⑩京ことば2
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

■サブタイトル

現代日本における人権

■講義概要

日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけでなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははじめを失い無秩序と混乱をもたらしした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成24年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①人権の歴史と分類
- ②憲法訴訟Ⅰ
- ③憲法訴訟Ⅱ
- ④日本国憲法の成立
- ⑤戦後史Ⅰ
- ⑥戦後史Ⅱ
- ⑦戦後史Ⅲ
- ⑧幸福追求権と新しい人権
- ⑨プライバシーの権利
- ⑩知る権利
- ⑪環境権
- ⑫自己決定権Ⅰ
- ⑬自己決定権Ⅱ
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

平和学入門

■サブタイトル

暴力、文化、そしてアイデンティティー

■講義概要

想像してください。人口の爆発的な増加によって私たちは地球とそっくりの他の星に移住することになりました。数万光年離れたその星に行くにはワープするしか方法がありません。しかしそこにはひとつの問題があります。このワープの途中であなたはあなた以外の誰かになる可能性があるのです。意識は基本的にあなたのままでしたが、様々な部分で微妙な変化が起きるかもしれません。例えば、ルックス、性別、身体的な特徴、性的な指向、使用する言語、住む場所、所得。あなたはあなたのままで他人になることになります。貧困地帯に住むことになるかも知れませんが、そこでは内戦が起きているかも知れません。あなたは少数者として差別に直面することもあるでしょう。その場合、あなたどのような生活環境、社会状況、政治経済をその星に求めますか？そのためには何が必要だと思いますか？ この講義では、様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。 大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通してみなさんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。

■講義方法

主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。

■系統的履修

特にありません。

■授業時間外における予・復習等の指示

いくつかの映像資料については授業で放映しますが、「シンドラー

のリスト」については上映時間の関係から前もって観てもらう必要があります。この講義を受講される前に観ておいてください。

■成績評価の方法

小テスト（100％）In-class test ×2

■テキスト

特になし

■参考文献

授業の中で適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②「人」の「権利」と平和
- ③ルワンダⅠ
- ④ルワンダⅡ
- ⑤暴力Ⅰ
- ⑥暴力Ⅱ
- ⑦中間試験
- ⑧ホロコーストとは何だったのか：シンドラーのリスト
- ⑨平和を享受すべき「人間」とは誰なのか？
- ⑩パレスチナとイスラエル
- ⑪パレスチナとイスラエルⅡ
- ⑫9.11同時多発テロ
- ⑬イラク戦争と政治経済
- ⑭まとめⅠ
- ⑮まとめⅡ

■サブタイトル

「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要

平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても、統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。

■講義方法

主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修

日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら、積極的にメモを書きためてください。気になった点・質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法

レポート（50%）1500文字程度

定期試験（50%）論述形式

■テキスト

必要に応じて授業中にお知らせします。

■参考文献

必要に応じて授業中にお知らせします。

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②ヒバクシャ1
- ③ヒバクシャ2
- ④暴力とは何か
- ⑤冷戦と「核」の問題
- ⑥冷戦（後）と原子力「平和」利用
- ⑦暴力と思考
- ⑧ホロコーストとは何だったのか1
- ⑨ホロコーストとは何だったのか2
- ⑩思考と「現れる」こと
- ⑪パレスチナとイスラエル1
- ⑫パレスチナとイスラエル2
- ⑬サイド「イラク戦争を語る」
- ⑭イラク戦争と世界経済
- ⑮まとめ

メディアにみる福祉

■講義概要

世界に例を見ない高齢化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護保険や医療、年金、雇用、少子化対応、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標

福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法

新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示

できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問あれば、気軽にメールで連絡下さい
(taka8@mvd.biglobe.ne.jp)

■講義計画

- ①超高齢・人口減少社会の到来
- ②介護保険創設の背景と仕組み
- ③介護保険の課題
- ④すすむケアの工夫
- ⑤障害者福祉の今とこれから
- ⑥日本の医療の特徴
- ⑦医師不足の深層
- ⑧がん医療、先端医療のトピック
- ⑨患者が医療を変える
- ⑩年金のいま
- ⑪生活保護と雇用保険
- ⑫少子化への対応
- ⑬福祉の軸となる雇用と教育
- ⑭負担と給付の選択肢
- ⑮政治、経済、国のかたちと社会保障

■サブタイトル

身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要

学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標

・福祉とは身近なテーマであることを知る・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法

講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介 ※過去の講義で活用した題材
映画「誰も知らない」「レインマン」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」 TVドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」 コミック・自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『Flower』『ツレがうつになりまして。』『ホームレス中学生』
他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ 講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う 講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示

ブログを使い前回のレポートについて他の受講者の意見を知り、それに対しての再レポートを行う。 課題コミック、映画・ドラマの視聴とレポート

■成績評価の方法

レポート（100%） 講義時のミニレポートか講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト

特になし

■参考文献

二通論 『映画で学ぶ特別支援教育』 全国障害者問題研究会 1785円

講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は厳しく対処します。 2. 課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

教員のホームページやブログを活用

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②身体障がい
- ③知的障がい
- ④精神障がい
- ⑤高齢者介護
- ⑥介護従事者
- ⑦子どもの貧困
- ⑧子ども虐待
- ⑨施設で生活する子ども
- ⑩ひとり親家庭
- ⑪生活困窮
- ⑫発達障がい
- ⑬災害における福祉
- ⑭世界の福祉
- ⑮まとめ

学部内共通科目

(環境ソリューション工学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
エ	MOT演習	長谷 智弘	後期	月 1	209
	MOT概論	長谷 智弘／安藤 信行／加藤 正浩／佐藤 研司／神野 友香子／谷口 清志	前期	火 5	209
カ	海外キャリア実践教育及び実習A	大柳 満之／木村 睦／塩見 洋一／宮武 智弘	前期	集中	210
	海外キャリア実践教育及び実習B	大柳 満之／木村 睦／塩見 洋一／宮武 智弘	前期	集中	211
	化学概論Ⅰ	岩澤 哲郎／富崎 欣也	前期	水 2	212
	化学概論Ⅱ	堀井 文敬	後期	月 1	212
	科学技術英語	全教員	後期	金 2	213
	化学基礎実験／理工学基礎実験B	富崎 欣也	後期	木3・木4・木5	213
	科学思想史	但馬 亨	前期	月 1	214
	学外実習(キャリア実践実習)／学外実習	レイ トーマス, ティン	前期	集中	214
	環境科学	糟野 潤	前期	月 3	215
	キャリアデザイン	西木 多賀子	前期	水 3	216
キ	キャリアプランニング	神殿 織江／湯口 恭子	前期	水 3	217
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	藤田 和弘	前期	月 4・月 5	218
	計算機基礎実習Ⅱ	加藤 聡史	後期	月 4・月 5	218
コ	工学概論	泉田 信也	前期	月 5	219
	工業経済	五百井 正樹	後期	金 4	219
シ	資源エネルギー論	白神 達也	後期	金 2	220
	自然観察実習／生物多様性実習B	横田 岳人／林 珠乃／丸山 敦	前期	水3・水4・水5	220
	情報学概論	杉山 久佳	前期	木 5	221
	情報と職業	北林 雅俊	前期	集中	221
セ	生態学概論	丸山 敦	後期	月 2	222
	生体情報概論	梶崎 弘幸	前期	金 2	222
	生物学概論Ⅰ	土井田 幸郎	前期	木 1	223
	生物学概論Ⅱ	土井田 幸郎	後期	木 1	223
	生物学実験	土井田 幸郎／竹内 圭介	後期	水3・水4・水5	224
チ	地域環境概論	竺 文彦／遊磨 正秀	前期	木 2	224
	地学概論Ⅰ	桑原 希世子	前期	月 3	225
	地学概論Ⅱ	島田 充彦	後期	水 2	225
	地学実験	島田 充彦／桑原 希世子	前期	水3・水4・水5	226
	地球環境概論	宮浦 富保／市川 陽一	後期	月 1	226
	知的財産概論	藤河 恒生	後期	水 3	227
ニ	人間工学	橋本 正治	前期	水 1	227
フ	物理実験／理工学基礎実験A	左近 拓男	前期	火3・火4・火5	228

MOT演習

[担当] 長谷 智弘

[開講] 後期 月1

■講義概要

本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の習得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育を身に付ける。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修

MOT (技術経営) 概論

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

前期開講の「MOT (技術経営) 概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT (技術経営) 概論」の単位合格者に限る。

■講義計画

①総論

②マーケティング・戦略論

③マーケティング・戦略論に関する事例演習 (1) 概論、SWOT

④マーケティング・戦略論に関する事例演習 (2) 戦略、戦術

⑤財務・会計および労務・組織

⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (1) 簿記、B/S、P/L

⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (2) 経営分析

⑧情報管理

⑨情報管理に関する事例演習 (1) インターネットショッピング

⑩情報管理に関する事例演習 (2) SE

⑪生産管理

⑫生産管理に関する事例演習 (1) 在庫管理

⑬生産管理に関する事例演習 (2) 生産計画

⑭ビジネスプランの作成方法

⑮まとめ

MOT概論

[担当] 長谷 智弘、安藤 信行、加藤 正浩、佐藤 研司、神野 友香子、谷口 清志

[開講] 前期 火5

■サブタイトル

技術経営入門

■講義概要

本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の習得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財 (特許)・標準化 (品質管理など) を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育プログラムの構成とする。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画

①総論

②企業経営理論 (1) 企業形態・株式会社

③企業経営理論 (2) 経営計画・マーケティング

④企業経営理論 (3) 経営戦略

⑤企業経営理論 (4) 競争戦略

⑥財務・会計 (1) 概論・会計原則

⑦財務・会計 (2) 損益計算書・貸借対照表

⑧財務・会計 (3) 安全性・収益性・生産性分析

⑨財務・会計 (4) 損益分岐点分析

⑩人事・労務・組織

⑪運営管理: 生産・販売・流通・在庫・情報化

⑫法務: 会社設立・運営

⑬知的所有権: 特許

⑭標準化動向 (品質・環境・労務)

⑮まとめ: ビジネスプランの作成方法

海外キャリア実践教育及び実習A [担当] 大柳 満之、木村 睦、塩見 洋一、宮武 智弘 [開講] 前期 集中

■サブタイトル

事前学修～実習前半まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞16名程度

＜費用(予定)＞40万円程度（主に航空運賃と宿泊代です。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞住友電工、富士通コンピュータ、Senju Comtek、Tech Dreamなど

＜応募方法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

- ・「地域産学連携キャリアセミナー」
- ・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

- ・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となりますが、英語を使う場面も当然あります。内容は実習先の計画によります。
- ・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。
- ・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

- ・実習報告などの事後学修を実施します。
- ・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

- ①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
- ②経営者・実務家による講義1
- ③経営者・実務家による講義2
- ④ビジネスマナー講座（講義・実技）
- ⑤実践英語
- ⑥海外生活に関する特別講習
- ⑦実習先による

（2週間程度の実習期間の内、前半）

■サブタイトル

実習後半～事後学修まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日 程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募 集 人 数＞16名程度

＜費用(予定)＞40万円程度（主に航空運賃と宿泊代です。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞住友電工、富士通コンピュータ、Senju Comtek、Tech Dreamなど

＜応 募 方 法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

- ・「地域産学連携キャリアセミナー」
- ・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

- ・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となりますが、英語を使う場面も当然あります。内容は実習先の計画によります。
- ・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。
- ・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

- ・実習報告などの事後学修を実施します。
- ・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

ホームステイでは自分から積極的に話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期

間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

①実習先による

（2週間程度の実習期間の内、後半）

②報告書作成指導等

③参加者による実習報告①（1人目～6人目）

④参加者による実習報告②（7人目～12人目）

⑤参加者による実習報告③（13人目～16人目）、報告会発表者決定

⑥実習総括

⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

化学概論Ⅰ

【担当】 岩澤 哲郎、富崎 欣也

【開講】 前期 水2

■講義概要

化学は自然科学の中で、かなめの位置を占めている。この学問は、分子や原子に関する知識の上に立って、諸物質の性質や変化などを統一的に理解しようとする。さらに、化学は現代の物質文明を支える各種材料を社会に提供してきた。それゆえ、我々を取り巻く自然と現代文明を理解するには化学の知識が不可欠といえる。また、現代社会は大量生産・大量消費・大量廃棄により環境問題を引き起こしているが、これを正しく理解し、持続可能な社会を構築していくためにも化学の知識が必要である。本講義は、化学概論Ⅱとあわせ、理工学部

■到達目標

化学は自然科学の中で、かなめの位置を占めている。この学問は、分子や原子に関する知識の上に立って、諸物質の性質や変化などを統一的に理解しようとする。さらに、化学は現代の物質文明を支える各種材料を社会に提供してきた。それゆえ、我々を取り巻く自然と現代文明を理解するには化学の知識が不可欠といえる。また、現代社会は大量生産・大量消費・大量廃棄により環境問題を引き起こしているが、これを正しく理解し、持続可能な社会を構築していくためにも化学の知識が必要である。本講義は、化学概論Ⅱとあわせ、理工学部

■講義方法

教科書および資料により講義する。随時小テストを課す。

■系統的履修

教科書および資料により講義する。随時小テストを課す。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習に力点を置くこと。

■成績評価の方法

定期試験 (50%)
その他 (50%) 中間試験

■テキスト

渡辺啓 『現代の化学』 サイエンス社 1480円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①元素の誕生と地球の歴史 (1)
- ②元素の誕生と地球の歴史 (2)
- ③原子と分子 (1)
- ④原子と分子 (2)
- ⑤元素の周期律
- ⑥元素の性質 (1)
- ⑦環境問題と化学概論
- ⑧中間試験
- ⑨元素の性質 (2)
- ⑩元素の性質 (3)
- ⑪放射能と放射性元素
- ⑫金属とその利用 (1)
- ⑬金属とその利用 (2)
- ⑭電池 (1)
- ⑮電池 (2)

化学概論Ⅱ

【担当】 堀井 文敬

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

環境に優しい日常の化学

■講義概要

「化学概論Ⅰ」に続いて、テキスト「現代の化学」の後半について講義する。すなわち、有機化合物、界面活性剤、化粧品・香料、医薬、天然および合成高分子、ゴム・繊維などの重要なものについて、それらの実際例とともに説明する。また、環境化学として、環境汚染物質、特に大気汚染物質について説明するとともに、バイオエタノールや有機太陽光発電などの新しい発展についても分かりやすく述べる。

■到達目標

本講義は、一言でいうと「デイリーライフ・ケミストリー」すなわち「日常生活の化学」であり、環境・エネルギー問題を意識した実生活に結びついた化学物質の基礎知識を与える。「環境に優しい衣食住の化学」と言い換えてもよいかも知れない。食品、プラスチック、衣料材料、洗剤、化粧品、防腐剤、医薬品、環境汚染物質あるいはエネルギー代替品などについて、より良い生活をするための指針を与える。

■講義方法

配布資料を中心に講義する。

■系統的履修

化学概論

■授業時間外における予・復習等の指示

区切り区切りで、小テストをしたりあるいは小レポートを提出してもらうので、配布プリントの復習や、関連事項の調査をすること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)
定期試験 (60%)、平常点・レポート (40%) とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

渡辺啓 『現代の化学』 サイエンス社
配布資料を中心に講義する。

■履修上の注意・担当者からの一言

実益と教養を兼ねた話として興味を持って聞いて下さい。実生活に重要な基礎知識を与えるとともに、新聞・テレビなどでの最先端の化学情報を理解する力も養えるようにしく思っています。

■講義計画

- ①「化学概論Ⅱ」の展望
- ②化学結合の基礎
- ③有機化合物Ⅰ (炭化水素、アルコール)
- ④有機化合物Ⅱ (カルボン酸、エステル、油脂)
- ⑤有機化合物Ⅲ (芳香族化合物)
- ⑥洗剤、化粧品
- ⑦生体活性物質と医薬品
- ⑧合成高分子Ⅰ (高分子化学の基礎：合成と構造)
- ⑨合成高分子Ⅱ (ポリエチレン、ナイロン、ポリエステルなど)
- ⑩繊維、高機能繊維、ゴム
- ⑪天然高分子 (炭水化物：糖、デンプン、セルロース)
- ⑫生体高分子 (タンパク質、DNA)
- ⑬環境化学Ⅰ (大気環境)
- ⑭環境化学Ⅱ (バイオエタノール、太陽光発電)
- ⑮まとめ

■講義概要

英語を読むこと、書くこと、話すことは、研究活動をおこなう上で基本的な能力である。科学的なコミュニケーションに使われる英語は専門用語が多用されるため、一見難解であるかのように感じられるが、文法的には簡素なものである。専門用語の英語表現に慣れるとともに、自らの研究に活かすことができる実践的な英語力を身につけることが、この科目の目的である。

■到達目標

英語によるコミュニケーション（読む、書く、話す）の基礎を修得する。

■講義方法

小グループに分かれ、担当教員ごとに実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

語学の修得には毎日の学習が必要である。講義で指示される課題を確実に行うとともに、必ず復習を行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

小グループに分かれ、担当教員ごとに実施する。

化学基礎実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験B（2006年度以前入学生）

【担当】 富崎 欣也
【開講】 後期 木3・木4・木5

■講義概要

地球規模の環境破壊が話題になっている。環境問題を理解するためには、それらのデータを提供している化学分析法の基礎を学ばなければならない。また、現在の快適な生活を支えている人工物質の特性を理解するためには、その物質がどんな元素から構成されているかを知る必要がある。本実験では、化学分析法と諸元素の性質を学ぶために古典的な湿式分析法を学ぶ。この方法は、化学反応を最大限に利用するものであり、化学分析法の基礎や諸元素の性質を学ぶには最適である。定性分析では、はじめに数種の元素を沈殿させ分離する。つづいて個々の元素の存在を確定する。定量分析では、中和滴定の実験を行う。また、定量分析に関する講義・実験から化学量論的概念を学ぶ。

■到達目標

環境を構成する成分や各種人工物質を化学的な面から理解できるようにする。

■講義方法

実験は各自が行う。高校で化学を履修していない受講生にも理解を深められるように、各テーマ毎に事前に講義、演示実験を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

実施した実験のレポート作成および次の実験テーマの予習をすること。

■成績評価の方法

平常点（40%）予習の有無、実験に取り組む態度などを評価する。

レポート（60%）実験後、1週間以内にレポートを提出してもらい、これを評価する。

■テキスト

龍谷大学理工学部 『化学実験書』 龍谷大学

化学同人編集部 『化学実験を安全に行うために』 化学同人
化学同人編集部 『続化学実験を安全に行うために』 化学同人
非売品（実験の際配布する）

■参考文献

G.シャルロー著、曾根興三・田中元治訳 『定性分析化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』 共立全書
赤岩英夫編 『定量分析化学実験』 丸善

■履修上の注意・担当者からの一言

化学実験は危険がともなうものであり、十分な注意が必要である。決められた安全保護具を実験中は必ず着用する事。有害な重金属等の廃液は回収しているので、廃液は決められた容器に必ず入れること。

■講義計画

- ①化学実験を行うための安全に関する説明
- ②定性分析（1、2属）の講義と演示実験
- ③定性分析（1、2属）実験
- ④定性分析（3、5属）の講義と演示実験
- ⑤定性分析（3、5属）実験
- ⑥定性分析（4属）の講義と演示実験
- ⑦定性分析（4属）実験
- ⑧定性分析（未知試料）の講義
- ⑨定性分析（未知試料）実験
- ⑩容量分析（酸・塩基中和反応理論の講義と演示実験）
- ⑪中和反応実験（Ⅰ）（炭酸ナトリウム標準溶液を用いて0.1M塩酸の標定）
- ⑫容量分析（水酸化ナトリウム定量の講義と演示実験）
- ⑬中和反応実験（Ⅱ）（未知濃度の水酸化ナトリウム溶液の定量）
- ⑭まとめ
- ⑮予備日

■サブタイトル

ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要

現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標

各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法

プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修

自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示

参考図書等の指示をするが、課題の考察については各自図書館の蔵書等を利用して調査してもらう場合もある。

■成績評価の方法

平常点 (15%) 小テストと合算で30点

小テスト (15%) 平常点と合算で30点

定期試験 (70%) 授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。

テストでは論述が主体となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

トーマス・クーン著 中山 茂訳 『科学革命の構造』 みすず書房 2730円

■履修上の注意・担当者からの一言

携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②古代ギリシャ (1): 前ソクラテス期
- ③古代ギリシャ (2): プラトン以降
- ④ヘレニズム期と古代精密科学
- ⑤アラビアと中世の科学
- ⑥初期近代 (1): 万能人の思想
- ⑦初期近代 (2): 印刷術、近代解剖学
- ⑧前半内容の確認
- ⑨科学革命の世紀 (1): 理論
- ⑩科学革命の世紀 (2): 個別事例
- ⑪18世紀の科学
- ⑫19世紀 (1): 科学の組織化、制度化
- ⑬19世紀 (2): 近代生物学の誕生
- ⑭現代の科学: 科学の巨大化
- ⑮総括

学外実習 (キャリア実践実習) (2009年度以降入学生)

学外実習 (2008年度以前入学生)

【担当】 レイ トーマス, ティン

【開講】 前期 集中

■講義概要

理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。学外実習は夏期休暇中の約2週間に実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会への参加が必要である。また実習先の企業・研究所等は大学により指定される。その他、学外実習に関する説明会を事前に実施する。

■到達目標

学外実習に参加することにより研究・開発・生産現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法

原則として事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

その他 (100%)

実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に可否を判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

説明会には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、

学生として責任ある態度をとること。実習先の指定は原則大学側が行うが、学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので学外実習担当教員に相談すること。

＜学外実習実施委員＞

数理: 樋口三郎 電子: 張陽軍 機械: 野口佳樹
物質: 中沖隆彦 情報: 渡辺靖彦 環境: 丸山敦

■講義計画

- ①4月中旬 実習先希望アンケート作成・提出
- ②5月中旬 実習に関するオリエンテーション
- ③6月下旬 実習先の通知・オリエンテーション
- ④7月中旬 大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送
事前実習
- ⑤8月下旬 学外実習実施 (実習先企業等からの回答により
実期間等が変更される場合があります。)
～9月中旬
- ⑥9月下旬 学外実習報告会 (実習先企業・研究所、学生、
教員が参加) については学生に直接関係する事項です。

上記の予定ですが、状況により変更になる場合があります。掲示に十分注意すること。

■講義概要

地球環境問題が大きな社会問題となっており、これには経済、政治、住民運動など、さまざまな社会要因が関連しているが、基本的には科学・技術の発展を背景とした工業化社会の問題であるといえる。地球環境問題の提起した課題は、石油という膨大なエネルギーを手に入れた人類が、効率や生産性のみを追い求めてきたことにあり、自然システムと調和した生産・生活システムを模索し、確立していくことが求められている。本講義では、これらの問題を理解していくために必要な自然科学的な基礎的事項、環境に関する化学・物理および生物・生態学に関することについて述べる。さらに、これらの問題に対処するための生活様式の検討について言及する。

■到達目標

地球規模での広がりを持って、身の回りの環境問題を考えられるようになる。

■講義方法

教科書および配布資料により講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート提出や資料収集など、適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (20%)

定期試験 (60%)

■テキスト

山口勝三、菊池 立、斉藤絃一 『環境の科学』 培風館
1950円

適宜、資料を配布する。

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境問題について
- ②地球の自然と物質：宇宙の中の地球
- ③地球の自然と物質：大気
- ④地球の自然と物質：水
- ⑤地球の自然と物質：土壌
- ⑥大気汚染と酸性雨
- ⑦水質汚濁と汚染物質
- ⑧地球温暖化
- ⑨分解されにくい物質による汚染
- ⑩エネルギー資源
- ⑪人口増加と食糧問題
- ⑫廃棄物処理
- ⑬都市環境
- ⑭化学物質の分析法
- ⑮まとめ

■サブタイトル

willから始める大学生活

■講義概要

キャリアデザインへの1回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選考活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。

＜理工学部キャリア教育の取り組み＞

http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

- ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
- ・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法

授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。

自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修

キャリアプランニング（2年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。

また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法

平常点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う

その他（50%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。

平常点に影響する。

■テキスト

東田晋三著 『自分デザイン・ブック I』 ネットスクール株式会社 1600円

生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。今年で8年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

キャリア講師は8名で火曜日・水曜日・木曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
- ②自己紹介とは何かを考えてみよう
- ③何のために大学にきたのだろうか（目的）
- ④大学生活がこうなればいいなあ（目標）
- ⑤伝えたい（コミュニケーション）
- ⑥自分を表現しよう
- ⑦協調性とは何かを知ろう
- ⑧好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
- ⑨失敗は成功へ向けての授業料
- ⑩キャリアマインドをもとう
～2つの軸が君の未来をつくる～
- ⑪ディスカッションの大切さを学ぼう
- ⑫勉強・仕事の土台となるものと考えてみよう
- ⑬プレゼンテーションにチャレンジ
- ⑭w i l l から始まる大学生活
- ⑮w i l l から始まる大学生活発表会

■サブタイトル

自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要

1 年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2 年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのか」という理由や自分にとっての意味を明確にしていこうことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていこうことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。その為に、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、

これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的な計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていき、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。

<理工学部キャリア教育の取り組み>

http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

※今年度よりプロジェクト型学習を取り入れるため、再度検討する事もあり、一部講義計画の順番及び内容等が変更となる可能性があります。

■到達目標

自分の考えをしっかりと持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、

- ・コミュニケーション能力がつくこと・課題解決能力がつくこと
- ・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法

自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として

1. テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレインストーミングをする。
 2. 必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
 3. 皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
 4. 実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
 5. 更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
 6. 自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。
- また、授業のなかで複数（3 名～5 名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。

■系統的履修

1 年次キャリア授業：キャリア・デザイン

※1 年次のキャリア・デザインを履修していなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には

- ・自己紹介シート作成（随時）
- ・ワークシート作成（必要授業時に指示）
- ・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指

示）等がある。

また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う

その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大人度をアップさせること）

今年度より、プロジェクト型学習で行う成果物の種類により個人評価とグループ単位で評価されることになる。

■テキスト

1. 授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は¥400授業時に徴収。
2. 授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバインダーを必ず用意すること。

※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは購入しないこと。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大人度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2 年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものでもある。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

2 年次キャリア講師は5 名。前期授業は火曜・水曜・木曜。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション 自分について考える
- ②私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
- ③自己理解：能力について
自分のことを知りたい。
- ④自己分析：価値観について
～はたかちカードワーク その1～
- ⑤自己理解：価値観について
～はたかちカードワーク その2～
- ⑥グループディスカッション
- ⑦働くを考える：その1
職種・職業・業界・企業を知る
やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
- ⑧働くを考える：その2
ブレインストーミング
- ⑨働くを知る：その1
- ⑩ビジネスマナー
社会でのマナーを身につけよう
- ⑪働くを知る：調査1
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑫働くを知る：調査2
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑬働くを理解する
調査結果最終報告
評価・振り返り
- ⑭キャリアプラン作成
- ⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】 藤田 和弘

【開講】 前期 月4・月5

■サブタイトル

情報フルーエンシー

■講義概要

情報フルーエンシー能力を身に付けるために、基盤概念として、コンピュータ、情報システム、ネットワーク、情報のデジタル表現、現代的技能として、OSの基本的機能の利用、ワープロソフトを用いたビジネス文書作成、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを利用した情報検索、プレゼンソフトを用いた表現を中心に学びます。

■到達目標

コンピュータを使って適切な情報を取得し、知識として構成し自らの考えを適切に表現し、発信するための技能・知識を習得する。
簡単なビジネス文書を作成できる。表計算ソフトを用いて簡単なデータ集計ができる。データ処理結果をまとめた簡単なレポートが作成できる。簡単なプレゼン資料を作成できる。

■講義方法

毎回の授業では、前半講義を行い、後半実習を行います。
また、課題レポートを7回程度作成し提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業前に、テキストの指示する部分を予習し、実習にそなえること。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (30%) タイピング、情報倫理、総合
レポート (60%) ビジネス文書、英文文書、 π の推定、情報検索、人口推定、プレゼン、Webページ、総合演習

■テキスト

湯瀬裕昭他 『大学必修情報リテラシ』 共立出版 2800円

■参考文献

太田忠一他 『文科系のためのコンピュータリテラシ[第4版]』 サイエンス社 2048円

東千秋他 『問題発見と解決の技法』 放送大学教育振興会 2415円
情報処理推進機構 『情報セキュリティ読本 三訂版』 実教出版 500円

■履修上の注意・担当者からの一言

情報メディアセンターのCourse Management System (Moodle) により、履修者への連絡、レポート課題や資料を提示する予定です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜日3限目をオフィスアワーとしていますが、出張することもありますので、事前に連絡をしてください。

情報メディアセンターのCourse Management System (Moodle) を利用して、質問などをすることもできます。

■講義計画

- ①ガイダンス(授業の概要、履修の仕方、Course Management、System (Moodle) の利用の仕方、予習・復習の仕方、INFOSS情報倫理)、タイピングの練習の仕方、情報倫理
- ②情報リテラシとコンピュータ、Windows Vistaの基本操作、電子メール
- ③ワードプロセッシング、ビジネス文書作成の実習
- ④英文の文書作成および実習
- ⑤表計算とグラフ、 π の推定課題の実習1
- ⑥Webブラウジングと情報検索、 π の推定課題の実習2
- ⑦情報検索(図書館)、情報検索課題の実習
- ⑧人口推定課題の説明、人口推定課題の実習1
- ⑨人口推定課題の実習2
- ⑩プレゼンテーション、プレゼンテーション課題の実習1
- ⑪コンピュータネットワークと情報セキュリティ、プレゼンテーション課題の実習2
- ⑫HTMLによるWebページ作成、Webページ課題の実習1
- ⑬Webページ課題の実習2
- ⑭総合演習
- ⑮総合テスト、タイピングテスト、INFOSS情報倫理

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】 加藤 聡史

【開講】 後期 月4・月5

■講義概要

C言語によるコンピュータプログラミングの基礎的事項を学習し、データ解析や数値計算、シミュレーション等をおこなう際に必要なプログラミング能力を養う。C言語のプログラム構造、言語使用について実習し、演習を通じてプログラミングの技法を習得する。

■到達目標

C言語を用いたプログラミング技術の習得

■講義方法

毎回はじめに特定のトピックに関する講義をおこなう。その後、各自一台のコンピュータを用い、トピックに関連した演習課題に取り組む。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では、前回までの技術を全て使うので、配付資料や参考図書の演習問題を復習するなどして使いかたをマスターしておくこと

■成績評価の方法

平常点 (40%)
その他 (60%) 総合演習

■テキスト

高橋麻奈 『やさしいC. (第3版)』 ソフトバンク 2625円
資料を配付します。

■参考文献

柴田望洋 『新版 明解C言語 入門編』 ソフトバンククリエイティブ 2310円

■講義計画

- ①コンピュータプログラミングとはなにか?
- ②数値の表示と計算
- ③変数と計算

- ④数値の入力と比較処理
- ⑤場合わけに応じた処理
- ⑥繰り返しⅠ：一定回数の繰り返し
- ⑦繰り返しⅡ：回数の決まっていない繰り返し
- ⑧さまざまな計算(標準ライブラリの利用)
- ⑨関数
- ⑩総合演習Ⅰ：処理を組み合わせた複雑な処理
- ⑪配列と文字列
- ⑫ポインタ
- ⑬配列とポインタ
- ⑭ファイル入出力
- ⑮総合演習Ⅱ：目的に応じたプログラムの設計と開発

■講義概要

世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で、昨年の東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなくソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標

何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さを知り、その根底にある電力とエネルギーの重要性を知る。また自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法

毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れを主に、様々な話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習、予習をしておくこと

■成績評価の方法

平常点 (30%)

定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

講義中は私語を慎み、まず、人（講師）の話聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問する。これは社会人になっても同様で、人とコミュニケーションする上で大事なことです。

■講義計画

- ①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
- ②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
- ③太陽電池、太陽光発電の現状
- ④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
- ⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
- ⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
- ⑦携帯やデジカメの中はどうなってる？、電子機器の軽薄短小化の技術
- ⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
- ⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
- ⑩ランプからLED、有機EL照明まで。光の革命技術
- ⑪身近なすごい技術、レーザー。CDからレーザー兵器まで、その原理
- ⑫身の回りのいろいろな電磁気、電磁誘導、その応用技術
- ⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
- ⑭半導体って何？、どうやって作る？、工場の中は？
- ⑮まとめ

工業経済

■サブタイトル

技術の発達とそれに伴う社会および環境の変化

■講義概要

私たちの住む国の工業化は明治維新以降であり、工業社会と呼ばれる状態となったのは、諸説はあるが、1970年頃であろう。いずれもさほど古い出来事ではない。

この日本近代は激動の時代であり、家族、人のありよう、景観に至るまで、根こそぎと言いたいほどの変化を続けてきた。この過程を概観し、変化を引き起こすに至った要因、また変化を可能にした諸条件について考える。

なにゆえに、敗戦後の急速な工業化と“経済大国化”が可能であったか、その結果、社会と環境はどのように変化したか。また、その結果としてどのような課題に直面するに至ったか…。これらを具体的データをもとに考えてゆくことにする。

■到達目標

日経新聞を楽しく読めるようになること

■講義方法

PCによるプレゼンテーション。レジュメ、参考資料を配付する。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の1面3面、つまり政治や経済、技術に関する記事に日々目を通すよう心がけること。

■成績評価の方法

小テスト (40%)

レポート (60%)

質問は大いに歓迎する。私語はお断りする。

■テキスト

特になし

■参考文献

関連図書などは、レジュメ等に記載する。

■講義計画

- ①バブルと経済：元手なしに富豪になる方法
- ②ひとと技術：ヒトはいかにして人となるか
- ③商品の誕生：市場の拡大と世界の変容
- ④ものの値段：経済「学」との考え方
- ⑤貿易と地域、国家：「国民」の誕生と国際基準
- ⑥近代の衝撃：遅れたヨーロッパと進んだアジア
- ⑦戦争への道：植民地の拡大と破綻
- ⑧新規まき直し：日本の敗戦とその後
- ⑨工業化への長い道：カメラと半導体
- ⑩運も実力のうち：自動車産業と神風
- ⑪規格と公差：工学との考え方
- ⑫光と影：工業化で得たもの、失ったもの
- ⑬環境の値段：持続可能社会とは
- ⑭市民と社会：地域と民主主義
- ⑮技術の評価と選別：買い物は世界を変えるか

■サブタイトル

22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術

■講義概要

われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故を踏まえ、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。

■到達目標

われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。

■講義方法

配布プリント、板書、プロジェクトによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。

■成績評価の方法

平常点 (11%)
レポート (30%) 10点×3回
定期試験 (59%) 上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

世羅力 『資源・エネルギー工学要論 第2版』 東京化学同人 2400円

これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。

■履修上の注意・担当者からの一言

資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも？

■講義計画

- ①エネルギーの基礎
- ②化石エネルギー (1) - 石炭、石油 -
- ③化石エネルギー (2) - 天然ガス -
- ④化石エネルギー (3) - その他 -
- ⑤電力 (電気エネルギー) (1) - 火力発電 -
- ⑥電力 (電気エネルギー) (2) - その他の発電方法 -
- ⑦自然エネルギー (1) - 水力、地熱 -
- ⑧自然エネルギー (2) - 太陽、風力、バイオマス、その他 -
- ⑨核エネルギー (1) - 核分裂反応 -
- ⑩核エネルギー (2) - 原子力発電 -
- ⑪核エネルギー (3) - 未来の原子力 -
- ⑫省エネルギー
- ⑬金属資源と精錬・リサイクル
- ⑭セメントの概要
- ⑮まとめ

自然観察実習 (2007年度以降入学生) 生物多様性実習B (2006年度以前入学生)

【担当】 横田 岳人、林 珠乃、丸山 敦

【開講】 前期 水3・水4・水5

■講義概要

環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標

野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法

実習は3つの班に分かれ、概ね4回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認する事。

■授業時間外における予・復習等の指示

初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがう事。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 実習参加状況
レポート (40%) レポート、スケッチを評価。
その他 (20%) 積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。また野外での実習には、思いがけない危険が伴う。入学時に配布された安全のてびきを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画

- ①実習ガイダンス
- ②3つのテーマについて実習を行う
- ③陸上生物を中心とした自然観察 (横田岳人)
- ④水域生物を中心とした自然観察 (丸山敦)
- ⑤人間生活と自然 (林 珠乃)
- ⑥博物館 (動物園・植物園) での実習
- ⑦実習まとめ

■講義概要

コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる2進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とデジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標

コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法

指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

三井田他 『情報工学概論』 森北出版 2100円

■講義計画

- ①コンピュータの歴史1
- ②コンピュータの歴史2
- ③コンピュータの歴史3
- ④2進数の基礎
- ⑤2進数の演算1
- ⑥2進数の演算2
- ⑦小テスト
- ⑧2進数の内部表現
- ⑨ブール代数と演算回路1
- ⑩ブール代数と演算回路2
- ⑪コンピュータの構成1
- ⑫コンピュータの構成2
- ⑬ネットワークの基礎
- ⑭コンピュータネットワーク1
- ⑮コンピュータネットワーク2

情報と職業

■サブタイトル

情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要

情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標

情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法

テキストや資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの内容を把握しておくこと。
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
レポート (30%)
定期試験 (40%)
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト

駒谷昇一 辰己丈夫 楠元範明 共著 『IT Text 情報と職業』 オーム社 2500円

■参考文献

文部省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂出版株式会社 221円

■履修上の注意・担当者からの一言

高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画

- ①ガイダンス 科目「情報と職業」について
- ②情報化の進展と学校教育 (1) 情報化の進展
- ③情報化の進展と学校教育 (2) 情報教育
- ④情報化の進展と学校教育 (3) 情報科教員に求められる資質・能力
- ⑤情報化の進展と学校教育 (4) 校務の情報化の推進
- ⑥情報化の進展と職業 (1) 情報化社会と情報システム
- ⑦情報化の進展と職業 (2) 働く環境の変化と労働観
- ⑧情報化の進展と職業 (3) 企業の情報化と求められる人材の変化
- ⑨企業における情報活用
- ⑩情報化社会における犯罪と法律
- ⑪情報化社会における危機管理
- ⑫産業構造の変化 (1) 産業をとりまく環境
- ⑬産業構造の変化 (2) 産業の動向
- ⑭学校現場と著作権
- ⑮情報と職業のまとめ

生態学概論

【担当】丸山 敦

【開講】後期 月2

■講義概要

環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学 (ecology) の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の対象や時空間スケール、研究方法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。

本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標

生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の実践諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法

プロジェクトを中心に行う。プロジェクトで示す内容はダウンロード可能だが、教科書の購入および事前学習は必須である。随時小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修

生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法

平常点（0%）講義終了時の課題に正答すれば計30点まで加算する／資料持込禁止
小テスト（40%）用語の理解度を試す選択式試験を2回実施／資料持込禁止
レポート（0%）復習・確認テストを公欠の場合にはレポートで補うことが出来る（申し出ること）

定期試験（60%）記述式の試験を実施する／教科書（書込可）のみ持込可
その他（0%）講義中の発言によって10点まで加算する

■テキスト

日本生態学会『生態学入門』東京化学同人 2940円

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■参考文献

日本生態学会『生態学事典』共立出版 13650円

マッキンジー、ボール、バーディー『生態学キートン』シュブリンガー・フェアラーク東京 3360円

ベゴン、タウンゼント、ハーバー『生態学一単位・個体群・群集の科学』京都大学学術出版会 12600円

■履修上の注意・担当者からの一言

パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業直後、もしくは環境研究室12（瀬田学舎7号館1階）にて連絡が可能である。

■講義計画

- ①生態学概観、自然史
- ②進化生態学の基礎
- ③分子進化と生態学
- ④生活史の適応
- ⑤性の意義
- ⑥生理生態特性の適応
- ⑦行動の適応
- ⑧社会の適応、復習テスト
- ⑨種内競争と個体群
- ⑩種間競争と個体群
- ⑪被食・寄生と個体群
- ⑫種間相互作用と生物群集
- ⑬生態系と機能
- ⑭応用生態学
- ⑮環境問題と生態学、復習テスト

生体情報概論

【担当】梶崎 弘幸

【開講】前期 金2

■サブタイトル

遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要

組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標

遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。

■講義方法

毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。

プリントの内容はpdfとして提供も可能。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業開始時に配布するプリントのキーワードについて、授業内容の理解を深めるため復習をしておくこと。

■成績評価の方法

定期試験（100%）筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に参考資料（本や配布資料など）の持ち込みを許可する。

■テキスト

特になし

■参考文献

J.D. Watson et al.『遺伝子の分子生物学』トッパン

B. Alberts et al.『細胞の分子生物学』教育社

B. Lewin『遺伝子第8版』東京化学同人

いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の授業時に配布するプリントに入門書を挙げおく。一読することを勧める。

■履修上の注意・担当者からの一言

参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介し、生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画

- ①遺伝物質の化学的本姓
- ②遺伝物質の構造
- ③遺伝物質の自己複製
- ④遺伝物質の組換え
- ⑤遺伝情報の発現と制御（1）－原核生物における転写のメカニズム
- ⑥遺伝情報の発現と制御（2）－真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
- ⑦蛋白質の構造と機能
- ⑧遺伝情報の発現と制御（3）－翻訳のメカニズム
- ⑨遺伝子系の保存
- ⑩組換えDNAとバイオテクノロジー
- ⑪トピックス紹介（1）がん遺伝子
- ⑫トピックス紹介（2）免疫系におけるゲノムの再編成
- ⑬トピックス紹介（3）シグナル伝達
- ⑭トピックス紹介（4）細胞周期の制御
- ⑮トピックス紹介（5）生物の形と遺伝子

生物学概論Ⅰ

【担当】 土井田 幸郎

【開講】 前期 木1

■講義概要

生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標

学習・教育目標：D1 (◎)

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川統編 『生物学 第2版』 東京化学同人社

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

- ①講義に先立って、生物学の学問的位置
- ②生物の階層構造について
- ③生体構成物質1：水、糖質、脂質
- ④生体抗生物質2：タンパク質、核酸、その他
- ⑤細胞生物学1：細胞と細胞構造
- ⑥細胞生物学2：細胞膜の構造と機能
- ⑦細胞生物学3：リソソーム・ペルオキシソーム
- ⑧細胞生物学4：ゴルジ体
- ⑨細胞生物学5：小細胞とタンパク質合成
- ⑩細胞生物学6：ミトコンドリア・エネルギー代謝
- ⑪細胞生物学7：葉緑体・光合成
- ⑫細胞生物学8：細胞骨格
- ⑬細胞生物学9：核・核酸の複製と転写
- ⑭発生生物学1：細胞分裂
- ⑮発生生物学2：細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】 土井田 幸郎

【開講】 後期 木1

■講義概要

生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにして起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標

学習・教育目標：D1 (◎)

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義毎にテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には二時間分の予習と復習の時間が課されている。したがって、私は講義時間身大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川統 『生物学 第2版』 東京化学同人社 2520円

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

- ①講義に先立って、前期講義のまとめ
- ②発生生物学3：配偶子形成
- ③発生生物学4：受精の機構と初期発生
- ④発生生物学5：初期発生に基づく動物の分類
- ⑤発生生物学6：情報発現の調節
- ⑥遺伝生物学1：メンデル遺伝学
- ⑦遺伝生物学2：集団遺伝学の基礎
- ⑧遺伝生物学3：形質転換・形質導入・溶原変換
- ⑨遺伝生物学4：突然変異
- ⑩遺伝子工学入門
- ⑪恒常性の維持機構1：神経系の発達・構造・機能
- ⑫恒常性の維持機構2：内分泌系
- ⑬恒常性の維持機構3：免疫学
- ⑭生物進化の考え方
- ⑮動物の行動の生物学的意識

生物学実験

【担当】 土井田 幸郎、竹内 圭介

【開講】 後期 水3・水4・水5

■講義概要

生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。

本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。

■到達目標

学習・教育目標：D3, F1 (◎)

多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造の多様なこと、変異に富むこと、生物間の相互作用、生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを学んで欲しい。

■講義方法

実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別・グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。学習内容は天候など諸種の条件で順序が変更されることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

実験に関しては、講義で触れない項目もあるので、実験後、用いた生物や実習に関連した事項について復習してください。

■成績評価の方法

その他 (100%)

平常点、レポートの提出をもって評価する。

■テキスト

実験開始前に資料を用意し配布する。

■参考文献

必要に応じ、資料は用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言

生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。

■講義計画

- ①実験開始にあたって、顕微鏡の使用法
- ②魚種と生息数調査1：捕獲と標識
- ③魚種と生息数調査2：再捕獲
- ④魚種と生息数調査3：データーの整理
- ⑤野外観察：里山の植相調査
- ⑥植物の気孔の観察と気孔数の調査
- ⑦原形質分離と浸透圧の測定
- ⑧色素細胞の観察
- ⑨生体反応の温度依存性
- ⑩比較形態学1：マウスの解剖
- ⑪比較形態学2：アメリカザリガニの解剖
- ⑫制限酵素によるDNAの切断とアガロースゲル電気泳動法による分離
- ⑬体細胞分裂の観察
- ⑭唾液腺染色体の観察
- ⑮植物維管束系の観察

地域環境概論

【担当】 竺 文彦、遊磨 正秀

【開講】 前期 木2

■講義概要

一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標

地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法

パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する新聞記事、雑誌記事、ウェブニュースを熟読し、その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 受講状況等による

定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①地域環境とは何か
- ②流域における水質汚濁源
- ③湖への汚濁源流入プロセス
- ④琵琶湖の水質変化
- ⑤湖内での水質形成プロセス
- ⑥地域での有機物発生源
- ⑦廃棄物処理・循環プロセス
- ⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
- ⑨流域における水環境の横断方向の連続性
- ⑩流域における生物多様性 (河川)
- ⑪流域における生物多様性 (湖沼)
- ⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
- ⑬流域における水資源開発 (水道用水)
- ⑭流域における水資源開発 (農業用水)
- ⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原 希世子

【開講】前期 月3

■講義概要

人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。生物進化と地球環境の関係、生物界における人類の位置を変えることを狙いとする。

■到達目標

自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法

ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業中に課すプリント問題により評価する。
定期試験 (70%) 点数を評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1900円
丸山茂徳・磯崎行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1400円

大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2200円

J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2800円

池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3000円

この他、授業中に紹介する。

■講義計画

- ①講義概要の紹介
- ②編年と相対年代
- ③数値年代, 古環境の復元方法
- ④太陽系と地球地球形成のシナリオ
- ⑤生命の誕生, 光合成生物の活動が大気組成を変化させた
- ⑥スノーボールアース仮説, カンブリア大爆発: 多様な動物の爆発的進化
- ⑦オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
- ⑧パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
- ⑨恐竜の繁栄
- ⑩白亜紀の温室地球、石油の形成
- ⑪中生代/新生代の境界の絶滅のシナリオ
- ⑫ほ乳類の繁栄
- ⑬周期的気候変動とミランコビッチサイクル
- ⑭人類はどのように進化してきたのか
- ⑮地球環境問題・総まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】島田 充彦

【開講】後期 水2

■サブタイトル

地球内部の構造と運動

■講義概要

現在、人類は、宇宙の彼方まで見る事が可能となっているが、我々が生存している地球の足下については見る事が不可能である。しかしながら、地球の内部や、そこでの運動（例えば、地震の発生、火山活動、地磁気の変化など）は、かなりの程度明らかにされている。どのようにして、見ることで見えない地下とそこでの運動が分かってくるかを、過去から現在の考え方への発展と共に解説する。具体的には、地球の形や地表の重力の値から地球の内部の推定、地震学や地球内部を再現する室内実験によって明らかにされてきた地球内部の物理的構造と物質構造並びにそこでの運動について解説する。

■到達目標

学習・教育目標: D1 (◎)

地球の内部に起因する地震や火山活動は、大きな被害を伴うことから、一般社会においてしばしば報道される。しかしながら、それらは必ずしも正しく理解されているとはいえない。本講義により、正しい知識が得られる。

■講義方法

講義概要の図や表のプリントを配布し、それに基づき板書およびOHCにより講義を進める。

■系統的履修

地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストを数回実施するので、それまでの授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)

■テキスト

プリント使用

■参考文献

日本材料学会編 『岩の力学—基礎から応用まで— 1～6章』 丸善 1993 20600円

山中高光編 『宇宙・地球: その構造と進化』 学術図書 1990 2060円

杉村新他編 『図説地球科学』 岩波書店 1988 3600円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中、講義に集中している者への迷惑（私語、携帯電話、飲食など）を慎むこと。

緊急に必要な場合は退席すること。講義に対する疑問質問は大いに歓迎する。

■講義計画

- ①序 (宇宙における地球、地質時代、地球内部のダイナミクス、プレートテクトニクス)
- ②地球の形
- ③重力
- ④重力の測定と重力異常
- ⑤地震計と地震波
- ⑥震度とマグニチュード
- ⑦地震と断層
- ⑧地震波の伝播と地球内部
- ⑨地球内部の物理的性質
- ⑩地球内部の物質構造
- ⑪高温高压実験 (地球内部の実験室での再現Ⅰ)
- ⑫地球の磁気
- ⑬岩石の変形破壊実験 (地球内部の実験室での再現Ⅱ)
- ⑭リソスフェアの変形
- ⑮ホットスポット・マントルプレューム・プレュームテクトニクス

地学実験

【担当】 島田 充彦、桑原 希世子

【開講】 前期 水3・水4・水5

■講義概要

地学に関する基礎的な実験のうち、授業計画に示す項目を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。

■到達目標

自らの作業を通して、地球の物理学的・化学的・古生物学的な挙動の一端を体得する。

■講義方法

各実験項目ごとにプリントを配布し、これを参考にして説明する。

■系統的履修

地学概論I、II

■授業時間外における予・復習等の指示

各実験ごとに実験経過・結果・考察などをレポートとして提出する。レポートの提出は、原則として、次回の授業開始時である。従って、各実験終了後、実験経過・結果、講義ノートやプリントを参照し期日に間に合うようにレポートを作成する。

■成績評価の方法

平常点（12%）出席点

レポート（88%）レポート評価

■テキスト

プリント使用

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

講義や実験に対する疑問・質問は大いに歓迎する。授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験に集中すること。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②ステレオ投影による結晶面表示
- ③岩石・造岩鉱物・化石の肉眼観察
- ④偏光顕微鏡による岩石剥片の観察
- ⑤Katerの可逆振子による重力の測定
- ⑥屈折地震波による地下構造の決定
- ⑦真北の決定
- ⑧地磁気水平分力の測定
- ⑨地質図の理解
- ⑩平板測量
- ⑪浸液法による鉱物の屈折率の測定
- ⑫学外実習Ⅰ（地質巡検、関連施設の見学）
- ⑬学外実習Ⅱ（地質巡検、関連施設の見学）
- ⑭気象通報による天気図の作成
- ⑮総合討論

地球環境概論

【担当】 宮浦 富保、市川 陽一

【開講】 後期 月1

■講義概要

近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようなになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標

学習・教育目標：B1（◎）、A（○）

地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法

板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法

レポート（30%）

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①講義の進め方
地球環境とは？
- ②地球の歴史
- ③地球の気候変動
- ④地球の生態系－起源と進化
- ⑤地球の生態系－生物多様性
- ⑥人類の来歴と環境問題
- ⑦生態系に与える人間の影響
- ⑧地球環境の持続可能性
- ⑨環境汚染－陸上
- ⑩環境汚染－大気
- ⑪環境汚染－海洋
- ⑫地球温暖化
- ⑬エネルギーと地球環境
- ⑭環境問題の対策と見通し
- ⑮まとめ

■講義概要

本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館（I P D L）を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、I P D Lの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要性を感じ取ることも目的としている。

■到達目標

産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。
特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法

配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。
講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示

パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
レポート (50%)

レポートの課題は、最終講義の2回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①知的財産権（産業財産権）とは？特許制度とは？
- ②出願から特許権取得までⅠ（特許出願書類）
- ③出願から特許権取得までⅡ（公報、産業財産権情報）
- ④出願から特許権取得までⅢ（審査請求以降）
- ⑤I P D Lで特許情報にアクセス／演習
- ⑥発明とは？特許になる発明とは？
- ⑦特許を受けることができる者とは？職務発明とは？
- ⑧発明発掘から特許出願まで
- ⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
- ⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
- ⑪外国での特許取得 外国の特許情報にアクセス
- ⑫特許以外の産業財産権制度／実用新案・意匠
- ⑬特許以外の産業財産権制度／商標
- ⑭I P D Lで意匠・商標情報にアクセス／演習
- ⑮企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

■サブタイトル

製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要

人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的な方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標

人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法

ノート講義を中心に進めますが、適時OHP等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習：次のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法

平常点 (30%) 予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート (10%)
定期試験 (60%) 60%の正答率をもって合格とします。
平常点 (30%) とレポート (10点)、定期試験 (60%)、合

計100点満点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

長町三生 『現代の人間工学』 朝倉書店 3885円

■履修上の注意・担当者からの一言

解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるように一緒に学んでいきましょう。

■講義計画

- ①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
- ②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
- ③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
- ④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
- ⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
- ⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
- ⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
- ⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
- ⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
- ⑩動作分析・動作解析（動作分析）
- ⑪動作分析・動作解析（動作解析）
- ⑫動作分析・動作解析（運動計測）
- ⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
- ⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
- ⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験A（2006年度以前入学生）

【担当】 左近 拓男
【開講】 前期 火3・火4・火5

■サブタイトル

理工学基礎実験

■講義概要

■科目概要・科目内容

理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。物質化学および環境ソリューション工学は本質的に実験分野であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法により新しい物質を合成したり、新しい実験を行って新しい現象を見つれたり、新しい実験装置や新しい機械を製作したりすることになるが、そのためのトレーニングである。ノギス、マイクロメータ、サーキットテスター、デジタルボルトメータ、オシロスコープ等の簡単な道具や測定器はいつでも使えるように練習すること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字がわかること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回折等の概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため最後に発表会も行なう。

■この科目を履修することにより身につくポイント

物理的センスと基礎的な実験技術

■到達目標

種々の実験の原理を理解する。ノギスなど基礎的な器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し、自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法

実験指導書にそって、二人一組で、毎回1つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修

物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理実験（理工学基礎実験A）を続けて履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

物理学の基礎科目をきちんと学習し、よく復習しておくこと。実験テキストもよく予習しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）毎回のレポートを主体に（約8割）、まとめの試験を加味して（約2割）評価する。

■テキスト

龍谷大学理工学部編 『物理実験』

初めに配布します。関数電卓とA4ノート1冊を各自用意してきてください。

■参考文献

小出昭一郎著 『物理学（三訂版）』 裳華房 2100円

原康夫著 『物理学基礎』 学術図書出版社 2400円

■履修上の注意・担当者からの一言

初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると今期履修しないものとみなすので注意してください。まず実験の原理、方法を自習して、考えてもわからなかったことをTAに質問し、わからなかった理由を考えることにより力をつけてください。受講マナーにも気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

実験1テーマにつき1人のTAが配置された少人数教育であるので、3コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても、どんどん教員およびTAに質問してください。

■講義計画

- ①ノギスの使い方
- ②振り子によるgの測定
- ③のびによるヤング率の測定
- ④弦の振動の実験
- ⑤分光器の実験
- ⑥レーザー光の回折実験
- ⑦テスターの使い方とパルス回路
- ⑧アナログ回路
- ⑨電気抵抗の温度変化
- ⑩熱起電力
- ⑪電子の比電荷の測定
- ⑫発表会準備と公欠の人の追加実験
- ⑬発表会
- ⑭まとめの試験

学科固有科目

(環境ソリューション工学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
カ	化学序論	浅野 昌弘	前期	金 5	231
	環境アセスメント及び演習	市川 陽一	後期	火 2	231
	環境経済学	花田 眞理子	後期	木 2	232
	環境計測学／ 環境モニタリング	宮浦 富保／市川 陽一／ 竺 文彦	前期	月 2	232
	環境工学基礎実習	竺 文彦／市川 陽一／ 占部 武生／菊池隆之助／ 岸本 直之／越川 博元／ 浅野 昌弘	後期	木3・木4・木5	233
	環境システム解析	岸本 直之	後期	木 2	233
	環境施設設計演習／ 廃棄物施設設計演習	占部 武生／岸本 直之	後期	火 3	234
	環境実習 A	越川 博元／占部 武生	前期	集中	234
	環境実習 B	宮浦 富保／遊磨 正秀	前期	集中	235
	環境実習 C	横田 岳人	前期	集中	235
	環境社会学	中井 治郎	前期	水 2	236
	環境政策論	今井 紘一	後期	水 2	236
	環境生態学実習／ 環境生態学実習 A	レイ トーマス, ティン ／近藤 倫生／林 珠乃	前期	木3・木4・木5	237
	環境装置工学	占部 武生／市川 陽一	前期	月 1	237
	環境ソリューション工学概論	全教員	前期	金 1	238
	環境毒性学／ 環境リスク論	越川 博元	前期	火 1	238
	環境微生物学	越川 博元	後期	月 3	239
	環境分析化学実験	竺 文彦／菊池 隆之助／ 浅野 昌弘	後期	金3・金4・金5	239
	環境倫理学	佐々木 拓	後期	水 4	240
キ	基礎環境工学	竺 文彦	前期	集中	241
ク	群集生態学	遊磨 正秀／ レイ トーマス, ティン	後期	月4・火2	241
コ	行動生態学	遊磨 正秀	前期	集中	242
	個体群生態学	レイ トーマス, ティン／ 遊磨 正秀	後期	月4・火2	242
シ	資源管理学／ 生物資源管理学	近藤 倫生	後期	月 2	243
	資源循環工学	占部 武生	前期	木 2	243
	自然の浄化機構／ 自然浄化機構	竺 文彦／越川 博元	前期	月 5	244
	社会調査法及び実習／ 社会調査実習	柴田 和子	前期	木1・木2	244
	社会調査法及び実習／ 社会調査実習	柴田 和子	前期	木3・木4	245
	上下水道工学／ 環境水理学及び演習	浅野 昌弘	前期	金 3	245
	進化学／進化生態学	近藤 倫生	後期	金 3	246
ス	数学Ⅰ	森田 善久	前期	火 5	246
	数学Ⅱ	神 直人	後期	火 4	247
	数学Ⅲ	神 直人	前期	火 3	247

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
ス	数学序論	荒井 徳充	前期	金 3	248
	数理生態学／ 環境モデリング及び演習	近藤 倫生	後期	月 5	248
セ	生態学演習	レイ トーマス, ティン／ 近藤 倫生	後期	集中	249
	生態系生態学	宮浦 富保	後期	木 1	249
	生態工学	横田 岳人／遊磨 正秀	後期	月 3	250
	生物学序論	横田 岳人	前期	火 4	250
	生物多様性実習／ 生物多様性実習 A	遊磨 正秀／宮浦 富保／ 片山 昇	前期	金3・金4・金5	251
	生理生態学／ 生物の環境応答	レイ トーマス, ティン	前期	火 2	251
	セミナーⅠ／セミナー	全教員	前期	木 1	252
	セミナーⅡ	全教員	後期	水 3	252
ソ	測量学及び実習	井上 均	前期	水3・水4	253
タ	大気環境工学	市川 陽一	前期	木 5	253
チ	地域環境管理	市川 陽一	後期	集中	254
ト	統計学概論	占部 武生／横田 岳人	後期	水 2	254
	特別研究	全教員	通年	集中	255
	特別講義	竺 文彦／宮浦 富保／井筒 孝二郎／ 瓜生 昌弘／遊磨 真樹／須藤 明子／ 岡本隆英夫／仁達 孝昭／堀井 安雄／ 村上 宣雄／村田 弘司／村長 昭義	後期	水 2	255
	都市環境施設実験 A	越川 博元	前期	火3・火4・火5	256
	都市環境施設実験 B	占部 武生／市川 陽一／ 菊池 隆之助	前期	月3・月4・月5	256
	廃棄物工学／廃棄物処理	菊池 隆之助	後期	月 2	257
ハ	博物館実習	遊磨 正秀／横田 岳人	通年	土 4	257
フ	物理学Ⅰ	神山 保	前期	金 4	258
	物理学Ⅱ	神山 保	後期	金 4	258
	物理学序論	中平 徹也	前期	月 2	259
	プレゼンテーション演習	全教員	後期	金 1	259
	プレゼンテーション演習Ⅱ	近藤 倫生	前期	集中	260
ホ	保全生態学	横田 岳人	前期	金 2	260
ミ	水処理工学	越川 博元	後期	月 1	261
ヤ	野外調査実習／ 環境生態学実習 B	丸山 敦／林 珠乃	後期	火3・火4・火5	261
リ	陸水生態学	丸山 敦	前期	火 2	262

化学序論

【担当】浅野 昌弘

【開講】前期 金5

■講義概要

大気汚染や水質汚濁等の各種環境問題において、各環境における汚染（汚れ具合）の程度がどれほどであるかを正確に評価するためには、化学分析の技術が必要となります。本科目においては、こうした化学分析の原理、および技術を理解する上で必要不可欠となる、化学の基礎を身につけることを目指します。化学分析においては、「電子の授受」に基づく化学反応を原理としていることから、原子の構造や化学結合などの基礎から講述をします。

■到達目標

化学の基礎を理解し、またこれに関連する基本的な化学計算能力を身につけることを目指します。

■講義方法

講義形式ですが、講義内容の理解度を確認するために、随時、課題演習等を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の講義が終了の後は、聴講内容についてしっかりと復習して下さい。

■成績評価の方法

小テスト（30%）講義内容に関する理解度の確認
定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

三好康彦 『汚水・排水処理の知識と技術』 オーム社 2500円
小森三郎 他 『高専の化学 改訂版』 森北出版 1500円

■履修上の注意・担当者からの一言

高校在学時において化学を履修しなかった人は、本科目を必ず

受講して下さい。また受講に際しては、関数電卓を必ず持参して下さい。

■講義計画

- ①講義概要
- ②原子の構造と周期律
- ③化学結合
- ④物質とアボガドロ数
- ⑤化学反応と熱化学方程式
- ⑥物質の3態
- ⑦溶液の性質
- ⑧化学平衡
- ⑨酸・塩基と電離平衡
- ⑩酸化還元反応
- ⑪電池と電気分解
- ⑫コロイド
- ⑬錯体とキレート
- ⑭環境化学
- ⑮講義のまとめ

環境アセスメント及び演習

【担当】市川 陽一

【開講】後期 火2

■サブタイトル

環境アセスメントの精神

■講義概要

持続可能な社会を形成するために、事業や計画の実施にあたって事前に環境影響を評価し、保全措置を検討する環境アセスメントの必要性はますます高まっている。本講義では、まず、進展する環境アセスメント制度とその精神、役割について理解する。次いで、大気質を例に環境の調査、予測、影響評価、保全措置の検討について学ぶ。また、実事業の事例検討や演習を通じて、環境アセスメントの実態の理解と手順の修得をはかる。

■到達目標

環境アセスメントを理解し、当該分野において社会に貢献できる人材に到達することを目標とする。

■講義方法

講述と演習を交える。演習では発表、質疑などを積極的に行ってもらおう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示した事項について予復習を行う。演習課題を実施して講義に臨む。

■成績評価の方法

小テスト（40%）講義の理解度
レポート（60%）演習の内容、結果

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境アセスメントとは
- ②アセスメント制度の進展
- ③対象事業
- ④アセスメントの手順
- ⑤わが国の環境影響評価制度の特徴
- ⑥戦略的環境アセスメントSEA
- ⑦環境影響評価の構成要素、要因
- ⑧中間まとめ、小テスト
- ⑨演習：対象事業の選定
- ⑩演習：調査範囲の設定
- ⑪演習：環境影響評価の構成要素、要因の選定
- ⑫演習：調査、予測手法の選定
- ⑬課題設定：方法書段階の環境影響評価項目の選定
- ⑭課題の実施
- ⑮課題の講評、まとめ

■講義概要

現代の環境問題は、便利さや快適さを希求して大量生産・大量消費・大量廃棄型経済発展を続けた20世紀型経済社会システムの負の遺産です。21世紀以降も持続可能な社会を作っていくためには、経済システムの中に『環境価値』を織り込みながら、システム自体が大きくパラダイム変換していく必要が叫ばれています。

本講義では、まず産業活動がもたらした環境問題の本質を経済学的に整理したうえで、経済活動による外部コストを最小化する政策手法などについて説明します。温暖化問題を解決するための低炭素社会や、廃棄物問題を解決するための循環型社会を実現するための、各経済主体の動向について整理します。

また、経済のグローバル化の流れの中で明らかになってきた「自由貿易」と[各国の環境政策]の対立についてもお話しします。さらに、企業活動の環境配慮について、CSRやエコビジネスの観点から説明していきます。

そして、従来対立すると考えられていた経済活動と環境保全の共生をめざす、これからの経済システムのあり方について考えていきましょう。

■到達目標

企業活動や経済政策などに『環境性』の視点が次々と加わっていることに気づくことができます。環境に関連した経済ニュースの内容が理解できるようになります。

■講義方法

基本的に講義形式ですが、積極的な発言や質問は大歓迎です。

■授業時間外における予・復習等の指示

最近のニュースを取り上げていきますので、授業で出てきた話題は御自分でも確認するようにしてください。

■成績評価の方法

定期試験（90%）持ち込み不可の論述試験（期末）
その他（10%）授業中に実施したクイズや視聴レポート、アンケートなどのアクティビティの評価（不定期）

■テキスト

特になし

■参考文献

加藤尚武 『環境学、スーパーゼミナール』 東洋経済新報社 1785円

■履修上の注意・担当者からの一言

現実の経済は生き物ですから、常に変化しています。新聞などのニュースを毎日チェックし、新しい変化を敏感にキャッチするようにしてください。

■講義計画

- ①環境グローバリズムの推移
- ②環境基本法と政策手段の変化
- ③経済学から見た環境問題とは
- ④外部コストの内部化
- ⑤環境税の仕組み
- ⑥循環型社会の構築と持続可能性
- ⑦廃棄物と静脈経済
- ⑧地球温暖化と低炭素経済
- ⑨グリーン・ニューディールとエネルギー政策
- ⑩拡大生産者責任と環境効率向上
- ⑪自由貿易と環境保全
- ⑫南北問題と環境問題
- ⑬エコビジネスと環境経営
- ⑭環境コミュニケーションと経済システム
- ⑮持続可能な経済社会をめざして

環境計測学（2007年度以降入学生）

環境モニタリング（2006年度以前入学生）

【担当】宮浦 富保、市川 陽一、竺 文彦

【開講】前期 月2

■講義概要

さまざまな人間活動が環境に与える影響を正しく評価するためには、環境に関わるさまざまな要因を継続的に測定・観測し、その変化を見極める必要がある。この講義では、物理、化学、生物環境の測定・観測の手法と、測定観測を継続的に実施していくのに必要な考え方を学ぶ。また、環境測定手法の幅（測定法の利点・欠点、客観性、等）を理解して適正なモニタリング計画を立案する基礎を学ぶ。

■到達目標

物理環境、化学環境、生物環境に関わる測定・観測技術の基本を理解する。対象となる環境のモニタリングを実施するのに必要な手法や項目を挙げ、モニタリング計画を作成する。

■講義方法

授業は基本的に講義形式で行う。必要に応じて、モニタリング実施の現場を見学したり、モニタリングで継続的に得られているデータを演習形式で解析する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の中で紹介する統計的な手法や、計測技術、解析法などは演習を通して理解が進むものである。復習をしっかりと行うとともに、提示された練習問題等に積極的に取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境モニタリングとその必要性
- ②資料の収集と分析
- ③測定値の誤差と精度
- ④生物現象の測定
- ⑤生物現象の解析法
- ⑥水環境のモニタリング
- ⑦物理学的水質分析と環境
- ⑧化学的水質分析と環境
- ⑨生物学的水質分析と環境
- ⑩水質分析と環境（まとめ）
- ⑪大気汚染のモニタリング（環境基準に定める方法）
- ⑫大気汚染のモニタリング（環境基準に定める方法以外）
- ⑬リモートセンシング
- ⑭酸性雨のモニタリング
- ⑮気象観測

環境工学基礎実習

【担当】 竺 文彦、市川 陽一、占部 武生、菊池 隆之助、岸本 直之、越川 博元、浅野 昌弘
【開講】 後期 木3・木4・木5

■講義概要

都市の環境を適切に維持するために設けられている施設を見学し、その機能や施設の実際について体験する。さらに基本的な実験技術の修得を目的として、担当教員ごとに基礎的で興味ある実験をおこない、レポートなどをまとめることにより、エコロジー工学系の知識や技術の基礎とするものである。

■到達目標

施設見学および実験を通して、2年次以降に展開されるエコロジー工学系の講義の基礎とすることである。

■講義方法

施設見学に先立ち、それぞれの施設の工学的特徴、機能について予習した後、見学する。また実験については担当教員の指示に基づき、内容、実験手技（テクニック）などについて学習し、さらに実験を実施してその内容、結果についてレポートを作成する。

■授業時間外における予・復習等の指示

担当するテーマ（溶出や見学）では、建学提示されたグループごとに事前にフローチャートを提出。実験終了後の小テストを行うので復習をしておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）受講態度、取組状況、レポートなどの結果により、総合的に判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

現地で対応いただく方々は、処理施設の技術者の方々である。学生として失礼のない行動をとって頂きたい。さらに、またとない機会なので、実態をよく見て、話をよく聞いた上で、活発な質疑を期待する。なお、見学時の遅刻者は「容赦なく置き去り」にする。

■講義計画

- ①科目説明、および、ガイダンス
- ②施設見学事前学習
- ③施設見学・浄水施設
- ④施設見学・水処理再生センター
- ⑤実験ガイダンス
- ⑥液クロを用いた分析実験
- ⑦廃棄物利用実験
- ⑧ガラス細工実験
- ⑨大気汚染実験
- ⑩見学事前学習
- ⑪施設見学・焼却施設
- ⑫施設見学・リサイクル施設
- ⑬廃棄物からの溶出実験
- ⑭微量汚染分析実験
- ⑮反応論実証実験

環境システム解析

【担当】 岸本 直之
【開講】 後期 木2

■講義概要

環境システムとは、環境をある秩序に従って働く様々な要素の集合体として捉えたものである。本科目では、環境システムを記述・解析するための基本的考え方および手法について、特に物質の変換過程に焦点を当てて講述する。

■到達目標

環境システムをモデル化するための基本的概念および手法の習得。

■講義方法

環境システムを解析するための考え方や基本的手法について例題を交えながら講述する。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、講義の最後に課題を出します。次回講義までに自宅で取り組むようにしてください。

■成績評価の方法

小テスト（100%）

■テキスト

渡辺信久、岸本直之、石垣智基 『図説わかる環境工学』 学芸出版社 2800円

■参考文献

小宮山 宏 『CREATIVE CHEMICAL ENGINEERING COURSE 3 反応工学 反応装置から地球まで』 培風館 1600円
橋本健治 『改訂版反応工学』 培風館 2900円
潮秀樹 『図解入門よくわかる微分方程式』 秀和システム 2300円

■講義計画

- ①環境システムとは・物質収支
- ②物質の出入り（移流・拡散）
- ③1階常微分方程式の解法
- ④2階常微分方程式の解法
- ⑤第1回確認テスト（1－4回分）・まとめ
- ⑥回分式反応器
- ⑦連続式反応器（プラグ流反応器）
- ⑧連続式反応器（完全混合流反応器）
- ⑨直列連続槽型反応器
- ⑩第2回確認テスト（6－9回分）・まとめ
- ⑪反応現象と反応速度
- ⑫反応速度式
- ⑬反応速度の温度依存性
- ⑭生物化学反応
- ⑮第3回確認テスト（11－14回分）・まとめ

**環境施設設計演習（2007年度以降入学生）
廃棄物施設設計演習（2006年度以前入学生）**

【担当】 占部 武生、岸本 直之
【開講】 後期 火3

■講義概要

本科目では、自治体のごみ処理を想定した収集、中間処理、資源化、最終処分等の関連施設、および下水道建設を想定した下水道計画及び関連施設の基本的な設計演習を行う。

■到達目標

ごみの発生予測から廃棄物施設の設計および汚水処理・雨水排除計画から下水道施設設計にいたるまでの必要な考え方および基本的な設計能力が身につく。

■講義方法

例題を中心に論述し、適宜課題演習を行う。

■系統的履修

廃棄物処理（2007以降入学生：廃棄物工学）
上下水道工学（2007以降入学生）

■授業時間外における予・復習等の指示

十分予習しておくこと。また、講義で出されたレポート課題、小テストなどの演習はよい復習にもなる。十分時間をかけて行うこと。

■成績評価の方法

レポート（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

元田、大山 『わかりやすい廃棄物処理・リサイクルの実務計算』 オーム社 2415円
松藤敏彦 『都市ごみ処理施設システムの分析・計画・評価』 技報堂出版 4200円

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は演習科目であり、毎回の講義・演習への出席が必須である。

■講義計画

- ①廃棄物処理施設の計画設計、ごみ量・ごみ質の予測
- ②収集・運搬施設の実施設計
- ③焼却施設の物質収支、熱収支計算
- ④焼却施設の実施設計
- ⑤資源化施設の実施設計
- ⑥埋立施設の実施設計
- ⑦経済計算
- ⑧下水道計画・処理場の計画設計概要
- ⑨計画汚水量・汚濁負荷量計算法
- ⑩計画汚水量・汚濁負荷量計算演習
- ⑪処理場の実施設計1（最初沈殿池）
- ⑫処理場の実施設計2（曝気槽）
- ⑬処理場の実施設計演習1（標準活性汚泥法）
- ⑭処理場の実施設計3（OD法）
- ⑮処理場の実施設計演習2（OD法）

環境実習A

【担当】 越川 博元、占部 武生
【開講】 前期 集中

■講義概要

関連施設を見学するなどして、実践的基礎を習得する。また、調査で得られた資料などを基に何が問題であるのか（ありつつあるのか）を議論し、理解を深める。

■到達目標

調査法を体験的に学び、何が問題か課題かが把握できることを目標とする。

■講義方法

学内で事前学習・説明を行い、現地での調査活動を開始する。調査終了後にレポートを提出する。調査は8月下旬～9月中旬を予定している。

■授業時間外における予・復習等の指示

現地の調査を効果的なものにするためには、事前の準備とその調査が重要である。積極的な参加を期待するとともに、現地での安全にも気を付けて、よりよい実習にしていける。

■成績評価の方法

その他（100%）事前学習への取り組み、調査態度、調査法の理解度、データ解析、レポートなどを総合的に評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

コースや交通や経費や注意点を別途に掲示板などで詳細に連絡する。
事前学習において、必要に応じて資料を配布する。

■講義計画

- ①1日目：事前学習1
- ②2日目：事前調査2
- ③3日目：現地における本調査1
- ④4日目：現地における本調査2
- ⑤5日目：調査で得られた資料の整理1
- ⑥6日目：調査で得られた資料の整理2
- ⑦7日目：調査で得られた資料の整理3
- ⑧1日目：事前学習（計画立案）
- ⑨2日目：事前学習（調査報告）
- ⑩3日目：現地における本調査1
- ⑪4日目：現地における本調査2
- ⑫5日目：調査で得られた資料の整理1
- ⑬6日目：調査で得られた資料の整理2
- ⑭7日目：調査で得られた資料の整理3
- ⑮まとめ

環境実習B

【担当】宮浦 富保、遊磨 正秀

【開講】前期 集中

■講義概要

生態系の構造と機能を野外において体験調査する。とりわけ、地球上のさまざまな自然環境に接することにより、陸域や水域のフィールドワークの実践の基本を学ぶとともに、それぞれの生態系に独特の調査法や観察法を体験的に習得する。さらに、調査値の地域特性と自然環境の関係について学ぶ中で、地域文化についても学習し、一方でこれらの自然環境が人間活動や自然災害によって破壊された場合にどのように修復する事ができるのか、あるいは何が問題となっておりどのような方向に向かおうとしているのか、について議論し、自然環境と人間生活の関わりについて総合的に理解を深める。調査地や日程は年度によって異なるので、進級ガイダンス時に連絡する。

■到達目標

地球上のさまざまな生態系について、その特徴を知り、地域文化との関係についての理解が深まる。

■講義方法

どのような事を、どのような観点から、どのような方法で調査するのか、十分な事前検討を行う。現地での調査活動は1週間程度である。また、調査終了後には、調査レポートの提出を課す。時期は、8月下旬から9月中旬にかけての期間である。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前の十分な調査と計画立案の作業、および事後に行う調査内容のまとめと発表は、この実習の重要な部分である。積極的に取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

その他（100%）
事前検討の進め方、現地での調査態度、調査レポートの内容などを総合的に評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

普段の生活と異なる環境での実習活動である。野外調査での注意事項、装備の準備などについて別途指示するので、厳守すること。現地までの往復の交通費、宿泊費、食費等は自己負担となる。

■講義計画

- ①実習概要の説明
- ②調査・観察地域に関する学習
- ③現地調査および観察
- ④調査・観察結果のまとめ
- ⑤実習成果の発表会
- ⑥実習の概要
- ⑦調査用具の確認及び予備調査
- ⑧現地調査
- ⑨現地調査資料のまとめ
- ⑩実習成果の発表会

環境実習C

【担当】横田 岳人

【開講】前期 集中

■講義概要

講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等における現場体験（インターンシップ）に加えて、ボランティア活動、NPO・NGO等の組織における活動など、環境活動を通じた社会との関わりあい方について広く体験の場を持つ。学外実習に比べて広範かつ柔軟な実務体験が可能である反面、受講者の積極性が強く求められる。実施期間は夏期休暇中の約3週間程度に相当するものとし、実習終了後に報告書の提出が必要である。実習先となる体験学習の場は、まず実習者本人が希望先を選定し、実習内容を希望先や担当教員と十分に協議して実習先を決定する。

■到達目標

環境活動を通じた社会貢献を体験することで、大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法

原則として事前実習の受講および実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■授業時間外における予・復習等の指示

常日頃から社会貢献を意識して情報を収集しておくこと。体系的な理解に役立つ書籍等は、適宜指示する。

■成績評価の方法

その他（100%）
実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に可否を判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

実習者本人が実習先を自ら探し、内容を調整して実習にあたるため、実習者本人が自覚的に行動する必要がある。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。

■講義計画

- ①実習希望先のヒアリング
- ②実習先候補との交渉を経て複数候補の提出・決定
- ③実習に関するオリエンテーション
- ④大学より実習先へ実習内容確認書発送
- ⑤実習先の通知・オリエンテーション
- ⑥事前実習
- ⑦実習実施
- ⑧実習報告会

環境社会学

【担当】 中井 治郎

【開講】 前期 水2

■講義概要

かつては「公害」、近年は「エコ」など、環境問題はさまざまな形態をもって取り上げられ、人々の認識もそれに応じて大きく変化してきた。とくに近年、環境問題が社会問題として大きくクローズアップされるとともに、エコロジー・ブームなど「環境の商品化」ともいえる現象が顕著となっている。また2011年の東日本大震災における福島原発の事故は、現代日本の豊かな生活がいかに重大な環境リスクと背中合わせであったかを再認識する契機となり、脱原発をめぐる議論や社会運動は、これまでにない活発さを見せている。本講義では、このようなさまざまな環境問題の社会的意味を読み解いていく。

■到達目標

環境問題を単に現代社会の一つの問題としてみるのではなく、環境問題を構成する社会的要因、社会的背景を考えることを通して、現代社会の構造そのものを理解することを目指す。

■講義方法

できるだけ身近な事例、今日的な問題を取りあげ、それらについて受講生皆さんの意見を聞くというスタイルの授業を進め、対話を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポートに向けて、環境問題に関する新聞記事・ニュースなどをチェック・収集しておく。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 授業中に随時、課題、小レポートなどを提示する。

レポート (60%) 期限の厳守と内容により評価。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の際に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会問題としての環境問題としての複雑さ・根深さを知って欲しい。

■講義計画

- ①はじめにー社会学的視点とは？ー
- ②環境社会学の展開
- ③公害から環境問題へ①
- ④公害から環境問題へ②
- ⑤環境破壊の社会的メカニズム①
- ⑥環境破壊の社会的メカニズム②
- ⑦環境政策の課題
- ⑧豊かさと環境のジレンマ①
- ⑨豊かさと環境のジレンマ②
- ⑩豊かさと環境のジレンマ③
- ⑪環境運動の変遷と意義①
- ⑫環境運動の変遷と意義②
- ⑬環境の商品化という視点①
- ⑭環境の商品化という視点②
- ⑮まとめ

環境政策論

【担当】 今井 紘一

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

「自然と人との共生」のあり方を考える

■講義概要

滋賀県は「小宇宙」に例えられる。陸域（ほぼ琵琶湖集水域に相当）に141万人の県民生活と各種の産業活動が営まれ、湖内には1,100種の動植物が生息する。自然と人との関わり方が問われている地球環境問題の縮図的な存在にあるといえる。

「琵琶湖条例」制定以来、30年余にわたる滋賀県の環境施策を考察し、「自然（湖）と人との共生」を目標とした環境保全への取り組みを学ぶとともに、今日の地球環境問題への基本的な対応について考えたい。

■到達目標

今日の社会・経済活動には、多くの場面で環境への配慮や実践が必要である。その原点として、自身の環境観を養うことの助となる。

■講義方法

授業回数ごとに、要点のプリントを配布し、映像（主にパワーポイント）により講義を行う。

また、ビデオを視聴し、環境問題に対しての自身の考えを問う小テストを取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テスト（論文形式、3回）および授業効果調査（択一式、2回程度）に際しては、事前の授業内容および参考文献を復習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

小テスト (30%)

レポート (30%)

平常点40点 (40%)、小テスト30点 (3回×10点) (30%)、レポート30点 (30%) の合計100点満点で評価する。

■テキスト

（テキストは指定しない）

■参考文献

滋賀県琵琶湖環境部 『滋賀の環境2012』

琵琶湖百科編集委員会編 『知ってますかこの湖をーびわこを語る50章』 サンライズ出版 2940円

滋賀県HP

滋賀の環境2012 (<http://www.pref.shiga.jp/biwako/koai/kankyo/index.html>)

マザーレイク21計画 (<http://www.pref.shiga.jp/biwako/koai/mother/top.html>)

■履修上の注意・担当者からの一言

環境分野の職務には広い視野が求められます。特に、理工系の皆さんには、TVの自然番組や野外活動の機会に、自然のしくみを知り、自然とふれあうことを心がけてください。

■講義計画

- ①滋賀県は“小宇宙”（滋賀県の環境特性、琵琶湖の価値と保全）
- ②環境保全施策の展開（環境保全施策の経過、環境法体系）
- ③ビデオ視聴（“里山”）、小テスト
- ④琵琶湖の環境保全施策（環境悪化と要因、施策の推移と特徴）
- ⑤琵琶湖の環境保全施策（水環境）
- ⑥琵琶湖の環境保全施策（自然環境）
- ⑦琵琶湖の環境保全施策（公共事業の取り組み、びわこ地球市民の森）
- ⑧琵琶湖の環境保全施策（マザーレイク21計画ー琵琶湖総合保全整備計画ーの策定と実践）
- ⑨琵琶湖の環境保全施策（廃棄物対策への取り組み）
- ⑩ビデオ視聴（廃棄物対策番組）、小テスト
- ⑪地球環境問題への取り組み（地球の温暖化対策）
- ⑫ビデオ視聴（地球環境番組）、小テスト
- ⑬地球環境問題への取り組み（野生生物種の保全）
- ⑭地球環境問題への取り組み（湖沼の保全）
- ⑮“自然と人との共生”に向けて（講義のまとめー風景と文化）

環境生態学実習（2007年度以降入学生） 【担当】レイ トーマス、ティン、近藤 倫生、林 珠乃
環境生態学実習A（2006年度以前入学生） 【開講】前期 木3・木4・木5

■講義概要

生態学および生態環境マネジメントにおける実験手法、調査手法を修得する。生態系のエネルギー・物質収支に関わる項目を中心に、物理環境測定と炭素同化の中心を担う植物の光合成および生産構造に関する調査を行う。また、系内に獲得したエネルギーの利用様式が、動植物群の種組成や多様性、動態などに与える影響を学ぶ。これらの調査法を統計的な妥当性ととも理解できるように努める。

■到達目標

生態学の基本的な事柄についての調査方法を修得するとともに、それらに関連する事項について理解を深める。また、自然環境の中で得られるデータの数学的な取り扱いの基礎を体得する。

■講義方法

実習はコースごとに行う。4つの実習コースから3コースを選択し、各コース4回ずつの実習を行う。実習コースごとに、実習の目的・内容・意義・方法などを説明した後、実習に取り組む。レポートは実習コースごとに提出する

■系統的履修

生態学概論、統計学概論、生物多様性実習

■授業時間外における予・復習等の指示

実習時間外は実験内容を参考書や関連する文献を参照し、より良い考察したレポートを書くことをお勧めです。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
 レポート (40%)
 その他 (20%) 実習態度

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

実習期間に、必要に応じて生物図鑑を用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言

野外での実習が大部分です。野外の実習では危険が伴いますので、別途配布する「安全のてびき」を熟読し、指導者の指示に従って下さい。

■講義計画

- ①ガイダンス（実習内容の説明と班編制、諸注意）
- ②2回目以降は次のテーマから三つを選び、4回ずつの実習を行う。
- ③1）植物の生態的適応（レイ）
 2）データ解析とモデリング（近藤）
 3）生物間の相互作用（林）
 4）水生生物の生活・分布様式（山中）
- ④陸上植物多様性 - 京都府立植物園見学
- ⑤水生植物多様性 - 草津市立水生植物公園見学

環境装置工学

【担当】占部 武生、市川 陽一
 【開講】前期 月1

■講義概要

環境装置は多くの工学分野から成り立っており、環境装置の基礎をよく理解しておくことは、今後の学習、研究の発展にとり重要である。本科目では、多くの工学分野のうちでも代表的な熱力学、材料力学などの基礎とともに、装置レベルの工学の基礎についてもわかりやすく論述する。

■到達目標

幅広い環境装置に関係する基礎的な知見を得ることができる。

■講義方法

環境装置工学の基礎を論述するとともに、適宜小テストを行い理解を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示

分野が異なる講義が多い。予習・復習を十分行い、理解度をあげるようにすること。

■成績評価の方法

その他 (100%) 1～7回の確認試験 50%、9～15回の確認試験 (定期試験) 50%

■テキスト

特になし。

■参考文献

適宜、資料を配付する。

■講義計画

- ①材料科学（物性）
- ②材料科学（コンクリート、金属等）
- ③材料力学（圧縮、引張）
- ④材料力学（組合わせ応力）
- ⑤電気工学（基礎）
- ⑥電気工学（センサー）
- ⑦廃棄物処理装置（焼却、資源化）
- ⑧物質移動現象
- ⑨空調設備
- ⑩確認試験（1～7回）
- ⑪熱力学（エネルギー保存則）
- ⑫熱力学（熱力学の第2法則）
- ⑬熱力学（演習）
- ⑭熱利用設備（工業炉、ボイラー）
- ⑮熱利用設備（ヒートポンプ）

■講義概要

本科目は、本学科を構成する教員が各自の専門分野について、今、世の中で何が問題になっているのか、何が求められ、自分はどのような研究を展開しているのかを概述し、その分野の将来性や研究の夢などを論述する。各自が学修する興味の焦点や方向を見定めるきっかけとし、この学科で何ができそうか、あるいは何をを目指したいかを考えるための講義である。

■到達目標

環境問題に関する様々な視点を理解し、学科内において各自が専門的に学修すべき方向を見定める。

■講義方法

オムニバス形式である。講義をする教員が順次登壇し、板書、パワーポイントなどを利用して、わかりやすく講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に基づいて、関連する項目をさらに深く調べ考察するための課題を提示する。決められて期日までに提出のこと。

■成績評価の方法

レポート（100%）各教員へのレポートの評価をもって成績とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて講義中に提示する。

■講義計画

- ①ガイダンス、生態系マネジメントについて
- ②エコロジー工学について
- ③環境における微量汚染物質（薬剤）とその耐性細菌
- ④リサイクル
- ⑤森林破壊
- ⑥植物をめぐる昆虫と人間の関係
- ⑦水・生き物・人
- ⑧琵琶湖の水質保全
- ⑨大気環境とエネルギー
- ⑩天然資源の利用と問題
- ⑪生物多様性とその保全
- ⑫生態系の複雑性とは何か？
- ⑬動物と群集の環境応答
- ⑭難分解性化学物質による水環境汚染の現状
- ⑮レポート課題取り組み

環境毒性学（2007年度以降入学生） 環境リスク論（2006年度以前入学生）

【担当】越川 博元

【開講】前期 金1

■講義概要

本科目では、環境（人を取り巻く、水環境、大気環境、土壌環境）と毒性学との関連について講述する。その知見をもとに、ヒトの健康リスクや生態系のリスクを含め、リスクの概念、環境リスクを同定・分析しリスクを定量的に評価する手法、化学物質管理等についても講述する。物質によりもたらされるリスクの評価・管理モデルやそのシミュレーション事例についても示す。

■到達目標

本科目では主に化学物質のリスクを例として講述するが、ハザード（有害影響の大きさ）とその暴露の可能性の2つの観点からリスクについて考え、その概念を理解することである。

■講義方法

板書やプリントなどを使用して、講述する。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から「リスク」について関心を持っていると理解が進みやすい。授業の前には、前回で触れた内容を見返しておくことよりよいでしょう。

■成績評価の方法

定期試験（100%）定期試験（100点）により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

花井莊輔 『化学物質のリスクアセスメント』 丸善 3500円

■講義計画

- ①科目概説
- ②毒性学の基礎（1）：毒性とは
- ③毒性学の基礎（2）：化学物質の体内動態
- ④毒性学の基礎（3）：変異原性
- ⑤毒性学の基礎（4）：発ガン性
- ⑥リスクの概念
- ⑦リスクアセスメントとは
- ⑧リスクアセスメントの手順（1）：定性的リスクアセスメントと定量的リスクアセスメント
- ⑨リスクアセスメントの手順（2）：曝露アセスメントとリスクの判定
- ⑩リスクコミュニケーション：基本原則
- ⑪リスクコミュニケーション：化学物質を中心として
- ⑫化学物質の管理：PRTR
- ⑬生態系へのリスク
- ⑭環境生態系リスク評価：その考え方
- ⑮環境生態系リスク評価：その指標生物

環境微生物学

【担当】越川 博元

【開講】後期 月3

■講義概要

微生物は自然界での物質循環において重要な役割を果たすだけでなく、地下水や土壌などの汚染環境の修復技術および物質生産などのリサイクル技術についてもその有効利用が期待されている。本科目では、微生物の分類や基本的な生理から、微生物の機能や反応を通じた有効利用の実例までを広く概説し、環境中における微生物反応および微生物利用技術の可能性と限界について論述する。

■到達目標

微生物学の基礎、ならびに環境中での微生物の挙動および微生物利用技術の実践について知識を修得すること。

■講義方法

プリント、スライド、板書などを用いて講述する。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を見直しておいてください。

■成績評価の方法

平常点
小テスト
定期試験（100%）定期試験の成績をもって評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

大森俊雄他著 『環境微生物学』 昭晃堂

■講義計画

- ①環境微生物学概論
- ②微生物の分類と栄養摂取
- ③増殖と基質利用の動力学式
- ④微生物機能と酵素
- ⑤微生物機能と遺伝子
- ⑥微生物の遺伝情報の伝播
- ⑦元素循環と微生物（1）炭素の循環
- ⑧元素循環と微生物（2）窒素・硫黄の循環
- ⑨水処理技術と微生物反応
- ⑩嫌気性消化と微生物
- ⑪バイオマスの有効利用とリサイクル技術
- ⑫微生物による環境修復（バイオレメディエーション）
- ⑬廃棄物の処理・処分と微生物
- ⑭水系感染症と微生物
- ⑮微生物による毒性評価

環境分析化学実験

【担当】竺 文彦、菊池 隆之助、浅野 昌弘

【開講】後期 金3・金4・金5

■講義概要

本科目では、環境を計量するための方法を理解し、その技術的基礎を習得することを目的としている。環境は一般に生物学的・物理学的・化学的要素から成り立っており、さまざまな分析によって、環境の状況を把握することができる。本科目では水質分析を行うための化学的分析手法や生物学的分析手法を実習する。

■到達目標

環境分析の基礎および分析の基本操作の習得

■講義方法

実習内容について講述した後、実際に薬品や器具を用いて分析実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前にテキストを読み、実験内容を把握しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）レポートを中心に平常点を考慮して、総合的に評価する。

■テキスト

環境ソリューション工学科編『環境分析化学実験指導書』（授業時配付）

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

受講に際して、実験用白衣・保護眼鏡・関数電卓・グラフ用紙を用意すること。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②実験内容説明および試薬作成
- ③浮遊物質量・蒸発残留物、BOD実験説明
- ④SS・蒸発残留物分析実験
- ⑤BOD分析実験
- ⑥リン酸イオン・GC実験説明
- ⑦リン酸イオン分析実験
- ⑧GC分析実験
- ⑨アルカリ度・COD実験説明
- ⑩アルカリ度分析実験
- ⑪COD分析実験
- ⑫アンモニア性窒素・細菌学試験説明
- ⑬アンモニア性窒素分析実験
- ⑭細菌学試験
- ⑮レポート記述、まとめ

■サブタイトル

動物倫理から学ぶ倫理学

■講義概要

- ・この授業では、動物倫理の問題、具体的には食肉と動物実験の是非をテーマに、倫理学に関する様々な知識を学習してもらいます。「人間以外の動物に対して道徳的な配慮をする必要はあるの?」「動物に対する配慮は人間に対する配慮とどう違うの?」といった問題を考えながら、幸福や権利、義務といった倫理学上の概念の内容や、倫理的に考える際に重要な思考の筋道を紹介・解説します。
- ・環境倫理の問題は何気ない日常の裏側に潜んでいます。「牛丼チェーン店で1杯280円の牛丼を食べる」という日常的な営みに倫理的問題があると考える人がどれだけいるでしょうか。この授業では、動物倫理の考え方を通じて、日常生活に潜む倫理問題をあぶり出し、日常のレベルで倫理的思考を行うトレーニングを実践することで、普段の生活中でそういった倫理意識をもち続ける倫理感覚を涵養します。
- ・本講義の重点は「倫理学」の方にあって、歴史的な思想家が環境問題をどのように考えてきたか（いわゆる「環境思想」）の紹介は二次的なものになりますので注意してください（そのような講義内容の授業は他にありますので関心のある学生はそちらを履修してください）。
- ・みなさんにとってあまり身近ではない概念・考え方を扱うので、理解の難しさを感じる学生がいるかと思います。しかし、難しさを感じた時点で立ち止まり、時間をかけて考え直すことも倫理学を学ぶ上で重要な営みです。本授業ではできるだけわかりやすい説明を心がけるつもりですし、みなさんの疑問の解消にも手助けをしたいと思っています。聞きたいことが思い浮かんだら率直に、気軽に質問をぶつけてください。

■到達目標

1. 倫理学上の基礎的理論や基本概念を理解し、説明できる。
2. 環境倫理に関する問題意識を身につける。
3. 特定の環境問題について筋道のある仕方的思考し、それを表現できるようになる。

■講義方法

スライドとレジュメを利用しながら、講義形式で授業を行います。毎回授業後に簡単な小テストを行います。また、アンケートを取りますので、疑問に思った点、わかりにくかった点については積極的に質問ください。レジュメは授業開始時に配布します。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストの範囲を参考に、授業後にはレジュメ・教科書等で授業内容を復習しておくこと。また、適宜、教科書に基づいたリーディング・アサインメントを課します。

■成績評価の方法

小テスト（50％）授業時の小テストの点数を評価します。
定期試験（50％）授業で学習した概念や論点の理解を評価するための試験を行います。

定期試験のみならず、小テストにおいても不正行為には厳しく対処します。安易に他人の答案を代わりに書いたり、カンニングしたりしないこと。

■テキスト

伊勢田哲治 『動物からの倫理学入門』 名古屋大学出版会 2800円

授業毎に教科書に即したレジュメを配布します。教科書の購入は必須ではありません。ただし、欠席等の理由で授業内容を自習する必要がある人、授業から一步踏み込んでより多くの知識を学習したい人には購入をおすすめします。

■参考文献

ジョセフ・R. デ・ジャルダン 『環境倫理学－環境哲学入門』 人間の科学社 2800円
加藤尚武 『環境と倫理－自然と人間の共生を求めて』 有斐閣 アルマ 1890円
ピーター・シンガー 『動物の解放』 技術と人間社
授業内容の理解を深めるために読んでください。

■講義計画

- ①倫理学とはどのような学問か
- ②動物倫理の現状と歴史
- ③規範倫理学の基本的原理を学習する（1）：功利主義とは何か
- ④規範倫理学の基本的原理を学習する（2）：義務論とは何か
- ⑤メタ倫理学上の様々な立場を理解する（1）：種差別とメタ倫理学
- ⑥メタ倫理学上の様々な立場を理解する（2）：認知主義
- ⑦メタ倫理学上の様々な立場を理解する（3）：非認知主義
- ⑧社会契約論と動物倫理（1）：ロールズの社会契約論
- ⑨社会契約論と動物倫理（2）：社会契約論の応用
- ⑩動物と福利
- ⑪環境倫理学と野生動物問題
- ⑫柔らかな倫理から動物倫理を考える（1）：徳倫理学
- ⑬柔らかな倫理から動物倫理を考える（2）：ケア倫理学と共同体主義
- ⑭生物多様性と環境問題
- ⑮全体総括：倫理的な物事の考え方とは

■講義概要

地球環境問題から地域的な公害問題までのさまざまな環境問題に関する工学的あるいは全般的な事項について述べる。上水処理や下・廃水処理のさまざまな技術、大気汚染物、廃棄物などの問題や地球環境問題などについて解説する。

■到達目標

環境問題に対応するための基礎的事項が身につく。

■講義方法

プリント、OHP、パワーポイントなどを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習を十分に行うこと。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2500円

■参考文献

合田健（編）『水質工学応用編』 丸善 3600円

■履修上の注意・担当者からの一言

エコロジー工学の基礎となる科目なので、しっかり学んでほしい。

■講義計画

- ①環境問題と社会
- ②地球と自然環境
- ③水圏
- ④生態系
- ⑤地球温暖化
- ⑥森林破壊
- ⑦公害問題
- ⑧大気汚染
- ⑨水質汚濁
- ⑩騒音、振動、悪臭
- ⑪廃棄物
- ⑫大気汚染対策技術
- ⑬水質汚濁対策技術
- ⑭温暖化対策
- ⑮CSR

群集生態学

【担当】 遊磨 正秀、レイ トーマス、ティン

【開講】 後期 月4・火2

■サブタイトル

個体群生態学とのペア講義

■講義概要

本講義は、個体群生態学とのペア講義である。人間を含め生物は、地球環境を構成する重要な要素の一つである。しかしながら、近年の環境変化は、多くの生物の生態に多大な影響を及ぼしている。群集生態学は、生物多様性や自然環境の保全について理解するための基礎である。この講義では特に、生物多様性の評価方法、群集組成とその類似度の表現法、具体的な生物群集の散在様式や安定性・脆弱性・栄養塩循環など、生物の群集構造ならびに生態系を理解・評価する原理を学ぶ。

■到達目標

生態系における群集の構造、その成立過程と種内・種間相互作用、および環境から受ける影響について理解する。また、それらを理解するために必要な調査法や解析手法を習得することができる。

■講義方法

板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。

■系統的履修

個体群生態学を必ず履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する書籍あるいは雑誌記事を多読すること

■成績評価の方法

平常点（40%）講義に関連する小テストを含む
定期試験（60%）

■テキスト

資料などは講義時に指示する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

テキストの指定がなく試験問題は講義内容から出題されるので、できるだけ出席すること。

■講義計画

- ①生物群集の成長：遷移（レイ）
- ②生物群集の散在様式：植生分布（レイ）
- ③生物群集の応答：攪乱（レイ）
- ④生物群集の応答：更新（レイ）
- ⑤生物群集における捕食者の行動（遊磨）
- ⑥生物群集における被食者の行動（遊磨）
- ⑦生物群集における被食回避（色彩擬態）
- ⑧生物群集における被食回避（行動擬態）
- ⑨生物群集における侵入と絶滅（レイ）
- ⑩生物群集における一次生産（レイ）
- ⑪生物群集における炭素循環（レイ）
- ⑫生物群集の多様性評価（遊磨）
- ⑬生物群集の類似度評価（遊磨）
- ⑭生物群集の評価の実践（遊磨）
- ⑮群集生態学のまとめ（遊磨）

■講義概要

生物、とりわけ動物が生活するためには、まずは食物を得なければならない。そのために生物はさまざまな技をもち、工夫を凝らしている。一方で、外敵から身を守らねばならず、これにも自然の驚異とも思われるさまざまな工夫が見られる。むろん、同種他種とのさまざまな軋轢を克服するためのしくみも多く見られる。そしてこれらには、私たち人間の暮らしにも共通する行動原理が存在する。このような生物の暮らしぶりを理解するための行動生態学について、さまざまな例を提示しながら解説を加える。

■到達目標

生物の行動を理解する上で欠くことのできない生態学的視点ならびに原理を身につけることができる。

■講義方法

図表や写真、ビデオなどを用い、視覚的に理解しやすい講義を行う。

■系統的履修

進化生態学、個体群生態学など

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する書籍を読むこと

■成績評価の方法

平常点 (40%) 受講態度あるいは小テストによる
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

必要なものは講義中に提示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

随時、相談に応じる。対応可能な時間は学科事務室および研究室に掲示している。

■講義計画

- ①行動生態学概論
- ②生物リズムと日長・温度
- ③捕食者の行動
- ④動餌探索行動
- ⑤被植者の行動
- ⑥生物のだまし色彩 (擬態)
- ⑦生物のだまし行動 (擬態)
- ⑧生物の地理的移動
- ⑨生物の移動と個体群動態
- ⑩生物の社会行動 (アユのなわばり)
- ⑪生物の社会行動 (タンガニイカ湖のシクリッド)
- ⑫生物の社会行動 (マラウイ湖のシクリッド)
- ⑬生物の社会行動 (協調的関係)
- ⑭行動の個体差
- ⑮行動生態学のまとめ

個体群生態学

■サブタイトル

群集生態学とのペア講義

■講義概要

本講義は、群集生態学とのペア講義である。
人間を含め生物は、地球環境を構成する重要な要素の一つである。しかしながら、近年の環境変化は、多くの生物の生態に多大な影響を及ぼしている。個体群生態学は、環境の変化に対する生物の応答や自然環境保全との関係について理解するための基礎である。この講義では、生物種集団の基本単位である個体群に焦点をあて、個体群における個体数変動、密度効果、成長モデル、生命表解析・生存曲線、齢構成、繁殖生態、ならびに個体群間関係などの観点から、生物の個体群動態を理解する手法を学ぶ。また地域個体群・メタ個体群の概念についても言及する。

■到達目標

生態系における個体と集団の構造、その成立過程と種内・種間相互作用、および環境から受ける影響について理解する。また、それらを理解するために必要な調査法や解析手法を習得することができる。

■講義方法

板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。

■系統的履修

群集生態学を必ず履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

Webシラバス資料や参考書を参照しながら、講義内容を復習すること。理解できない部分がありましたら、学科のチューターや担当教員に質問すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義の内容に関連した小テストを含む
定期試験 (60%)

■テキスト

資料などは講義時に指示する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

テキストの指定がなく試験問題は講義内容から出題されるので、できるだけ出席すること。

■講義計画

- ①個体群動態：成長曲線 (遊磨)
- ②個体群動態：密度効果 (遊磨)
- ③個体群動態：大発生 (遊磨)
- ④個体群動態：相変異 (遊磨)
- ⑤個体群特性：生存曲線 (レイ)
- ⑥個体群の成長モデル (レイ)
- ⑦個体群間相互作用：競争 (レイ)
- ⑧個体群間相互作用：共生 (レイ)
- ⑨個体群間相互作用：種間競争 (遊磨)
- ⑩個体群間相互作用：資源利用 (遊磨)
- ⑪個体群間相互作用：共同 (遊磨)
- ⑫メタ個体群、地域個体群 (レイ)
- ⑬個体群動態：繁殖戦略 (レイ)
- ⑭個体群動態：共生 (レイ)
- ⑮個体群生態学のまとめ (レイ)

■サブタイトル

生物資源をいかにして利用するか

■講義概要

漁業資源や森林資源といった生物資源は自己増殖する点で非生物資源（例えば化石燃料や水資源）と大きく異なる。本科目ではこのような特徴を持った生物資源を利用する上でどのような問題が生じるか、また、それらの問題が生じる仕組みを講義する。さらに、生物資源を利用・管理する際に必要となる知識と技術の理論的基礎を紹介する。

■到達目標

生物資源を利用・管理するうえで必要な基本的知識の習得。

■講義方法

レジュメとスライドを利用しつつ、それぞれのトピックについて解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメや参考文献等を用いて必ず復習を行うこと。その他の予復習については、授業中の指示に従ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

松田裕之『環境生態学序説』 共立出版 2940円
C. W. クラーク『生物資源管理論』 恒星社厚生閣 4410円

■履修上の注意・担当者からの一言

相当量の予習と復習を前提として講義をおこないます。また、それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。

■講義計画

- ①生物資源とは何か？
- ②生物資源管理の基礎Ⅰ：Gordonのモデル
- ③生物資源管理の基礎Ⅱ：動的Gordonモデル
- ④生物資源管理の基礎Ⅱ：カストロフ
- ⑤乱獲の仕組みⅠ：共有地の悲劇
- ⑥乱獲の仕組みⅡ：割引率
- ⑦複数魚種の漁業
- ⑧森林資源の管理Ⅰ：森林資源利用理論の基礎
- ⑨森林資源の管理Ⅱ：ローテーションを考慮に入れる
- ⑩森林資源の管理Ⅲ：ファウストマン式とその限界
- ⑪生物種の絶滅とレッドデータブックⅠ：生物種の絶滅とその要因
- ⑫生物種の絶滅とレッドデータブックⅡ：レッドリストについて
- ⑬絶滅リスクの推定方法
- ⑭複雑な生物群集の管理と生物多様性保全
- ⑮生態系の複雑性と安定性、予測不可能性

資源循環工学

■講義概要

循環型社会について考える際、資源循環技術について知るとともに、個別製品等の評価を行っていくことも重要である。本科目では、資源循環に関連する主要素と、代表的な評価手法であるライフサイクルアセスメント（LCA）などについて平易に解説する。

■到達目標

資源循環に係わる知識と、代表的な評価手法であるLCAに係わる基礎的計算能力が取得できる。

■講義方法

資源循環工学の基礎を論述するとともに、適宜具体的な課題演習を行う。

■系統的履修

廃棄物処理、廃棄物施設設計演習

■授業時間外における予・復習等の指示

十分予習を行うこと。また、講義で出されたレポート課題や小テストなどの演習はよい復習にもなる。十分時間をかけて行うこと。

■成績評価の方法

レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

環境省編『循環型社会白書』 ぎょうせい 1600円

■履修上の注意・担当者からの一言

受講の際、関数電卓を持参すること。

■講義計画

- ①資源循環の動向（日本）
- ②資源循環の動向（欧米）
- ③資源循環の動向（アジア）
- ④マテリアルフローと資源循環指標
- ⑤ゼロエミッションとエコマテリアル
- ⑥経済計算
- ⑦環境ISO
- ⑧資源循環にともなうリスク
- ⑨LCA（生活スタイルの評価）
- ⑩LCA（評価手法）
- ⑪LCA（原材料）
- ⑫LCA（洗濯機）
- ⑬LCA（アルミ缶の回収の評価）
- ⑭LCA（計算ソフト）
- ⑮まとめ

自然の浄化機構（2007年度以降入学生）
自然浄化機構（2006年度以前入学生）

【担当】 竺 文彦、越川 博元
【開講】 前期 月5

■サブタイトル

自然水域での水質の項目の内容、および、浄化と汚染

■講義概要

自然水域で測定されている水質項目の測定方法とその内容について説明する。自然の中で生じている汚濁と浄化の作用を、素反応に分けて理解し、総合として生じる水系内の水質変化を把握する素養を習得することを目指す。

■到達目標

水質が意味するものを理解し、現象の把握を素反応に分解して理解する。

■講義方法

基本的に板書で講義を進め、プリント、パワーポイントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

十分に復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験（100％）定期試験の結果で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

宗宮 功 編著 『自然の浄化機構』 技報堂出版
宗宮 功 編著 『水環境基礎科学』 コロナ社

■講義計画

- ①水環境汚染とは
- ②浮遊物質
- ③溶解性物質
- ④有機物による汚濁
- ⑤無機物による汚濁
- ⑥生物的な指標
- ⑦微量汚染物質
- ⑧自浄作用と自濁作用
- ⑨水の流れと汚染の移動
- ⑩浄化の素反応 沈澱
- ⑪浄化の素反応 吸着
- ⑫浄化の素反応 好気性細菌群
- ⑬浄化の素反応 通性・嫌気性細菌群
- ⑭水系全体としての浄化機能の把握
- ⑮まとめ

社会調査法及び実習（2007年度以降入学生）
社会調査実習（2006年度以前入学生）

【担当】 柴田 和子
【開講】 前期 木1・木2

■講義概要

社会調査法及び実習は、受講生が社会調査の知識を習得するだけでなく、実際に調査計画を立て、調査を実施し、収集した独自のデータを分析する一連の過程を体験することにより、社会調査への理解を深めるとともに調査の基本的手法を身に付けることを目的としている。

受講生の持つ関心、テーマの共通性や共同作業のしやすさなどに考慮しながらグループ分けを行い、グループごとに話し合いを重ねながらオリジナルのアンケートを作成、実施していく。授業は、2時間連続開講であるため、2部形式で行う。前半部分では、講義形式でその時間の実習に必要な基礎知識を説明する。後半部分は、実際の作業を実習形式で行い、知識を深めていく。

■到達目標

調査方法の基本的な考え方とともに、調査を企画、実施、結果をまとめる実践的な方法を身につける。

■講義方法

講義・実習ともに班単位で受講。実習では主にパソコンを使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に渡すレジュメを理解しておくこと。作業の進捗状況により授業時間外実習を課すこともある。

■成績評価の方法

平常点（30％）授業への取り組み、出席点
レポート（60％）班単位・個人単位の最終レポート
その他（10％）班単位で行うパワーポイントによる発表

■テキスト

特になし

■参考文献

酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』 日本能率協会マネジメントセンター 2100円
谷岡一郎 『データはウソをつく』 筑摩書房 798円
大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋・永野武著 『社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房 2500円

■履修上の注意・担当者からの一言

個人個人がグループ内で積極的に討議しなければ授業は進行しません。授業への積極的参加を望みます。
グループで力をあわせて頑張ってください。

■講義計画

- ①社会調査とは何か（講義）
実際の調査票に触れる、グループ分け（実習）
- ②テーマの確定（講義）
グループごとのテーマ検討（実習）
- ③地図化・文章化（講義）
グループごとのテーマ検討・KJ法（実習）
- ④テーマの点検（講義）
テーマの点検（実習）
- ⑤質問文作成プロセス（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑥サンプリングの理論と実際（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑦対象者・調査方法の選定（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑧調査票の修正作業（実習）
- ⑨調査票完成・調査に向けた準備作業（実習）
- ⑩調査実施（実習）
- ⑪調査票のデータ化作業（講義）
データクリーニング・入力（実習）
- ⑫仮説の検証と統計的検定（講義）
データの統合（実習）
- ⑬データの見方・書き方（講義）
データの分析（実習）
- ⑭データの分析（実習）
- ⑮報告会（実習）

社会調査法及び実習（2007年度以降入学生）
社会調査実習（2006年度以前入学生）

【担当】 柴田 和子
【開講】 前期 木3・木4

■講義概要

社会調査法及び実習は、受講生が社会調査の知識を習得するだけでなく、実際に調査計画を立て、調査を実施し、収集した独自のデータを分析する一連の過程を体験することにより、社会調査への理解を深めるとともに調査の基本的手法を身に付けることを目的としている。
受講生の持つ関心、テーマの共通性や共同作業のしやすさなどに考慮しながらグループ分けを行い、グループごとに話し合いを重ねながらオリジナルのアンケートを作成、実施していく。授業は、2時間連続開講であるため、2部形式で行う。前半部分では、講義形式でその時間の実習に必要な基礎知識を説明する。後半部分は、実際の作業を実習形式で行い、知識を深めていく。

■到達目標

調査方法の基本的な考え方とともに、調査を企画、実施、結果をまとめる実践的な方法を身につける。

■講義方法

講義・実習ともに班単位で受講。実習では主にパソコンを使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に渡すレジュメを理解しておくこと。作業の進捗状況により授業時間外実習を課すこともある。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への取り組み、出席点
レポート（60%）班単位・個人単位の最終レポート
その他（10%）班単位で行うパワーポイントによる発表

■テキスト

特になし

■参考文献

酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』 日本能率協会マネジメントセンター 2100円
谷岡一郎 『データはウソをつく』 筑摩書房 798円
大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋・永野武著 『社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房 2500円

■履修上の注意・担当者からの一言

個人個人がグループ内で積極的に討議しなければ授業は進行しません。授業への積極的参加を望みます。
グループで力をあわせて頑張ってください。

■講義計画

- ①社会調査とは何か（講義）
実際の調査票に触れる、グループ分け（実習）
- ②テーマの確定（講義）
グループごとのテーマ検討（実習）
- ③地図化・文章化（講義）
グループごとのテーマ検討・KJ法（実習）
- ④テーマの点検（講義）
テーマの点検（実習）
- ⑤質問文作成プロセス（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑥サンプリングの理論と実際（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑦対象者・調査方法の選定（講義）
調査票作成作業（実習）
- ⑧調査票の修正作業（実習）
- ⑨調査票完成・調査に向けた準備作業（実習）
- ⑩調査実施（実習）
- ⑪調査票のデータ化作業（講義）
データクリーニング・入力（実習）
- ⑫仮説の検証と統計的検定（講義）
データの統合（実習）
- ⑬データの見方・書き方（講義）
データの分析（実習）
- ⑭データの分析（実習）
- ⑮報告会（実習）

上下水道工学（2007年度以降入学生）
環境水理学及び演習（2006年度以前入学生）

【担当】 浅野 昌弘
【開講】 前期 金3

■講義概要

上水道・下水道について仕組みや計画を中心に講述します。

■到達目標

上下水道の仕組みならびに上下水道の計画から運用に至る一連の流れを、皆さん各自において理解してもらうことを目標とします。

■講義方法

パワーポイントおよび板書を中心とした講義を行うとともに2回の確認テストを実施し、講義の理解度の確認ならびに成績評価を行います。

■系統的履修

上下水道の処理についての詳細は「水処理工学」を受講して下さい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の講義の終了後においては、必ず聴講内容の復習を各自において実施して下さい。

■成績評価の方法

確認テスト（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
上水道・下水道とは
- ②水道基本計画（計画給水人口）
- ③水道基本計画（計画給水量）
- ④水道水質
- ⑤水源および取水施設
- ⑥導水および浄水施設
- ⑦配水・給水
- ⑧第1回確認テスト（上水道）・まとめ
- ⑨下水道計画
- ⑩計画下水量
- ⑪下水排水
- ⑫下水水質
- ⑬下水処理
- ⑭汚泥処理・処分
- ⑮第2回確認テスト（下水道）・まとめ

進化学（2007年度以降入学生）
進化生態学（2006年度以前入学生）

【担当】 近藤 倫生
【開講】 後期 金3

■講義概要

進化は生物を特徴づける最も重要な特徴の一つであり、その理解は生物の関わる様々な事象を洞察するうえで欠かせない。本科目では、(1) 遺伝の仕組みを概説した上で、(2) 生物の進化が起こるメカニズム、(3) 系統進化、(4) 集団遺伝学の基礎、(5) 適応進化に関する諸理論に関して解説する。また、生物群集や生態系レベルでおこっている出来事と生物の進化がどのように関わっているを紹介する。

■到達目標

生物進化のメカニズムとその生態学的帰結に関する基本的事項の理解。

■講義方法

レジュメ、プロジェクタ、板書を併用しつつ、それぞれのトピックについて解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

予・復習等については授業中の指示に従ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

講義内容に関する講義中の発言を歓迎します。それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。

■講義計画

- ①進化とはなにか？
- ②遺伝のメカニズムⅠ：セントラルドグマ
- ③遺伝のメカニズムⅡ：対立遺伝子と遺伝子発現
- ④集団遺伝学の基礎
- ⑤系統発生と種分化
- ⑥自然選択による進化、適応度、最適戦略
- ⑦進化的に安定な戦略と軍拡競争
- ⑧男と女はどちらが得かⅠ：性比理論
- ⑨男と女はどちらが得かⅡ：性転換
- ⑩性選択
- ⑪人間に働く性淘汰
- ⑫性の進化
- ⑬自己犠牲の進化
- ⑭変動環境への適応
- ⑮生命とは何か：科学と非科学のはざま

数学Ⅰ

【担当】 森田 善久
【開講】 前期 火5

■サブタイトル

初等関数の微積分とその応用

■講義概要

一変数の微分積分学の基礎とその応用について講義する。高校で学習する内容と重複する部分はあるが、より習熟度を深めいろいろな問題への応用も学ぶ。

■到達目標

一変数の微分と積分の意味を理解し、初等関数（指数関数、対数関数、三角関数など）の微分積分の計算ができること。また、面積の計算や簡単な微分方程式が解けるようになることを目指す。

■講義方法

要点の解説と、演習を混ぜながら進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では内容をすべてカバーできないので演習の一部は宿題になります。

■成績評価の方法

平常点（20%）演習ドリルの提出
小テスト（80%）中間試験40点、期末試験40点
その他
試験は、中間テストと期末試験を実施する予定。

■テキスト

日本数学教育学会TAMS 『ドリルと演習シリーズ微分積分』
電気書院 1400円
テキストは必ず購入してください。毎回その中のドリルの分を切り離して提出してもらいます。

■参考文献

桑村雅隆 『微分積分入門』 裳華房 2600円

■講義計画

- ①数列の極限
- ②関数の極限
- ③接線と微分係数
- ④導関数の計算
- ⑤関数の増減、極値、凹凸
- ⑥テイラー展開
- ⑦偏微分の計算
- ⑧中間試験
- ⑨不定積分
- ⑩部分積分と置換積分
- ⑪定積分と区分求積法
- ⑫定積分の計算
- ⑬面積・体積への応用
- ⑭微分方程式の初等解法
- ⑮期末試験

数学Ⅱ

【担当】 神 直人
【開講】 後期 火4

■サブタイトル

線形代数学

■講義概要

数学の応用に必要な線形代数を基礎的なことから学ぶ。内容としては、行列、ベクトルの演算、行列式、逆行列、さらに固有値・固有ベクトルと応用として漸化式、微分方程式についても解説する。

■到達目標

行列、ベクトルを計算の対象としてのみ見るのではなく、その奥に秘められた様々な関係、多くの分野との関係に気づく。

■講義方法

講義形式で行うが、線形代数学は自ら手を動かして計算しないと身につかない面も多いので、できるだけ演習問題もとり入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書の章末問題を復習として行うこと。

■成績評価の方法

小テスト (20%)
定期試験 (80%)

■テキスト

裕文夫 『理工系の線形代数』 培風館 1700円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

計算ばかりにとらわれることなく、全体像を見る努力をしましょう。プリントも配布するので、授業中はノートを取ることに集中せずに話をよく聞くこと。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②行列とは
- ③連立方程式
- ④逆行列
- ⑤基本行列
- ⑥行列式
- ⑦行列の基本変形
- ⑧余因子行列
- ⑨1次独立
- ⑩固有値と固有ベクトル
- ⑪行列の対角比
- ⑫行列の応用：行列のべき乗
- ⑬行列の応用：漸化式
- ⑭行列の応用：線形微分方程式
- ⑮行列の応用：まとめ

数学Ⅲ

【担当】 神 直人
【開講】 前期 火3

■サブタイトル

複素解析学

■講義概要

複素数の微分積分学を学ぶ。応用として2次元流れの解析を目指す。

■到達目標

実関数の微分積分学の理解が深まる。数でありながら、ベクトル、行列という面も併せもつ複素数の便利さが理解できる。

■講義方法

講義形式で行なうが、理解を深めるために随時演習を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として教科書の練習問題、章末問題を解答すること。

■成績評価の方法

小テスト (20%)
定期試験 (80%)

■テキスト

坂田 注 『基本 複素関数論』 サイエンス社 1500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

複素数の微積分では、関数を理解するのにグラフではなく、写像としての面を強調する。「関数＝グラフ」の先入観を持たないでほしい。

■講義計画

- ①複素数
- ②複素数平面
- ③複素関数
- ④正則関数
- ⑤初等関数の例
- ⑥複素積分：多項式関数
- ⑦複素積分：有理関数
- ⑧実積分への応用：有理関数の広義積分
- ⑨実積分への応用：三角関数
- ⑩流体力学への応用1：湧き出し・渦がない場合
- ⑪流体力学への応用2：湧き出し渦がある場合
- ⑫等角写像：1次分数関数
- ⑬等角写像：初等関数
- ⑭留数定理
- ⑮応用に関するトピックス

数学序論

【担当】 荒井 徳充

【開講】 前期 金3

■サブタイトル

高校数学から大学の数学へ

■講義概要

高校数学の微積分をできるだけ系統的に説明し、そこにいくつかのトピックをつけ加えることで大学で学ぶ数学への橋渡しを行う。これまで学んできた数学がどのように大学の数学へつながっていくのか。また、数学を「理解する」とはどういうことなのか。ひとりひとりが数学に対する苦手意識を手放すことで自らその「答え」を見だし、「数学のセンス」を磨いていくことを目標としたい。

■到達目標

多変数関数の微積分を理解するための土台をつくる。

■講義方法

あらかじめ実施される確認試験の結果、受講者を選出する予定である。したがって、受講を希望する者は必ず確認試験を受けること。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習について・・・高校数学の知識を前提として話をするので、未習の分野がある者は高校の教科書を学習しておくこと。

復習について・・・授業でとりあげた問題は何度もくりかえし練習するように。

■成績評価の方法

定期試験（100％）

学期末試験のみで評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

高校の数学の教科書

■履修上の注意・担当者からの一言

高校数学の内容を十分に復習しておくこと。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②関数の定義、合成関数、逆関数
- ③導関数の定義、積・商の微分法
- ④合成関数の微分法、逆関数の微分法
- ⑤三角関数
- ⑥指数・対数関数
- ⑦第2次導関数、高次導関数
- ⑧微分のまとめ（演習と補足）
- ⑨定積分の定義、リーマン和
- ⑩微積分の基本定理
- ⑪部分積分
- ⑫置換積分
- ⑬面積
- ⑭積分のまとめ（演習と補足）
- ⑮微分と積分の総合演習

数理生態学（2007年度以降入学生）

環境モデリング及び演習（2006年度以前入学生）

【担当】 近藤 倫生

【開講】 後期 月5

■サブタイトル

数理モデルを利用した理論生態学

■講義概要

複雑なシステムの振る舞いを直観のみに頼って理解するには限界がある。数学的な言葉で記述された理論モデル（数理モデル）は、このような場面において極めて有効なツールとなりうる。本科目では生物の個体群動態を例にとり、数理モデルを用いて現象を記述し解析する方法を学ぶ。個体群生態学、群集生態学における基礎理論も合わせて講義する。

■到達目標

数理モデルを利用する際に不可欠な基礎的知識と技術、さらに生態学の基礎理論を身に付ける

■講義方法

レジュメを用いた基本的事項の解説と演習を有機的に組み合わせて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

予・復習等については授業中の指示に従ってください。

■成績評価の方法

小テスト（50％）

定期試験（50％）

■テキスト

特になし

■参考文献

寺本英 『数理生態学』 朝倉書店 4410円

■履修上の注意・担当者からの一言

講義内容に関する講義中の発言を歓迎します。それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。TAによるサポートを受けられますが、新しい技術や発展的な内容を数多く含んでいるため、受講に際しては十分な自習（予習・復習）が求められます。また、レジュメ等関連資料が、ホームページでダウンロードできますので活用して下さい。

■講義計画

- ①数理モデルとはなにか
- ②密度効果
- ③カオス
- ④演習1：第1回から3回までの講義分
- ⑤演習1 解答解説
- ⑥齢構造を考慮したモデルⅠ：レスリー行列
- ⑦齢構造を考慮したモデルⅡ：安定齢分布
- ⑧連続時間のモデル
- ⑨メタ個体群モデル
- ⑩演習2：第6回から9回までの講義分
- ⑪演習2 解答解説
- ⑫ゼロアイソクライン解析
- ⑬局所安定性解析
- ⑭どんな病気が流行するか：伝染病のモデル
- ⑮総合演習

生態学演習

【担当】レイ トーマス、ティン、近藤 倫生

【開講】後期 集中

■講義概要

生態学における研究推進の基本的方法について学ぶとともに、研究成果発表の方法を習得する。特別研究のテーマとして生態学を選択する学生を対象に授業をすすめる。

■到達目標

生態学における研究推進の基本的方法について学ぶとともに、研究成果発表の方法を習得する。特別研究のテーマとして生態学を選択する学生を対象に授業をすすめる。

■講義方法

生態学研究に関する実際のデータや課題が与えられるので、これらを利用して、仮説の構築、実験方法のデザイン、データ解析といった個々の具体的問題に取り組む。

■系統的履修

生態学概論、保全生態学、個体群生態学、群集生態学、進化学

■授業時間外における予・復習等の指示

予・復習等については授業中の指示に従ってください。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
レポート (50%)

■テキスト

プリントを配布する

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この演習は発表された科学研究の価値とその善し悪しを評価するための目を養うための訓練でもあります。積極的な発言とディスカッションを期待します。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②科学とは何か
- ③フィールドでの観察
- ④正しい問題設定
- ⑤仮説の構築
- ⑥どうすれば仮説をテストできるか
- ⑦実験のデザイン（ランダム化、繰り返し、野外実験と操作実験）
- ⑧現場で使える統計と検定 1. 基礎概念
- ⑨現場で使える統計と検定 2. 仮説検定
- ⑩現場で使える統計と検定 3. 回帰、相関
- ⑪現場で使える統計と検定 4. 分散分析
- ⑫実験データ分析
- ⑬実験結果グラフ化、解析
- ⑭発表会－グループ 1
- ⑮発表会－グループ 2

生態系生態学

【担当】宮浦 富保

【開講】後期 木 1

■講義概要

生態系生態学では、生物による有機物生産や生態系内での物質・エネルギーの流れに重点をおいている。生物が関与する物質やエネルギーの動きと、これらに影響する要因を把握することにより、種々の環境問題についての理解が深まると期待される。「生態系」という言葉はいろいろな場面で用いられているが、漠然と「自然」とか「環境」のことを指している場合が多い。「生態系」とは何かということを、「生態系生態学」を通して理解していただきたい。

■到達目標

自然界における物質やエネルギーの流れの概略と、これに関与する生態学的現象を理解する。

■講義方法

基本的に「板書」によって講義を進める。「小テスト」を行うことによって、理解の定着を図る。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の復習を習慣にしていきたい。2回実施する小テストの内容については十分な見直しを行い、確実に理解する必要がある。

■成績評価の方法

小テスト (50%)
定期試験 (50%)

■テキスト

特になし

■参考文献

日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人 2800円
ベゴン、ハーバー、タウンゼンド 『生態学：個体・個体群・群集の生態学』 京都大学学術出版会 12000円

■講義計画

- ①生態学における生態系生態学の位置
- ②生態系における生産
- ③環境と生物の生産 1
地球の歴史と進化
- ④環境と生物の生産 2
気候と生物
- ⑤生物相の特徴と生物の生産
- ⑥環境条件の分類と特徴 【小テスト 1】
- ⑦生物にとっての資源 1
太陽放射
- ⑧生物にとっての資源 2
水と光合成
- ⑨生物にとっての資源 3
資源の分類
- ⑩生態系におけるエネルギーの流れ 1
地球上の一次生産量
- ⑪生態系におけるエネルギーの流れ 2
生産力を制限する要因
- ⑫生態系におけるエネルギーの流れ 3
森林内でのエネルギーの動き
- ⑬生態系における物質の流れ 1
生物地球化学的循環
- ⑭生態系における物質の流れ 2
陸上群集からの栄養塩流出 【小テスト 2】
- ⑮生活との関わり

生態工学（2007年度以降入学生）

【担当】横田 岳人、遊磨 正秀

【開講】後期 月3

■サブタイトル

自然環境の保全・復元技術

■講義概要

自然環境保全のための理念や法制度について概観し、自然環境の保全・復元のために必要な生態系の成立基盤について学ぶ。その後、ビオトープや河川・湖沼の環境修復技術、原生的自然の再生や里山環境の復元・創出等の具体的事例を通して、自然環境保全に必要な知識と考え方を講義する。

■到達目標

自然環境に対して人間が関与する時の基本的な心構え、生き物の保全と人の暮らしの調和の考え方、自然修復の手法などの知識が身に付く。

■講義方法

2名の講師で分担して講義を行う。授業は講義形式で、講義に必要な資料等は、適宜配布・紹介する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義期間中（10月から12月）に新聞や雑誌（週刊、月刊）で取り扱われた「生態工学」に関連する記事を取りまとめて、定期試験前に提出していただく予定です。常日頃から講義内容と関連する社会的な情報に敏感であるよう励んでください。

■成績評価の方法

レポート（20%）
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①生態工学の考え方（イントロダクション）
- ②自然環境保全の考え方（国内法と関連する条約）
- ③自然環境保全の考え方
（環境アセスメントとミティゲーション）
- ④流域生態系の成立基盤と環境（河川環境）
- ⑤流域生態系の成立基盤と環境（護岸）
- ⑥流域生態系の成立基盤と環境（ダムと堰堤）
- ⑦流域生態系の成立基盤と環境（水田環境）
- ⑧陸上生態系の成立基盤と環境（植物群集）
- ⑨陸上生態系の成立基盤と環境（土壌）
- ⑩陸上生態系の成立基盤と環境（緑化）
- ⑪自然再生事業
- ⑫里山の復元と創出
- ⑬ビオトープ論
- ⑭圃場整備と生物多様性
- ⑮河川環境の復元と創出

生物学序論

【担当】横田 岳人

【開講】前期 火4

■サブタイトル

高校生物のリメディアル

■講義概要

高等学校で学ぶ生物学の中から、大学での生物系科目履修に必要な基礎を学ぶ。「生命の連続性」「環境と生物の反応」「生命現象と物質」「生物の進化と分類」の分野を重点的に講義し、大学での生物学的科目履修への橋渡しをする。高等学校生物Ⅰ、Ⅱ全般にわたって講義するが、生物Ⅱの「進化と分類」は進化学で、生物Ⅰ全般と生物Ⅱ「生命現象と物質」の分野は生物学概論Ⅰ・生物学概論Ⅱで重点的に扱われる。生物Ⅱの「生物の集団」分野は生態学概論で同時期に講義されるため扱わない。

■到達目標

生物学を履修するのに必要な用語を理解し、大学での生物学修得の準備をする。

■講義方法

高校生物の重点用語の解説を中心に講義形式で授業を行う。講義後半に小テスト（確認テスト）を行い、講義の理解を深める助けとする。

■系統的履修

生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、生態学概論、進化学

■授業時間外における予・復習等の指示

次回の授業で扱う基本的な用語のリストを毎回配布するようにしています。これらの用語について授業までに調べて来ててください。

■成績評価の方法

小テスト（50%）
レポート（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

吉田邦久他 『生物用語集』 駿台文庫 1000円
石川 統 編 『生物学』 東京化学同人
栃内新・左巻健男 『新しい高校生物の教科書』 講談社ブルーバックス 1200円

■履修上の注意・担当者からの一言

高校在学時に生物を学習しなかった人は受講するようにして下さい。

■講義計画

- ①生命の単位－細胞
- ②細胞への物質の透過／細胞の増殖
- ③生殖／有性生殖の過程
- ④発生とそのしくみ
- ⑤遺伝の法則／遺伝子と染色体
- ⑥遺伝子の本体
- ⑦遺伝情報とタンパク質の合成／形質発現のしくみ
- ⑧刺激の受容／神経系
- ⑨動物の反応／体液とその恒常性
- ⑩環境と植物の反応
- ⑪化学反応と酵素
- ⑫同化と異化
- ⑬タンパク質の機能
- ⑭生物の進化
- ⑮生物の系統と分類

生物多様性実習（2007年度以降入学生）
生物多様性実習A（2006年度以前入学生）

【担当】 遊磨 正秀、宮浦 富保、片山 昇
【開講】 前期 金3・金4・金5

■講義概要

生態学系の環境科学では、生物多様性の理解が基本となる。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、そこに生息する動植物の多様性について、その観察方法の初歩を体験的に学習する。

■到達目標

野外での生物現象の観察の基本を身につけることができる。動植物の分類や標本作成法、顕微鏡や測定機器等の使用法、ならびに生物多様性の解析法の基本を体得できる。

■講義方法

実習は、4つの小グループにわかれて順次すべての実習テーマを受講する。実習テーマごとにレポートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

実習科目なので特に予復習を課さないが、実習内容に関連するニュース等に眼を配ること

■成績評価の方法

平常点（40%）実習参加状況による
レポート（40%）
その他（20%）実習態度による

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。
野外での実習には、思いがけない危険が伴う。別途配布している「安全の手引き」を熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示等には十分注意すること。

■講義計画

- ①ガイダンス（遊磨ほか）
- ②陸上動物（昆虫）の観察と分類1：野外調査（遊磨ほか）
- ③陸上動物（昆虫）の観察と分類2：標本作成（遊磨ほか）
- ④陸上動物（昆虫）の観察と分類3：解析（遊磨ほか）
- ⑤水生生物の観察と分類1：野外調査（山中ほか）
- ⑥水生生物の観察と分類2：標本作成（山中ほか）
- ⑦水生生物の観察と分類3：解析（山中ほか）
- ⑧森林群集の測定方法1：野外調査（宮浦ほか）
- ⑨森林群集の測定方法2：データ集計（宮浦ほか）
- ⑩森林群集の測定方法3：解析（宮浦ほか）
- ⑪草本群集の測定方法1：野外調査（片山ほか）
- ⑫草本群集の測定方法2：同定（片山ほか）
- ⑬草本群集の測定方法3：解析（片山ほか）
- ⑭野外調査法のまとめ（遊磨ほか）
- ⑮生物多様性解析法のまとめ（遊磨ほか）

生理生態学（2007年度以降入学生）
生物の環境応答（2006年度以前入学生）

【担当】 レイ トーマス、ティン
【開講】 前期 火2

■講義概要

地球上には、幅広い生息地に形や機能が異なる種が多様に存在する。海底火山周辺に住む硫黄バクテリアから北極のシロクマまで、生物はそれぞれの天然分布域の環境で生残し繁殖するのに適した特性を進化させてきた。生物が生存できるかどうかは、それらが形態的、生理的にどのように成り立ち、どんな相互作用をもち、どのように周りの環境に反応しているかに依存している。これらに関する分野が、生理生態学である。このコースでは、植物と動物のガス交換やエネルギー収支などの主要な機能プロセスについて説明し、光や気温、湿度、養分などの環境条件によって分布域がどのように制限されているかをみていく。地球上の長い進化の過程で、環境ストレスに耐え、適応することのできた生物は生き残り、耐えられなかったものは絶滅してきた。この授業では、植物や動物が環境ストレスにどのように対処しているのかを学ぶ。

■到達目標

地球上に存在する生物の多様な生理生態特性とその機能について理解し、環境の様々なストレスに対し生物はどのように適応しているのか、その基礎的メカニズムを習得する。

■講義方法

板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の内容を自分のメモと参考資料を用いて、復習すること。理解できないところは学科のチューターや担当教員に訪ねることをお勧めです。

■成績評価の方法

小テスト（40%）中間テスト
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス・生物の生理生態特性と環境適応
- ②動植物のガス交換（概観）
- ③動植物のガス交換（メカニズム）
- ④エネルギーの生産と消耗（同化作用）
- ⑤エネルギーの生産と消耗（異化作用）
- ⑥高温（火）と生物
- ⑦暗い環境での生存
- ⑧中間テスト
- ⑨乾燥への適応
- ⑩塩分と生物
- ⑪栄養分と生物
- ⑫光合成系と環境適応
- ⑬寒冷と凍結
- ⑭酸素不足への適応
- ⑮まとめ

セミナーⅠ（2007年度以降入学生）
セミナー（2006年度以前入学生）

【担当】全教員
【開講】前期 木1

■講義概要

本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導により、輪読や演習などの形式で特別研究に関連した最近の論文（和文および英文）の紹介等をおこなう。また各自の研究の進行状況についても報告するなど、発表・討論を通じて特別研究を遂行するための専門分野の知識をいっそう深め、科学系技術者としての資質を高めるものである。

■到達目標

特別研究を遂行するために必要な基礎的、あるいは専門的知識を深め、研究方法論を修得することである。

■講義方法

各担当教員ごとに異なるが、セミナー形式などがとられる。

■授業時間外における予・復習等の指示

個別テーマについてプレゼンテーションを行ったり、輪読や論文紹介での発表を行ったりする。各自で授業時間外に周知な準備をすることが基本である。

■成績評価の方法

その他（100%）毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定される。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する

■参考文献

特になし

■講義計画

配属された研究室ごとで、担当教員の指導により輪読、演習、発表などの形式で特別研究に関連した内容について学修する。

セミナーⅡ（2007年度以降入学生）

【担当】全教員
【開講】後期 水3

■講義概要

本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導により、輪読や演習などの形式で特別研究に関連した最近の論文（和文および英文）の紹介等をおこなう。また各自の研究の進行状況についても報告するなど、発表・討論を通じて特別研究を遂行するための専門分野の知識をいっそう深め、科学系技術者としての資質を高めるものである。

■到達目標

特別研究を遂行するために必要な基礎的、あるいは専門的知識を深め、研究方法論を修得することである。

■講義方法

各担当教員ごとに異なるが、セミナー形式などがとられる。

■授業時間外における予・復習等の指示

個別テーマについてプレゼンテーションしたり、論文紹介や輪読での発表を行う。授業時間外に周知な準備をしておくことが基本である。

■成績評価の方法

その他（100%）毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定される。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する

■参考文献

特になし

■講義計画

配属された研究室ごとで、担当教員の指導により輪読、演習、発表などの形式で特別研究に関連した内容について学修する。

測量学及び実習

【担当】井上 均
【開講】前期 水3・水4

■講義概要

地球表面上の諸点間の距離や高低差、それらの点を結ぶ線
の方向を測定する基本技術を修得するために、距離測量や水準
測量の原理、角測量や平板測量、地形測量について実習を併
用しながら学習する。また、リモートセンシング（RS）や
地理情報システム（GIS）および汎地球測位システム（GPS）などの技術を理解し、実社会での応用局面を学ぶ。

■到達目標

地形や目的に応じた測量方法の理解と制度の高い位置情報や
地図データについてプレゼンテーションができるようになる。

■講義方法

講義と実習を組み合わせで行う。実習はグループごとに実施
し、レポートを提出する。
天候によっては講義の内容を組み替えることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題の期日内完成のため、予習復習をおこなうこと。

■成績評価の方法

平常点（60%）
レポート（40%）
受講状況、課題・実習レポート、実習態度を総合的に評価する。
平常点60点、課題・実習レポート40点

■テキスト

講義前にテキストを配付する。

■参考文献

森忠次『測量学1・2』丸善 7000円
細川吉晴他『よくわかる測量実習（増補）』コロナ社 2700
円

■履修上の注意・担当者からの一言

グループで実習するので、協調性を保ちつつ、積極的に技術
を修得してもらいたい。受講生は、電卓（三角関数機能をも
つ10桁表示）を準備すること。

■講義計画

- ①測量学概論、ガイダンス
- ②距離測量、誤差論（1）
- ③平板測量
- ④平板測量、地形測量
- ⑤水準測量
- ⑥水準機による断面測量
- ⑦GPS測量
- ⑧GPS測量、リモートセンシング
- ⑨トラバース測量、誤差論（2）
- ⑩トラバース測量
- ⑪写真測量概論、地形測量
- ⑫デジタルカメラによる写真測量
- ⑬レーザースキャナーによる3D計測
- ⑭地理情報システム（GIS）概論
- ⑮測量技術の応用と展開

大気環境工学

【担当】市川 陽一
【開講】前期 木5

■サブタイトル

大気環境に係わる基礎となる知見、技術

■講義概要

自動車排ガスによる沿道大気汚染、粒子状物質やオキシダン
トなどの越境汚染、都市と地球の温暖化など大気環境に係わ
る様々の問題がある。本講義では、大気環境問題の原因とな
る物質の環境動態を理解する上で必要な大気の構造や気象、
環境計測技術、解析手法について講述する。また、原因物質
の環境への排出を防止、緩和するための技術について工学的
な観点から解説するとともに、政策、制度面からの取り組み
についても述べる。

■到達目標

大気環境問題を考える上で必要となる知識と基盤技術につ
いて網羅的に習得する。

■講義方法

講義を基本とするが、理解の程度を確認するため質問、意見
聴取を行う。

■系統的履修

環境工学基礎実習「煙の移流と拡散」の科学的裏付けを行う。
地球環境概論から発展する。
環境計測学、環境アセスメント及び演習に展開する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示した事項について予復習を行う。

■成績評価の方法

小テスト（30%）講義内容の確認
定期試験（70%）講義内容の理解

■テキスト

特になし

■参考文献

岡本・市川『環境学概論（第2版）』産業図書 2600円

■講義計画

- ①世界の大気環境問題の変遷
- ②日本の大気環境問題の変遷
- ③大気汚染物質
- ④大気の構造と気象
- ⑤大気の安定度
- ⑥煙の移流、拡散
- ⑦大気環境の調査、予測
- ⑧中間まとめ、小テスト
- ⑨大気環境の影響評価
- ⑩大気環境の保全技術
- ⑪都市環境
- ⑫越境大気汚染
- ⑬地球温暖化
- ⑭低炭素技術
- ⑮まとめ

■サブタイトル

環境影響評価、都市計画

■講義概要

事業の実施や都市計画の策定にあたって、環境に配慮して地域管理を行うことは大切である。本講義では、計画段階から事業計画における環境影響評価やコミュニケーション、合意形成のあり方について講義を行う。また、講義内容の理解を深めるための課題を遂行する。

■到達目標

環境影響評価のフローについて修得する。

■講義方法

受講者との対話をもとに理解度を確認しながらレポート課題に取り組む。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示した事項について予復習を行う。設定した課題について考えを整理して講義に臨む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 授業への取り組み
レポート (50%) 課題の達成

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境と地域計画
- ②環境アセスメント
- ③計画段階の環境影響評価
- ④事業段階の環境影響評価
- ⑤環境影響評価と予測
- ⑥環境影響調査、予測に関する事例検討
- ⑦事業特性に関する課題設定
- ⑧事業特性に関する課題討論
- ⑨地域特性に関する課題設定
- ⑩地域特性に関する課題討論
- ⑪環境影響評価項目に関する課題設定
- ⑫環境影響評価項目に関する課題討論
- ⑬環境影響調査、予測に関する課題設定
- ⑭環境影響調査、予測に関する課題討論
- ⑮まとめ、レポート講評

統計学概論

■講義概要

環境事象を具体的・定量的に把握するには、大量のデータや様々な誤差を含んだデータを処理し、そこから意味のある情報を引き出す必要がある。このときに統計手法を用いる。本科目では、目的に応じて統計量を選定し、現象の特性把握をする上で必修となる統計理論の基礎を講述し、演習を実施して理解を深める。

■到達目標

記述統計学の基本を習得し、統計的推定・検定の考え方を理解する。

■講義方法

統計理論の基礎を講述し、各回の講義後半に当日の講義内容に関する課題演習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の授業箇所該当する教科書のページを指示するので、あらかじめ十分に予習しておくこと。また、復習時には講義で出された例題あるいは類題などをできるだけ多く解くようにすること。統計学は多くの演習課題に取り組むことを通じて初めて使えるようになる。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 中間確認試験 (8回目に1～7回の分)
50%、定期試験 (9～15回の分) 50%

■テキスト

片谷教孝、松藤敏彦 『環境統計学入門』 オーム社 2500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

受講に際して関数電卓を準備すること (必須)。

■講義計画

- ①記述統計 (度数分布とヒストグラム)
- ②記述統計 (平均・分散・標準偏差)
- ③記述統計 (相関係数、回帰分析)
- ④確率分布 (正規分布、データの標準化)
- ⑤確率分布 (t分布、 χ^2 分布、F分布)
- ⑥統計的推定 (母平均の区間推定)
- ⑦統計的推定 (母分散の区間推定)
- ⑧中間確認試験 (1～7回の分)
- ⑨統計的検定 (母平均の検定)
- ⑩統計的検定 (母平均の差の検定)
- ⑪統計的検定 (母分散の検定)
- ⑫統計的検定 (母分散の差の検定)
- ⑬統計的検定 (相関係数の検定)
- ⑭統計的検定 (適合度の検定、独立性の検定)
- ⑮統計的検定 (分散分析)

特別研究

【担当】全教員
【開講】通年 集中

■講義概要

4年次までに学科の教員の研究室に配属され、指導教員による個別の指導の元に、1年間を通して特別研究をおこなう。これは3年次までに修得した基礎学力の上に立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を実施し、その成果を卒業論文にまとめたうえで、さらに口頭発表をおこなうものである。研究テーマは指導教員と学生との相談により決定される。特別研究のテーマは、3年次までの学生実験等のテーマと異なり、結果はもとより、その研究の方法論すら明確ではない未知のテーマに挑戦することがあると、肝に銘じておく必要がある。

■到達目標

履修した科目の応用能力を高め、新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果を論文にまとめ、さらに口頭で発表する能力を養成することである。

■講義方法

指導教員との個別ゼミ、研究室単位でのゼミなどを通じて、自らの研究テーマについて取り組み、取りまとめていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学での学習・研究の総括でもある。日々の着実な努力が成果となって現れるということを自覚して、取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

その他（100%） 日常の取り組み姿勢、研究結果に対する掘り下げ、論文内容、発表等により総合的に評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

研究テーマについて指導教員と相談して決定し、その目標に向かって研究を遂行する。逐次、進行状況について指導教員に、あるいは研究室セミナーなどで発表し、指導、コメント、討議などを通して進めていく。

特別講義

【担当】竺 文彦、宮浦 富保、井狩 専二郎、瓜生 昌弘、遠藤 真樹、須藤 明子、岡本陸奥夫、仁連 孝昭、堀井 安雄、村上 宣雄、村田 弘司、村長 昭義
【開講】後期 水2

■サブタイトル

人間環境と自然を考える（リレー講義）

■講義概要

地球規模の環境問題がこれからの我々の社会的な課題であるが、具体的には里山や琵琶湖など身近な自然と人間がどのように付き合っていくかが重要である。本講義においては、滋賀県を中心に自然を観察したり、環境改善技術の開発を進めたりしている外部の方々にリレー講義で紹介していただき、現場の生の声を聞かせていただく。

■到達目標

具体的な研究、企業での仕事、映像、市民活動、環境技術などにふれることができる。

■講義方法

スライド、資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

十分に復習をするように。

■成績評価の方法

レポート（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介

■履修上の注意・担当者からの一言

自然と人間との付き合い方を考えてほしい。

■講義計画

- ①琵琶湖の魚から身近な環境を考える 武田 繁・宮浦富保
- ②地域の河川の魚から身近な環境を考える 武田 繁
- ③滋賀県における下水道事業について 瓜生昌弘
- ④大津の環境 岡本陸奥夫
- ⑤行政における環境対策 岡本陸奥夫
- ⑥自然観察 村長昭義
- ⑦自然観察 村上宣雄
- ⑧滋賀県の自然 村上宣雄
- ⑨イヌワシの生態と生息地環境保全 須藤明子
- ⑩琵琶湖のカワウの保護管理 須藤明子
- ⑪エコ村 仁連孝昭
- ⑫生ゴミ堆肥化 井狩専二郎
- ⑬廃棄物埋立 堀井安雄
- ⑭浸出水处理 堀井安雄
- ⑮環境分析と企業 村田弘司

都市環境施設実験A

【担当】越川 博元
【開講】前期 火3・火4・火5

■講義概要

本科目では、都市環境を適切に維持するために設けられている施設について理解し、その技術的基礎を習得することを目的としている。そのため、環境工学に関連の深い、物理的、化学的および生物学的な諸プロセスにかかる操作単位について基礎的なプラント実験を実施する。

■到達目標

環境分析の操作とプラント運転の基礎を身につけることができる。

■講義方法

実習内容について講述した後、実際にプラント実験・実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポートの作成は、実験終了後の記憶が鮮明なうちに取らかりましょう。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 取り組み
レポート (70%) レポート内容

■テキスト

環境ソリューション工学科編 『都市環境施設実験A実験指導書』
テキストは、講義時に配付します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

受講に際して実験用白衣・保護眼鏡・記録用ノート・計算機などを用意すること。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②実験説明 (凝集)
- ③実験説明 (沈降特性)
- ④実験説明 (急速ろ過)
- ⑤実験説明 (総括酸素移動容量係数)
- ⑥実験説明 (活性汚泥法による基質除去)
- ⑦実験説明 (活性汚泥の沈降性と糸状性細菌長の計測)
- ⑧実験説明 (嫌気性消化)
- ⑨実験：凝集
- ⑩実験：沈降特性
- ⑪実験：急速ろ過
- ⑫実験：総括酸素移動容量係数
- ⑬実験：活性汚泥法による基質除去
- ⑭実験：活性汚泥の沈降性と糸状性細菌長の計測、および嫌気性消化
- ⑮実験のまとめ

都市環境施設実験B

【担当】占部 武生、市川 陽一、菊池 隆之助
【開講】前期 月3・月4・月5

■講義概要

本科目では、都市環境を適切に維持するために設けられた廃棄物処理施設、大気環境保全施設等について理解し、その技術的基礎を習得することを目的とする。そのため、関連の深い諸プロセスの基礎的な実験を実施する。

■到達目標

廃棄物処理、大気環境保全分野の講義・演習の理解が深まるとともに、関連分野の調査・分析の操作と単位操作の基礎を身につけることができる。

■講義方法

実験指導書に基づいて解説を行った後、教員、ティーチングアシスタント (TA) の指導のもとに、小グループに分かれて実験を行う。結果はレポートにまとめて提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

実験指導書をあらかじめ熟読し、実験手順、データの取り方などを整理しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 取り組み
レポート (70%) レポート内容

■テキスト

環境ソリューション工学科編 『都市環境施設実験B-実験指導書』

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

あらかじめ実験指導書を熟読し、安全に注意すること。

■講義計画

- ①ガイダンス、説明 (2回分)
- ②施設見学 (ガス化溶融炉)
- ③実験・測定内容の説明 (5回、6回分)
- ④実験・測定内容の説明 (7回、8回分)、前準備
- ⑤燃焼実験
- ⑥熱しゃく減量および粒径分布の測定
- ⑦大気中浮遊粒子の計測
- ⑧廃棄物の含有量試験
- ⑨実験・測定内容の説明 (10回、11回分)
- ⑩ごみ組成調査
- ⑪廃家電・電子機器の解体調査および定性分析
- ⑫実験・測定内容の説明 (13回、14回分)
- ⑬資源化選別実験
- ⑭施設見学 (産業廃棄物埋立処分場)
- ⑮予備日 (レポート説明)

■講義概要

廃棄物の種類や処理・処分や問題点などを循環型社会や適正方策の観点から論じる。

■到達目標

廃棄物やその工学処理に関する基本的な知識を習得することを目指す。

■講義方法

廃棄物工学の基本事項を論述するとともに、具体的な演習・課題を行い理解を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に設問を行い評価をするので、事前学習や授業中の取り組みが重要となる。

■成績評価の方法

平常点（35%） 受講態度、適時行う記述式設問への解答・理解度

小テスト（30%） モジュール式評価として授業中に2～3回小テスト・レポート作成を行う。

定期試験（35%） 論述試験を行う

評価配点の割合（%）は暫定的であり、授業の進捗具合や学生の理解度に応じて若干変更する場合がある。

■テキスト

田中信寿 『リサイクル・適正処分のための廃棄物工学』 オーム社 2940円

授業中は特に資料の配布などは行わないので、テキストの持参は必須となる。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業や昼食以外で、研究室に在室している場合、基本的には応対可能。

■講義計画

①序論：授業指針、廃棄物やリサイクルの俯瞰

②法律や措置：廃棄物処理法やリサイクル法

③循環と処分：廃棄物の現状やリサイクルの例

④分析・測定：物理特性や化学特性

⑤処理計画・実施：計画とその評価、分別や収集

⑥燃焼工学の基礎

⑦焼却炉の種類と構造

小テスト／レポート

⑧燃焼と資源化：資源化とサーマルリサイクル

⑨埋め立てに関する基礎知識

⑩埋め立て処分場の管理と構造・機能

⑪造成処分場の施設全般

⑫処分場の維持：搬入、モニタリング、保守・点検

⑬プラスチック廃棄物：各種のリサイクル技術

⑭粗大ゴミと生ゴミ

小テスト／レポート

⑮有害廃棄物：特性と管理やその具体例

博物館実習

【担当】 遊磨 正秀、横田 岳人

【開講】 通年 土4

■講義概要

博物館活動は、博物館資料とともに、それを整理および取り扱い技術や展示技術などの多様な活用技術があって、初めて確立される。その目的は博物館だけのものではなく、博物館を活用する利用者の立場のものでなくてはならない。そのためには、博物館の中心である学芸員には、保存技術や学習プログラム、そして情報処理などの現代博物館の課題である先進的な技術の習得が求められている。このような多種多様な博物館業務や博物館運営について学習し、博物館学芸員として視野を広げるとともに、必要な知識を学ぶ。なお、夏期休暇中などに、学外の博物館等において実地研修をうけることが必要。

■到達目標

博物館活動の事例や課題にふれながら、実際に資料の取扱いや資料カード作り、そして展示技術などを習得する。これにより、必要な理念や基礎的な技術の習得を図ることで、社会に対応できる学芸員の養成に資することを目標とする。

■講義方法

予備登録が必要（受講申込と選考を行うので別途掲示の指示に従うこと）。履修登録資格（履修要項参照）がある。

夏期休暇中などに、実地研修（学外博物館など）が必須。

実習だけでなく、博物館施設などでの学外見学もできるかぎり行う。

※実習費1万円と学外見学の交通費・宿泊費は基本的に自己負担。

■授業時間外における予・復習等の指示

博物館の手法を応用した、あるいはそれに応用できることがらに広く眼を向ける努力を重ねること

■成績評価の方法

平常点（80%）

レポート（20%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

①オリエンテーション

②博物館の機能

③博物館の実務

④自然史資料の展示と活用（植物）

⑤自然史資料の展示と活用（動物）

⑥自然史資料の展示と活用（化石）

⑦自然史資料の取り扱い（分類）

⑧自然史資料の取り扱い（同定）

⑨自然史資料の取り扱い（乾燥標本）

⑩自然史資料の取り扱い（液浸標本）

⑪収蔵方法の見学実習

⑫展示方法の見学実習

⑬実地研修事前指導

⑭後期報告会ガイダンス

⑮実習中間報告会

⑯展示企画

⑰展示デザイン

⑱展示計画の策定：大項目

⑲展示計画の策定：展示細目

⑳展示計画の策定：展示導線

㉑模型製作の実務見学

㉒ジオラマ製作の実務見学

㉓博物館のワークショップ・観察会：事例紹介

㉔博物館のワークショップ・観察会：企画

㉕博物館のワークショップ・観察会：広報

㉖博物館のワークショップ・観察会：資料

㉗報告書の企画立案

㉘報告書の編集

㉙報告書の作成

㉚実習最終報告会

物理学Ⅰ

【担当】 神山 保
【開講】 前期 金4

■サブタイトル

理工系の基礎的な物理学（力学）

■講義概要

1. 速度・加速度の概念（微分積分の復習）
2. ベクトル、スカラー量などの物理量
3. 力の概念、定義
4. 運動の法則（ニュートン力学の基礎）
5. 各種の運動方程式及びその解法
6. 摩擦力と抵抗
7. 振動運動の解析
8. エネルギーの概念
9. 保存法則（運動量、エネルギー、角運動量）
10. 質点系と剛体の運動

■到達目標

1. 必要な数学力の習熟
2. 身近な現象への応用（物理的な解釈）
3. 論理的な判断力の涵養

■講義方法

時々、ビデオやパワーポイント、ミニ実験を利用するが、講義を中心とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業を復習しておくこと。

■成績評価の方法

小テスト（40%）授業のキーとなる点について小問題を出し、解答してもらう。
定期試験（60%）基礎知識と活用力

■テキスト

原 康夫 『理工系の基礎物理 力学』 学術図書出版 2100円

■参考文献

下村 健次 『基礎物理学Ⅰ』 大学教育出版 3000円

■履修上の注意・担当者からの一言

予習を必ずすること。講義中に質問しづらかった事や、後ほど浮上した質問事項等は、その日の小テストに書き込んで下さい。対応します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了後
その他、メールで。

■講義計画

- ①ニュートン力学が完成するまでの世界観の変遷と現代の力学的世界観
- ②座標系の導入。1次元の運動をグラフで表現する。速度、加速度と微分の関係を知る。
- ③1次元運動で加速度がわかっているときに、速度と位置を求める。積分の活用。
- ④2次元平面での質点の運動をベクトルで表現する。ベクトル演算の復習。位置ベクトル、速度ベクトル
- ⑤等速円運動などの特徴的な平面運動がもつ速度ベクトル、加速度ベクトルの特徴を知る。
- ⑥ニュートンの3つの運動法則の成り立ちと意味を知る。力について。
- ⑦さまざまな運動と運動方程式の関係。運動方程式の立て方。
- ⑧放物運動などの簡単な場合について、運動方程式を解く
- ⑨さまざまな摩擦力と運動の特徴。空気や液体中の物体が受ける力と終端速度。
- ⑩振動の特徴とその表現。
単振動、単振り子、減衰振動
- ⑪強制振動、共鳴の特徴。
- ⑫仕事とエネルギーの概念。位置エネルギーと運動エネルギー。エネルギー保存法則。
- ⑬力積について。2質点での運動量の保存則。回転運動と角運動量について。ケプラーの法則について。
- ⑭重心について。重心の運動方程式。成り立つ保存法則。
- ⑮多質点系と剛体の関係。角速度、慣性モーメント、剛体回転運動の特徴。

物理学Ⅱ

【担当】 神山 保
【開講】 後期 金4

■サブタイトル

理工系の基礎的な物理学（電磁気学）

■講義概要

1. 電荷同士の間に働く力
2. 電場・ガウスの法則
3. 電位
4. キャパシターと電池
5. 電流および磁場
6. 電流に働く磁気力
7. 電磁誘導
8. 電磁波
9. 光、レーザーとLED

■到達目標

1. 必要な数学力の習熟
2. 身の回りの電磁気現象の理解
3. 論理的な考察力の涵養

■講義方法

時々、ビデオやパワーポイント、ミニ実験を利用するが、講義を中心とする

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では毎回、小テストを実施するので必ず前回授業を復習しておくこと

■成績評価の方法

小テスト（40%）授業のキーとなる点について、小問題を出し解答してもらう
定期試験（60%）基礎知識と活用力

■テキスト

原 康夫 『理工系の基礎物理 電磁気学』 学術図書出版 2100円

■参考文献

安部 龍蔵 『初めて学ぶ電磁気学』 サイエンス社 1715円

■履修上の注意・担当者からの一言

予習を必ずおこなうこと。講義中に質問しづらかった事や後ほど浮上した質問事項等は、その日の小テストに書き込んでください。対応します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了後
その他、メールで

■講義計画

- ①日常生活に現れる電気について、その元を探る。原子、電子について。
- ②摩擦電気と電荷。導体と絶縁体の違い。電荷間に働く力の法則。
- ③近接力の立場による電場の導入と意味。電荷が作る電場。
- ④ベクトル場、電気力線、電位による電場の表現とそれぞれの意味。
- ⑤法則の意味と応用。対称性の良い電荷分布がつくる電場。
- ⑥電気力による位置エネルギーとしての電位の導入。キャパシターの持つ静電容量。
- ⑦電流、抵抗。オームの法則が成り立つ理由。直流回路。RC回路。
- ⑧磁性体、電流が作る磁場の特徴と法則。
- ⑨磁場の特徴とアンペールの法則。対象性が良い電流分布での磁場の特徴。
- ⑩磁場中の電流が受ける力、磁場中の荷電粒子が受ける力と荷電粒子の運動の特徴。
- ⑪発電機とモーター、自己誘導と相互誘導
- ⑫マクスウェル方程式の導出と、各式の持つ意味。
- ⑬電磁波の導出。波としての電磁波の性質。
- ⑭ミクロの世界での光の放出と吸収の様子。レーザーの特徴と放出の仕組み。
- ⑮P型、N型の半導体。LED発光の仕組み。

■サブタイトル

高校物理未履修の学生が、物理の基本（特に力学）を学習する講座

■講義概要

物理学序論は、今まで物理を学習してこなかった学生が、他の時限に学習する「物理学Ⅰ」などの授業にスムーズに入っていけるよう、中学理科・高校物理の知識のうち、必要最低限を理解する講座です。ただ、非常に短期間であるため、全範囲にわたって講義するのではなく、各学科にとって将来必要となる範囲に限定しています。このため、学科によって講義内容は変わります。

また、物理未習者が短期間で物理の基本を学習しなければならない講座のため、効率よい授業運営が必要となります。このため、以下のことを厳禁にしています。

私語・携帯電話やメール・居眠り・遅刻・途中退出・物理を既習している学生による妨害など。

初回にガイダンスをします。また、初回に一部の学生には、課題を出し、2回目の講義で確認テストをします。

■到達目標

「浮力」や「抵抗」など、物理学の教科書に出てくる用語の意味がわかる。「運動方程式」や「キルヒホッフの法則」など、基本的な法則を使えるようになる。

■講義方法

講義＋演習＋チェックテスト方式

■授業時間外における予・復習等の指示

数回の授業ごとに小テストがありますので、毎回の授業の復習をしましょう。

■成績評価の方法

平常点（50%）

小テスト（50%）

定期試験は行いません。平常点と小テスト（不定期）で評価します。

■テキスト

担当講師が作成するプリント

■参考文献

高校物理の教科書または市販の参考書＜基礎レベル＞

■履修上の注意・担当者からの一言

この講座は高校在学時に物理を学習しなかった者のための講座であり、高校在学時に物理Ⅱを学習した者は、受講する必要はありません。※基礎レベルなので、「苦手意識が強い」場合でも十分簡単に理解できますので、受講する必要はありません。物理学序論は各学科に設置されていますが、内容は学科によって異なる場合があります。

■講義計画

①理解度の状況によって進度が多少変わることがあります。

②ガイダンス／物理の基本

※課題あり

③小テスト①／速度・加速度・相対運動

④等加速度運動・放物運動

⑤等速円運動

⑥小テスト②／力の図示・力のつりあい

⑦運動方程式

⑧摩擦力・浮力

⑨単振動

⑩小テスト③／エネルギーと仕事

⑪エネルギー保存則

⑫運動量と力積

⑬運動量保存則とはね返り係数

⑭力のモーメント

⑮ケプラーの法則

⑯小テスト④／総まとめ

プレゼンテーション演習

■講義概要

本科目は配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導の下、研究論文等の専門資料・情報を収集し、収集した情報を整理し、自らの意見を加えた上で他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力向上を図る。

■到達目標

専門情報の収集・整理方法やプレゼンテーション能力を身につける。

■講義方法

担当教員により異なるが、通例セミナー形式などで実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

良いプレゼンテーションを行うためには、プレゼンテーションそのもののスキルを磨くことも重要であるが、資料や情報を収集し、分析する能力も必要である。あらかじめ十分な準備をした上で講義に望んでいただきたい。

■成績評価の方法

その他（100%）毎回の発表、レポート、課題等により総合的に評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

担当教員の指導の下、発表・討論等を通して学修する。

プレゼンテーション演習Ⅱ

【担当】近藤 倫生

【開講】前期 集中

■講義概要

近年は、インターネットによる情報検索が発達してきたが、学術的に信頼のおける情報を入手するには、努力と経験が必要だけでなく、情報の質を見抜く目が求められる。この演習では、インターネットや図書館を利用した文献検索や情報収集を学び、得られた情報を用いて情報伝達の訓練を行う。口頭発表、文書（報告書）による発表、議論による情報伝達などに必要な訓練を行い、正しい情報伝達の高める。

■到達目標

情報の質を見抜き、一次情報に接する大切さを理解する。他者の意見を聞き理解できる。自分の意見を他者へ論理的に分かりやすく伝達できる。

■講義方法

複数名の教員による分担開講で担当する。教員毎に各自テーマを設定し、資料の収集、討論、報告書の作成を行う。教員の指導は、学生の主体的な問題発見、解決、表現方法の検討をサポートするためのアドバイスが中心となる。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ、プレゼンテーション演習Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

予・復習等については授業中の指示に従ってください。

■成績評価の方法

平常点（40%）取り組み
レポート（40%）レポート内容
その他（20%）発表（プレゼンテーション）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②課題設定（1回目）
- ③中間報告（1回目）
- ④報告（1回目）
- ⑤まとめ（1回目）
- ⑥課題設定（2回目）
- ⑦中間報告（2回目）
- ⑧報告（2回目）
- ⑨まとめ（2回目）
- ⑩課題設定（3回目）
- ⑪中間報告（3回目）
- ⑫報告（3回目）
- ⑬まとめ（3回目）
- ⑭総合討論
- ⑮総評

保全生態学（2007年度以降入学生）

【担当】横田 岳人

【開講】前期 金2

■講義概要

保全生態学は、「生物多様性の保全」という明確な目標を掲げ、その実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学の中核を占める学問分野である。生物多様性の成立と維持の機構を理解した上で、種、個体群、群集の保全に必要な理念・概念や技術方法論について講義する。

■到達目標

生物の多様性を理解する。生物多様性保全の意義を理解し、保全に必要な概念を身につける。

■講義方法

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等は、適宜配布・紹介する。

■系統的履修

生態学概論、進化学、生態系生態学、個体群生態学、群集生態学

■授業時間外における予・復習等の指示

初回授業時に、関連書籍リストを配布するので、リストにある書籍を、予習復習として読んでおくこと。予習復習状況を3回程度確認する。

■成績評価の方法

定期試験（70%）
その他（30%）自学習の実施状況

■テキスト

特になし

■参考文献

矢原徹一・鷲谷いづみ 『保全生態学入門』 文一総合出版
プリマック・小堀洋美 『保全生物学のすすめ』 文一総合出版 3800円
樋口広芳 『保全生物学』 東京大学出版会

■講義計画

- ①保全生態学とは何か
- ②生物多様性とその危機
- ③種の機能
- ④多様性の評価
- ⑤適応進化と生物間相互作用
- ⑥生物多様性が生み出されるのに必要な時間
- ⑦多種共存を可能にする原理
- ⑧種内の遺伝的変異
- ⑨集団の大きさと遺伝的変異
- ⑩遺伝的劣化のメカニズム
- ⑪個体群の存続
- ⑫生物学的侵入
- ⑬生育場所の分断・孤立化
- ⑭生物多様性の管理
- ⑮生物多様性の回復と自然再生

■講義概要

より健全、健康な社会生活を営むうえで「安全な水」を供給することは重要である。安全な水を供給するためには流域の水循環を考慮し、水道システムにおける浄水処理とともに、廃水の処理もまた重要である。本科目では、水道システムにおける浄水処理プロセスや下水道システムでの処理技術を中心に、水処理工学について講述する。

■到達目標

命を衛（まも）る具体的な工学技術についての基本的知識を身につけることができる。

■講義方法

板書、プリントなどを使用して講述する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の前には、前回の講義内容を見直すことを習慣づけると、さらに理解が効果的になると期待される。

■成績評価の方法

定期試験（100%）定期試験（100点）の成績をもって評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

津野洋、西田薫 『環境衛生工学』 共立出版株式会社 3900円

■講義計画

- ①科目概説
- ②水質：水の特性
- ③水質指標（1）：水を評価する
- ④水質指標（2）：総括指標
- ⑤水質指標（3）：感覚指標
- ⑥水処理方法とその選択
- ⑦物理的処理法（1）：沈降するとは
- ⑧物理的処理法（2）：凝集
- ⑨物理的処理法（3）：沈殿と理想沈殿池
- ⑩ろ過処理と膜処理
- ⑪消毒処理
- ⑫生物処理法（1）：下水道、合流式と分流式
- ⑬生物処理法（2）：標準活性汚泥法の原理
- ⑭生物処理法（3）：標準活性汚泥法とその変法
- ⑮嫌気性処理法

野外調査実習（2007年度以降入学生） 環境生態学実習B（2006年度以前入学生）

【担当】丸山 敦、林 珠乃

【開講】後期 火3・火4・火5

■講義概要

生態学における野外調査や野外操作実験の手法を体得することを目指す。環境と生物の関係、群落や群集の構造、種内種間関係などのテーマを設定して、森林、河川、池沼などのフィールドにおける観察・測定の方法を学ぶ。

初回はガイダンスを行い、実習内容の説明と班編制、諸注意などに当てる。2週目以降は、3テーマから2つを選択し、それぞれのテーマで5～6回ずつの実習を行う。途中、特別日程として、キャンパスから少し離れたフィールドに赴き、種組成の異なる群集を対象とした観察を行う予定である。

■到達目標

生態学分野で用いられる実験手法や調査手法など実験手法や調査手法を、野外での事象の観察や調査へ応用するための実践的な方法を体得する。

■講義方法

通常日程では、下記3テーマから2つを受講生が選択し、それぞれのテーマで5回ずつの実習を行う。実習テーマごとにレポートや発表を課す。

①「生物の定量方法の開発と分布様式の理解」

水生生物の生活・分布様式、およびその調査法を学ぶため、ため池に生息する生物を対象とした生物定量調査法を受講生自ら開発する。

②「環境条件の空間的不均一性と生き物の対応関係を探る調査法」

生物の量や生活に対する環境要因の影響について、定量的に明らかにする方法論を理解する。大戸川での野外調査とGISソフトを用いた解析を行う。

③「森林における生物密度の推定」

龍谷の森で野外調査を行い、生物の生息密度を推定する手法を学ぶ。特別日程では、東近江市川辺いきもの森での環境教育の企画法、京都府植物園の温室での植物の観察法、琵琶湖岸での水鳥の観察法、積雪した山林での生物の観察法などのうち幾つかを体験する予定である。

ただし、野外での安全確保の観点から、受講生数に応じて日程を組み替えることがあるので、初回ガイダンスには必ず参加すること。

■系統的履修

生態学概論、生物多様性実習、統計学概論

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート等は必ず提出のこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）野外での活動を含む実習なので、遅刻は大きく減点される

レポート（60%）レポートに代えて、実習成果の口頭発表によって評価することもある

■テキスト

プリントを配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

野外での実習には、思いがけない危険が伴う。別途配布の安全の手引きを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によっては集合時間や集合場所が変わることがあるが、その際には掲示板で連絡する。日頃から掲示板等を見る習慣をつけ、連絡事項を見逃さないこと。

■講義計画

①ガイダンス（実習内容の説明、班編制、諸注意）

②【通常日程】別記3テーマから2つを選び、5～6回ずつの実習を行う。学内もしくは大学近辺で行う。

- ・生物の定量方法の開発と分布様式の理解
- ・環境条件の空間的不均一性と生き物の対応関係を探る調査法
- ・野外操作実験による環境要因の検証

③【特別日程】大学から離れた地域での自然観察を行う。

陸水生態学

【担当】丸山 敦
【開講】前期 火2

■講義概要

河川、湖沼などの陸水域は、有史以来の身近な自然環境である。陸水で営まれる生命活動から、生態学的に重要な概念や知識が多く見出されてきた。本講義では、琵琶湖や実習実施地などでの身近な話題を取り入れつつ、陸水域でおこる様々な現象を生態学的な視点で理解していく。すなわち、(1) 物理・化学的な特性と生息場の分類、(2) 生物の適応進化、(3) 生物間の相互作用、(4) 生態系の機能、の4点について扱う。同時に、陸水域は人間活動と相互に深く影響を持ってきたため、「環境問題」を具体的に理解する上でも適した場である。(5) 人間活動が陸水生態系に与える影響、(6) 陸水生態系が人間に与えるサービス、について考察したい。

■到達目標

陸水という場に限定した具体的な研究事例から、生態学全般の理解を深める。同時に、陸水域に特有の重要な事象や面白さを認識する。

■講義方法

プロジェクタ、ビデオなどを用いる。プロジェクタの内容はダウンロード可能にする。

■系統的履修

生態学概論

■授業時間外における予・復習等の指示

予習課題を出すので提出すること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 事前学習 (学習内容に対する考察) を毎回課す
小テスト (60%) 3回の確認テストを行う

■テキスト

特になし

■参考文献

Alexander JH et al. 『陸水学』 京都大学学術出版会 8190円
日本陸水学会 『陸水の事典』 講談社 10500円

沖野外輝夫 『河川の生態学』 共立出版 2200円

沖野外輝夫 『湖沼の生態学』 共立出版 2200円

日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人 2940円

C.Bronmark et al. 『湖と池の生物学ー生物の適応から群集理論・保全まで』 共立出版 4410円

この他、講義中に紹介します。興味が湧いたら自主的に学習して下さい。

■履修上の注意・担当者からの一言

プロジェクターの内容はダウンロード可能にしますので、事前の自学習において一読しておいて下さい。講義中に発言を求めることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業直後、もしくは環境研究室12 (瀬田学舎7号館1階) にて連絡可能です。

■講義計画

- ①授業方針、陸水生態学と陸水環境の紹介
- ②「川に魚は必要か？」
- ③河川構造と河川生物群集
- ④洪水と河川生物群集の遷移
- ⑤「川と水路はどう違う？」 均一性と安定性、【小テスト1】
- ⑥河川流程と食物網構造
- ⑦「川と水路はどう違う？」 景観生態学と流域管理
- ⑧水生生物の生活史進化と水系の連続性
- ⑨シンボルになった水生動物の生物学、【小テスト2】
- ⑩「色とりどりの魚たち！」 古代湖の魅力
- ⑪湖の類型と生態区分
- ⑫湖の食物網と物質循環
- ⑬「琵琶湖の過去～未来」 水質汚濁と総合開発と温暖化
- ⑭外来種問題、【小テスト3】
- ⑮現場の陸水生態学

教職課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	265
	学校カウンセリング論	石川 眞理子	前期	水 4	265
	学校教育社会学	池田 曜子	後期	水 3	266
キ	教育の方法と技術	大西 俊弘	前期	土 1	266
	教育課程論	大西 俊弘	後期	土 2	267
	教育実習指導Ⅰ	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	前期	月 3	267
	教育実習指導Ⅱ A	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	268
	教育実習指導Ⅱ B	山中 健一／大西 俊弘／脇田 博文	通年	集中	268
	教育社会学	森 繁男	通年	月 3	269
	教育社会学Ⅰ	森 繁男	前期	月 3	270
	教育社会学Ⅱ	森 繁男	後期	月 3	270
	教職総合演習	脇田 博文	前期	集中	271
	教職論	山中 健一	前期	土 2	271
シ	人権教育論／同和教育論	岸 衛	前期	水 4	272
セ	生徒指導論	脇田 博文	後期	金 1	272
ト	道德教育指導法	牧崎 幸夫	後期	土 1	273
	特別活動論	脇田 博文	前期	金 1	273
リ	理科教育研究 A	大黒 孝文	後期	金 2	274
	理科教育研究 B	高畑 哲	前期	水 1	274
	理科教育法Ⅰ	西村 泰治	通年	水 2	275
	理科教育法Ⅰ	西村 泰治	前期	水 2	275
	理科教育法Ⅱ	西村 泰治	後期	水 2	276
	理科教育法Ⅱ	高畑 哲	通年	水 2	277

介護等体験

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）

【担当】山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】通年 集中

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。国では教育職員免許法の特例等に関する法律（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

- ・1年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。1年次に2回の説明会と講演会を行い、2年次には説明会及び事務手続きを行い、6月より随時体験に入る。
- ・2年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。

小テスト（0%）

レポート（0%）

定期試験（0%）

その他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度・割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義で適宜配布する。

■参考文献

講義で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。②教育実習の先修要件であるので、3年次までに履修すること。③書類などの提出日は厳守すること。④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。

■講義計画

- ①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
- ②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
- ③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
- ④介護等体験説明会③及び事務手続き
- ⑤介護等体験講演会2－福祉施設
- ⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
- ⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
- ⑧介護等体験への参加
 1. 障害児教育諸学校 2日間
 2. 社会福祉施設 5日間
- ⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

学校カウンセリング論

【担当】石川 眞理子

【開講】前期 水4

■サブタイトル

教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要

教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的諸問題が多発している。このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリングの資質が必要となってくる。本講義では、学校現場におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、具体的な対応について理解を深めていくこととする。

■到達目標

教育活動における心理カウンセリング的な基礎知識を習得し、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得する。

■講義方法

講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では小テストを5回実施するので、毎回授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）平常点（出席+演習）取り組みを重視する

小テスト（30%）小テストを5回実施する

レポート（20%）最終講義で発表

その他（10%）ミニレポート（2回）

主体的な授業態度を重視する。

■テキスト

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

馬場謙一・松本京介（編）『スクールカウンセリングの基礎と経験』日本評論社

管佐和子・木之下隆夫（編）『学校現場に役立つ臨床心理学』日本評論社

関連文献は講義中に適宜紹介する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール連絡とします。miv26045@fc.ritsume.ac.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②学校カウンセリング基本的理解（1）問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
- ③学校カウンセリング基本的理解（2）問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
- ④学校カウンセリング基本的理解（3）教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
- ⑤学校カウンセリング基本的理解（4）個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
- ⑥学校カウンセリング基本的理解（5）人間関係づくりのための集団カウンセリング
- ⑦学校カウンセリング基本的理解（6）社会生活能力を育てる訓練法
- ⑧学校カウンセリング基本的理解（7）進路指導のためのキャリアカウンセリング
- ⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
- ⑩学校カウンセリング応用（1）不登校・ひきこもりへの対応
- ⑪学校カウンセリング応用（2）いじめへの対応
- ⑫学校カウンセリング応用（3）学級崩壊への対応
- ⑬学校カウンセリング応用（4）暴力・非行への対応
- ⑭学校カウンセリング応用（5）スクールカウンセラーと連携した指導
- ⑮ミニ施行カウンセリング演習 まとめ

■講義概要

教育社会学の代表的な理論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら解説する。特に、教育社会学の理論と学校組織、教育環境との関連に焦点を絞り、どのようにして、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を多面的に考えていく。

■到達目標

講義内で取り上げる事象を身近なものとしてとらえ、批判的な思考力を養うことによって、その他の事象に関しても自ら理解を深められるようになることを目指す。

■講義方法

講義ごとに配布するレジュメや資料を利用し、講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

教育社会学に関する基礎的な概念・知識に関して、授業後復習し理解することが望ましい。授業で取り扱った内容に関連した時事問題に関心を持ち、積極的に授業において自ら紹介できるようになることを推奨する。

■成績評価の方法

レポート（30%）毎授業終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（70%）学期末の筆記試験

■テキスト

講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献

講義内において適宜紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション 日本の教育界の現状
- ②いじめ
- ③不登校
- ④子どもの居場所
- ⑤教師生徒関係
- ⑥教師の多忙化
- ⑦カリキュラムと学力①
- ⑧カリキュラムと学力②
- ⑨学ぶことの意味
- ⑩選抜と進路選択①
- ⑪選抜と進路選択②
- ⑫階層と努力①
- ⑬階層と努力②
- ⑭これからの学校の可能性①
- ⑮これからの学校の可能性②

教育の方法と技術 ※2011年度までの旧名称：メディア教育論

■講義概要

学校教育においては、板書を中心とした従来型の授業が中心ではが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実践されている。この授業では、まず授業の設計方法について概観し、次に、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。主な講義内容は以下のとおりである。（1）授業の設計方法について概観し、指導案の作成等を行う。（2）各種メディアやICT機器の特性について考察し、授業での活用方法について学ぶ。（3）教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。（4）プレゼンテーションの理論・技法について学び、教育への応用を考える。（5）教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。

■到達目標

各教科の授業や総合学習において、適切な授業の設計ができ、必要に応じてICT機器を活用した授業を計画することができる。

■講義方法

講義形式だけでなく、グループ活動（ビデオ教材の制作・発表など）も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義後、必ず復習を行い、理解を確実なものとする。

■成績評価の方法

レポート（20%）レポート未提出者は単位を認定しない。
定期試験（80%）基本事項を中心に幅広く出題。記述式。
レポート・作品（20%）、定期試験（80%）にて総合的に評価する。レポート・作品のテーマは授業中に指示する。授業への参加は必須要件であり、特別な理由なしに授業を3回以上欠席した場合、原則として単位を認定しない。また、レポート・作品未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教員になる強い意志を持った人の受講を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。（ただし、6月は教育実習の巡回で不在のこともある。）連絡方法：電子メールにて（アドレスは講義で連絡する。）

■講義計画

- ①デジタル革命時代の学校教育
- ②授業設計の方法（1）（教育目標の具体化）
- ③授業設計の方法（1）（適切な授業方法の選択）
- ④授業における写真・映像の利用方法
- ⑤授業における統計・グラフの利用方法
- ⑥学校教育とメディアリテラシー
- ⑦授業におけるICT機器の利用方法
- ⑧ビデオ教材の実例紹介
- ⑨ビデオ製作実習（技術的解説）
- ⑩ビデオ製作実習（班別製作活動）
- ⑪ビデオ製作実習（班別製作活動）
- ⑫ビデオ作品発表会（予選会）
- ⑬ビデオ作品発表会（本選会）
- ⑭学校教育と著作権
- ⑮今後の学校教育の方向性（デジタル教科書等）

■講義概要

すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。

1. 中学校・高等学校における教育課程について、事例を通して概観する。
2. 学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3. 戦後の教育課題と関連させながら、学習指導要領の変遷について学ぶ。
4. 近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5. 学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6. 諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標

学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法

講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法

レポート（10%）レポート未提出の場合は、単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。授業への参加は必須

要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

田中耕治 他3名『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 1900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画

- ①序論（教育をめぐる社会の状況）
- ②戦前の教育制度・教育改革
- ③戦前の教育課程について
- ④戦後の教育改革と生活単元学習
- ⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
- ⑥学校教育に関する法体系と教育課程
- ⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
- ⑧教育課程編成の実践
- ⑨高等学校における未履修問題
- ⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
- ⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
- ⑫観点別評価と生徒指導要録
- ⑬外国の教育課程
- ⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
- ⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）

[担当] 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

[開講] 前期 月3

■サブタイトル

教育実習の前に

■講義概要

教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「教育実践研究Ⅰ（介護等体験）」を必修と定めている。この他にも、「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。これら先修科目の基盤の上に、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが、「教育実践研究Ⅱ」の目的である。

■到達目標

教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法

必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修

教育実践研究ⅢAまたは教育実践研究ⅢB（教育実習）

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜指示を行う。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
その他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト

『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画

- ①はじめに（教育実習の意義）
- ②教育実習の準備と心得
- ③教員の服務
- ④教科指導
- ⑤教科外活動の指導
- ⑥最近の学校教育の現状と課題
- ⑦今後の教育改革の方向
- ⑧教育実習後の総括

教育実習指導Ⅱ A

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ A（教育実習）

【担当】 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】 通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実践研究Ⅱ A」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

■授業時間外における予・復習等の指示

十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
小テスト（0%）
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
定期試験（0%）
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）2. 授業実施（多くは期間後半に実施）3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導 1. 学級（SHR、LHR）指導 中学校では「道徳の時間」の指導を含む。 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導Ⅱ B

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ B（教育実習）

【担当】 山中 健一、大西 俊弘、脇田 博文

【開講】 通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実践研究Ⅱ B」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
小テスト（0%）
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
定期試験（0%）
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）2. 授業実施（多くは期間後半に実施）3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導 1. 学級（SHR、LHR）指導 中学校では「道徳の時間」の指導を含む。 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

■サブタイトル

（前期）教育社会学入門 （後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。 まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。 続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。 後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ
- ⑯教育学と社会学の接点（1）
- ⑰教育学と社会学の接点（2）
- ⑱家族・学校と教育の階層性（1）
- ⑲家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ㉒ディスカッション（その1）
- ㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ㉕メディアと青少年の文化問題（1）
- ㉖メディアと青少年の文化問題（2）
- ㉗ディスカッション（その2）
- ㉘教育社会学と教育実践
- ㉙教育社会学と教育改革
- ㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

教育社会学入門

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。

■講義方法

主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとりえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとりえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

教育現象の社会学的理解

■講義概要

本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①教育学と社会学の接点（1）
- ②教育学と社会学の接点（2）
- ③家族・学校と教育の階層性（1）
- ④家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ⑦ディスカッション（その1）
- ⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ⑩メディアと青少年の文化問題（1）
- ⑪メディアと青少年の文化問題（2）
- ⑫ディスカッション（その2）
- ⑬教育社会学と教育実践
- ⑭教育社会学と教育改革
- ⑮後期のまとめ

■サブタイトル

今日的課題に対していかに考え、取り組むか

■講義概要

これから教員を目指す者にとって、国際化・情報化の進展により社会が急速に変化する激動の時代の中で、どのように教育を進めていけばよいのか、どのような資質や能力を身につける必要があるのかが重要な課題となる。それにはまず、環境破壊、民族対立・紛争、人口と食糧など地球全体が直面する問題や少子・高齢化と福祉、家庭のあり方などのわが国に関わる問題について、自分自身の理解を深めることが不可欠である。この授業では、現在の社会が直面する様々な今日的課題から関心のあるテーマを自らが設定し、それに関わる調査研究を実施し、その結果をまとめて報告・発表する方法をとる。授業では、各自が意見を出し合い、議論を発展させてテーマを追求することが特に重要である。さらに、テーマに関わる内容を学校教育での実践として具体化していく必要がある。そのために、今日的課題に対して、学校の教育活動の各場面において、生徒に主体的かつ問題解決的に取り組ませるための指導計画を構想する力を養う過程も、本授業の重要な内容の一つとして位置づける。教員を目指す諸君の積極的な参加と意欲的な取り組みを期待する。

■到達目標

これからの教員に求められる実践的指導力を養う。

■講義方法

講義の他、調査研究・発表等の参加型授業を行う。

*授業は一部の内容を5～6月から実施し、大部分を8月の集中講義期間に設定する予定。開講日等の詳細は教職課程掲示板で連絡するので、各自で確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

積極的で主体的な学習を行うこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 事前オリエンテーション・集中講義への出席状況、意欲・態度

小テスト (0%)

レポート (30%) 「今日的課題に関わる指導の構想案」等の課題

定期試験 (0%)

その他 (40%) 調査・研究・発表・討議の諸活動の状況

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価を行う。

■テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に取り組むこと。

■講義計画

- ①教職総合演習のねらいと今後の予定
- ②「今日的課題と学校教育（その1）」講義及び研究協議
- ③「今日的課題と学校教育（その2）」講義及び研究協議
- ④グループ分け及び研究テーマ・研究方法の決定
- ⑤研究テーマ・研究方法の発表と討議
- ⑥研究テーマ・研究方法のねりなおし
- ⑦グループ別の研究・調査活動（学内・学外での活動）
- ⑧研究・調査活動の中間報告
- ⑨研究成果のまとめ
- ⑩研究・調査の発表会と研究協議 1
- ⑪研究・調査の発表会と研究協議 2
- ⑫研究方法・発表方法の総括
- ⑬今日的課題を扱う指導内容・方法の構想
- ⑭研究・調査・発表・討議についての総括
- ⑮まとめ

教職論 ※2011年度までの旧名称：教師論

■サブタイトル

これからの教員に求められる資質能力とは何か。

■講義概要

教員に求められる資質能力とは何か。まず教員は豊かな教養をもち、高い専門的知識・技能、教員としての使命感、教育的愛情等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。さらに、これからの教員には、社会変化の激しい時代にあって、子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せてもつことが期待されている。本講義では、今日の教員が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中、これからの時代に期待される教師像について考察していく。

■到達目標

教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、学生参加型授業を取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要に応じて、小テストを実施するので復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

小テスト (10%) 必要に応じて実施する。

レポート (10%) 必要に応じて実施する。

定期試験 (50%)

上記の割合を原則として、総合的に評価する。

■テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として、意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①教職の意義
- ②教員養成
- ③教育公務員としての任用と服務1
- ④教育公務員としての任用と服務2
- ⑤教育公務員としての任用と服務3
- ⑥教員が直面する教育課題1
- ⑦教員が直面する教育課題2
- ⑧教員が直面する教育課題3
- ⑨教員に求められる資質能力1
- ⑩教員に求められる資質能力2
- ⑪教員に求められる資質能力3
- ⑫教員研修
- ⑬学校内での職務の実際と連携
- ⑭家庭・地域等との連携
- ⑮教職への道

人権教育論（2007年度以降入学生） 同和教育論（2006年度以前入学生）

【担当】岸 衛
【開講】前期 水4

■サブタイトル

「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要

部落差別は過去の歴史的な「遺制」ではなく、「今、ここ」で恣意的かつ無根拠に作られている差別である。差別は人との関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。

今、「同和教育の深まりから人権教育への広がり」といわれている。同和教育の出發とそれがめざしたものが何であったのか、これからの人権教育で「同和教育」の観点をどう生かしていくのかを明らかにしたい。

差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標

「今」を見る目が養われる 「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法

基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修

人権論A・B（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示

自分の課題・テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席点・コミュニケーション・カード提出
小テスト（50%）教案提出
レポート（20%）まとめのレポート提出

■テキスト

岸 衛著『自分・差別・世間第2版』解放研究所しが 700円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②「同和教育と「解放教育」」自分を解放する部落問題学習の
実践
- ③部落の生徒と「出会う」
- ④差別の作られ方
- ⑤差別を考える視点
- ⑥部落差別問題とは何か 部落差別問題の「今」
- ⑦人権学習の実践①
- ⑧人権学習の実践①
- ⑨人権学習の実践②
- ⑩人権学習の実践②
- ⑪人権学習の実践③
- ⑫人権学習の実践③
- ⑬人権学習の実践④
- ⑭人権学習の実践④
- ⑮まとめ

生徒指導論

【担当】脇田 博文
【開講】後期 金1

■サブタイトル

学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要

急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにすることがある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修

「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示

課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（60%）学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①はじめに
- ②学校及び青少年の現状と課題 1
- ③学校及び青少年の現状と課題 2
- ④生徒指導の意義と役割 1
- ⑤生徒指導の意義と役割 2
- ⑥生徒指導の意義と役割 3
- ⑦生徒理解 1
- ⑧生徒理解 2
- ⑨生徒理解 3
- ⑩問題行動・学級（授業）崩壊 1
- ⑪問題行動・学級（授業）崩壊 2
- ⑫いじめ・不登校 1
- ⑬いじめ・不登校 2
- ⑭進路指導のあり方
- ⑮まとめ

■サブタイトル

道徳の時間の授業力を磨く

■講義概要

道徳教育の「要」の時間である「道徳の時間」の実践的指導力を身に付けるため、道徳の時間の指導案作成、模擬授業等を行いながら具体的な研究・考察を行う。

■到達目標

学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解し、指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通じて実践的指導力の基礎を身に付ける。

■講義方法

中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）を活用し、道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、読みもの資料をもとに指導案の作成、模擬授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義において、小中学校で行われる道徳教育研究会をはじめ、京阪神地区で毎月行われている「横山利弘先生を囲む道徳教育研究会」や「宇治市道徳教育研究会」等の開催について紹介するので、可能な限り参加し、学校現場の状況を把握するとともに、自らの実践的指導力の向上を図ること。

■成績評価の方法

平常点（20％）平常点（授業への参加態度等）
小テスト（20％）学習指導要領の内容、2回実施
定期試験（60％）提示された読みもの資料による学習指導案の作成

■テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）』 日本文教出版 139円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①道徳教育の意義
－なぜ、今、道徳教育なのか－
- ②道徳教育の変遷
－学習指導要領における道徳教育はどのよう改訂されてきたのか－
- ③道徳教育の目標と内容
－道徳教育の目標と内容はどのように示されているのか－
- ④道徳の時間の学習指導案（1）
－ヤマのある授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
- ⑤道徳の時間の学習指導案（2）
－資料はどのように読むのか－
- ⑥道徳の時間の学習指導案（3）
－生徒の多様な意見を引き出す中心発問はどのように作るのか－
- ⑦道徳の時間の学習指導案（4）
－中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか－
- ⑧道徳の時間の授業（1）
－自主性や自律性を育てる授業をどう作るのか－
- ⑨道徳の時間の授業（2）
－思いやりを育てる授業をどう作るのか－
- ⑩道徳の時間の授業（3）
－生命の尊さを考える授業をどう作るのか－
- ⑪道徳の時間の授業（4）
－人間の弱さを克服する力を育てる授業をどう作るのか－
- ⑫道徳の時間の授業（5）
－規範意識を育てる授業をどう作るのか－
- ⑬道徳の時間の授業（6）
－集団や社会との関わりについて考える授業をどう作るのか－
- ⑭学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育
－道徳教育の全体計画、指導計画はどのように作成するのか－
- ⑮まとめ
－生徒の多様な意見を引き出す道徳の授業はどのように作るのか－

特別活動論

■サブタイトル

もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割

■講義概要

学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示

随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（40％）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20％）授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40％）学期末の課題の達成度を評価する。

上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①特別活動の意義と特性 1
- ②特別活動の意義と特性 2
- ③特別活動の意義と特性 3
- ④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
- ⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
- ⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 3
- ⑦教育課程としての特別活動
- ⑧学級活動の意義と運営
- ⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
- ⑩特別活動の指導計画と工夫 1
- ⑪特別活動の指導計画と工夫 2
- ⑫特別活動の指導計画と工夫 3
- ⑬特別活動の指導計画と工夫 4
- ⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
- ⑮まとめ

理科教育研究A（2010年度以降入学生）

【担当】大黒 孝文

【開講】後期 金2

■サブタイトル

理科が大好きな生徒を育てる教師になる

■講義概要

中学校・高等学校の理科教師としての資質と能力の育成をめざして、各領域における実験・観察指導や教材開発を行なう基礎的な知識と技能を身につけることができる。

■到達目標

・中学校・高等学校の学習指導要領理科の目的や内容を理解し説明することができる。
・中学校・高等学校の理科授業に関する基礎的な知識や判断力を持つことができる。
・理科教育の現状を把握し、実践的指導力を身に付けることができる。
・現在の理科教育の課題を把握し、各種授業法やテクノロジー利用の実際を知ることができる。

■講義方法

授業内容によって講義、協同学習、アクティブ・ラーニングを取り入れる。

■系統的履修

理科の教員免許状取得希望者は、3年生設置の「理科教育法Ⅰ」・「理科教育法Ⅱ」・「理科教育研究B」の履修に先行して、原則として2年生後期で履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

免許取得希望の校種の理科学習指導要領の確認 理科全領域の学習内容の確認

■成績評価の方法

平常点（10%）授業への参加状況と態度（関心・意欲・態度）
小テスト（20%）協同学習ケーステスト（グループ指導）
レポート（20%）観察道具の作成（技能・表現）
定期試験（50%）理科の各領域テスト（知識理解・思考判断）

■テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書 110円

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 理科編理数編』実教出版 336円

■参考文献

神戸大学発達科学部附属住吉中学校・中等教育学校著『生徒と創る協同学習 - 授業が変わる、学びが変わる』明治図書 2500円

内山裕之・広木正紀編著『プロ教師をめざす 新理科教育早わかり事典』明治図書 2688円

その他別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業への参加は全出席を基本とする。

■講義計画

- ①オリエンテーション（学習内容・学習方法・評価基準等の理解）
- ②現在の理科教育の課題と意義
- ③理科で使う力、つける力
- ④ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅰ
- ⑤ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅱ
- ⑥生命領域の学習
- ⑦地球領域の学習
- ⑧生命・地球領域の方法
- ⑨エネルギー領域の学習
- ⑩粒子領域の学習
- ⑪エネルギー・粒子領域の方法
- ⑫協同学習演習「雨が降る理由」
- ⑬ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅰ
- ⑭ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅱ
- ⑮全体のまとめとふり返り

理科教育研究B（2010年度以降入学生）

【担当】高畑 哲

【開講】前期 水1

■サブタイトル

現場で役立つ理科教育法

■講義概要

日本の理科教育・科学教育の現状と課題を概観し、今後の理科教育の方向性について考察する。また、教育現場に出ですぐに役立つ指導力の育成をはかるため、模擬授業等にも積極的に取り組む。具体的には、次のような内容の講義を行う。(1) 理科教育の意義と今日的な課題 (2) 理科教育の歴史的変遷 (3) 授業方法理論と実際 (4) 実験指導の実際 (5) 教材研究の実際

■到達目標

理科教育の歴史と新しい潮流について理解を深めことと、実験・観察および探究活動を重視し、授業を行うための実践的な方法と技術を身につけるとともに教員としての感性を磨く。

■講義方法

講義及び実習・演習が中心。実習・演習では、教材作成や指導案の作成を行い、模擬授業演習（討論、レポート作成も含む）も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義および実習・演習内容について提示するので事前学習を行うこと

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況、講義・実習への積極的な参加の度合い
レポート（30%）学習指導案等の作成及び数回のレポート
定期試験（40%）
その他（10%）模擬授業の成果
特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

左巻健男・内村浩編著『授業づくりのための理科教育法』東京書籍 2200円

理科教育研究会著『未来を展望する理科教育』東洋館出版 2300円

文部省『中学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書 110円

文部省『高等学校学習指導要領解説 理科編』実教出版 336円

上記に示した「学習指導要領解説」はともに、新学習指導要領の解説書である。

■履修上の注意・担当者からの一言

教員を強く志望し、意欲のある学生諸君に履修してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①楽しく分かる理科の授業のあり方
- ②学習指導要領（理科）の変遷
- ③PISA がめざす科学リテラシー
- ④理科教育における評価のあり方
- ⑤観点別評価と学習指導案
- ⑥仮説実験授業入門
- ⑦仮説実験授業の実際
- ⑧模擬授業計画作成
- ⑨学生による模擬授業演習、およびそれに関連した学習論についての講義
- ⑩学生による模擬授業演習、およびそれに関連した学習論についての講義
- ⑪学生による模擬授業演習、およびそれに関連した学習論についての講義
- ⑫学生による模擬授業演習、およびそれに関連した学習論についての講義
- ⑬学生による模擬授業演習、およびそれに関連した学習論についての講義
- ⑭模擬授業の反省
- ⑮これからの理科教育の課題

理科教育法Ⅰ（2003～2009年度入学生）

【担当】西村 泰治

【開講】通年 水2

■サブタイトル

現場に活かす理科教育法（中学第一分野、高校物理、化学を中心に）

■講義概要

・科学を学ぶ意義・有用性をいかに楽しく、判り易く魅力ある授業を構築するか。・理科が好き、嫌いというのは中学や高校での先生の教え方に大きく依存していることに鑑み、学習指導要領の変遷を踏まえながら時代背景と理科教育の関係を理解する。・これからの理科教育の在り方を解説、その指導法と実践的演習としての指導案作成、教材作成、ICTの活用、模擬授業を通して現場で活きる魅力ある授業の育成を図る。

■到達目標

知識基盤社会が意味するところを理解し、常に新しい科学教育へ trade-off できる。魅力ある授業の構築。

■講義方法

テキスト、プロジェクター、OHC、ビデオ教材、演示実験、PC等を使った講義、教材作成、指導案作成等による実践的模擬授業。

■系統的履修

理科教育法Ⅰに続き理科教育法Ⅱを継続して履修すること

■授業時間外における予・復習等の指示

教材作成、指導案の作成等レポート形式で提出 参考文献は特に購入する必要なし

■成績評価の方法

平常点（30％）出席点
レポート（30％）教材作成、指導案作成、模擬授業等
定期試験（40％）

■テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書 110円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編』 実教出版 336円

■参考文献

左巻健男・内村浩 『授業に活かす理科教育法』 東京書籍 2200円
理科教育研究会 『新学習指導要領に定める理科教育』 東洋館出版 2200円
川村康文 『おもしろ理科実験』 オーム社 1200円

■講義計画

- ①これからの理科教育、アンケート、演示実験 科学と似非科学
- ②学習指導要領の変遷と理科教育 教育課程
- ③理科の学習内容と指導上の問題点 ビデオ教材
- ④教育改革と理科教育 新学習指導要領下での理科を学ぶ力
- ⑤各種調査と理科教育 諸外国の理科教育事情と科学リテラシー
- ⑥わかる理科授業とは 日常の理科（物理学）
- ⑦理科授業の実際（1）具体例（中学理科）
- ⑧理科授業の実際（2）具体例（高校物理、化学、地学）
- ⑨学習指導案の書き方（1）キーワードによる授業の構築例1
- ⑩学習指導案の書き方（2）キーワードによる授業の構築例2
- ⑪観察・実験授業 実験事例（物理）・器具
- ⑫探究活動と指導法 課題研究（物理を中心に）
- ⑬授業の構成と評価
- ⑭学習評価理論と実践
- ⑮理科教育の周辺と今後 採用試験について
- ⑯教材研究と教材の具体例 アンケート調査
- ⑰指導案の作成（1）
- ⑱模擬授業（1）実践と評価
- ⑲科学史と理科教育 ノーベル賞と理科教育
- ⑳ICTの活用と理科教育 教育工学
- ㉑指導案作成（2）教材作り
- ㉒模擬授業（2）実践指導
- ㉓環境教育、エネルギー教育 キャリア教育
- ㉔指導案の作成（3）実験授業
- ㉕模擬授業（3）実験結果のまとめ方
- ㉖他教科（数学、情報等）の連携
- ㉗総合学習と理科教育 道徳と理科教育
- ㉘指導案の作成（4）
- ㉙模擬授業（4）授業の改善
- ㉚今後の理科教育 中教審の審議内容

理科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】西村 泰治

【開講】前期 水2

■サブタイトル

現場に活かす理科教育法（中学第一分野、高校物理、化学を中心に）

■講義概要

・科学を学ぶ意義・有用性をいかに楽しく、判り易く魅力ある授業を構築するか。・理科が好き、嫌いというのは中学や高校での先生の教え方に大きく依存していることに鑑み、学習指導要領の変遷を踏まえながら時代背景と理科教育の関係を理解する。・これからの理科教育の在り方を解説、その指導法と実践的演習としての指導案作成、教材作成、ICTの活用、模擬授業を通して現場で活きる魅力ある授業の育成を図る。

■到達目標

知識基盤社会が意味するところを理解し、常に新しい科学教育へ trade-off できる。魅力ある授業の構築。

■講義方法

テキスト、プロジェクター、OHC、ビデオ教材、演示実験、PC等を使った講義、教材作成、指導案作成等による実践的模擬授業。

■系統的履修

理科教育法Ⅰに続き理科教育法Ⅱを継続して履修すること

■授業時間外における予・復習等の指示

教材作成、指導案の作成等レポート形式で提出 参考文献は特に購入する必要なし

■成績評価の方法

平常点（30％）出席点
レポート（30％）教材作成、指導案作成、模擬授業等
定期試験（40％）

■テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書

110円

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編』 実教出版 336円

■参考文献

左巻健男・内村浩 『授業に活かす理科教育法』 東京書籍 2200円
理科教育研究会 『新学習指導要領に定める理科教育』 東洋館出版 2200円
川村康文 『おもしろ理科実験』 オーム社 1200円

■講義計画

- ①これからの理科教育、アンケート、演示実験 科学と似非科学
- ②学習指導要領の変遷と理科教育 教育課程
- ③理科の学習内容と指導上の問題点 ビデオ教材
- ④教育改革と理科教育 新学習指導要領下での理科を学ぶ力
- ⑤各種調査と理科教育 諸外国の理科教育事情と科学リテラシー
- ⑥わかる理科授業とは 日常の理科（物理学）
- ⑦理科授業の実際（1）具体例（中学理科）
- ⑧理科授業の実際（2）具体例（高校物理、化学、地学）
- ⑨学習指導案の書き方（1）キーワードによる授業の構築例1
- ⑩学習指導案の書き方（2）キーワードによる授業の構築例2
- ⑪観察・実験授業 実験事例（物理）・器具
- ⑫探究活動と指導法 課題研究（物理を中心に）
- ⑬授業の構成と評価
- ⑭学習評価理論と実践
- ⑮理科教育の周辺と今後 採用試験について

■サブタイトル

現場に活かす理科教育法（中学第一分野、高校物理を中心に）

■講義概要

・科学を学ぶ意義・有用性をいかに楽しく、判り易く魅力ある授業を構築するか。
・理科が好き、嫌いというのは中学や高校での先生の教え方に大きく依存していることに鑑み、学習指導要領の変遷を踏まえながら時代背景と理科教育の関係を理解する。
・これからの理科教育の在り方を解説、その指導法と実践的演習としての指導案作成、教材作成、模擬授業を通して現場で活きる魅力ある授業の育成を図る。

■到達目標

知識基盤社会が意味するところを理解し、常に新しい科学教育へ trade-off できる。魅力ある授業の構築。

■講義方法

テキスト、プロジェクター、OHC、PC、ビデオ教材、理科ネットワークデジタル教材等を使った講義、教材作成、指導案作成等による実践的模擬授業。

■系統的履修

理科教育法Ⅰは履修・習得していること

■授業時間外における予・復習等の指示

指導案作成や教材作成等レポート形式で提出を求める 参考文献は特に購入の必要なし

■成績評価の方法

平常点（30％）出席点
レポート（30％）教材作成、指導案作成、模擬授業等
定期試験（40％）

■テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説理科編』 大日本図書 110円

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編』 実教出版 336円

■参考文献

左巻健男・内村浩 『授業に活かす理科教育法』 東京書籍 2200円
理科教育研究会 『新学習指導要領に定める理科教育』 東洋館出版 2200円
川村康文 『おもしろ理科実験』 オーム社 1200円

■講義計画

- ①理科の教員になるために アンケート調査
- ②指導案の作成（1）科学と人間教育
- ③模擬授業（1）実践と評価
- ④科学史と理科教育 ノーベル賞と理科教育
- ⑤ICTの活用と理科教育 教育工学
- ⑥指導案作成（2）教材作り
- ⑦模擬授業（2）実践指導
- ⑧環境教育、エネルギー教育 キャリア教育
- ⑨指導案の作成（3）実験授業
- ⑩模擬授業（3）実験結果のまとめ方
- ⑪他教科（数学、情報等）の連携
- ⑫総合学習と理科教育 道徳と理科教育
- ⑬指導案の作成（4）
- ⑭模擬授業（4）授業の改善
- ⑮今後の理科教育 教育現場の現状 中教審の審議内容

■サブタイトル

現場で役立つ理科教育法（中学分野および高校生物を中心に）

■講義概要

日本の理科教育・科学教育の現状と課題を概観し、今後の理科教育の方向性について考察する。また、教員採用試験ならびに教育現場に出てすぐに役立つ指導力の育成をはかるため、模擬授業等にも積極的に取り組む。具体的には、次のような内容の講義を行う。（1）理科教育の意義と今日的な課題（2）理科教育の歴史の変遷（3）環境問題と理科教育の関係（4）授業方法の理論と実際（5）実験指導の実際（6）諸外国における理科教育の動向（7）教材研究の実際

■到達目標

理科教育の歴史と新しい潮流について理解を深め、実験・観察および探究活動を重視した実践的指導力を身につける。

■講義方法

講義及び実習・演習が中心。実習・演習では、教材作成や指導案の作成を行い、模擬授業も行う。教育実習や教員採用試験に関わることにしても行う。

■系統的履修

理科教育法Ⅰを学んだ後に履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義および実習・演習内容について提示するので事前学習を行うこと

■成績評価の方法

平常点（40％）出席状況、講義・実習への積極的な参加の度合い

レポート（60％）学習指導案等の作成、年に数回のレポート特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

左巻健男・内村浩編著 『授業づくりのための理科教育法』
東京書籍 2200円

文部省 『中学校学習指導要領解説 理科編』 大日本図書
110円

文部省 『高等学校学習指導要領解説 理科編』 実教出版
336円

上記に示した「学習指導要領解説」はともに、新学習指導要領の解説書である。

■履修上の注意・担当者からの一言

教員を強く志望し、教育実習ならびに教員採用試験を受験する意欲のある学生諸君に履修してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①理科の授業のあり方
- ②理科学習指導要領の変遷
- ③理科教育の歴史（戦前と戦後）
- ④学習指導要領の特徴と課題
- ⑤理科教育における評価のあり方
- ⑥観点別評価と学習指導案
- ⑦教育実習へ向けての指導案作成実習（1）
- ⑧教育実習へ向けての指導案作成実習（2）
- ⑨模擬授業（1）
- ⑩模擬授業（2）
- ⑪模擬授業（3）
- ⑫仮説実験授業入門
- ⑬仮説実験授業の実際（模擬授業1）
- ⑭仮説実験授業の実際（模擬授業2）
- ⑮仮説実験授業の実際（模擬授業3）
- ⑯（後期）理数離れの実態
- ⑰PISAが目指す科学的リテラシー
- ⑱諸外国における理科教育の実情（1）
- ⑲諸外国における理科教育の実情（2）
- ⑳環境問題と理科教育（1）
- ㉑環境問題と理科教育（2）
- ㉒実験指導の実際（1）
- ㉓実験指導の実際（2）
- ㉔教材・教具の開発（1）
- ㉕教材・教具の開発（2）
- ㉖教材・教具の開発（3）
- ㉗ベテラン教員の授業に学ぶ
- ㉘研究発表（プレゼンテーション能力）Ⅰ
- ㉙研究発表（プレゼンテーション能力）Ⅱ
- ㉚今後の理科教育の方向性

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
キ	教化法	竹本 了悟／季平 博昭／ 赤井 智顕	通年	水 5	281
コ	勤式	熊本 義秀／大八木正雄／ 土岐 好道	通年	土 4	282
シ	宗教学概論	古賀 和則	通年	月 5	283
	真宗学概論	中平 了悟	通年	月 4	284
	真宗史	仲尾 孝誠	通年	土 1	284
ニ	日本仏教史	下間 一頼	通年	火 4	285
フ	仏教学概論	道元 徹心	通年	水 3	285

■サブタイトル

浄土真宗における布教伝道－理論の考究と実践の修得－

■講義概要

宗教においてはその教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に浄土真宗は聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本講義ではその布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、明らかに考究していく。しかし単に理論を学ぶだけでは、実際に布教伝道することは難しい。現在の布教現場にあっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮に入れながら、理論面と共に実践的側面の修得を目指す。

■到達目標

■講義方法

複数の講師によるチェーンレクチャー形式をもって講義を進める。

布教伝道の理論的側面と、実践的側面の具体的な課題について口述をもって講義する。

実践的課題の修得のため、話し合い法座の実習や、布教実演と相互研鑽も取り入れる。

■系統的履修

真宗学に関する諸講義。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容の予習・復習、並びに積極的な情報収集。

■成績評価の方法

平常点（40%）受講態度などから総合的に評価する。

その他（60%）チェーンレクチャーのため、各担当教員からの指示による課題をもって評価する。

■テキスト

『拝読 浄土真宗のみ教え』編集委員会 『拝読浄土真宗のみ教え』 本願寺出版社 315円

テキストの使用については講義時に各担当教員から指示する。

■参考文献

育成研修部編 『伝道』 本願寺出版社 1000円

上記は一例。講義時に各担当教員から適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

布教伝道の現場に即した、実践的側面を具体的に取り上げるので、自らの課題として積極的・主体的に取り組んで欲しい。

■講義計画

- ①【教化伝道の理論について】 浄土真宗本願寺派の特徴①
 - ②【教化伝道の理論について】 浄土真宗本願寺派の特徴②
 - ③【教化伝道の理論について】 宗教における教化伝道
 - ④【教化伝道の理論について】 仏教における教化伝道
 - ⑤【教化伝道の理論について】 浄土真宗における教化伝道①
 - ⑥【教化伝道の理論について】 浄土真宗における教化伝道②
 - ⑦【教化伝道の理論について】 教化伝道の理論①
 - ⑧【教化伝道の理論について】 教化伝道の理論②
 - ⑨【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相①
 - ⑩【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相②
 - ⑪【教化伝道の現代的課題について】 現代における教化伝道の諸相③
 - ⑫【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類①
 - ⑬【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類②
 - ⑭【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類③
 - ⑮【教化伝道の現代的課題について】 教化伝道の種類④
 - ⑯【宗門の教化伝道について】 同朋運動
 - ⑰【宗門の教化伝道について】 門信徒会運動
 - ⑱【宗門の教化伝道について】 宗門の組織教化
 - ⑲【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習①
 - ⑳【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習②
 - ㉑【宗門の教化伝道について】 話し合い法座の実習③
 - ㉒【教化伝道の実践について】 法話布教の理論①
 - ㉓【教化伝道の実践について】 法話布教の理論②
 - ㉔【教化伝道の実践について】 法話布教の理論③
 - ㉕【教化伝道の実践について】 法話布教の作法
 - ㉖【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修①
 - ㉗【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修②
 - ㉘【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修③
 - ㉙【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修④
 - ㉚【教化伝道の実践について】 法話布教の実演と相互学修⑤
- 各回の担当者および学修内容は、講義進行状況に応じて変更することがある。

勤式

【担当】 熊本 義秀、大八木正雄、土岐 好道

【開講】 通年 土4

■サブタイトル

勤式とは何か。なぜ荘厳をするのか。僧侶とは。

■講義概要

浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上で必須の一つが勤式である。本講義では寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等の実演指導、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学習する。

■到達目標

■講義方法

作法・荘厳の講義及び声明の実演。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（100%）受講状況から総合的に評価する。

■テキスト

講義時に指示する。

■参考文献

講義時に指示する。

■講義計画

- ①勤式を学ぶ心得と年間授業概要
- ②領解文・御文章（末代無知・聖人一流章）偈文勤行・合掌礼拝作法
- ③信心獲得・白骨・御正忌章
- ④仏事阿弥陀経読誦の心得と作法・節柝の打法
- ⑤正信偈読誦の説明・歴史・出拠他
- ⑥正信偈 草譜 偈文
- ⑦正信偈 草譜 念仏・和讃
- ⑧正信偈 草譜 念仏・和讃・回向

⑨正信偈 行譜 偈文

⑩正信偈 行譜 念仏・和讃（道光明朗以下6首）

⑪法式規範 その1 作法・荘厳

⑫法式規範 その2 打物・衣体他

⑬葬場勤行 A

⑭葬場勤行 B

⑮葬場勤行 C おかみそり・入棺尊号

⑯音楽理論

⑰阿弥陀経作法 その1

⑱阿弥陀経作法 その2

⑲無量寿経作法 A

⑳無量寿経作法 B

㉑奉讃大師作法

㉒大師影供作法 その1

㉓大師影供作法 その2

㉔二門偈作法

㉕五会念仏作法

㉖御伝鈔 拝読と作法 御絵伝の荘厳と説明

㉗～㉚往生礼讃偈（初夜偈）

※各回の担当者および学修内容は、講義進行状況に応じて変更することがある。

■サブタイトル

宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要

広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞ります。

■到達目標

宗教研究の概要の理解。

■講義方法

講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修

「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法

平常点（20%）前期、後期各1回以上のミニシンポ参加。
&準備
レポート（80%）前期まとめレポート（40点）、後期まとめレポート（40点）

■テキスト

特になし

■参考文献

上田・柳川編 『宗教学のすすめ』 筑摩書房
石田・藺田編 『宗教学を学ぶ人のために』 世界思想社
井上・月本・星野編 『宗教学を学ぶ』 有斐閣
脇本著 『宗教学入門』 講談社
武・宮庄・高田編 『宗教学の現在』 三和書房
細谷・藤田編 『新しい教養のすすめ 宗教学』 昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言

宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもありますが、また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ることに。

■講義計画

- ①ブリーフィング 宗教学の成立：成立の背景と分野
- ②宗教の規定
- ③科学と宗教
- ④宗教史Ⅰ：
- ⑤ミニシンポ「スピリチュアル パワー」
- ⑥宗教史Ⅱ
- ⑦宗教史Ⅲ
- ⑧宗教現象学Ⅰ
- ⑨宗教現象学Ⅱ
- ⑩宗教社会学Ⅰ
- ⑪宗教社会学Ⅱ
- ⑫宗教社会学Ⅲ①
- ⑬宗教社会学Ⅲ②
- ⑭宗教社会学Ⅳ
- ⑮宗教社会学Ⅴ
- ⑯宗教心理学Ⅰ
- ⑰宗教心理学Ⅱ
- ⑱宗教心理学Ⅲ
- ⑲宗教心理学Ⅳ
- ⑳宗教心理学Ⅴ
- ㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
- ㉒宗教生理学
- ㉓宗教人類学Ⅰ
- ㉔宗教人類学Ⅱ
- ㉕宗教人類学Ⅲ：
- ㉖宗教地理学
- ㉗宗教民俗学Ⅰ
- ㉘宗教民俗学Ⅱ
- ㉙宗教民俗学Ⅲ
- ㉚まとめ

■講義概要

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。釈尊によって説かれた経典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による経典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法

講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に小テストを実施するので、各自自主的な復習をすること。また、課題等については講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する

小テスト（10%）講義時に行う小テストも評価の対象となる。

レポート（20%）期末のレポートを予定している。

定期試験（60%）期末のテストを予定している。

規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト

『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』 本願寺出版社
村上速水 『親鸞教義とその背景』 永田文昌堂
このほか、必要があれば講義時に指示する。

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容・方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。

◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡方法などについては説明する。また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画

- 1 回目 : オリエンテーション 講義概略・評価方法等の説明
- 2～3 回目 : 浄土真宗について
- 4 回目 : 真宗学について
- 5 回目 : 浄土真宗の教義一概要
- 6～11 回目 : 親鸞聖人の生涯と思想
- 12～15 回目 : 親鸞聖人の著述と思想
- 16～18 回目 : 親鸞聖人の思想の背景（1）浄土三部経の思想
- 19～24 回目 : 親鸞聖人の思想背景（2）七高僧の思想
- 25～30 回目 : 親鸞聖人の思想体系

真宗史

■サブタイトル

浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要

親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日の実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標

浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法

テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する

■成績評価の方法

平常点（50%）

レポート（10%）

定期試験（40%）

■テキスト

福間光超・堀大慈 『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）

柏原祐泉 『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット9）』 解放出版社

■参考文献

財・同和教育振興会 『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』 本願寺同朋センター
他は講義の際適宜紹介する

■講義計画

- ①浄土真宗の教勢
- ②日本の仏教宗派
- ③～④日本への仏教伝来
- ⑤～⑥日本仏教の差別体質
- ⑦～⑧法然とその教団
- ⑨～⑪親鸞とその教団
- ⑫～⑬大谷廟堂と本願寺
- ⑭～⑮蓮如と本願寺教団
- ⑯～⑰一向一揆
- ⑱～⑳近世本願寺教団の形成
- ㉑～㉒近世教学と信仰
- ㉓～㉔維新政治と真宗
- ㉕～㉖近代天皇制国家と教団
- ㉗～㉘戦後における真宗の動向 - 部落問題・靖国問題

■サブタイトル

日本における仏教受容とその展開

■講義概要

外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。本講義では日本仏教のあり方を歴史学的方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。

■到達目標

高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。

■講義方法

講義形式で授業を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示する

■成績評価の方法

平常点 (20%)
レポート (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂 2400円

■講義計画

- 1～3回目：仏教の基本原理
- 4～6回目：仏教伝来
- 7～15回目：古代仏教
- 16～20回目：中世仏教
- 21～23回目：近世仏教
- 24～26回目：近代仏教
- 27～28回目：現代社会と仏教
- 29～30回目：まとめ

仏教学概論

■講義概要

仏教思想について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。『仏教要論』をテキストに用いて講義する。仏教が「真理の宗教」とされる理由を説き、根本原理について講義する。そして、宗派仏教として広まった内容を説明する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義する。また、現代社会における仏教思想の有する意義についても考察を試みたい。

■到達目標

本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。

■講義方法

基本的に『仏教要論』をテキストに用いて、第一編「仏教概説」から第二編「各宗教義」へと順に講義する。また、必要に応じてプリントを配布し、視聴覚教材も用いる。

■系統的履修

必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況と受講態度
レポート (50%) 前期末と後期末に課するレポート

■テキスト

龍谷仏教学会編 『仏教要論』 百華苑 1545円

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ① 仏教とは何か
- ② 仏教の根本原理
- ③ 縁起の思想
- ④ 仏教の実践
- ⑤ 仏教と社会生活
- ⑥ 宗派仏教への広がり
- ⑦ 天台教義
- ⑧ 浄土教義
- ⑨ 仏教と現代

博物館学芸員課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
キ	教育学概論	村田 幸代	後前期	月 5	289
シ	視聴覚教育メディア論	曾我 麻佐子	後前期	火 5	289
	生涯学習概論	八木 隆明	前期	土 4	290
	生涯学習概論	胡 暁麗	後後期	月 5	290
ハ	博物館概論	八木 隆明	前期	土 3	291
	博物館教育論	烏賀陽 梨沙	前期	水 5	292
	博物館経営論	福山 泰子	前前期	火 5	293
	博物館情報論	曾我 麻佐子	後後期	火 5	294
	博物館資料論	北村 高／福山 泰子／ 遊磨 正秀	後期	土 3	294

教育学概論（2011年度以前入学生）

【担当】村田 幸代

【開講】後前期 月5

■講義概要

【平成24年度から、博物館法の一部改正により学芸員課程の養成科目の改善が図られ、新カリキュラムが始まる。新カリキュラムでは「博物館教育論」が新設され、博物館・美術館が担うエデュケーション的な役割およびプログラムを学ぶことになる。今年度の「教育学概論」では、子どもを対象とした教育学の視点から学校以外の教育の場としての博物館・美術館の教育的な可能性と役割を考える。】

本講義では、教育現象を説明する基本的な概念や理論を整理した上、教育の目的・内容・方法など教育の基礎的・基本的な知識を提供する。さらに、今日の教育的課題や博物館および美術館で現在取り組まれている教育プログラムを取り上げ、博物館・美術館の教育的意義を再考する。

■到達目標

1. 教育の基礎的・基本的な概念や理論を理解する。
2. 今日の教育的課題と学校以外の教育の場（博物館・美術館）の教育的可能性や役割を考える。

■講義方法

- ・クラスでのディスカッションなどの機会を設ける
- ・実地見学の機会を設ける

■系統的履修

生涯学習概論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■成績評価の方法

その他（100%）出席とレポート（提出物）などの平常点と、小テストの総合評価

出席重視（授業内の発表やワークの参加）

■テキスト

講義時に指示。

■参考文献

講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・授業の進み具合により、講義内容を変更することがある。
- ・校外授業（実地見学）あり＜重要＞
- ・各自のフィールドワークを奨励する。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②「教育の目的」の変遷と多様化
- ③教育の方法と技術
- ④実践
- ⑤教育の方針と評価
- ⑥博物館と学校教育
- ⑦まとめ

視聴覚教育メディア論（2011年度以前入学生）

【担当】曾我 麻佐子

【開講】後前期 火5

■サブタイトル

PowerPointを用いたプレゼンテーション作成

■講義概要

Microsoft PowerPointを用いてプレゼンテーションするための方法を概説する。受講生は各自でプレゼンテーションの素材となる資料を収集し、講義中にプレゼンテーションを作成する。最終講義日に一人ずつ発表する。

■到達目標

PowerPointを用いて、写真、図表、アニメーション効果などを取り入れたプレゼンテーションができるようになる。

■講義方法

情報処理実習室での作業を中心とする。
素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修

博物館情報論（曾我・後期後半・火5）

■授業時間外における予・復習等の指示

テーマ選定後、素材となる資料の収集を各自行っておくこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席
その他（60%）プレゼンテーション
最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

プレゼンテーションに用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション・テーマ設定
- ②資料収集と文書作成
- ③PowerPoint の使い方1（基礎）
- ④PowerPoint の使い方2（画像）
- ⑤PowerPoint の使い方3（アニメーション）
- ⑥プレゼンテーションのコツ
- ⑦プレゼンテーション

生涯学習概論 〈深草学舎開講〉(2012年度以降入学生)

【担当】 八木 隆明

【開講】 前期 土4

■サブタイトル

地域をつくる生涯学習・社会教育

■講義概要

1965年ユネスコのポール・ラングランが生涯教育の理念を提唱して以来、世界各国で生涯教育についての関心が高まり自国の教育制度改革の手法として生涯教育政策が取り組まれてきた。

わが国では、学校教育以外の教育として社会教育が長く取り組まれてきたが、生涯学習政策を進める中でこれまでの学校教育や社会教育のあり方を見直し、生涯学習社会の中での学校教育・社会教育のあり方が検討されてきた。

この授業では、これからの社会での生涯学習(生涯教育)とは何か、ユネスコの生涯教育理念とは、人々が生涯にわたって学習する意味、国や自治体が進める生涯学習振興策、民間教育事業者やNPOが進める生涯学習事業など、そしてその生涯学習を進める中核的な役割を果たす社会教育について、社会教育の意義や役割そして社会教育施設(公民館・図書館・博物館ほか)が住民の学習活動を支援するためにこれまでから取り組んできた活動とこれから果たすべき役割、社会教育指導者などについて説明を行い、わが国における生涯学習についての理解を深めるための学習を行う。

■講義方法

講義形式を主として進めるが、DVD利用やバズセッションなども入れる。また授業に入る前に、社会教育・生涯学習に関連する直近の情報(新聞記事)を紹介して、社会教育・生涯学習活動が身近なものであることの理解を深めるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から社会教育や生涯学習に関する新聞記事を収集し、地域の中でどのような学習活動がされているかを把握するとともに、社会教育施設にも積極的に訪問しどのような教育活動がされているかを調査研究し、授業内容とリンクしながら学習が進められるように努めること。

■成績評価の方法

平常点(30%) 受講態度を評価する。

小テスト(30%) 社会教育施設・生涯学習施設訪問調査報告書や指示した資料の提出状況とその内容を評価する

レポート(40%) レポート提出を課し、その内容を評価する。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

国生壽・八木隆明・吉富啓一郎編著『新時代の社会教育と生涯学習』学文社 2400円

国生壽・吉富啓一郎編著『社会教育と現代的課題の学習』あいり出版 2500円

上杉孝實著『生涯学習・社会教育の歴史的展開』松籟社 2400円

その他、講義の進行に応じて紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

「社会教育」「生涯学習」という新しい概念を学ぶため、毎回出席をし、体系的にとらえられるように努めること。

■講義計画

①オリエンテーション

生涯教育・生涯学習・社会教育

②生涯教育論・生涯学習論の提唱と展開～ユネスコ・OECD・日本～

③生涯学習体系への移行(家庭教育・学校教育・社会教育の役割)

④国・地方公共団体が進める生涯学習(関連)振興策について

⑤生涯学習を進めるための法律(社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法など)について

⑥生涯学習行政の中核としての社会教育行政について

⑦世界の生涯教育・生涯学習について

⑧生涯学習・社会教育の学習内容と学習方法(学習相談)について

⑨住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 1 ～公民館～

⑩住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 2 ～図書館～

⑪住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 3 ～博物館～

⑫生涯学習・社会教育を進める専門的職員・指導員・各種委員・ボランティアなどについて

⑬民間教育事業者が進める生涯学習事業について

⑭大学が取り組む生涯学習事業(大学公開講座など)について

⑮生涯学習社会の構築(学習支援体制の確立・学習成果の評価と活用)について まとめ

生涯学習概論 (2011年度以前入学生)

【担当】 胡 曉麗

【開講】 後後期 月5

■サブタイトル

生涯学習概論

■講義概要

生涯学習とは何か、人々が生涯にわたって学習する意味などについて説明を行い、一人ひとりが自己の生涯学習への取り組みについての理解を深めるための学習を行う。

■到達目標

1. 生涯学習の基礎的・基本的な概念や理論を理解する
2. これからの生涯学習社会の中で受講生一人ひとりが自己の生涯学習への取り組みについての理解を深める

■講義方法

基本的には講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指定された参考資料を読むこと。

■成績評価の方法

平常点(40%) 出席及び小テストで計算する

定期試験(60%) 講義中の配布資料、ノート等のみ持ち込み可

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

『生涯学習の理論』 福村出版

国生壽・八木隆明・吉富啓一郎『新時代の社会教育と生涯学習』学文社

■講義計画

①生涯学習を学ぶ意義、学習方法の説明

②生涯学習の概念

③意識変容の学習

④職場における学習

⑤おとなの生きる力: キー・コンピテンシーの習得

⑥生涯学習に関する社会理論: ポストモダンを超えて

⑦生涯学習の実践について

■サブタイトル

博物館の社会的役割と資料（文化財）の基礎研究

■講義概要

博物館の存立する根拠は「博物館法」によるところが多いが、このことをふまえて次のことを学ぶ。①博物館の歴史、②博物館の形態、③博物館の組織、④博物館の建物、⑤博物館の機能（研究機関、教育機関、保存機関）、⑥学芸員の仕事、⑦博物館と社会との関係などを講義して学芸員の基礎的知識の習得を目指す。また、資料（文化財）に関する基本的な様々な考え方を紹介し資料について思弁的な態度を涵養することを目指す。

■講義方法

講義

龍谷ミュージアムを活用する。

■系統的履修

文化財科学・文化財実習・文化財概論・博物館各論・の他古文書・古典籍・古文書学・美術史・考古学・民俗学など

■授業時間外における予・復習等の指示

龍谷ミュージアムの他、各地の博物館の見学を数多くするとよい。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席

小テスト（10%）博物館見学

定期試験（60%）筆記

■テキスト

コピー

■参考文献

水嶋英治訳 『博物館への招待』 白水社 951円

その都度文献は紹介する

■オフィスアワー・教員への連絡方法

火曜日 3 講時 4 講時と金曜日 4 講時

■講義計画

- ①博物館法・各地の博物館について
- ②日本の博物館の歴史
- ③世界の博物館・ユネスコ
- ④多様な博物館とその組織
- ⑤博物館学芸員の仕事内容と役割（1）
- ⑥博物館学芸員の仕事内容と役割（2）
- ⑦博物館学芸員の仕事内容と役割（3）
- ⑧展示から見た博物館と生涯学習
- ⑨博物館の講座
- ⑩博物館資料の整理・保存・修復
- ⑪国立博物館について
- ⑫地域の博物館の郷土博物館
- ⑬美術館・文学館・自然博物館
- ⑭市民・行政・大学・博物館協会
- ⑮学芸員の学ぶべきこととは

■サブタイトル

Museum Education

■講義概要

今日、社会の国際化、高度情報化、それにともなう人々の学習欲求の多様化・高度化に対応するため、博物館は従来の機能に加え、社会教育機関としてさらに積極的な役割を果たすことが期待されている。今後、教育的機能はより中核的な機能として位置付けられ、博物館教育-教育普及活動-はますます重要となっていく。学芸員は今、新たな資力と見識が必要とされている。

本講義では、博物館の「教育的使命」の重要性を認識し、博物館教育の基本的な理念と意義を概観する。次いで博物館における学習の特性、関連する諸学習理論を理解し、目的や対象にあった教育活動の具体的方法の基礎を学ぶ。また、日本や欧米の具体例を参考に、実践への応用・展開を考察する。教育普及活動を通し、博物館は社会のニーズにいかに応えることができるのか-双方向性あるコミュニケーション-のあり方を考える。

大学博物館（龍谷ミュージアム）の広義の教育的役割についても考察する。

■到達目標

- ・博物館の教育普及活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、専門職である学芸員として博物館教育の基礎的能力を身につける。

■講義方法

講義（パワーポイントなど視聴覚メディア使用）

■系統的履修

博物館経営論、博物館展示論、アート・マネジメント（国際文化学部）

■授業時間外における予・復習等の指示

- ・レジュメやテキストなどで予習・復習しておくこと
- ・個人のフィールドワークとして、博物館や美術館を訪問することを奨励する。
（例：展覧会鑑賞、講演会やワークショップなどの教育プログラムへの参加等）

■成績評価の方法

平常点（10%）出席

小テスト（10%）講義内容の理解度

レポート（20%）

定期試験（60%）筆記試験

①平常点（出席）、②中間レポート、③小テスト、④定期試験、の総合評価。

- ・出席重要。小テストとして授業内容に関したテストを3～4回行う。

- ・課題にそったレポートを提出。（講義時に詳細指示）

- ・総合評価であるが、定期試験は重要なポイントとなる。

■テキスト

講義時に別途指示。テキストと主にレジュメ使用。

■参考文献

大堀哲 他 『博物館展示・教育論』 樹村房

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新しい博物館学』 芙蓉書房

神野善治 他 『ミュージアムと生涯学習』 武蔵野美術大学

その他、講義時に別途指示（和書・洋書ともに）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・講義計画の細部と進捗で、受講者の理解度などにより、講義計画を変更することがある。

（受講生の人数・状況によっては、授業運営方法を変更することがある。）

- ・出席重要。新しい学問なので授業に出席し学んでいくことが大切である。

- ・講義は厳しいので、学習意欲のある熱心な授業参加を望みます。

■講義計画

イントロダクション

1. 博物館教育の意義と理念

- ・博物館教育とは：理念・定義
- ・博物館教育の目的・意義Ⅰ：博物館の存在意義（理念）と教育的使命

- ・博物館教育の目的・意義Ⅱ：生涯学習の場として

- ・博物館教育の目的・意義Ⅲ：博物館教育の源流

a.日本と欧米の博物館教育の成立ちとその比較

b.大学博物館の意義

2. 博物館の教育普及活動の方針と評価：ミッション・ステートメントの重要性

3. 博物館の利用と学び

- ・龍谷ミュージアムと博物館教育の実際（龍谷ミュージアム見学の予定）

- ・博物館での学びの特性Ⅰ：学習理論 ～博物館全般～

- ・博物館で学びの特性Ⅱ：学習理論 ～美術館 他～

4. 博物館教育の実際（形態と手法）

- ・博物館教育活動の手法Ⅰ：展示（展示方法）、自己学習教材

- ・博物館教育活動の手法Ⅱ：子ども・ファミリー

- ・博物館教育活動の手法Ⅲ：学校連携

～博物館が学校教育と連携する意義～

- ・博物館教育活動の手法Ⅳ：地域連携、地域共存

- ・博物館教育活動の手法Ⅴ：その他：青少年、障害者とその家族

- ・博物館教育活動の企画と実施の流れ：具体的手順とフォーマット

5. まとめ：博物館教育の今後の課題と展望：ミュージアム・リテラシーの育成、ネットワークの構築、大学博物館の教育的役割の可能性

■講義概要

近年、博物館は生涯教育施設として社会における重要性を認識されるだけでなく、カフェやレストラン、ショップを備えたアミューズメントの場としても幅広い年齢層の利用者が訪れるところとなった。一方で、昨今の経済不況による国や地方自治体の財政難は、予算削減など博物館経営それ自体に大きな影響を与えている。一般に非営利組織が殆どの博物館において、経営とは何か、国や地方自治体の制度の違い、また公益法人のケースなどを概観し、ミュージアムマーケティングに基づく経営、またその経営に対する評価システムについて学ぶ。また、博物館施設の運営組織や設備管理体制を実際の事例を交えて学び、利用者をめぐる情報や教育、サービスのあり方を考える。以上のように、多角的に博物館経営の実際を取り上げ、今後の博物館経営がどうあるべきかを検討する。

■到達目標

非営利組織の博物館における経営とは何か、その方法からマーケティング、経営評価を学び、博物館の組織や広報、財政、管理運営、利用者にむけた多様なサービスに関する基本的な知識を獲得する。

■講義方法

各回、資料を配布する。また実地見学も予定している。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から博物館や美術館等へ足をなるべく運び、興味や問題意識をもつようにしてください。

■成績評価の方法

平常点（60%）

レポート（40%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

実習の都合などで講義内容を変更する事がある。
参考文献は各回に応じて提示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初回、授業時に指示する。

■講義計画

- ①博物館経営とは何か?—社会における博物館の位置—
- ②ミュージアム・マーケティングと経営
- ③博物館の行財政制度
- ④博物館の運営組織と設備管理体制
- ⑤利用者をめぐる博物館の取り組み
- ⑥地域における博物館の意義
- ⑦博物館経営の実際とこれから

博物館情報論（2011年度以前入学生）

【担当】曾我 麻佐子

【開講】後後期 火5

■サブタイトル

博物館とWebサイト（ホームページ）

■講義概要

インターネットが日常的な情報源の中心を占めるようになり、博物館にとってWebサイト（ホームページ）による情報発信が重要となっている。本科目では、博物館のWebサイトの現状をふまえ、Webサイト作成の基礎を概説する。受講生は各自で簡単なWebサイトを作成し、最終講義日に発表する。

■到達目標

Webサイトの構造を理解し、簡単なWebサイトを自作できるようになる。

■講義方法

情報処理実習室での作業を中心とする。
素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修

視聴覚教育メディア論（曾我・後期前半・火5）

■授業時間外における予・復習等の指示

ダウンロード可能な資料を用意するので、授業時間内での理解が難しい人は予習してくること。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席
その他（60%）発表
最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Webサイト作成に用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション・博物館のWebサイト・テーマ設定
- ②Webサイトの構造
- ③Webサイト作成1（リンク）
- ④Webサイト作成2（画像）
- ⑤Webサイト作成3（スタイルシート）
- ⑥Webサイト作成4（アップロード）
- ⑦自作Webサイトの発表

博物館資料論 〈深草学舎開講〉

【担当】北村 高、福山 泰子、遊磨 正秀

【開講】後期 土3

■サブタイトル

博物館で取り扱う資料について

■講義概要

3名の講師によるチェーンレクチャーであるので、人文系資料や自然系資料に関して何があるのかを講義する。さらに、龍谷ミュージアムでの講義も実施する。

■到達目標

博物館や美術館などで扱う資料や展示品に関する概略を知る。

■講義方法

3名の講師が、5時間づつ担当して、講義する。

■系統的履修

博物館学概論などに関連する講義である。学芸員課程では必修となる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習が必要である。

■成績評価の方法

その他（100%）3名の講師の協議により決定する。

■テキスト

プリント配布などで実施する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

博物館学芸員課程の必修講義であるので、欠席は許されない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了時に受け付ける。

■講義計画

- ①博物館で扱う資料とは
- ②軸物、巻物、
- ③書物（写本）
- ④印刷
- ⑤理工系資料
- ⑥化石
- ⑦現生生物標本
- ⑧生きた資料
- ⑨日本画と西洋画
- ⑩額と軸
- ⑪文化財の保存
- ⑫文化財と温湿度環境
- ⑬資料展示における光と照明
- ⑭文化財資料にみられる生物被害
- ⑮災害と対策
- ⑯博物館資料の展示の実例

付 録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは1号館、2号館は077-543-内線番号、7号館は077-544-内線番号

【数理情報学科】				内線	【電子情報学科】				内線
飯田	晋司	1号館	513 研究室	7513	石崎	俊雄	1号館	411 研究室	7798
池田	勉	1号館	512 研究室	7512	上原	徹	1号館	443 研究室	7414
宇土	顯彦	1号館	506 研究室	7797	植村	渉	1号館	410 研究室	7410
大西	俊弘	2号館	117D研究室	7198	小野	景子	1号館	438 研究室	7495
※(外線) 077-544-7198					海川	龍治	1号館	402 研究室	7402
岡本	雄二	2号館	312 研究室	7654	川上	肇	1号館	403 研究室	7403
國府	宏枝	1号館	501 研究室	7503	木村	昌弘	1号館	406 研究室	7406
阪井	一繁	1号館	503 研究室	7508	木村	睦	1号館	407 研究室	7407
佐野	彰	1号館	507 研究室	7507	熊野	雅仁	1号館	437 研究室	7437
高橋	隆史	1号館	508 研究室	7501	小島	肇	1号館	443 研究室	7414
中野	浩	1号館	514 研究室	7518	小堀	聡	1号館	401 研究室	7419
樋口	三郎	1号館	502 研究室	7514	里井	久輝	2号館	311 研究室	7656
馬	青	1号館	505 研究室	7505	斉藤	光徳	1号館	408 研究室	7487
松本平淳太		1号館	504 研究室	7488	張	陽軍	1号館	412 研究室	7412
松本和一郎		1号館	510 研究室	7510	中川	晃成	1号館	409 研究室	7409
道元	徹心	4号館	318 研究室	7868	中村	奉夫	1号館	405 研究室	7405
森田	善久	1号館	509 研究室	7509	野口紳一郎		1号館	443 研究室	7414
山岸	義和	1号館	507 研究室	7507	藤井	大輔	1号館	437 研究室	7437
四ッ谷晶二		1号館	511 研究室	7511	松田	時宜	1号館	438 研究室	7495
					山本	伸一	1号館	404 研究室	7404

【機械システム工学科】					内線	【物質化学科】					内線
岩本	太郎	1号館	315	研究室	7445	青井	芳史	1号館	205	研究室	7465
大津	広敬	1号館	301	研究室	7431	S. C. Yenik	2号館	314	研究室	7655	
大槻	志郎	2号館	315	研究室	7657	石井	大輔	1号館	309	研究室	7599
金子	康智	1号館	302	研究室	7432	今井	崇人	1号館	307	研究室	7439
河嶋	壽一	1号館	311	研究室	7441	岩澤	哲郎	1号館	201	研究室	7461
左近	拓男	1号館	313	研究室	7443	内田	欣吾	1号館	202	研究室	7462
塩見	洋一	1号館	316	研究室	7458	大柳	満之	1号館	206	研究室	7464
渋谷	恒司	1号館	314	研究室	7444	糟野	潤	1号館	211	研究室	7471
進藤	康則	1号館	308	研究室	7429	下埜	勝	1号館	310	研究室	7440
田原	大輔	1号館	305	研究室	7435	白神	達也	1号館	210	研究室	7470
辻上	哲也	1号館	306	研究室	7411	富崎	欣也	1号館	209	研究室	7469
堤	一義	1号館	304	研究室	7446	中沖	隆彦	1号館	204	研究室	7661
永瀬	純也	1号館	319	研究室	7434	林	久夫	1号館	203	研究室	7463
西村	和男	1号館	339	研究室	7533	藤原	学	1号館	212	研究室	7472
野口	佳樹	1号館	303	研究室	7433	前田	尚志	1号館	310	研究室	7440
本田	尚義	1号館	308	研究室	7429	松重	和美	智光館	211	研究室	7192
前田	英史	1号館	320	研究室	7408	松中	岩男	1号館	307	研究室	7439
森	正和	1号館	312	研究室	7442	宮武	智弘	1号館	207	研究室	7467
						渡辺	英児	2号館	329	研究室	7667
						和田	隆博	1号館	208	研究室	7468

【情報メディア学科】

岩嶋 浩樹	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
岡田 至弘	7号館	情報研究室 2	7132
片岡 章俊	7号館	情報研究室 5	7135
寄能 雅文	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148
芝 公仁	7号館	情報研究室11	7142
新川 芳行	7号館	情報研究室 3	7133
曾我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144
外村 佳伸	7号館	情報研究室 4	7134
南條 浩輝	7号館	情報研究室14	7140
野村 竜也	7号館	情報研究室 6	7136
長谷 智弘	7号館	情報研究室 7	7137
藤田 和弘	7号館	情報研究室 1	7131
三浦 雅展	7号館	情報研究室12	7143
三好 力	7号館	情報研究室 8	7138
吉見 毅彦	7号館	情報研究室 9	7139
渡辺 靖彦	7号館	情報研究室10	7141

内線**【環境ソリューション工学科】**

浅野 昌弘	7号館	環境研究室14	7114
市川 陽一	7号館	環境研究室 4	7104
占部 武生	7号館	環境研究室 9	7109
菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
岸本 直之	7号館	環境研究室 7	7107
越川 博元	7号館	環境研究室 2	7102
近藤 倫生	7号館	環境研究室11	7111
竺 文彦	7号館	環境研究室 5	7105
桧尾 亮一	7号館	実験実習準備室	7117
丸山 敦	7号館	環境研究室12	7112
宮浦 富保	7号館	環境研究室 6	7106
山中 裕樹	7号館	実験実習準備室	7126
遊磨 正秀	7号館	環境研究室 3	7103
横田 岳人	7号館	環境研究室 8	7108
Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

内線**【理工学部教務課】**

077-543-7730 ~ 7732

瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

	病院名	住所	電話番号	診療時間	月	火	水	木	金	土	診療科目
総合 病院	① 滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 時間外 548-2770	初診 午前8:30～10:30 再診 午前8:30～11:00 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	② 大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	午前8:30～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	③ 大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	午前8:00～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
	④ 社会保険滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	午前8:30～11:30 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	×	
内科	⑤ 小西医院	大津市大萱1丁目17-35	077-543-3600	午前9:00～12:30 月～土 午後5:00～7:30 月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・皮膚科・ 泌尿器科・ 外科
	⑥ 瀬田クリニック	大津市一里山3丁目1-5	077-545-3945	午前9:00～12:00 月～土 午後1:00～5:00 月・水・木	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	○ ×	
	⑦ 大道医院	大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	午前9:00～12:00 月・火・木～日 午後4:30～7:30 月・火・木・金	○ ○	○ ○	×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・呼吸器 科・循環器科
外科	⑧ はえうち診療所	大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	午前9:00～12:00 月～土 午後3:00～5:00 月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科・胃腸科・ 肛門科・外科
整形 外科	⑨ 棚橋整形外科	大津市大萱1丁目20-12	077-545-8020	午前9:00～12:00 月～土 午後3:30～6:30 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
	⑩ さいき整形外科	大津市一里山3丁目19-4	077-545-7711	午前9:00～12:00 月～土 午後4:30～7:30 月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ×	
眼科	⑪ 本田眼科	大津市大萱1丁目16-15	077-543-0878	午前9:30～12:30 月～水・金・土 午後4:00～6:00 月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	×	○ ○	○ ×	
耳鼻科	⑫ 瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山1丁目2-13	077-543-1490	午前9:00～12:30 月～土 午後3:30～7:00 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
婦人科	⑬ かとう医院	大津市大將軍3丁目8-16	077-544-1012	午前8:30～12:00 月・水・金・土 (第2土曜休診) 午後3:00～6:00 火・金	○ ×	×	○ ×	×	○ ○	○ ×	
皮膚科	⑭ 田中皮フ科医院	大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2階	077-545-1232	午前9:30～12:30 月～水・金・土 午後4:00～7:30 月～水・金	○ ○	×	○ ×	×	○ ○	○ ×	
歯科	⑮ まるやま歯科 クリニック	大津市一里山1丁目3-6	077-547-3560	午前9:00～午後1:00 月～土 午後3:00～8:00 月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	

※救急医療ネットしが


 携帯電話版”救急医療ネットしが”は、県民の皆様が外出時等に医療機関をお探しになる場合に、携帯電話のブラウザ（i-mode/EZweb/Yahoo!ケータイ）からアクセスするサイトです。
 県内の医療機関の場所や診療時間・診療科目等を検索していただき、受診の参考にしていただくためのものです。

携帯電話検索サービス

<http://www.shiga.iryu-navi.jp/m/>

救急医療情報ネットしが

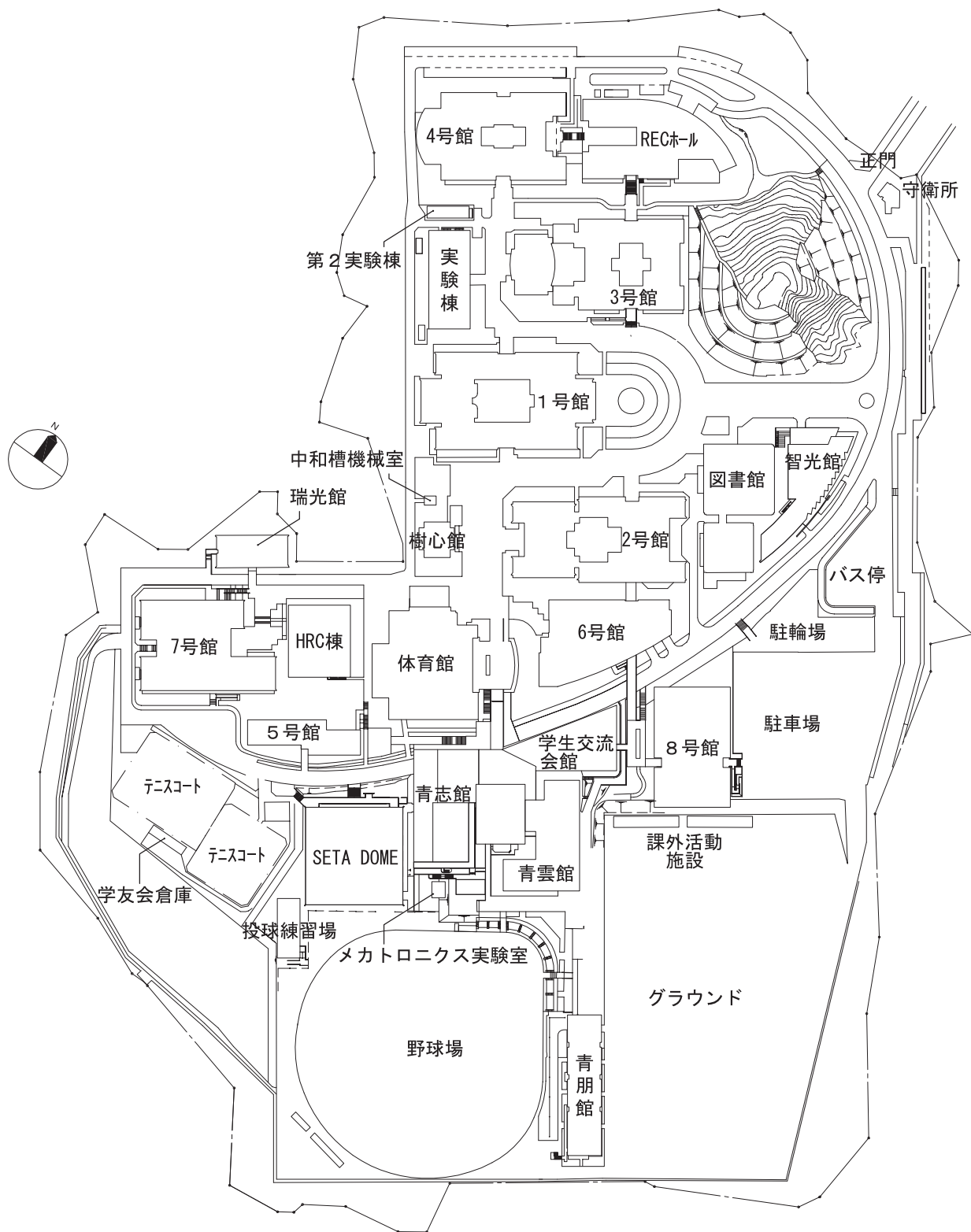
<http://www.shiga.qq-net.jp/>

利用になるための注意

- ※電話・FAXで現在診療中の医療機関を案内するサービスです。
- ※事前にメモの用意をしておくとう便利です。
- ※案内を受けた病院・診療所に行く場合は、必ず電話で確認を行ってください。
- ※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。
- ※一部のダイヤル式電話機では、利用ができない場合がありますので注意してください。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

龍谷大学瀬田学舎見取図



履修要項・Syllabus利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ 1年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
→ 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはありますか。
→ P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
→ P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 教養教育科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
→ P26：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 受たい科目の内容を知りたいのですがどこを読めばいいですか。
→ P95：シラバス
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはありますか。
→ P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
→ P67：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
→ P60：他学科科目の履修について
- ◆ 大学コンソーシアム京都などの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
→ P62：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
→ P81：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
→ P76：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
→ P18：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
→ P88：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
→ P83：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようなになっているのですか。
→ P13：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
→ P15：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
→ P15：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
→ P41、P47、P53：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
→ <http://whale2.math.ryukoku.ac.jp> 参照（要パスワード）